

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
家政学原論I	家政学部 共通科目	1	1	あなたにとって「家庭」「家族」とはいかなる存在であろうか。そもそも家政学という学問名称に付された「家政」とは何を意味しているのだろうか。また、人として「生活」ということには、他の生物にはないどのような独自の世界があるのだろうか。本科目では、まず家政学を支えるこれらの用語の根源的な意味について考えを深める。そして、その上で、家庭を中心とした生活世界の構造を考え、そこに貫かれている精神と文化について考察する。さらに、これらを家政学研究の今と重ね、その可能性について考える。家政学文献の精査と討論を重ねるなかで、家政学的世界の独自性とその限界、さらには可能性について考えることになろう。	1. 家政学の存在意義について、理解できるようになる。（知識・理解） 2. 家政学を学ぶ学生にとり、自己の学問へ向かう姿勢とまなざしを得ることができるようになる。（関心・意欲・態度） 3. 家政学の歴史と現況を知ることによって、家政学が抱えている諸問題を認識しながら、一方でその可能性を自らの中に確認し、家政学が果たすべき世界を実現することができるようになる。（思考・判断・表現）	1. 家政学の存在意義について、基礎的な事柄を理解できるようになる。（知識・理解） 2. 家政学を学ぶ学生として、自己の学問へ向かう基礎的なまなざしを得ることができるようになる。（関心・意欲・態度） 3. 家政学の歴史と現況を知ることによって、家政学が抱えている諸問題を認識しながら、一方でその可能性を自らの中に確認し、家政学が果たすべき世界を実現することができるようになる。（思考・判断・表現）
家政学原論II	家政学部 共通科目	1	1	あなたにとって「家庭」「家族」とはいかなる存在であろうか。そもそも家政学という学問名称に付された「家政」とは何を意味しているのだろうか。また、人として「生活」ということには、他の生物にはないどのような独自の世界があるのだろうか。本科目では、まず家政学を支えるこれらの用語の根源的な意味について知る。そして、その上で、家庭を中心とした生活世界の構造を考え、そこに貫かれている精神と文化について考える。さらに、これらを家政学研究の今と重ね、その可能性について考えてゆく。家政学文献の精査と討論を重ねるなかで、家政学的世界の独自性とその限界、さらには可能性について考えることになろう。	1. 家政学が目指す世界を概観し、探求することができるようになる。（関心・意欲・態度） 2. 家政学は学問として家族・家庭・生活・人間についてどのように見つめているのかというような家政学が学問として成立するためのまなざしの独自性を理解することができるようになる。（知識・理解） 3. 家政学が対象とする普遍的課題において、自己とのかかわりを不可分にしながら、なお自らの精神と文化の礎になっている家庭生活の意義や構造に言及し、自らが置かれている時空を創造する力を身につけることができるようになる。（思考・判断・表現） 4. 上記の事柄について、自らの思考に基づいて論を展開し、適切に発言、意見交換、表現する能力を身につけることができるようになる。（思考・判断・表現）	1. 家政学が目指す基本的な世界を概観し、探求することができるようになる。（関心・意欲・態度） 2. 家政学は学問として家族・家庭・生活・人間についてどのように見つめているのかというような家政学が学問として成立するための基本的なまなざしの独自性を理解することができるようになる。（知識・理解） 3. 家政学が対象とする普遍的課題において、自己とのかかわりを不可分にしながら、なお自らの精神と文化の礎になっている家庭生活の意義や構造に言及し、自らが置かれている時空を創造する力を身につけることができるようになる。（思考・判断・表現） 4. 上記の事柄について、自らの思考に基づいて論を展開し、適切に発言、意見交換、表現する能力を身につけることができるようになる。（思考・判断・表現）
家庭経営学I	家政学部 共通科目	1	1	現代の家庭は、情報化、国際化、少子高齢化、男女共同参画社会へといった社会の変化の中で、IT化、文化間交流、世代間交流、ワーク・ライフ・バランスといった具体的な変化を求められている。このような現代社会の変化が家庭に及ぼす影響や問題点を整理し、よりよく家庭経営をしていくために利用しうる人的・物的社会資源、法律や行政の施策についての知識を習得し、今後の家庭経営や社会政策についての課題を見出す。また、現代は個人の多様な生き方が尊重されてきているが、社会や地域で孤立せずに自己実現をはかり、自分らしく生きるためには、自助・共助・公助についての生活環境を主体的にととのえることが大切である。家庭経営上の課題について具体的にとりあげ、問題解決に向けての方策を考えながら、家庭経営に必要な態度や技能を習得する。	・ 家族の変遷について社会学と法学から説明できる。（知識・理解） ・ 家庭経営をするうえで必要な最新の情報を調査し、現代社会の変化に応じて課題を見出し、家族や地域社会で課題解決に向けた提案ができる。（技能） ・ 家庭・地域社会・社会で、自己実現をはかりながら自分らしく生きるために、自助・共助・公助の生活環境を主体的に整えることができる。（思考・判断・表現）	・ 家族の変遷を社会学と法学から理解できる。（知識・理解） ・ 家庭経営に関する具体的な事例について、社会の変化に応じた課題を見出し、情報を収集して、家族や地域社会へ解決に向けた提案ができる。（技能） ・ 自助・共助・公助の生活環境を主体的に整え、生活を設計できる。（思考・判断・表現）
家庭経営学II	家政学部 共通科目	1	1	多様化するライフスタイルのなかで、家族のライフステージごとの諸問題を把握し、家庭、地域、社会において人的・物的資源を有効に生かした家庭経営の在りかたを、自分の生活価値観を省みながら、具体的に考える。今後よりよく生きる行動力を養い、社会的課題を見出す。前半は、自分の生活を客観的に分析し把握するため、これまでの生活の調査、異世代へのインタビューを行い、家庭経営に必要な知識を得る。後半は、生活課題についてテーマを設定し、具体的な情報収集を行い、生活向上のための新たな視点を見出すことで、家庭を経営する態度と技能を具体的に養う。	・ 自分自身の生活の調査、異世代へのインタビューから、家庭経営に必要な生活環境とライフステージごとの生活課題を理解する。（知識・理解） ・ グループで共通の関心事である生活課題に関する情報を収集し、課題解決に向けた方策を具体的に提案することができる。（技能） ・ 個人と家族の生活設計をライフステージごとの課題や目標に従って計画できる。（思考・判断・表現）	・ 個人と家族の生活調査により、自己実現を図るためのライフステージごとの生活課題を理解できる。（知識・理解） ・ グループで共通の関心事である生活課題に関する情報を収集し、課題解決に向けた具体的提案ができる。（技能） ・ 個人と家族の生活設計を目標に従って計画できる。（思考・判断・表現）
消費者経済学	家政学部 共通科目	1	1	国民経済の循環において、労働者かつ消費者としての国民の経済活動は重要な役割を担っている。現代の少子高齢化、情報サービス化、国際化の中での経済環境を理解し、それぞれの消費者が自分のライフスタイルに基づいて合理的な経済活動を行うための知識を得る。1か月間、自分の家計簿を記載し、具体的に経済活動の自己分析を行い、生活上の問題解決方法を見出し、よりよい経済活動のための技能を身につける。労働者であり消費者である生活者として、消費者の権利ばかりでなく、環境への配慮や社会的な責任も自覚しながら、経済活動を行う態度を養う。	・ 国民経済の循環と家庭経済の関係を理解し説明できる。（知識・理解） ・ 家庭経済の収入と支出について説明できる（知識・理解） ・ 家計簿の記録と消費活動の改善ができる。（技能） ・ 消費者の権利と持続可能な社会に向けた消費について理解し、生活行動を振り返り、改善方法を提案できる。（思考・判断・表現）	・ 国民経済の循環と家庭経済の関係を理解し説明できる。（知識・理解） ・ 家庭経済の収入と支出について説明できる（知識・理解） ・ 家計簿の記録と消費活動の改善ができる。（技能） ・ 消費者の権利と持続可能な社会に向けた消費について理解し、生活行動を振り返り、改善方法を提案できる。（思考・判断・表現）
生活関連法規	家政学部 共通科目	3	3	インターネットやクレジットの普及とともに、商品やサービスを提供する事業者とそれらを購入し利用する消費者との間で様々なトラブルが生じている。本講義においては、消費者トラブルの未然防止及び被害救済のために、民法による救済法理とその限界を理解するとともに、消費者保護のための特別法の必要性を確認し、特別法の概要及びその効力と限界について事例を通して理解する。また、法が定められていない問題に対し、消費者としてどのように対応していくべきかについて、企業、行政、学校、家庭の役割を含めて考える。	1. 民法による消費者被害の救済法理を理解し、その限界を説明できる。（知識・理解） 2. 消費者契約法のうち被害救済に関わる制度を理解し、その効力と限界を説明できる。（知識・理解） 3. 特定商取引法のうち被害救済に関わる制度を理解し、その効力と限界を説明できる。（知識・理解） 4. 割賦販売法のうち被害救済に関わる制度を理解し、その効力と限界を説明できる。（知識・理解） 5. 製造物責任法のうち被害救済に関わる制度を理解し、その効力と限界を説明できる。（知識・理解）	1. 民法のうち消費者被害の救済に関わる制度の基本的事項を理解している。（知識・理解） 2. 消費者契約法のうち被害救済に関わる制度の基本的事項を理解している。（知識・理解） 3. 特定商取引法のうち被害救済に関わる制度の基本的事項を理解している。（知識・理解） 4. 割賦販売法のうち被害救済に関わる制度の基本的事項を理解している。（知識・理解） 5. 製造物責任法のうち被害救済に関わる制度の基本的事項を理解している。（知識・理解）

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
家族関係学	家政学部 共通科目	1	1	家族関係は多くの人にとって、最も身近で、重要な関心事であるが、この家族関係への認識は、個人的経験や一方的に報道されるマスコミの情報によって、偏って形成されがちである。本講座では、家族の歴史、各種の統計や制度面、国際比較などから家族関係を客観的に把握し、家族関係に関する知識を新たにする。また、産業の変化による労働形態の変化、少子高齢化、単独世帯の増加などの現代社会の変化に伴う家族問題を見だし、現代の家族のサポートシステムについて行政、民間団体など各方面から紹介をする。家族の諸問題の具体的事例について、よりよい家族関係をつくっていくための考察を行う。また、家族をサポートする社会福祉援助の態度や技能について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 現代の家族関係の変化を各種統計や社会制度面から客観的に理解できる。（知識・理解） 具体的な現代の家族問題について、主体的対話による紛争解決や家族を支える諸外国のサポートシステムから考察を深め、よりよい家族関係への提案ができる。（技能） 家族、地域社会の一員として社会福祉援助について理解を深め、多様な人々との共生について主体的に提案できる。（思考・判断・表現） 	<ul style="list-style-type: none"> 現代の家族関係の変化を各種統計や社会制度面から理解できる。（知識・理解） 具体的な現代の家族問題の解決に向けて、主体的対話による紛争解決や家族を支えるサポートシステムから解決法を提案できる。（技能） 社会福祉援助を理解し、多様な人々との共生について提案できる。（思考・判断・表現）
人間形成の心理学	家政学部 共通科目	3	3	この科目では、人間形成に関連する心理学的知識を身につけ、自己理解を深めるための学びを行う。まず、心身の発達過程、解離と心的外傷のメカニズムについて理解する。次に、虐待の定義やメカニズムを知り、虐待を防止する方法について考える。さらに、子どもの絵の表現や絵画療法に関する体験的学習や、おとぎ話の意味に関する理論的学習を行う。自己理解を深めるために、心理検査や心理劇（ロール・プレイング）も活用する。	<ol style="list-style-type: none"> 人間形成に関連する心理学的知識に積極的な関心を向け、意欲的かつ計画的に学ぶことができる。（関心・意欲・態度） 人間の心身の発達過程について体系的に理解することができる。（知識・理解） 解離と心的外傷の定義やメカニズムについて包括的に理解することができる。（知識・理解） 親になることの意味、および虐待の定義やメカニズムについて総合的に理解することができる。（知識・理解） 虐待の防止方法について具体的かつ適切に提案することができる。（思考・判断・表現） 遊びの象徴的意味について詳細に把握することができる。（知識・理解） 絵画表現や絵画療法の幅広い世界について、知識と実践の両面から理解することができる。（思考・判断・表現） おとぎ話の深層にある意味について総合的に理解することができる。（知識・理解） 	<ol style="list-style-type: none"> 人間形成に関連する基本的な心理学的知識に関心を向け、計画的に学ぶことができる。（関心・意欲・態度） 人間の心身の発達過程に関する基本的知識を理解することができる。（知識・理解） 解離と心的外傷の定義やメカニズムの基本を理解することができる。（知識・理解） 親になることの意味、および虐待の定義やメカニズムに関する基本的知識を理解することができる。（知識・理解） 虐待の防止方法に関する自分なりの考えを提案することができる。（思考・判断・表現） 遊びの象徴的意味に関する基本的知識を把握することができる。（知識・理解） 絵画表現や絵画療法の世界について、体験的に理解することができる。（思考・判断・表現） おとぎ話の深層にある意味に関する基本的知識を理解することができる。（知識・理解）
児童文化論	家政学部 共通科目	3	3	児童文化とは、子どもをめぐる様々な文化や児童文化財について学ぶ科目である。児童文化の定義及び特色を理解し、意義について検討する。また、児童文学、絵本、紙芝居、人形劇、ペープサート、パネルシアターなどの児童文化財に実際に触れながら、それぞれの特色を理解し、子どもの育ちを支えるための活用方法について学ぶ。また子どもの遊びについて現状を理解し、考察する。さらに、子どもをめぐる伝承文化について理解し、子どもの育ちにとって文化的環境がいかに関わり、どのような意味を持つのかについて考察する。	<ol style="list-style-type: none"> 児童文化の定義、特色、意義について理解し、説明できるようになる（知識・理解）。 さまざまな児童文化財に触れ、自ら作品を制作し発表までできるようになる（技能）。 またその際、子どもの育ちを支える児童文化財の活用する方法や文化的環境のあり方についての視点をもって、制作・発表できるようになる（思考・判断・表現） 子どもをめぐる伝承文化について成り立ち等も含めて広く理解し、説明できるようになる（知識・理解） 	<ol style="list-style-type: none"> 児童文化の定義、特色、意義について理解できる（知識・理解）。 さまざまな児童文化財に触れ、選択して発表できるようになる（技能）。 またその際、子どもの育ちを支える児童文化財の活用する方法や文化的環境のあり方について意識できるようになる（思考・判断・表現）。 子どもをめぐる伝承文化について理解できる（知識・理解）。
保育学	家政学部 共通科目	3	3	家庭における保育、保育所・幼稚園・認定こども園における集団保育の方法、内容について考える。具体的には、子どもの発達、子育て支援、保育制度、子どもと保健、保育史の理解など、幅広い領域を取り上げ、子どもの発達にふさわしい環境づくりやかかわり方を考えていく。そして、家庭や集団において「共に育ち合う」保育ができる力を伸ばしていきたい。	<ol style="list-style-type: none"> 子どもの誕生と保健について総合的に説明できる。（知識・理解） 子どもの成長・発達と生活について総合的に説明できる。（知識・理解） 親の役割、子育て支援について総合的に説明できる。（知識・理解） 集団保育の制度、内容等について総合的に説明できる。（知識・理解） 子どもの人権と福祉について総合的に説明できる。（知識・理解） 	<ol style="list-style-type: none"> 子どもの誕生と保健について総合的に説明できる。（知識・理解） 子どもの成長・発達と生活について総合的に説明できる。（知識・理解） 親の役割、子育て支援について総合的に説明できる。（知識・理解） 集団保育の制度、内容等について総合的に説明できる。（知識・理解） 子どもの人権と福祉について総合的に説明できる。（知識・理解）
社会福祉論	家政学部 共通科目	1	1	この授業では、社会福祉の基礎概念について概観し、社会保障制度、障害者福祉、児童福祉、高齢者福祉、地域福祉、ひとり親家庭の福祉、女性福祉の各領域について、法制度などの仕組み、課題、問題について理解を深め、その対応策、解決策について学ぶ。また、これらの問題について受講者自身が知識を深め実態を知り、ソーシャルワークの展開過程を基に、適切な支援とは何かを考察することができるようになることを目標とする。	<ol style="list-style-type: none"> 社会福祉の価値、実践について学び、理解できるようになる。（知識・理解） 社会福祉における重要な概念について理解を深め、現状の課題・問題点を説明し、自身の言葉で対応策、解決策を説明することができる。（理解・関心・態度） 様々な困難を抱える人に対して、支援方法としての法制度、支援技法について理解し、実践することができる。（知識・理解・態度） 	<ol style="list-style-type: none"> 社会福祉の価値について学び、理解できるようになる。（知識・理解） 社会福祉における重要な概念について理解を深め、現状の課題・問題点を説明することができる。（理解・関心・態度） 様々な困難を抱える人に対して、支援方法としての法制度、支援技法について理解することができる。（知識・理解・態度）
人間学	家政学部 共通科目	1	1	この授業では、乳児期、幼児期、児童期、青年期前期、青年期後期、成人期、老年期のそれぞれの発達段階ごとの発達の特徴と心理的危機について扱う。そして、人間のライフスパンを通じた人生経験について心理学の視点から概観していく。受講者は自身の発達段階である青年期後期の発達の特徴と心理的危機について、自分自身の経験と関連付けながら学び、現在までの育ちと将来の人生を考察することを通して「人間学」を考える。	<ol style="list-style-type: none"> 生涯発達の視点から発達段階を中心に心理学的理論を学び、理解できるようになる。（知識・理解） 自分の過去、現在、将来を発達段階や発達課題の視点で捉えなおし、自分の人生の見方を広げることができる。（関心・意欲・態度） 自分を取り巻く他者の人生と自分の人生を重ね合わせ、自分の人間関係について捉えなおすことができる。（関心・意欲・態度） 	<ol style="list-style-type: none"> 生涯発達の視点から発達段階を中心に心理学的理論を学び、理解できるようになる。（知識・理解） 自分の過去、現在、将来を発達段階や発達課題の視点からふりかえることができる（関心・意欲・態度） 自分の人間関係についてふりかえることができる。（関心・意欲・態度）

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
高齢者論	家政学部 共通科目	1	1	本科目は今後一層解決しなければならない課題の多い超高齢社会において、高齢者及び高齢者をめぐる家族、家庭、社会の諸問題への理解と関心を深め、これらの課題に主体的に取り組むことのできる能力を身につける。授業は大きく以下の3部から構成される。第1部では、高齢者自身への理解を深め、心身の全体像を考察する。第2部では、高齢者の生活行動に視座をおき、高齢者の生きる環境を衣食住などの生活諸相から概観する。第3部では、自らのライフコースを想起しながら、高齢者をめぐる社会問題について理解を深める。これらを通して、自らの高齢者観を整理、構築する。	1. 解決しなければならない課題の多い超高齢社会において、高齢者及び高齢者をめぐる家族、家庭、社会の諸問題への理解を深めることができるようになる。（知識・理解） 2. 高齢者及び高齢者をめぐる諸課題について、自らのこれからのライフコースに重ねて理解し考え、諸課題解決のために主体的に実践・行動に移すことができる能力を身につけることができるようになる。（関心・意欲・態度）	1. 解決しなければならない課題の多い超高齢社会において、高齢者及び高齢者をめぐる家族、家庭、社会の諸問題への基礎的な理解を深めることができるようになる。（知識・理解） 2. 高齢者及び高齢者をめぐる諸課題について、自らのこれからのライフコースに重ねて理解し考え、諸課題解決のために主体的に実践・行動に移すことができる基本的な能力を身につけることができるようになる。（関心・意欲・態度）
被服学概論	家政学部 共通科目	1	1	被服学は材料学、管理学、染色学、衛生学、流通・消費科学、染織文化史、服装史、造形学、デザインなどの諸領域からなる学問であり、被服学を概観するにはこれらすべての概略を知る必要がある。例えば材料学は、品質表示、繊維の分類、主要な繊維の生産・構造・性質、糸の性質、織物・編み物の性質などを含む。管理学では、これらの材料を仕上げ加工・染色し、どのように取り扱うのかを理解する。そのほかの分野も社会における繊維・アパレル製品の製造、流通・販売、消費など諸分野に対応している。本科目では、被服学全般に関する概要を理解できるようになる。	1. 家政学の概略を理解したうえで、広い視野での考察ができるようになる。（知識・理解）	1. 家政学の分野において、自らの専門領域と被服学の違いを理解する。（知識・理解）
食物学概論	家政学部 共通科目	1	1	日本是世界一の長寿国だと言われており、平均寿命も健康寿命も世界ナンバーワンだとされてきた。しかし、近年、その健康を支える「食」のあり方が、若い世代を中心に崩れてきていることが指摘されている。このことは、がんや糖尿病を含む生活習慣病の増加として、社会的な問題となってきた。食事は、生活習慣病を引き起こす最も大きな要因のひとつであると報告されている。現在わが国では、3人に2人が生活習慣病で亡くなっている。生活習慣病は、正しい「食と栄養」の知識を得ることによって、防げることが知られている。本授業では、私たちの身体は自然科学の一部であり、私たち一人一人が、自分自身の体の仕組みや「食と栄養」について知ることで、自らの寿命を延ばすことができるという事実を理解し、自らの健康を守るために知っておくべき「食と栄養」の基礎について楽しく習得する。	1. 「食と栄養」と健康の関係について、基礎的な知識を身につけ、興味を持ち、家族や他者にも説明することができる。（知識・理解）（思考・判断・表現）（関心・意欲・態度） 2. 食に関わる自らの身体の仕組みについて、深く理解し、興味を持ち、説明することができる。（知識・理解）（思考・判断・表現）（関心・意欲・態度） 3. 自らの体質と環境因子（食と栄養）との関係について深く理解し、興味を持ち、説明することができる。（知識・理解）（思考・判断・表現）（関心・意欲・態度）	1. 「食と栄養」と健康の関係について、基礎的な知識を身につけることができる。（知識・理解） 2. 食に関わる自らの身体の仕組みについて、深く理解することができる。（知識・理解） 3. 自らの体質と環境因子（食と栄養）との関係について深く理解し、説明することができる。（知識・理解）（思考・判断・表現）
住居学概論	家政学部 共通科目	1	1	1. 住生活の諸問題 2. 住まいの変遷 3. 家族と住要求 4. 日本の住宅事情 5. 住まいの設計 講義を中心に映像等も交えながら、上記5項目の理解を目的とする。また、併行して講義内容を応用した簡単な製図課題を課し、空間を創造する。	・個人・家族の生活の拠点である住居について、住生活の基本的条件をふまえ、様々な角度から知識を関係づけることができるようになる。（知識・理解） ・製図課題を通して、問題を類別し、解決のために知識の応用ができるようになる。（知識・理解）	・個人・家族の生活の拠点である住居について、様々な角度から知識を関係づけることができるようになる。（知識・理解）
考古学	家政学部 共通科目	3	3	考古学という学問は、人間がこの地球上に残した「モノ」、あるいは痕跡から過去の人間の行動を復元し、人がどのように生きてきたのか、何を考へて生活してきたのかを学ぶ学問である。そして重要なことは、単に過去にあった事象を学ぶだけでなく、その結果を踏まえて、自ら今後の生き方について指針を見つけることが必要である。考古学という学問が、世間でよく誤解されるように宝探しでも、探検でもなく、人文科学の一分野であることの理解が大切である。さらには、単に珍しいモノ、あるいは金銭的な価値があるモノを探し出すことが、「考古学」という学問ではないということをしつかりと学ぶことが必要である。特にこの授業では、単に座学として教室で教員の話聞くだけでなく、自らの足、目、手などの五感をフル活用する授業としていきたい。授業の内容は、日本の考古学を中心として講義をしていく。その中で、家政学に関する事柄を取り上げて、共通科目として「考古学」という授業が開講されている意義が理解できるように講義していく。そのためにも受講を希望するみなさんが、事前学習をきちんとおこない、積極的に授業に臨むことを希望する。	1. 「考古学」という学問が、どのようなことを学ぶ学問であるか、さらには「考古学」という学問を学ぶ意義を自らの言葉で説明できること。 2. この授業で「何を学んだか」ということを、具体的に例を挙げて説明できること。 3. この授業でおこなった「五感」を活かして考古学を学習するという内容が理解できていること。 4. 「考古学」で学んだ知識を、自らが専門で学ぶ「家政学」に応用して活用できること。 5. 「考古学」が人文科学の一分野であることを、具体的な事例を挙げて説明できること。 6. 日本の時代区分のうち「古墳時代」がどのような時代であるかを、自らの言葉によって説明できること。 7. 世界文化遺産について、その意味を正確に説明できること。	1. 「考古学」という学問が、どのようなことを学ぶ学問であるかを説明できること。 2. 「考古学」という授業が、なぜ家政学部で開講されているのかという質問に、自らの考えによって説明できること。 3. 「五感」を活かして授業内容について、具体的な授業内容を説明できること。 4. 「考古学」で学んだ知識を、「家政学」で学んだことに応用できること。 5. 「考古学」が人文科学の一分野であることを、具体的な事例を挙げて説明できること。 6. 日本の時代区分のうち「古墳時代」について説明できること。 7. 世界文化遺産について、なぜこのような条約があるのか説明できること。

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
統計学	家政学部 共通科目	1	1	<p>統計学とは自然科学、社会科学、人文科学等で用いられる科学的な分析方法の一つであり、大量のデータの中に存在する法則性を扱う方法です。単に学問的な研究だけでなく、身近な家計管理、企業経営、政府の行政等の実務など幅広く使われます。</p> <p>本授業では、統計学を大学で初めて学ぶこと（配当学年が1年に設定されていること）を考慮し、入門書の順序や方法にならって実施します。まずはデータの基本構造を明らかにする記述統計学を理解します。さらに、限られたデータから全体を推測する推測統計学を理解します。</p> <p>統計学を学ぶための姿勢として、まず、入門書を熟読して、現実現象をモデル化するための確率と確率分布の意味と、母集団と標本の2つの概念を十分理解しながら、数値計算の演習を繰り返し練習することで、「高度な知識」と「考える力」を身につけます。本授業の最終到達点は、各分野での問題発見と問題解決のための応用力を養う「入門」と位置づけられます。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現実現象データをグラフや度数分布表で表し、確率分布する意味を総合的に説明・実施できる。（知識・理解、技能） 2. 母集団と標本に関する、標本の意味や抽出・記録する方法を総合的に説明・実施できる。（知識・理解、技能） 3. 標本分布に関する中心的傾向と変動の特性を得る方法を総合的に説明・計算できる。（知識・理解、技能） 4. さまざまな形の確率分布に関して理解し、特に正規分布の性質と正規分布表の読み方を総合的に説明・実施できる。（知識・理解、技能） 5. 各種確率分布と信頼係数を用いた母平均と母分散の推定の方法を総合的に説明・計算できる。（知識・理解、技能） 6. 仮説検定の考え方に沿った統計量と有意水準を用いた母平均と母分散の検定法を総合的に説明・計算できる。（知識・理解、技能） 7. 2つの現象がペアになって変化する関係における、相関関係と回帰式による分析方法を総合的に説明・計算できる。（知識・理解、技能） 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現実現象データをグラフや度数分布表で表し、確率分布する意味を基本的な事項について説明・実施できる。（知識・理解、技能） 2. 母集団と標本に関する、標本の意味や抽出・記録する方法を基本的な事項について説明・実施できる。（知識・理解、技能） 3. 標本分布に関する中心的傾向と変動の特性を得る方法を基本的な事項について説明・計算できる。（知識・理解、技能） 4. さまざまな形の確率分布に関して理解し、特に正規分布の性質と正規分布表の読み方を基本的な事項について説明・実施できる。（知識・理解、技能） 5. 各種確率分布と信頼係数を用いた母平均と母分散の推定の方法を基本的な事項について説明・計算できる。（知識・理解、技能） 6. 仮説検定の考え方に沿った統計量と有意水準を用いた母平均と母分散の検定法を基本的な事項について説明・計算できる。（知識・理解、技能） 7. 2つの現象がペアになって変化する関係における、相関関係と回帰式による分析方法を基本的な事項について説明・計算できる。（知識・理解、技能）
環境学概論	家政学部 共通科目	2	2	<p>今日、地球環境は、急激に変化しつつある。現代の人間活動は、大量生産、大量消費、大量廃棄に象徴され、地球温暖化や熱帯林減少、砂漠化など、様々な環境問題を引き起こした。環境問題が顕在化する現代において、人間社会とそれを取り巻く自然環境との関係について理解することは、市民が知っておくべき教養の1つとして重視されている。とりわけ、社会システムの側面から、環境問題の原因、実態や影響等について、科学的に理解することがもたらされる。また、近年注目されている環境保全や循環型社会、持続可能なまちづくりの必要性が注目されている。</p> <p>そこで、この授業では、人間の生活の舞台である自然環境について科学的に理解する力を養うことをねらいとする。さらに、様々な環境問題に対する解決方法（対策）について、自ら考える力を習得することを旨とする。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地球温暖化や熱帯林の破壊など、地球規模の環境問題について、原因、実態、影響を理解するとともに、それらの対策や解決方法についても、主体的に考えることができる。 2. 大気汚染や水質汚濁など、身近で起こっている環境問題について、原因、実態、影響を理解するとともに、それらの対策や解決方法についても、主体的に考えることができる。 3. 種々の自然災害（地震や気象災害など）に関して、メカニズムや実態などを説明できる。 4. 生態系や食物連鎖などについて、人間活動のかかわりを含め、その実態や影響について説明することができる。 5. 環境的な観点から、持続可能な社会を構築するために、どう行動すべきかを自ら考えることができる。 6. 国内外の自然、環境分野における世界と日本の関わりについて具体的に説明できる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地球温暖化や熱帯林の破壊など、地球規模の環境問題について、原因、実態、影響を理解できる。 2. 大気汚染や水質汚濁など、身近で起こっている環境問題について、原因、実態、影響を理解できる。 3. 種々の自然災害（地震や気象災害など）の実態について基礎的な知識を習得する。 4. 基礎的な地球のなりたちや歴史について理解できる。 5. 生態系のなりたちなど、環境と生物との関係について理解できる。 6. 世界の環境と人間活動の関わりについて理解できる。
家庭電気・機械	家政学部 共通科目	3	3	<p>合理的で快適な家庭生活を営む上で必要とされる電気工学・機械工学に関連する基礎的事項および家庭用の各種機器を取り上げて、講義をする。現在、家庭生活においては多くの機器が使用され、また高度化も著しく、様々な知識が必要とされている。</p> <p>本講義では電気的基础、機械的基础を学び、生活の中で利用する家庭電化製品及び情報処理機器などの仕組みとその利用方法について理解する。また、保守点検の方法についても学ぶ。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 電気工学に関連する各種法則やなどについて説明できる。（知識・理解） 2. 各種機構や各種機械要素などについて説明できる。（知識・理解） 3. 家庭用各種機器の原理・構造について明確に説明できる。（知識・理解） 4. 家庭用各種機器の正しい取り扱い方法について明確に説明できる。（知識・理解） 5. 家庭用各種機器の保守・点検方法について明確に説明できる。（知識・理解） 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 電気工学に関連する基本的な法則やなどについて説明できる。（知識・理解） 2. 各種機構や各種機械要素などの基本的な事項について説明できる。（知識・理解） 3. 家庭用各種機器の原理・構造の基本的な事項について説明できる。（知識・理解） 4. 家庭用各種機器の正しい取り扱い方法について説明できる。（知識・理解） 5. 家庭用各種機器の保守・点検方法について説明できる。（知識・理解）
被服材料学I	家政学部 学科専門教育科目 被服学科	1	1	<p>我々人類が原始的な被服を身に付けるようになったのは、一説によると7万年ほど前である。被服の着用により、寒冷な地域にも進出してゆくことが可能となった。その観点で、被服の最も重要な機能は、体温の維持である。また、我々の身体からは、1日にペットボトル1本ほどの水分が蒸発している。被服が水分を外部に放出する機能を備えていないと、極めて不快な状態になる。ゆえに、被服に用いられる材料の熱と水に対する性質を理解することは、被服を制作する時はもちろんのこと、被服の適切な利用のためにも重要である。本講では、繊維、糸、布の順に基本的な構造と性質を学修し、特に材料に対する熱および水の関係に注目しながら、それぞれの構造と性質の関係を理解することを目的とする。本講では、被服に関わる全ての学術および産業活動、そして社会生活に必要な被服材料学の基本を修得することを重視する。例えば、繊維の種類は、実際には数十種類もあるが、代表的な8種類に限定して学ぶ。織物や編物に関しても、基本組織をしっかりと理解・記憶することを重視し、個別の布の名称などは代表的なものに限定して学ぶ。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的な8種類の繊維（綿、麻、羊毛、絹、レーヨン、ナイロン、ポリエステル、アクリル）の性質（水に対する性質、熱に対する性質、風合い、染色特性）について総合的に説明することができる。（知識・理解） 2. 糸の太さの単位について、恒長式および恒重式の両方について正しく理解し、計算することができる。さらに、糸の構造について総合的に説明することができ、かつ、撚りを入れることの意味について説明することができる。（知識・理解） 3. 織物の3原組織について、それぞれに該当する織物名を例示でき、詳しく説明することができる。（知識・理解） 4. 編み物の基本組織について、それぞれに該当する編物名を例示でき、詳しく説明することができる。（知識・理解） 5. 布の評価方法のうち、熱伝導性の評価方法について説明でき、かつ布の含気率と熱伝導の関係の正しく説明することができる。（知識・理解） 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的な8種類の繊維（綿、麻、羊毛、絹、レーヨン、ナイロン、ポリエステル、アクリル）の性質（水に対する性質、熱に対する性質、風合い、染色特性）について基本的な事柄を説明することができる。（知識・理解） 2. 糸の太さの単位について、恒長式および恒重式の両方について説明することができる。さらに、糸の基本的な構造を説明することができる。（知識・理解） 3. 織物の3原組織について、基本的な定義を説明することができる。（知識・理解） 4. 編み物の基本的な組織について説明することができる。（知識・理解） 5. 布の評価方法のうち、熱伝導性の評価方法について説明することができる。（知識・理解）

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
被服材料学II	家政学部 学科 専門教育科目 被服学科	1	1	被服材料学IIでは、被服材料学Iで学んだ知識を強化し、かつ深い理解を得る学修を目指している。繊維の種類も、被服材料学Iで学修した8種類に加えて、被服材料として用いられている繊維を網羅的に学ぶ。織物に関しても、綿、羊毛、長繊維のそれぞれの代表的な織物について、その構造と特徴や由来について学ぶ。また、高機能性繊維や機能性加工などについても学び、最新の情報も網羅しながら高度な知識を獲得してゆく。	1. 服に用いられている天然繊維、再生繊維、半合成繊維、合成繊維に分類される各種繊維について、その化学構造、繊維構造、基本性質など総合的に説明することができる。さらに、最新の高機能性繊維についても具体的に説明することができる。(知識・理解) 2. 糸の各種分類法について総合的に説明することができる。また、意匠糸など特殊な糸についても基本的な特徴を説明することができる。(知識・理解) 3. 綿の織物に関して、代表的なものについて名称と特徴を説明することができる。(知識・理解) 4. 羊毛の織物に関して、代表的なものについて名称と特徴を説明することができる。(知識・理解) 5. 絹および長繊維の織物に関して、代表的なものについて名称と特徴を説明することができる。(知識・理解) 6. よこ編の代表的な編物について説明することができる。たて編の代表的な編物について説明することができる。(知識・理解) 7. 布の評価方法について総合的に説明することができる。(知識・理解) 8. 高機能繊維、機能加工について総合的に説明することができる。(知識・理解)	1. 被服に用いられている天然繊維、再生繊維、半合成繊維、合成繊維に分類される各種繊維について、基本性質を説明することができる。(知識・理解) 2. 糸の各種分類法について総合的に説明することができる。(知識・理解) 3. 綿の織物に関して、2～3種類例示することができる。それらの特徴を説明することができる。(知識・理解) 4. 羊毛の織物に関して、2～3種類例示することができる。それらの特徴を説明することができる。(知識・理解) 5. 絹および長繊維の織物に関して、2～3種類例示することができる。それらの特徴を説明することができる。(知識・理解) 6. よこ編の編物について基本的な特徴を説明することができる。たて編の編物について基本的な特徴を説明することができる。(知識・理解) 7. 布の評価方法について基本的な内容を説明することができる。(知識・理解) 8. 高機能繊維、機能加工について部分的に説明することができる。(知識・理解)
被服材料学実験I	家政学部 学科 専門教育科目 被服学科	2	2	被服材料学実験Iでは、講義で学んだ知識を実験で体験することで、理解と納得を深めることを目指している。繊維から糸、そして布の基本的な性質を、顕微鏡や引張り試験機などの装置を用いて計測し、実試料で確認する。また、被服材料の性能評価法は、日本工業規格(JIS)で定められているものも多い。JISに準拠した測定方法についても学ぶ。実験の目的を理解し、結果を正しくまとめ、さらに文献情報などを活用しながら考察し、それを正しいフォーマットとルールに従ってレポートを書けるようになる。	1. 各実験の目的を理解し、実験方法について説明することができる。かつ自分の考えを加味して、より深く実験の目的を洞察することができる。実験を安全に行うために、危険のポイントについて理解し、実行することができる。(知識・理解)、(技能) 2. 適切に実験結果をまとめることに加えて、実験中の試料の様子や結果を注意深く観察し、結果のまとめに反映することができる。(関心・意欲・態度)、(技能) 3. 実験の目的を理解した上で、実験結果を詳しく吟味して多くの情報を抽出することができる。さらに、文献等を調査した情報を駆使して、結果を考察することができる。(知識・理解)、(思考・判断・表現) 4. 実験結果から得られた事実を中心に総括し、結論をまとめることができる。(思考・判断・表現)	1. 各実験の目的を理解し、実験方法について説明することができる。実験を安全に行うために、危険のポイントについて理解し、実行することができる。(知識・理解)、(技能) 2. 適切に実験結果をまとめることができる。(関心・意欲・態度)、(技能) 3. 実験の目的を理解した上で、実験結果に対して考察することができる。(知識・理解)、(思考・判断・表現) 4. 自分なりの考えで結論をまとめることができる。(思考・判断・表現)
被服材料学実験II	家政学部 学科 専門教育科目 被服学科	2	2	被服材料学実験IIでは、被服材料学実験Iと同様に講義で学んだ知識を実験で体験することで、理解と納得を深めることを目指している。実験の目的を理解し、そして結果を正しくまとめ、さらに文献情報などを活用しながら考察し、それを正しいフォーマット・ルールに従ってレポートを完成させる能力をさらに高める。繊維や布の水に対する性質、熱に対する性質、摩擦特性など被服材料の正しい活用に必要な知識を、実験を通じて理解を深める。また、繊維製品の商取引に必要な評価についても理解し、その評価方法について説明できるようになる。	1. 各実験の目的を理解し、実験方法について説明することができる。かつ自分の考えを加味して、より深く実験の目的を洞察することができる。実験を安全に行うために、危険のポイントについて理解し、実行することができる。(知識・理解)、(技能) 2. 適切に実験結果をまとめることに加えて、実験中の試料の様子や結果を注意深く観察し、結果のまとめに反映することができる。(関心・意欲・態度)、(技能) 3. 実験の目的を理解した上で、実験結果を詳しく吟味して多くの情報を抽出することができる。さらに、文献等を調査した情報を駆使して、結果を考察することができる。(知識・理解)、(思考・判断・表現) 4. 実験結果から得られた事実を中心に総括し、結論をまとめることができる。(思考・判断・表現)	1. 各実験の目的を理解し、実験方法について説明することができる。実験を安全に行うために、危険のポイントについて理解し、実行することができる。(知識・理解)、(技能) 2. 適切に実験結果をまとめることができる。(関心・意欲・態度)、(技能) 3. 実験の目的を理解した上で、実験結果に対して考察することができる。(知識・理解)、(思考・判断・表現) 4. 自分なりの考えで結論をまとめることができる。(思考・判断・表現)
被服基礎科学	家政学部 学科 専門教育科目 被服学科	1	1	繊維製品の性質や機能を理解するために必要な自然科学的基礎知識を学修する。具体的には、「物質の成り立ち」、「繊維材料の構造と性質」、「生活の科学」というテーマで、被服学に関連する化学・物理学の基礎について解説する。同時に、被服学に関連する各種単位の理解および基礎的な計算力の強化も実施する。	1. 被服学に必要な自然科学的基礎知識を十分に修得している。(知識・理解) 2. 被服学に関連する各種単位を理解し、その運用に必要な計算が実行できる。(技能) 3. 修得した基礎知識と計算能力を活用して、被服に関する諸問題に科学的に正しく対処する判断力と態度を身につけている。(思考・判断・表現)、(関心・意欲・態度)	1. 被服学に必要な自然科学的基礎知識を最低限必要な範囲で修得している。(知識・理解) 2. 被服学に関連する各種単位を理解している。(技能) 3. 被服に関する諸問題に科学的に正しく対処する判断力と態度を、基本的な範囲で身につけている。(思考・判断・表現)、(関心・意欲・態度)
繊維学実験	家政学部 学科 専門教育科目 被服学科	4	4	日本衣料管理協会のテキスタイルアドバイザーの必須科目として、被服材料学実験I・IIでは実施していない実験を実施し、被服材料の性質をより深く理解する。さらに、アパレル分野で働くとき役立つ実用的な実験、最新の繊維の知識や測定法について理解し説明できるようになる。	1. 各実験の目的を理解し、実験方法について説明することができる。かつ自分の考えを加味して、より深く実験の目的を洞察することができる。実験を安全に行うために、危険のポイントについて理解し、実行することができる。(知識・理解)、(技能) 2. 適切に実験結果をまとめることに加えて、実験中の試料の様子や結果を注意深く観察し、結果のまとめに反映することができる。(関心・意欲・態度)、(技能) 3. 実験の目的を理解した上で、実験結果を詳しく吟味して多くの情報を抽出することができる。さらに、文献等を調査した情報を駆使して、結果を考察することができる。(知識・理解)、(思考・判断・表現) 4. 実験結果から得られた事実を中心に総括し、結論をまとめることができる。(思考・判断・表現)	1. 各実験の目的を理解し、実験方法について説明することができる。実験を安全に行うために、危険のポイントについて理解し、実行することができる。(知識・理解)、(技能) 2. 適切に実験結果をまとめることができる。(関心・意欲・態度)、(技能) 3. 実験の目的を理解した上で、実験結果に対して考察することができる。(知識・理解)、(思考・判断・表現) 4. 自分なりの考えで結論をまとめることができる。(思考・判断・表現)

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
被服管理学I	家政学部 学科 専門教育科目 被服学科	2	2	繊維製品は使用された後、付着した汚れなどを取り除くための洗濯が行われ、手入れ、保管の後、また使用される。元の性能をできるだけ変化させないような洗濯、手入れ、保管が求められる。この授業では、衣服に付着する汚れはどのようなものか、家庭洗濯とドライクリーニング、衣料用洗剤の成分と働き、洗剤と環境問題、洗濯の方法、洗濯の際の諸条件、適正な洗濯法、漂白、蛍光増白、衣類の保存・管理について学ぶ。	1. 衣服や繊維製品の手入れ、保存、管理の基本となる事項を理解して正確に説明できる。(知識・理解) 2. 洗剤及び洗濯について正しく説明できる。(知識・理解) 3. 洗剤及び洗濯についての基礎的知識を日常生活に反映させることができる。(技能) 4. 修得した知識と技能により、繊維製品の保存・管理についての的確な判断が可能になる。(思考・判断・表現) 5. ファッション素材の取り扱いに関して科学的な視点をもつことができる。(関心・意欲・態度)	1. 衣服や繊維製品の手入れ、保存、管理の基本となる事項を理解する。(知識・理解) 2. 洗剤及び洗濯についての基礎的知識を身につける。(知識・理解) 3. 繊維製品の保存・管理において、修得した知識と技能を生かすことができる。(思考・判断・表現) 4. ファッション素材の取り扱いに関して関心を持つことができる。(関心・意欲・態度)
被服管理学II	家政学部 学科 専門教育科目 被服学科	3	3	被服管理学Iで学んだ繊維製品の洗浄、手入れ、保存・管理に関連する基礎事項として、界面活性剤とその特質、洗浄力試験法とその評価、保存・管理の条件と方法について学ぶ。論文講読を行い、より新しい研究内容を知る。	1. 論文講読を通して、繊維製品の洗濯、保存、管理に関する専門知識を正確に説明できる。(知識・理解) 2. 理解した内容をプレゼンテーションソフトを用いてわかりやすく説明することができる。(技能) 3. 繊維製品のより良い管理法をまとめ、考察するとともに、日常生活に生かすことができるようになる。(技能) 4. 修得した知識と技能により、繊維製品の保存・管理についての的確な判断ができる。(思考・判断・表現) 5. ファッション素材の取り扱いに関して科学的な視点をもつことができる。(関心・意欲・態度)	1. 論文講読を通して、繊維製品の洗濯、保存、管理に関する専門知識を理解する。(知識・理解) 2. 理解した内容をプレゼンテーションソフトを用いて説明することができる。(技能) 3. 繊維製品のより良い管理法をまとめることができる。(技能) 4. 繊維製品の保存・管理において修得した知識と技能を生かすことができる。(思考・判断・表現) 5. ファッション素材の取り扱いに関して関心を持つことができる。(関心・意欲・態度)
被服管理学実験I	家政学部 学科 専門教育科目 被服学科	2	2	被服管理学I・IIで学んだ、被服の洗浄や手入れに関する事項について、より理解を深めるために、界面活性剤水溶液の性質、合成洗剤の分析、洗浄実験、漂白、糊付けなどの実験を行い、レポートの作成を行う。	1. 実験の手法、レポートの書きかた(図表の書き方、結果のまとめ方、考察の仕方)等を理解する。(知識・理解) 2. 適切なレポートを書くことができる。(技能) 3. 被服の洗浄、手入れに関する事柄について、適切な実験を行うことができる。(技能) 4. 得られた結果を正しく理解し、文献を引用しながら考察を深めることができる。(思考・判断・表現) 5. 界面活性剤や洗剤に関する実験に関心を持ち、さらなる条件設定を見出すことができる。(関心・意欲・態度)	1. 実験の手法、レポートの書きかた(図表の書き方、結果のまとめ方、考察の仕方)等を理解する。(知識・理解) 2. レポートを書くことができる。(技能) 3. 被服の洗浄、手入れに関する事柄について、実験を行うことができる。(技能) 4. 得られた結果を理解し、まとめることができる。(思考・判断・表現) 5. 界面活性剤や洗剤に関する実験に関心を持つことができる。(関心・意欲・態度)
被服管理学実験II	家政学部 学科 専門教育科目 被服学科	3	3	被服管理学実験Iに引き続き、陰イオン界面活性剤の定量、市販布上の遊離ホルムアルデヒドの定量、漂白剤の有効塩素濃度の定量、油脂の抽出と定量、蛍光増白、洗浄実験、洗濯による染色布の変退色についての実験を行い、被服管理学に関する理解を深める。	1. 実験の手法、レポートの書きかた(図表の書き方、結果のまとめ方、考察の仕方)等を身につける。(知識・理解) 2. 被服の洗浄に関する試験法を理解する。(知識・理解) 3. 適切なレポートを書くことができる。(技能) 4. 得られた結果を正しく理解し、文献を引用しながら考察を深めることができる。(思考・判断・表現) 5. 界面活性剤や洗剤に関する実験に関心を持ち、さらなる条件設定を見出すことができる。(関心・意欲・態度)	1. 実験の手法、レポートの書きかた(図表の書き方、結果のまとめ方、考察の仕方)等を身につける。(知識・理解) 2. 被服の洗浄に関する試験法を理解する。(知識・理解) 3. レポートを書くことができる。(技能) 4. 得られた結果を理解し、まとめることができる。(思考・判断・表現) 5. 界面活性剤や洗剤に関する実験に関心をもつことができる。(関心・意欲・態度)
テキスタイル基礎科学実験	家政学部 学科 専門教育科目 被服学科	1	1	被服材料学、被服管理学、および染色に関する実験・実習に必要な基礎知識・技能を修得する。安全かつ正確に実験を行うために、実験器具の操作法、有効数字の取り扱い等を学び、さらに被服材料の基礎的性質や、衣服の取り扱いについて実験を通じて学修する。さらに、実験レポートの正しい記述方法についても学修する。	1. 被服材料の基礎的な性質および被服の洗浄や取り扱いの基礎を理解し、正確に説明できる。(知識・理解) 2. 実験器具を正しく安全に操作することができる。実験データの処理を適切に行うことができる。(技能) 3. 修得した基礎知識と実験技能を活用して、各種実験を正しく実施し、得られた結果を正しく理解し、文献を引用しながら考察を深めることができる。(思考・判断・表現)	1. 被服材料の基礎的な性質および被服の洗浄や取り扱いの基礎を理解している。(知識・理解) 2. 実験器具を操作することができる。実験データの処理を行うことができる。(技能) 3. 修得した基礎知識と実験技能を活用して、各種実験を実施し、レポートを書くことができる。(思考・判断・表現)
染色加工学	家政学部 学科 専門教育科目 被服学科	2	2	染色加工とは何か、色、測色と表色、染料の種類と性質、染色法、染着機構、染色堅牢度及びその試験法について学ぶ。	1. 繊維製品には、各種の染色、加工がなされていることを理解し、説明できる。(知識・理解) 2. 染料、染色と各種加工に関して、科学的に説明できる。(技能) 3. 修得した知識と技能により、ファッション・アパレル関連業務において的確な判断ができる。(思考・判断・表現) 4. ファッション素材の取り扱いに関して染色の観点から科学的な視点を持つ事ができるようになる。(関心・意欲・態度)	1. 繊維製品には、各種の染色、加工がなされていることを理解する。(知識・理解) 2. 染料、染色と各種加工に関して、簡単に説明できる。(技能) 3. ファッション・アパレル関連業務において修得した知識と技能を生かすことができる。(思考・判断・表現) 4. ファッション素材の取り扱いに関して関心を持つことができる。(関心・意欲・態度)
染色実習	家政学部 学科 専門教育科目 被服学科	3	3	合成染料を用いて染色、染着率の算出を行う。さらに、歴史的に古くから使用されてきた代表的な天然の素材を用いて草木染を行う。その後、自分の染めた布を用いて染色堅牢度試験を行い、堅牢度試験法を学ぶと同時に染色布の堅牢性を評価する。染色を科学的興味から学びたい人、消費科学的立場から学びたい人、染色工芸をやりたい人のいずれにも知ってもらいたい内容をまとめている。	1. 染料、染色に関する基礎的な実験を行い、その内容を説明できる。(知識・理解) 2. 実験の手法、まとめ方、レポートの書き方を身につけ、適切なレポートを書くことができる。(技能) 3. 得られた結果を正しく理解し、文献を引用しながら考察を深めることができる。(思考・判断・表現) 4. 染料や染色に関する実験に関心を持ち、さらなる条件設定を見出すことができる。(関心・意欲・態度)	1. 染料、染色に関する基礎的な実験を行い、その内容を理解する。(知識・理解) 2. 実験の手法、まとめ方、レポートの書き方を身につけ、レポートを書くことができる。(技能) 3. 得られた結果を理解し、まとめることができる。(思考・判断・表現) 4. 染料や染色に関する実験に関心を持つことができる。(関心・意欲・態度)

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
染織品保存科学	家政学部 学科 専門教育科目 被服学科	3	3	衣料品は、着用や洗濯によって劣化や変退色が生じ、適正な保存・管理が行われたかどうかはその衣料品の耐用年数に大きく影響する。また、歴史的価値のある染織文化財（衣服、室内装飾品、寝具などの繊維製品すべてを含む）を、展示や保管、修復の際に劣化させず、後世に伝えていくことは、我々の重要な任務である。この授業では、染織品の劣化、変退色に及ぼす要因、影響、メカニズムについて解説する。また、染織品や染織文化財の展示、保存、修復の実際について、アメリカ、イギリスの主要美術館における実例を示しながら講義する。	1. 論文講読を通して、染織品の劣化、変退色の要因、劣化の現象、その評価法について学び、適正な保存、管理について理解する。（知識・理解） 2. 理解した内容をプレゼンテーションソフトを用いてわかりやすく説明することができる。（技能） 3. 修得した知識と技能により、染織品を扱う際の的確な判断ができる。（思考・判断・表現） 4. 染織品の取り扱いに関して劣化や保存方法について科学的な視点をもつことができる。（関心・意欲・態度）	1. 論文講読を通して、染織品の劣化、変退色の要因、劣化の現象、その評価法について学び、理解する。（知識・理解） 2. 理解した内容をプレゼンテーションソフトを用いて説明することができる。（技能） 3. 染織品を扱う際に、修得した知識と技能を生かすことができる。（思考・判断・表現） 4. 染織品の取り扱いに関して劣化や保存方法について関心をもつことができる。（関心・意欲・態度）
被服造形学	家政学部 学科 専門教育科目 被服学科	1	1	被服はそれを着装する人体と、被服製作の基本となるパターン、及び使用する材料の三つの要素が十分に生かされた時点で良い設計が構築される。そこで本科目では、被服造形分野学習の基礎として、人体に関する情報を主体に、人体計測、JISサイズ規格、体型、体型とパターンの関連についての知識を身に着け、基本姿勢における人体の情報と衣服原型との関係について理解する。さらに、アパレル生産の現状やしぐみについての知識も身につけることによって、既製服の生産についての理解も深める。	1. 人体の構成・骨格系・筋系・皮膚系など被服造形に役立つ人体に関する情報について、機能役割も含めて説明できる。（知識・理解） 2. 人体計測の方法について目的別に説明できる。（知識・理解） 3. 人体の基本サイズ、いろいろな体型やサイズ変化について説明できる。（知識・理解） 4. JISサイズについて経緯も含めて説明できる。（知識・理解） 5. アパレル生産のしぐみを理解し説明できる。（知識・理解） 6. 体型とパターンの関係について考察し、衣服デザインへの応用ができる。（思考・判断・表現） 7. アパレル設計に関して造形学視点から興味や関心、問題点が理解できるようになる。（関心・意欲・態度）	1. 人体の構成・骨格系・筋系・皮膚系など被服造形に役立つ人体に関する情報について説明できる。（知識・理解） 2. 人体計測の方法について説明できる。（知識・理解） 3. 人体の基本サイズ、いろいろな体型やサイズ変化について説明できる。（知識・理解） 4. JISサイズについて説明できる。（知識・理解） 5. アパレル生産のしぐみを説明できる。（知識・理解）
被服造形実習 I	家政学部 学科 専門教育科目 被服学科	1	1	アパレル製品を生産するためには、布を製品に仕上げるまでの諸工程と品質上の意義を理解する必要がある。まず、人体形態と原型の関係と原型からデザイン展開方法などのパターン作成方法を理解する。次に作品制作実習を行い、アパレルが設計、縫製課程を経て完成するまでの主要な工程の要点と流れを理解すると共に縫製技術も身につける	1. 人体と原型の関係が理解でき、原型の説明できる。基本的なパターンの知識、裁断・縫製技術が理解できる。（知識・理解） 2. スカートのデザインとパターンの関係が理解できる。（知識・理解） 3. スカート制作に必要な縫製知識・技術を理解し身につけることができる。（技能） 4. スカート制作を通して、身の回りの衣服について理解が深められる。（思考・判断・表現）	1. 人体と原型の関係が理解できる。作品制作のためのパターンの知識、裁断・縫製技術が理解できる。（知識・理解） 2. スカートのデザインとパターンの関係が理解できる。（知識・理解） 3. スカート制作に必要な縫製技術を身につけることができる。（技能） 4. スカート制作を通して、身の回りの衣服について思考できる。（思考・判断・表現）
被服人間工学演習	家政学部 学科 専門教育科目 被服学科	2	2	被服造形学で学んだ理論と知識を更に発展させ、演習を通して理解を深める。まず、衣服パターンの基礎となる人体計測について、計測点のとらえ方、計測機器の扱い方、計測項目、計測方法について人体計測演習を通して身につける。手計測データ及び三次元計測データなど人体に関するデータを総合的に検討し、自己の体型及び成人女性の体型について理解を深める。次に、動作時の人体寸法変化についての計測を実施し、動作に伴う皮膚の伸びについて認識し、人体が衣服に要求するゆとり量等について考察する。	1. 計測点・計測項目を正しく理解できる。（知識・理解） 2. 計測機器を使って正確な計測ができる。（技能） 3. 計測データの処理方法を理解し、的確にデータ処理できる。（思考・判断・表現） 4. 動作に伴う人体サイズの変化を正しく理解し、衣服パターンへの応用について考察できる。（思考・判断・表現） 5. 着心地の良い衣服制作に関して人間工学的な視点から関心を持つことができる。（関心・意欲・態度）	1. 計測点・計測項目の名称と部位が理解できる。（知識・理解） 2. 計測機器を使って計測ができる。（技能） 3. 計測データを使ってデータ処理できる。（思考・判断・表現） 4. 動作に伴う人体サイズの変化を理解し、衣服パターンへの応用について考えることができる。（思考・判断・表現） 5. 着心地の良い衣服制作に関して関心を持つことができる。（関心・意欲・態度）
被服パターン設計演習 I	家政学部 学科 専門教育科目 被服学科	2	2	被服設計の基礎となる平面での基本的パターンメイキングの技術を身につける。具体的にはまず、原型パターンについてその歴史や種類、成り立ちについての知識を理解し、上半身、下半身原型の作図方法を理解する。次にダーツの移動によるデザインバリエーションやブラウス、スカートについての知識とその作図方法を身につける。さらに日常衣服のパターンにも関心が持てるように応用力も身につける。	1. 平面製図に慣れ、人体と原型の関係性が正しく理解できる。（知識・理解） 2. デザイン画よりダーツの移動方法が理解でき、ノート製図が正確にできる。（技能） 3. 簡単なブラウスやスカートの製図が正確にできる。（技能） 4. 普段着用している既製服のパターンについて思考し、創造できる。（思考・判断・表現）	1. 平面製図に慣れ、人体と原型の関係性が理解できる。（知識・理解） 2. デザイン画よりダーツの移動方法が理解でき、ノート製図ができる。（技能） 3. 簡単なブラウスやスカートの製図ができる。（技能） 4. 普段着用している既製服のパターンについて思考できる。（思考・判断・表現）
被服パターン設計演習 II	家政学部 学科 専門教育科目 被服学科	2	2	被服パターン設計演習 I で基本的な平面製図を理解したうえで、その応用として、衿や袖のパターン展開及びワンピース、パンツ、ジャケット、コート等のパターン作図方法を身につける。後半はグループでオリジナルデザイン衣服の製図を行い、協力して立体に仕上げることを通して、二次元から三次元への構成手法を理解し、衣服設計における一連の流れとその中にあるパターン作成の必要性を理解する。	1. いろいろな衿・袖やアイテム別衣服のパターンが理解できる。（知識・理解） 2. いろいろな衿・袖やアイテム別衣服のノート製図ができる。（技能） 3. オリジナルデザイン作品のパターンを正しく作成し立体に仕上げるができる。（思考・判断・表現） 4. グループワークを通していろいろなパターンに関心を持ち、意欲的に制作に取り組むことができる。（関心・意欲・態度）	1. いろいろな衿・袖やアイテム別衣服のパターンの違いが理解できる。（知識・理解） 2. 課題の衿・袖やワンピースのノート製図ができる。（技能） 3. オリジナルデザイン作品のパターンを作成し立体に仕上げるができる。（思考・判断・表現） 4. グループワークを通して、意欲的に制作に取り組むことができるようになる。（関心・意欲・態度）
被服パターン設計演習 III	家政学部 学科 専門教育科目 被服学科	3	3	被服パターン設計演習 I・II で修得したノート上での作図技術をもとに、実物大パターン及びシーチングによる作品製作を通してより高度なパターン技術を身につける。ブラウスをテーマとするが、デザイン画に基づくパターン作成や生地、地直しの技術、立体に組み立てるピンの打ち方法など実技を通して身につける。	1. デザイン画からパターン設計が正確に理解できる。（知識・理解） 2. 正確なファーストパターンが描ける。（技能） 3. 地直し、ピン打ちが正しくでき、生地を使ってきれいな立体に仕上げるができる。（技能） 4. 様々な衣服パターンへの関心が高まり、制作への関心・意欲が高まる。（関心・意欲・態度）	1. デザイン画からパターン設計が理解できる。（知識・理解） 2. ファーストパターンが描ける。（技能） 3. 地直し、ピン打ちができ、生地を使って立体に仕上げるができる。（技能） 4. 様々な衣服パターンへの関心が高まり、制作への関心・意欲が高まる。（関心・意欲・態度）

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
アパレルCAD I	家政学部 学科 専門教育科目 被服学科	2	2	ファッション産業では、コンピュータ支援製品設計・製造工程が一般化している。この科目では、コンピュータ支援製品設計・製造工程を理解し、アパレルCADを用いて基本的な衣服パターンを作図するための知識と技術を修得する。授業では、世界的に利用されているアパレルCADシステム(Lectra Modaris)を実際に使用して、基本的なパターンを作図する。体型に基づくパターン作図方法とダーツ等を用いた立体造形の幾何的な意味を理解した上で、スカート(タイト、ヨーク等)、身頃原型のパターンを作図する知識と技術を修得する。	1. アパレルCADを用いた製品設計・製造の方法と工程を理解して説明ができる。(知識・理解) 2. パターンの作図に必要なアパレルCADの基本操作ができ、応用ができる。(技能) 3. 体型に基づくパターン作図方法を理解した上で、アパレルCADを用いて基本的なスカートのパターンを作図できる。(知識・理解) (技能) 4. ダーツ等を用いた立体造形の幾何的な意味を理解した上で、アパレルCADを用いて身頃のパターンを作図ができる。(知識・理解) (技能)	1. アパレルCADを用いた製品設計・製造の方法と工程を理解できる。(知識・理解) 2. パターンの作図に必要なアパレルCADの基本操作ができる。(技能) 3. アパレルCADを用いて基本的なスカートのパターンを作図できる。(知識・理解) (技能) 4. アパレルCADを用いて身頃原型のパターンを作図ができる。(知識・理解) (技能)
アパレルCAD II	家政学部 学科 専門教育科目 被服学科	3	3	ファッション産業では、コンピュータ支援製品設計・製造工程が一般化している。この科目では、コンピュータ支援製品設計・製造工程を理解し、アパレルCADを用いて衣服パターンを作図するための知識と技術を修得する。授業では、世界的に利用されているアパレルCADシステム(Lectra Modaris)を実際に使用して、複数の身頃原型と袖、襟を含むブラウスのパターンを作図し、人体計測に基づくパターン生成の考え方と、立体形状の生成手法について理解を深める。さらに、課題に取り組むことで、ファッションイラストレーションからパターンを生成するための基本的な知識と技術を修得する	1. 複数の身頃原型について造形的な特徴を把握し、人体計測に基づく原型の作成方法を理解して説明ができる。(知識・理解) 2. 人体計測に基づく原型の作成方法を理解した上で、アパレルCADを用いて複数の身頃原型を作成できる。(知識・理解、技能) 3. 人体の3D形状との対応を考慮し、アパレルCADを用いて袖・襟を含むブラウスのパターンを作成できる。(知識・理解、技能) 4. 独創的なファッションデザインを提案し、アパレルCADを用いてファッションイラストレーションに基づいたパターンを作成できる。(思考・判断・表現) (技能)	1. 複数の身頃原型について造形的な特徴を理解して説明ができる。(知識・理解) 2. アパレルCADを用いて複数の身頃原型を作成できる。(知識・理解、技能) 3. アパレルCADを用いて袖・襟を含むブラウスのパターンを作成できる。(知識・理解、技能) 4. アパレルCADを用いてファッションイラストレーションに基づいたパターンを作成できる。(思考・判断・表現) (技能)
アパレルCAD III	家政学部 学科 専門教育科目 被服学科	3	3	ファッション産業では、コンピュータ支援製品設計・製造工程が一般化している。この科目では、コンピュータ支援製品設計・製造工程を理解し、アパレルCADを用いて衣服パターンを作図するための知識と技術を修得する。授業では、世界的に利用されているアパレルCADシステム(Lectra Modaris)を実際に使用して、様々な被服のパターンを作図し、立体形状の生成手法について理解を深める。さらに、課題に取り組むことで、ファッションイラストレーションからパターンを生成するための専門的な知識と技術を修得する。	1. 人体計測に基づく原型の作成方法を理解した上で、原型を応用したパターン設計を理解して説明ができる。(知識・理解) 2. 人体の形状や運動との対応を考慮した上で、アパレルCADを用いてイメージした立体形状を構成するパターンを作成できる。(知識・理解) (技能) 3. 被服における装飾的な表現と幾何的な構造の関係を理解した上で、アパレルCADを用いて装飾的な要素のパターンを作成できる。(知識・理解) (技能) 4. 独創性のあるファッションデザインを提案し、アパレルCADを用いてファッションイラストレーションに基づいたパターンを作成できる。(思考・判断・表現)	1. 原型を応用したパターン設計を理解して説明ができる。(知識・理解) 2. アパレルCADを用いてイメージした立体形状を構成するパターンを作成できる。(知識・理解) (技能) 3. アパレルCADを用いて装飾的な要素のパターンを作成できる。(知識・理解) (技能) 4. アパレルCADを用いてファッションイラストレーションに基づいたパターンを作成できる。(思考・判断・表現)
アパレル生産実習立体II	家政学部 学科 専門教育科目 被服学科	2	2	アパレル生産実習立体Iにおいて、基礎的な縫製技術について理解したので、本科目においては、ブラウスと裏地付スカートの制作を通して、より高度な縫製技術を身につける。自分の体型に合わせたオーダー作品の縫製と既製服を想定したアパレル生産の両方の縫製方法について理解を深める。	1. 衣服製作に必要な縫製技術・縫製工程が正確に理解できる。(知識・理解) 2. 正しい縫製工程で正確な縫製ができる。(技能) 3. 各種工業用縫製機器の操作方法が理解でき、操作できる。(技能) 4. 既製服の縫製にも関心を持ち、最適な縫製方法を思考・判断できる。(思考・判断・表現)	1. 課題製作に必要な縫製技術・縫製工程が理解できる。(知識・理解) 2. 課題作品を完成させることができる。(技能) 3. 各種工業用縫製機器の操作ができる。(技能) 4. いろいろな縫製方法が思考できる。(思考・判断・表現)
アパレル生産実習立体III	家政学部 学科 専門教育科目 被服学科	3	3	アパレル生産実習立体I・IIで修得した知識や技術をもとに、裏付きのテーラードジャケットの制作を行う。製図、表地、裏地の工業用パターン、裁断、芯貼り、縫製、サイズ展開(グレーディング)等、一連のアパレル生産方法について理解する。	1. 原型の考え方、工業製品としてのサイズの在り方が正確に理解できる。(知識・理解) 2. ファーストパターンと工業用パターンの違いが正確に理解できる。(知識・理解) 3. ジャケットの縫製技術を正しく身につけることができる。(技能) 4. アパレル生産技術や縫製工程について正しく理解し実践できる。(技能) 5. 他アイテムへの応用力に繋げることができる。(思考・判断・表現)	1. 原型の考え方、工業製品としてのサイズの在り方が理解できる。(知識・理解) 2. ファーストパターンと工業用パターンの違いが理解できる。(知識・理解) 3. ジャケットを仕上げることが出来る。(技能) 4. アパレル生産技術や縫製工程について理解し、実践できる。(技能)
立体裁断	家政学部 学科 専門教育科目 被服学科	3	3	衣服の設計図であるパターンを立体からアプローチする方法を身につける。立体裁断(ドレーピング)の実習を通して、人体の形状とパターン、人体が着る衣服のあり方について理解を深める。授業ではヌードボディを使用して原型やフレアスカート等を課題とする。人体、素材、シルエットを立体的見地とらえると共に平面構成の理論を踏まえてしっかり分析し、パターンメイキングの知識や技術をより深く理解する。	1. 立体裁断で使用するボディから人体の形状が正しく理解できる。(知識・理解) 2. 立体裁断に必要なシーチングを正しく取り扱うことができる。(技能) 3. マーキング、ドラフティングを通して立体裁断からファーストパターンが正確に作成できる。(技能) 4. 立体裁断と平面裁断の特徴を理解し、いろいろな衣服制作へ応用できる。(思考・判断・表現)	1. 立体裁断で使用するボディから人体の形状が理解できる。(知識・理解) 2. 立体裁断に必要なシーチングを取り扱うことができる。(技能) 3. マーキング、ドラフティングを通して立体裁断からファーストパターンが作成できる。(技能) 4. 衣服制作への応用を思考することができる。(思考・判断・表現)
被服造形学実習(教職)	家政学部 学科 専門教育科目 被服学科	2	2	洋裁・和裁の両方の基本的知識や技術の習得をめざす。まず前期にミシンの使い方を習得し、簡単な洋服制作(裏無しスカート)を行う。後期はミシンと手縫いを用いて、和服制作(浴衣)を行う。	1. ミシンの取り扱い方法を正しく理解し、説明ができる。(知識・理解) 2. 課題作品の縫製手順や方法を理解し、正確に仕上げることができる。(技術) 3. 和服の基本的知識を理解し、説明ができる。(知識・理解) 4. 浴衣の着付けが出来、他人に着せることができる。(技術)	1. ミシンの取り扱い方法を理解している。(知識・理解) 2. 課題作品を仕上げるができる。(技能) 3. 和服の基本的知識を理解し、説明ができる。(知識・理解) 4. 浴衣の着付けができる。(技術)
アパレル消費科学	家政学部 学科 専門教育科目 被服学科	1	1	多様化している衣料品に対して、製品を選び、消費する過程で起こる諸問題を消費者サイドから考察する分野がアパレル消費科学である。具体的には、1. 繊維製品の品質(品質の評価、品質保証、品質表示、消費者苦情など)、2. 消費者行動(消費者行動の特徴、購買行動の要因、商品・店舗と消費者など)、3. 繊維製品の生産・流通・消費(繊維産業の構造、繊維・繊維製品の生産、繊維製品の流通、繊維製品の消費など)について講義する。	1. 繊維製品に関して、消費者が望む品質を知り、消費者行動を学び、生産・流通・消費に関する基礎知識を修得することによって、生産から消費に至る構造と現状を把握し、他の人に説明ができるようになる。(知識・理解) 2. 1年次において、生産から消費に至る幅広い分野の概要を理解し、今後、自らが探究していきたい、専門分野の方向性を明確に検討できるようになる。(思考・判断・表現)	1. 繊維製品に関して、消費者が望む品質を知り、消費者行動を学び、生産・流通・消費に関する基礎知識を修得することによって、生産から消費に至る構造と現状をおおむね把握できるようになる。(知識・理解) 2. 1年次において、生産から消費に至る幅広い分野の概要を理解し、今後、自らが探究していきたい、専門分野の方向性を検討できるようになる。(思考・判断・表現)

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
消費者調査法	家政学部 学科 専門教育科目 被服学科	3	3	消費者調査は、社会や市場の動向を知るために、また、消費者・生活者の行動の実態や意識をとらえるために行う調査であり、質問紙法（アンケート調査法）、面接法、観察法などは代表的な方法である。これらの方法のうちで、質問紙法に主体をおき次の内容について講義と演習を行う。具体的には、(1)消費者調査とは、(2)消費者調査の種類と方法、(3)調査票の作成、(4)調査対象者の選び方、(5)集計と分析、(6)調査の具体例などである。	消費者調査を正しく行う方法を理解し、調査設計から分析に至る一連の方法と調査結果を考察するための知識を修得する。マーケティングデータの読み込み等において、基本的理解ができるレベルを目指す。具体的到達目標として、次の2点を挙げる。 1. 仮説構築に基づく調査設計から分析に至る、消費者調査の流れを理解し、基本的な調査設計ができるようになる。（技能） 2. 第三者の作成した消費者調査票を考察して、良い点、悪い点を指摘できるようになる。（思考・判断・表現）	消費者調査を正しく行う方法を理解し、調査設計から分析に至る一連の方法と調査結果を考察するための知識を修得する。マーケティングデータの読み込み等において、基本的理解ができるレベルを目指す。単位修得目標として、次の2点を挙げる。 1. 仮説構築に基づく調査設計から分析に至る、消費者調査の流れをほぼ理解し、簡単な調査設計ができるようになる。（技能） 2. 第三者の作成した消費者調査票を考察して、良い点、悪い点を判断できるようになる。（思考・判断・表現）
被服心理学	家政学部 学科 専門教育科目 被服学科	3	3	選択・購入・着装などの被服行動の特徴と要因について、被服心理学的立場から、個人、対人、社会・文化などの要因と関連づけながら解説する。	アパレルを中心とした被服の選択・購入・着装などの被服行動の特徴と要因について、社会心理学的立場からの知識を修得する。被服行動と消費者心理の関連性を理解し、自らの社会生活に活かせるレベルへの到達を目標とする。 具体的到達目標として、次の2点を挙げる。 1. 被服行動と被服心理の関連性について理解し、要点を説明できるようになる。（知識・理解） 2. 自らの被服行動を事例として、客観的に心理的要因を説明できるようになる。（思考・判断・表現）	アパレルを中心とした被服の選択・購入・着装などの被服行動の特徴と要因について、社会心理学的立場からの知識を修得する。被服行動と消費者心理の関連性を理解し、自らの社会生活に活かせるレベルへの到達を目標とする。 具体的単位修得目標として、次の2点を挙げる。 1. 被服行動と被服心理の関連性について理解できるようになる。（知識・理解） 2. 自らの被服行動を事例として、客観的に心理的要因を考察できるようになる。（思考・判断・表現）
被服マーケティング演習	家政学部 学科 専門教育科目 被服学科	3	3	被服関連企業のマーケティング戦略研究を通じて、より実践的に知識を修得し、基本的応用力を身につけるため、毎授業において、ケーススタディ等を踏まえたマーケティング演習を実施する。	ファッション関連ビジネスへの就職を希望する学生を主対象に、企業のマーケティング戦略の基礎を理解・修得し、基本的な応用力を身につけることを目標とする。 具体的到達目標として、次の2点を挙げる。 1. ファッションビジネスのマーケティング戦略について、要点を理解し説明できるようになる。（思考・判断・表現） 2. 基本的なグループディスカッション・プレゼンテーションを主体的に展開できるようになる。（技能）	ファッション関連ビジネスへの就職を希望する学生を主対象に、企業のマーケティング戦略の基礎を理解・修得し、基本的な応用力を身につけることを目標とする。 具体的単位修得目標として、次の2点を挙げる。 1. ファッションビジネスのマーケティング戦略について、要点を理解できるようになる。（思考・判断・表現） 2. 基本的なグループディスカッション・プレゼンテーションに対応できるようになる。（技能）
消費衣生活論	家政学部 学科 専門教育科目 被服学科	3	3	消費生活全般にわたる事柄、契約などについて具体的な事例を紹介し、消費者トラブルを解決するための関連法規活用の方法を学習する。さらに、考え行動する消費者として、法律を実生活に役立てられるよう授業で演習する。授業の進め方としては教科書にそって、消費者運動の歴史と展開、消費者問題、消費者政策・行政、消費者教育や企業の消費者対応・社会的責任などについて学ぶ。また、世の中の情報を自分にとって有益に活用できるよう、新聞記事を選びそれについてコメントを書くというレポートを提出する。	衣生活をとりまく諸問題をはじめ、消費生活全般に係ることについて学び、消費者の視点で発言できるようになる。また、情報化社会の生活者としてより良い消費生活が営めるよう、消費生活に関わる知識を基礎的なことから地球環境やエネルギー問題にいたるまで幅広い分野にわたって学ぶことにより、情報リテラシーを獲得できるようになる。総合的には、消費者の権利と責任を心得え、自ら考えて行動する消費者になる。（思考・判断・表現）	衣生活をとりまく諸問題をはじめ、消費生活全般に係ることについて学び、消費者の視点で発言できるようになる。総合的には、消費者の権利と責任を心得え、自ら考えて行動する消費者を目指すようになる。（思考・判断・表現）
マーケティング論	家政学部 学科 専門教育科目 被服学科	3	3	ファッション業界におけるマーケティングは、感性中心に語られがちであるが、科学的なマーケティングの知識と手法は、ファッション業界でも、欠かすことができない重要な基本である。本授業では、マーケティングの基本的理解を確認すると同時に、ファッション業界での具体的な展開例を考察する。また、一方的な講義ではなく、受講者が考え参加できる双方向の授業を目指す。	1. ファッション産業の構造や動向を把握できるようになる。（思考・判断・表現） 2. アパレル業界特有のマーケティング・マーチャンダイジング活動について理解できるようになる。（知識・理解） 3. ファッションビジネスのマーケティングについて基礎的な戦略を構築できるようになる。（思考・判断・表現）	1. ファッション産業の構造や動向を把握できるようになる。（思考・判断・表現） 2. アパレル業界特有のマーケティング・マーチャンダイジング活動について理解できるようになる。（知識・理解）
アパレル販売論	家政学部 学科 専門教育科目 被服学科	3	3	アパレルを中心としたファッション小売店を生活者と作り手・売り手との接点として位置づけ、ファッションとは？販売とは？をはじめ、小売店の機能を理解するとともに、用語を含めた小売業に関する基本的な事項の理解を狙いとしている。具体的な販売手法やケーススタディも交え、大きく構造が変化しているファッション小売業の現状と課題について、出来るだけ最新の情報を織り込みながら講義する。	具体的到達目標として、次の2点を挙げる。 1. ファッションビジネス、特に小売業の仕組みを理解する。同時にファッション小売業の基盤である販売職の職務内容を理解し、販売職の役割と重要性を認識できるようになる。（知識・理解） 2. 日本のファッション小売業を客観的に理解した上で、今後の方向性について、自らの意見を持つことができるようになる。（思考・判断・表現）	具体的単位修得目標として、次の2点を挙げる。 1. ファッションビジネス、特に小売業の仕組みを理解する。同時にファッション小売業の基盤である販売職の職務内容を理解し、販売職の役割と重要性を認識できるようになる。（知識・理解） 2. 日本のファッション小売業を客観的に理解した上で、今後の方向性について、考察することができるようになる。（思考・判断・表現）
ファッションビジネス論	家政学部 学科 専門教育科目 被服学科	3	3	ファッションビジネスの現状と課題を、リアルなビジネスケース・視点から学習する。具体的には、(1)国内アパレル産業のこれまでと現状(2)ファッション・ブランドビジネスとは何か(3)テクノロジーがアパレル産業に及ぼす影響(4)グローバル化に向けた課題、といったテーマについて幅広い角度から学び、定量・定性的に業界構造を分析できるようになることを目標とする。	1. ファッションビジネスの利益構造・ビジネスモデルについて理解し、定量的に説明ができる。（知識・理解） 2. 日本のアパレルビジネスの課題を認識し、今後の方向性について自分なりの意見をまとめることができる。（思考・判断・表現） 3. テクノロジーがファッションビジネスに及ぼす影響について、自分なりの意見をまとめて正確に説明ができる。（思考・判断・表現）	1. ファッションビジネスの利益構造・ビジネスモデルについて理解して説明ができる。（知識・理解） 2. 日本のアパレルビジネスの課題を認識し、今後の方向性について自分なりの意見をまとめることができる。（思考・判断・表現） 3. テクノロジーがファッションビジネスに及ぼす影響について、自分なりの意見をまとめることができる。（思考・判断・表現）

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
被服環境学	家政学部 学科 専門教育科目 被服学科	3	3	消費者による被服の選択における居住環境への適応に関する温熱要因、さらには、大気質を制御する要因について理解する。被服に対する自然環境ならびに社会環境による影響を、理論的背景と共に多くの事例によって考察する。また、被服環境に関連する環境問題についても理解を深める。	1. 被服が有する諸機能のうち被服と環境のかかわりを自然科学および社会科学的な見地から理解し説明できる。(知識・理解) 2. 被服と環境のかかわりを考え問題点について思考し、よりよい判断をすることができる。(思考・判断・表現)	1. 被服が有する諸機能のうち被服と環境のかかわりを自然科学または社会科学的な見地から理解できる。(知識・理解) 2. 被服と環境のかかわりを考え問題点について思考することができる。(思考・判断・表現)
化粧品科学概論	家政学部 学科 専門教育科目 被服学科	3	3	化粧品及び化粧品を理解する上で、多岐にわたる基礎的な科学知識を学ぶ。特に皮膚科学及び化粧品の品質に関連する基本的な科学知識を重点的に学び、正しく理解する。	1. 皮膚生理を正しく学んだ上で、化粧品の役割を科学的に理解し、説明できるようになる。(知識・理解) 2. 各種化粧品の製品特徴、効果効能を正しく理解し、説明できるようになる。(知識・理解)	1. 皮膚生理を正しく学んだ上で、化粧品の役割を科学的に理解できるようになる。(知識・理解) 2. 各種化粧品の製品特徴、効果効能を正しく理解できるようになる。(知識・理解)
アパレルデータ解析 I	家政学部 学科 専門教育科目 被服学科	2	2	近年では、WebやSNSだけでなくIoT (Internet of Things)、M2M (Machine toMachine)等の技術により膨大な情報が日々生み出され、データサイエンティストやデータアナリストといった人材不足が深刻な問題になりつつある。授業では、ファッションに関するプロダクトやサービス、あるいは、ファッショントレンドを例に、情報を定量的に分析する手法について学ぶ。 授業では、実際に、基本的な統計量、t検定、分散分析、階層的・非階層的クラスター分析、主成分分析、因子分析等を用いて、ファッションプロダクトやファッショントレンドを定量的に分析する。	1. 基本的な統計の応用方法を理解して正確に説明ができ、データ分析に使用できる。(知識・理解) 2. 多変量解析の応用方法を理解して正確に説明ができ、データ分析に使用できる。(知識・理解) 3. 基本的な統計や多変量解析をプロダクトやサービスの評価に活用して、的確な考察ができる。(思考・判断・表現) 4. プロダクトやサービスの評価した結果を説明し、正確に理解してもらうことができる。(思考・判断・表現)	1. 基本的な統計の応用方法を理解して、データ分析に使用できる。(知識・理解) 2. 多変量解析の応用方法を理解して、データ分析に使用できる。(知識・理解) 3. 基本的な統計や多変量解析をプロダクトやサービスの評価に活用できる。(思考・判断・表現) 4. プロダクトやサービスの評価した結果を説明できる。(思考・判断・表現)
アパレルデータ解析 II	家政学部 学科 専門教育科目 被服学科	3	3	プロダクトやサービスの評価に、官能評価手法や多変量解析が応用されることが多い。この科目では、実際に官能評価手法や多変量解析を用いて、プロダクトやサービスの評価する潜在的な要因を分析する手法を理解し、課題に応用する。課題では、調査対象、および、調査方法を検討し、オンラインの質問票等を用いた調査を実施する。次に、因子分析等の多変量解析を用いて調査結果を定量的に分析し、プロダクトやサービスの評価における潜在要因を明らかにする。最終的にプレゼンテーションを行い、分析結果を客観的に説明できるようにする。	1. プロダクトやサービスについて多面的に検討した結果を正確に説明できる。(関心・意欲・態度) 2. 因子分析等の定量的な分析手法をプロダクトやサービスの評価に応用して、これまでにない新しい提案ができる。(思考・判断・表現) 3. プロダクトやサービスの評価した結果を説明し、正確に理解してもらうことができる。(思考・判断・表現)	1. プロダクトやサービスについて検討した結果を説明できる。(関心・意欲・態度) 2. 因子分析等の定量的な分析手法をプロダクトやサービスの評価に応用できる。(思考・判断・表現) 3. プロダクトやサービスの評価した結果を説明できる。(思考・判断・表現)
被服衛生学	家政学部 学科 専門教育科目 被服学科	3	3	被服衛生学とは、現代生活における安全、安心、快適で機能的、さらには心豊かな、真の意味での健康な衣生活のあり方を考えるため科目である。そこで、暑さ寒さに対する人の生理反応と被服との関連性、衣服圧の人体への影響、皮膚の衛生や肌触りと健康との関連性、おしゃれが健康に与える影響などについて理解する。基本的知識を知ったうえで、実際の現象に如何に適用されるかを多くの事例から理解を深め、現代社会における課題について考察する。	1. 被服と健康との関わりを温熱生理、形態、運動、心理等の面から理解し説明できる。(知識・理解) 2. 日常の衣生活での衛生的諸問題について思考し適確な判断ができる。(思考・判断・表現) 3. 衣生活における衛生的視点を理解し、興味関心をもつことができる。(関心・意欲・態度)	1. 被服と健康との関わりを温熱生理、形態、運動、心理等の面から理解できる。(知識・理解) 2. 日常の衣生活での衛生的諸問題について思考し適確な判断ができる。(思考・判断・表現) 3. 衣生活における健康への視点をもちつことが出来る。(関心・意欲・態度)
アパレルグラフィックス I	家政学部 学科 専門教育科目 被服学科	2	2	ファッションデザインを表現する方法として、デジタルイラストレーションやコンピュータアニメーションなどの映像作品が利用されるようになってきた。卒業制作では、衣服だけでなく作品のコンセプト等を説明する映像も含めて制作することが少なくなく、デジタルイラストレーションのスキルが必須になりつつある。また、卒業研究でも、論文やプレゼンテーション用の図の作成で高度なデジタルイラストレーションを使用する機会が増えている。この科目では、被服デザインを中心したデジタルコンテンツを制作するためにデジタルイラストレーション技法と、映像作品を制作するためのコンピュータアニメーションに関する技術について学ぶ。授業ではAdobe Illustrator・Photoshop を使用し、チュートリアル等を通して各種機能を理解する。さらに、作品のコンセプトを検討し、最終的に独創的な作品を制作することを目指す。	1. デジタルイラストレーションやコンピュータアニメーションを用いて被服デザインを表現する方法を理解して説明ができる。(知識・理解) 2. 修得した知識や技術を独創的なファッションデザインの提案に応用することができる。(思考・判断・表現) 3. 作品のコンセプトを提案することができ、デジタルツールを用いてコンセプトに基づいた独創的なデザインを具現化できる。(思考・判断・表現、技能) 4. 作品に表現したコンセプトやメッセージを説明して、正しく理解してもらうことができる。(思考・判断・表現)	1. デジタルイラストレーションやコンピュータアニメーションを用いて被服デザインを表現する方法を理解できる。(知識・理解) 2. 修得した知識や技術をファッションデザインの提案に応用することができる。(思考・判断・表現) 3. デジタルツールを用いてデザインを具現化できる。(思考・判断・表現、技能) 4. 作品に表現したコンセプトやメッセージを説明できる。(思考・判断・表現)
アパレルグラフィックス II	家政学部 学科 専門教育科目 被服学科	3	3	プロダクトやサービスの企画では、客観的なエビデンスに基づく論理的なプレゼンテーションが求められる。近年では、プレゼンテーションにおいて効果的なデジタルコンテンツの利用機会が増大している。授業では、客観的なエビデンスを示すための情報可視化手法や効果的なプレゼンテーションのためのデジタルコンテンツ制作に関する知識や技術を修得する。 さらに、修得した技術を応用するために、デジタルコンテンツ作品のコンセプトを検討し、映像編集ツール等を使用して実際に制作する。	1. 情報の可視化方法やデジタルコンテンツ制作の手法を理解して正確に説明ができる。(知識・理解) 2. 情報の可視化方法やデジタルコンテンツ制作の手法を応用して、印象に残るプレゼンテーションができる。(思考・判断・表現) (技能) 3. 独創的な作品のコンセプトを提案でき、コンセプトに基づいた作品を具現化できる。(思考・判断・表現) (技能) 4. 作品に表現したコンセプトやメッセージを説明して、正確に理解してもらうことができる。(思考・判断・表現)	1. 情報の可視化方法やデジタルコンテンツ制作の手法を理解できる。(知識・理解) 2. 情報の可視化方法やデジタルコンテンツ制作の手法を応用して、プレゼンテーションができる。(思考・判断・表現) (技能) 3. 作品のコンセプトを提案でき、コンセプトに基づいた作品を具現化できる。(思考・判断・表現) (技能) 4. 作品に表現したコンセプトやメッセージを説明できる。(思考・判断・表現)

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
コスメティックマーケティング論	家政学部 学科 専門教育科目 被服学科	3	3	日本及び世界の化粧品業界におけるマーケティング戦略をケーススタディを交えながら、具体的に学習していく。また、化粧品ビジネスの全容と今日の課題を理解する。	1. 化粧品業界のマーケティング戦略を理解し、概要の説明が出来るようになる。(知識・理解) 2. 自らの愛用する化粧品ブランドについて、客観的にマーケティング戦略の概要が、理解でき、妥当性を判断できるようになる。(思考・判断・表現)	1. 化粧品業界のマーケティング戦略を理解できるようになる。(知識・理解) 2. 自らの愛用する化粧品ブランドについて、客観的にマーケティング戦略の概要が、理解できるようになる。(知識・理解)
被服デザインI	家政学部 学科 専門教育科目 被服学科	1	1	アパレル製品の企画・設計に必要な基本的な知識を身につけ、以後デザイン関連科目を学ぶための土台となる科目である。デザインは被服だけではなくあらゆる分野に共通の考え方であるので、はじめに「デザイン」とは何かを学んだ後、「被服デザイン」への応用について考える。近代デザインの芽生えとなる18世紀後半～19世紀、展開期となる20世紀までのモノづくりやデザインに対する考え方の変遷を学び、現在のモノづくりや流行への影響について考える。以後の被服デザインの実践に向け、感性をより活かすために、デザインの重要な要素である造形理論を学び、演習により理解を深める。	1. デザインの本質を理解し、被服デザインの意義について、歴史・産業的な視点から事例を示して説明できる。(知識・理解) 2. デザインの歴史の流れを理解し、現代のデザインへと関連付けて考えることができ、時代が求めるデザインを創造する。(技能) 3. 造形理論の知識を身につけ、独自性のあるアパレル製品の企画・設計を実行する。(技能) 4. 以降のデザイン関連科目やデザインの実践に向けて自身の特性を視野に入れてステップアップを考える。(思考・判断・表現)	1. デザインの本質を理解し、被服デザインの意義について説明できる。(知識・理解) 2. デザインの歴史の流れを理解し、現代のデザインへと関連付けて考えることができ、デザインを創造する。(技能) 3. 造形理論の知識を身につけ、アパレル製品の企画・設計を実行する。(技能) 4. 以降のデザイン関連科目やデザインの実践に向けてステップアップを考える。(思考・判断・表現)
被服デザインII	家政学部 学科 専門教育科目 被服学科	1	1	衣生活の中にある問題点を探る調査法、問題点を解決するためのアイデアの展開法、デザイン意図を第三者に伝えるためのプレゼンテーションを体得する。また、企業におけるアパレルデザインの製品企画プロセスにそって、専門職種としてのデザイン感性の理論を理解する。具体的には、イメージ感性の表現方法、ファッショントレンドの成り立ち、専門用語、ファッション雑誌の知識、ハン ガーイラストの描き方等を実践を行いながら学ぶ。	1. 「被服デザインI」を基礎にして、各自の身のまわりにある衣に関する問題点を事例に、デザイン・プロセスにそって問題解決のデザインを考えて説明することができる。(知識・理解) 2. アパレル製品の企画・設計について理解し、時代性や産業界の視点から発想や表現ができるようになる。(技能) 3. 以降のデザイン関連科目やデザインの実践に向けて自身の特性を生かすステップアップを考えて計画する。(思考・判断・表現) 4. アパレル業界のデザインの仕事が理解でき、企画・製品設計に関心意欲が持てるようになり、客観的な視点でデザイン表現ができる。(関心・意欲・態度)	1. 「被服デザインI」を基礎にして、各自の身のまわりにある衣に関する問題点を事例に、デザイン・プロセスにそって問題解決のデザインを考えることができる。(知識・理解) 2. アパレル製品の企画・設計について理解し、発想や表現ができるようになる。(技能) 3. 以降のデザイン関連科目やデザインの実践に向けてステップアップを考える。(思考・判断・表現) 4. アパレル業界のデザインの仕事が理解でき、企画・製品設計に関心意欲が持てるようになる。(関心・意欲・態度)
デザイン計画学I	家政学部 学科 専門教育科目 被服学科	2	2	デザイン発想の方法論について演習を通して修得する。創造的また実務的の両極のデザイン発想の実態を体感する。さらにデザイン展開の広げ方も学んでいく。自然界、年代(50's・60's・70's・80's)、環境からイメージを膨らませてデザイン発想を行う。スタイル画の彩色の仕方や表現方法を学ぶ。次シーズンのデザイン提案のために、ファッショントレンド情報やコレクション情報の収集も行う。	1. 「被服デザインI」「被服デザインII」の理解の上に、将来、デザイン分野、企画分野の道へ進むための基礎能力を養い、デザイン発想の方法について説明できる。(知識・理解) 2. デザイン表現をするための専門知識と技術を習得し、発展的に創造する。(技能) 3. デザイン発想と表現ができ、適切なプロセスを判断する。(思考・判断・表現) 4. デザイナーの仕事が理解でき、アパレル業界の企画・デザインに関心意欲が持てるようになり、情報収集を始める。(関心・意欲・態度)	1. 「被服デザインI」「被服デザインII」の理解の上に、将来、デザイン分野、企画分野の道へ進むための基礎能力を養うことができる。(知識・理解) 2. デザイン表現をするための専門知識と技術を習得する。(技能) 3. デザイン発想と表現ができるようになる。(思考・判断・表現) 4. デザイナーの仕事が理解でき、アパレル業界の企画・デザインに関心意欲が持てるようになる。(関心・意欲・態度)
デザイン計画学II	家政学部 学科 専門教育科目 被服学科	2	2	デザイン発想の方法論として、海外・国内情報の収集、フィールド調査を基に市場に提案していくアイデア発想を実践していく。ファッション産業界の実務内容に即して企画、ファッション・ブランドデザイン提案の課題作成を進める。具体的には、市場に展開されているファッションブランドを調査し、分析する。トレンドやコレクションの情報収集も行う。それらを基にして、スタイリング、コーディネート、アイテム展開、ディテール等を考慮して商品企画の構成とデザイン展開の方法を学ぶ。	1. 「デザイン計画学I」で習得した専門知識を応用し、専門職として実践できるようにさらに深めていく。(知識・理解) 2. 今までに学んだ知識を基盤に新しい方向性を予測しながら、実践方法を体得する。(技能) 3. ファッション産業界における企画発想、デザイン提案の方法について理解でき、創造的な表現ができるようになる。(思考・判断・表現) 4. 企画、デザインの発想のための情報に積極的に触れ、時代が求めるデザインへの関心意欲が持てるようになり、さらに情報収集を実行する。(関心・意欲・表現)	1. 「デザイン計画学I」で習得した専門知識を専門職として実践できるようにさらに深めていく。(知識・理解) 2. 今までに学んだ知識を基盤に実践方法を体得する。(技能) 3. ファッション産業界における企画発想、デザイン提案の方法について理解でき、表現できるようになる。(思考・判断・表現) 4. 企画、デザインの発想のための情報に積極的に触れ、時代が求めるデザインへの関心意欲が持てるようになる。(関心・意欲・表現)
デザイン企画	家政学部 学科 専門教育科目 被服学科	3	3	アパレル業界の企画部門について、製品展開までのプロセスと業務内容を学習する。実践に即した工程を取り入れて体得することにより、企業における企画・生産・販売の仕組みを学ぶ。仮想ブランドを想定しターゲット・コンセプトを設定して市場における優位性を探っていく。2019年の春夏に展開する商品企画を構 想する上で必要な定量・定性情報の分析を行う。シーズン・マーチャンダイジングの概念の基、商品展開の組み立て、数量決定、生産方法、プロモーションなどの具現化を行い、アパレル業界で実践されている方法論を学ぶ。	1. 「デザイン計画学I」「デザイン計画学II」で学んだ専門知識を基盤に、既製服を提案していく専門職としての知識を習得し、企画案を説明する。(知識・理解) 2. 今までに学んできた知識を基盤に、実践方法を体得し創造する。(技能) 3. アパレル業界の実務内容や提案方法に基づき、時代を捉えた企画の発想、提案、構成ができるようになる。(思考・判断・表現) 4. アパレル業界の企画の仕事が理解でき、商品企画に関心意欲を持ち、関連情報の収集を積極的に行う。(関心・意欲・態度)	1. 「デザイン計画学I」「デザイン計画学II」で学んだ専門知識を基盤に、既製服を提案していく専門職としての知識を習得する。(知識・理解) 2. 今までに学んできた知識を基盤に、実践方法を体得する。(技能) 3. アパレル業界の実務内容や提案方法に基づき、企画の発想、提案、構成ができるようになる。(思考・判断・表現) 4. アパレル業界の企画の仕事が理解でき、商品企画に関心意欲が持てるようになる。(関心・意欲・態度)

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
色彩デザイン	家政学部 学科 専門教育科目 被服学科	1	1	デザイン分野において欠かせない要素の1つである色彩計画について学ぶ。はじめに、色のもつ特性について物理的・心理的な面から学び、演習課題（色彩嗜好の考察）を通して理解を深める。次に、色を正確に表示する方法や色彩調和論について学び、実際に配色カードを用いてトーン別色相環の概略図の作成とカラーコーディネーションを行うことで配色力を養う。授業内で繰り返しトレーニングすることで、色彩体系および配色の基本を体得する。さらには、色彩計画の考え方を学び、目的と対象に適した色彩とは何か考える。	1. 色彩の基本的な知識や効果を知ること、日常生活の中で、色彩をどのように選び、活用したらよいかを理解して、考えを述べることができる。(知識・理解) 2. デザイン、企画に必要な色彩の基本的な技能を身に付け、独自性のあるデザイン表現ができるようになる。(技能) 3. 毎日の生活において色彩・デザインに関心を高めることができ、積極的に情報収集と活動を始める。(思考・判断・表現)	1. 色彩の基本的な知識や効果を知ること、日常生活の中で、色彩をどのように選び、活用したらよいかを理解できるようになる。(知識・理解) 2. デザイン、企画に必要な色彩の基本的な技能を身に付け、表現ができるようになる。(技能) 3. 毎日の生活において色彩・デザインに関心を高めることができる。(思考・判断・表現)
染織文化史	家政学部 学科 専門教育科目 被服学科	1	1	染織と服飾は人の営みのごく初期から存在して、文化の出発点ともいえるものである。本科目では、日本の染織及び服飾の歴史をたどりながら、染織・服飾の一般的な発展プロセスと原理を学び、同時にその文化史的な意味を理解する。原則的には染織技法や衣服の出現から、時代によるそれらの変化と発展を時系列にそって追っていくが、用途に視点を絞った観点や人の美意識に焦点を絞った観点からの考察にも重きを置く。	1. 人と染や織との出会いがどのような必然性において起こったかを、食や住との関係性において理解できるようになる。(思考・判断・表現) 2. 染とは何か、織とは何かを単なる技術論としてではなく、人の生活との関係、文化史の一部として捉え、理解できるようになる。(知識・理解、思考・判断・表現) 3. 文化財などに実作品に触れ、文化史的な新たな視点から染織品に対する関心意欲を持つようになる。(思考・判断・表現、関心・意欲・態度)	1. 人がなぜ染織というものを生み出したか、それは服飾とどのような関係にあるのかを理解できる。(知識・理解) 2. 染織の発展の様子を歴史的展開の中で具体的に理解できる。(知識・理解、思考・判断・表現) 3. 染織技法の種類や概要を理解できる。(知識・理解)
東洋服装史	家政学部 学科 専門教育科目 被服学科	2	2	日本の染織文化を理解するためには、日本を中心とする東洋の服装の歴史を知ることが必要である。本科目では、日本の服装の歴史的展開について知るとともに、それがなぜどのように展開したのかを理解する。日本の服装に強い影響を及ぼした中国や、明治時代以前は独立国であった琉球の服装についても触れ、相互の影響関係について考察する。その他の国々の服装についても適宜触れ、それぞれの国の服装の特質・特徴の比較を行うだけでなく、東洋全体の服装の共通性や歴史的交流、また伝播の経路などについても考察する。	1. 日本の服装の歴史的変遷がどのような要件によって起こったかを理解できるようになる。(知識・理解) 2. 中国を中心とする東洋諸地域の服装と日本の服装の違いを、機能や美意識といった側面から理解できるようになる。(知識・理解) 3. 日本以外の東洋諸国と日本の服装を比較したうえで、日本の服装の特徴を理解できるようになる。(思考・判断・表現)	1. 「東洋」という言葉の概念、及び東洋と呼ばれる文化圏の範囲を理解する。(知識・理解) 2. 東洋の服装の共通性の概略を理解する。(知識・理解) 3. 日本の服装の歴史的変遷を理解する。(知識・理解)
西洋服装史	家政学部 学科 専門教育科目 被服学科	1	1	現代における衣生活は、西洋に起源をもつ衣服によって成り立っている。西洋の服装を理解することは、現代の衣生活における様々な様相を理解するうえで必要である。本科目では、古代から現代にいたるヨーロッパの服飾を、画像資料を中心に、若干の文書・文学資料を通じて理解する。古代ギリシャ、古代ローマ、ビザンティン文明の代表的な服飾を彫像・絵画資料をもとに学習した後、中世以降はフランスを中心に西洋の服装の詳細を理解する。	1. それぞれの時代の服飾造形の特徴を理解できるようになる。(知識・理解) 2. それぞれの国、時代の服飾造形に、どのような生活感情が反映されているのか、心性史として服装史をとらえる基本を考察する。(思考・判断・表現) 3. 造形性と表現性の両側面から服飾文化の多義性を理解・習得する。(知識・理解)(思考・判断・表現)	1. ヨーロッパの服飾の流れを理解する。(知識・理解) 2. 西洋服装史の基本的な図像・文書資料を分析する方法を理解する。(知識・理解)
染織品保存修復論	家政学部 学科 専門教育科目 被服学科	3	3	過去の歴史や文化を知るためには、文化財を通してその当時の生活のあり方を具体的に理解する必要がある。しかし歴史的文化財は、その重要性を知り、保存措置を意識的に行わなければ時間と共に失われてしまう。本科目では文化財、中でも特に人の生活の痕跡を強く残している染織文化財の保存・修復に関する基礎的な知識を身に付け、文化財を保存するとはどういうことか、修復するとはどういうことかを理解する。また、博物館や美術館における保存修復業務の実態を反映させながら、現在話題になっている染織文化財の保存の具体的方法や修復の基本的考え方、方法について考察する	1. 染織品の修復の考え方と保存・修復の実例を具体的に理解できるようになる。(知識・理解) 2. 実際の染織作品をサンプルとして示し、染織品を間近にしなが保存と修復について考察する。(思考・判断・表現) 3. 保存・修復に関する基礎的な知識をふまえ、将来の文化財保存のあり方を提案できるようになる。(思考・判断・表現) 4. 博物館や美術館における保存修復業務の実態を理解し、現在話題になっている染織文化財の保存の具体的方法や修復の基本的考え方、方法について考察できるようになる。(思考・判断・表現)(関心・意欲・態度)	1. 文化財とは何か、文化財の重要性を理解できる。(知識・理解) 2. 文化財の保存・修復の意味を理解できる。(知識・理解) 3. 染織文化財の保存・修復に関する基礎的な知識を身に付ける。(知識・理解)
染織品保存修復実習	家政学部 学科 専門教育科目 被服学科	3	3	博物館・美術館に所蔵される染織文化財は長い年月を経て現存するが、その多くは物理的、科学的な作用により、様々な損傷が生じている。その状態は、素材、染織技法、加飾技法によって異なる。したがって染織の修復は作品の損傷状態、展示方法、形状特徴により目的、方法も様々な選択となる。本科目では、染織品保存修復に必要な基本的知識と技術を実物資料を用いながら、講義・実習・グループワークを通して実践的に理解する。	1. 染織品の特徴を正確に理解できるようになる。(知識・理解) 2. 染織品の特徴に合わせた基本的な修復方法や技法を検討、選択ができるようになる。(知識・理解) 3. 染織品に必要な基本的技術を正確に習得できるようになる。(技能)	1. 染織品の特徴を理解できるようになる。(知識・理解) 2. 染織品の特徴に合わせた基本的な修復方法や技法を検討し理解できるようになる(知識・理解) 3. 染織品に必要な基本的技術を習得できるようになる。(技能)
伝統染織技法実習(和裁Ⅰ)	家政学部 学科 専門教育科目 被服学科	1	1	日本の伝統衣服である和服の構造と縫製技法を理解する上で、和裁は欠かすことの出来ない技術である。その和裁の基本的知識と技術を習得するため、実習では子ども物の浴衣である「一つ身単衣長着」を制作する。そこで和服を仕立てるために必要な反物の扱い、模様配置、縫い方、くけ方道具の使い方の基本を理解する。、基本的知識と技法を「一つ身長着」の制作を通して身につける。	1. 和服の基本的技法を的確に活用することが出来る。(判断・技能) 2. 和裁の基礎的知識を理解し、説明できる。(判断・理解) 3. 子ども物の浴衣一つ身についての知識と制作技法について理解し、説明することが出来る。(知識・理解)	1. 和服の基本的技法を活用することが出来る。(判断・技能) 2. 和裁の基本的知識を理解できる。(知識・理解) 3. 子ども物の浴衣一つ身について知識と制作技法について理解できる。(知識・理解)
伝統染織技法実習(和裁Ⅱ)	家政学部 学科 専門教育科目 被服学科	2	2	伝統染織技術実習(和裁Ⅰ)で習得した知識と技法を基に、より高度な「大裁女物単衣長着」(前期)と「大裁男物単衣長着」を制作し新たな知識と和裁技術を理解し習得する。女物と男物を制作することで、構造の違い、着装の違いを理解することが出来る。また作品完成後は、それぞれの浴衣の着装技術や小物の取り合わせなどを実践できるよう知識と技術を身につける。さらに他人に着せつけることの技術も身につけられるようになる。	1. 浴衣(男物・女物)の作品を正確に仕上げるができる。(知識・技能) 2. 浴衣(男物・女物)の構造の違いを理解できる。(判断・知識・理解) 3. 浴衣(男物・女物)と小物と取り合わせについて理解し、自分の着物のコーディネートを考えることができる。(知識・表現)	1. 浴衣(男物・女物)の作品を仕上げるができる。(知識・技能) 2. 浴衣(男物・女物)の構造を理解できる。(判断・知識・理解) 3. 浴衣(男物・女物)と小物と取り合わせについて理解することができる。(知識・表現)

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
伝統染織技法実習（和裁Ⅲ）	家政学部 学科 専門教育科目 被服学科	3	3	伝統染織技法実習（和裁Ⅰ・Ⅱ）で修得した知識や技術をもとに、より高度な「大裁女物袷長着」を制作し、新たな知識と和裁技術を理解し習得する。作品完成後は袷の着物と帯や小物と取り合わせの基本的知識や着装の技術を身につける。さらに和服の重ね着の法則などの知識を習得し、長襦袢、羽織、コートなどと着物との寸法の関係を理解する。	1. 袷の着物の制作工程や技術を理解し、説明ができ、作品を正確に仕上げることができる（知識・理解・技能） 2. 袷の着物の構造と縫製技法を今まで習得した技法と比較し、その違いや特徴を理解し、説明することができる。（判断・知識・理解） 3. 着物と小物と取り合わせについて理解し、自分の着物のコーディネートを考え、提案することができる。（知識・表現） 4. 和服の重ね着の法則を理解し、説明することができる。（知識・理解）	1. 袷の着物の作品を仕上げることができる。（知識・技能） 2. 袷の着物の構造と縫製技法を理解できる。（判断・知識・理解） 3. 着物と小物と取り合わせについて理解し、自分の着物のコーディネートを考えることができる。（知識・表現） 4. 和服の重ね着の法則を理解することができる。（知識・理解）
被服平面造形学	家政学部 学科 専門教育科目 被服学科	1	1	日本の伝統的的衣服である和服は高度な染織技法が用いられ美しい。また構造的にも優れており日本人のものを大切に作る美徳が込められた衣服である。本科目では和服と洋服の特徴の違いや和服の種類、TPOや格、和服と小物のコーディネート、通過儀礼と家族のつながり、染織技法と産地など和服に関する基本的知識を習得し理解する。また和服が持つ構造的な特徴から仕立替をして大切に着られることや、環境にやさしい衣服であることを理解することができる。これらのことから和服を次世代に継承することの大切さを自ら学び理解し行動できるようにする。	1. 和服と洋服の特徴を理解し説明することができる。（知識・理解） 2. 和服の種類を理解し、身近な和服を分類し発表することができる。（思考・判断・表現） 3. 和服の構造を理解し、物を大切に仕立て替えの文化が生きる日本人の美徳や文化について説明することができる。（知識・理解） 4. 全国の染織について理解し、伝統染織技術について説明することができる。（知識・理解） 5. 和服の着付けの知識や技術を理解し、実践することができる。（技能） 6. 和服の継承の在り方を自ら考え、理解し、提案することができる。（思考・判断・表現）	1. 和服と洋服の特徴を理解しすることができる。（知識・理解） 2. 和服の種類を理解し、身近な和服を分類しすることができる。（知識・理解） 3. 和服の構造を理解し、物を大切に仕立て替えの文化が生きる日本人の美徳や文化について理解することができる。（知識・理解） 4. 全国の伝統染織技術について理解することができる。（知識・理解） 5. 和服の着付けの知識や技術を理解することができる。（知識・理解） 6. 和服の継承の在り方を自ら考え、理解することができる。（知識・理解）
被服造形基礎実習	家政学部 学科 専門教育科目 被服学科	1	1	被服造形とは布地を着装できる状態まで作り上げることを意味し、本学では立体構成（洋裁）と平面構成（和裁）の両面からの技術を身につけることができるようにカリキュラムが構成されている。本科目はその被服造形実習の基礎学習と位置づけられており、洋裁、和裁の両面の設計に必要とされる基礎的知識と縫製技術を理解し身につける。具体的には、洋服の制作のための基礎的技術（ミシン縫い・手縫い・裁断・アイロン技術）と和服の制作のための基礎的技術（手縫い・縫い代の始末・裁断・鋸使用）について作品制作実習を通して身につける。	1. 洋服と和服の構造や制作理論及び縫製技術をきちんと理解でき説明ができる。（知識・理解） 2. 被服制作に必要な基礎的縫製技術を身につけ、課題作品をきれいに仕上げることができる。（技能） 3. 実習を通して身の回りの衣服についての理解を深め、衣生活へ応用できる。（思考・判断・表現）	1. 洋服と和服の構造や制作理論及び縫製技術を理解できる。（知識・理解） 2. 被服制作に必要な基礎的縫製技術を身につけ、課題作品を仕上げることができる。（技能） 3. 実習を通して身の回りの衣服について意識することができる。（思考・判断・表現）
テキスタイルアドバイザー実習	家政学部 学科 専門教育科目 被服学科	3	3	繊維製品に関する素材および生産、流通、消費等の分野を体系的に学び、それらに関する基礎知識を身につけた上で、学外実習を通して繊維製品の企画・設計、販売、品質保証、消費者対応等の実務を学ぶ。学外実習は、試験研究機関や企業の試験研究部門、および、販売部門等において、3年次の8～9月、または、2～3月に1週間程度の期間で行う。卒業時に衣料管理士(1級)の資格を取得するには必須の科目である。	1. 学外実習を通して、繊維製品に関する素材および生産・流通・消費等の広範な知識を体系的に理解し、正確に説明できる。（知識・理解） 2. 学外実習を通して、繊維製品の企画・設計、販売、品質保証、消費者対応等の実務に対応できる専門的な能力を身につける。（思考・判断・表現） 3. 学外実習を通して、繊維製品に関する実務について関心をもち、将来のキャリアについて多面的に考えることができる。（関心・意欲・態度）	1. 学外実習を通して、繊維製品に関する素材および生産・流通・消費等の知識を理解できる。（知識・理解） 2. 学外実習を通して、繊維製品の企画・設計、販売、品質保証、消費者対応等の実務に対応できる基本的な能力を身につける。（思考・判断・表現） 3. 学外実習を通して、繊維製品に関する実務について関心をもち、将来のキャリアについて考えることができる。（関心・意欲・態度）
卒業論文	家政学部 学科 専門教育科目 被服学科	4	4	被服に関する専門分野について理解した上で学術的な課題を設定し、調査・実験等を含む研究に取り組むことにより、学術的な課題を解決するための知識と技能を修得する。担当教員の指導に基づいて研究成果を卒業論文にまとめて提出し、卒業研究発表会において発表、および、質疑応答を行う。卒業論文を履修することにより、研究のみならず、日常生活や職務における諸課題に対処する判断力と実行力を身につける。	1. 自ら設定した研究課題について学術的な見地から知識・理解を深め、その内容を客観的に説明できる。（知識・理解） 2. 自ら設定した研究課題について具体的な研究方法を多面的に検討し、得られた学術的な研究成果を卒業論文にまとめることができる。（思考・判断・表現） 3. 卒業論文に取り組むことにより、専門的な知識に根差した「問題発見・解決」のための能力を修得している。（関心・意欲・態度）	1. 研究課題について知識・理解を深め、その内容を説明できる。（知識・理解） 2. 研究課題について研究方法を検討し、得られた研究成果を卒業論文にまとめることができる。（思考・判断・表現） 3. 卒業論文に取り組むことにより、「問題発見・解決」のための基本的な能力を修得している。（関心・意欲・態度）
卒業制作	家政学部 学科 専門教育科目 被服学科	4	4	被服に関する専門分野について深く理解した上で、知識・技能に基づいた作品の制作に取り組むことにより、諸課題を解決するための広範な能力を修得する。担当教員の指導に基づいて作品を制作し、卒業研究発表会において発表する。卒業制作を履修することにより、日常生活や職務における諸課題に対処する判断力と実行力を身につける。	1. 自ら設定した作品の課題について知識・理解を深め、その内容を客観的に説明できる。（知識・理解） 2. 作品を完成させる過程において「創造・表現」に必要な知識を修得した上で創造的な作品を表現できる。（思考・判断・表現） 3. 作品を完成させるための技術・技能を修得し、それらを適切に応用して作品を制作できる。（技能）	1. 作品の課題について知識・理解を深め、その内容を説明できる。（知識・理解） 2. 作品を完成させる過程において「創造・表現」に必要な知識を修得した上で作品を表現できる。（思考・判断・表現） 3. 作品を完成させるための技術・技能を修得し、それらを応用して作品を制作できる。（技能）
卒業演習	家政学部 学科 専門教育科目 被服学科	4	4			

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
食品物理化学	家政学部 学科 専門教育科目 食物栄養学科 食物学専攻	1	1	食物栄養学科の自然科学系の専門科目を理解する上での基礎である化学の中で物理化学といわれる分野を学ぶ。内容は、物質の状態に関する知識、化学反応に関する物理化学、移動現象論に分かれる。基礎の化学の知識を前提とした高度な内容ではあるが、食物（生物を含む）に関わる例を挙げ、問題演習も行いながら化学的概念の理解を図る。授業中に使用するスライド原稿のコピーをあらかじめPDFファイルとして配布する。この科目で学ぶ概念が、生化学や栄養学におけるエネルギー代謝、食品加工の原理などの理解に必要である。	1. エンタルピー、エントロピー、ギブスの自由エネルギーなどの熱力学的変数に関して、その化学的意味の差異を理解し、化学反応における熱力学的変数の変化の計算ができる（知識・理解）。 2. 浸透圧、凝固点効果、沸点上昇などの化学的意味を理解し、基本的な計算ができる（知識・理解）。 3. 物質の状態変化や状態図の概念を理解し、食品加工との関わりが理解できる（知識・理解）。 4. コロイド科学、移動現象論における重要な用語に関して、定義や化学的意味を文章で説明できる（知識・理解）。 5. 復習をきちんとして講義内容を着実に身につけ、与えられた演習問題をきちんと解くことができる（思考・判断・表現）。	1. エンタルピー、エントロピー、ギブスの自由エネルギーなどの熱力学的変数に関して、化学反応における熱力学的変数の変化の計算ができる（知識・理解）。 2. 浸透圧、凝固点効果、沸点上昇などの化学的意味を理解できる（知識・理解）。 3. 物質の状態変化や状態図の概念を理解できる（知識・理解）。 4. コロイド科学、移動現象論における重要な用語の定義を聞いたときに日本語で語句を答えられる（知識・理解）。 5. 復習をして講義内容を着実に身につけ、与えられた演習問題の解答を見ながら理解できる（思考・判断・表現）。
基礎生物学	家政学部 学科 専門教育科目 食物栄養学科 食物学専攻	1	1	ヒトを含めた生物の外観や行動は、極めて多様性に富んでいるにもかかわらず、分子のレベルから見ると、すべての生物は同一の原理で生命活動を営んでいる。本科目では、生物の基本単位である細胞の構造や機能、生体内の化学反応と代謝、生命を守るしくみ（恒常性の維持・生体防御・免疫）、および生命をつなぐしくみ（発生・遺伝）などを中心に学び、生体を構成している分子のレベルで生物を理解する。また、太古からの生命のつながりについても考察を深める。これらのことから、その他の専門科目を理解する上で基礎となる生物学や生化学の知識を体系的に身につける。	1. 「生物は細胞を基本単位としている」について、理解し、分子レベルで説明できる。（知識・理解） 2. 「生物は物質の代謝をしている」について、理解し、分子レベルで説明できる。（知識・理解） 3. 「生物は自己増殖する」について、理解し、分子レベルで説明できる。（知識・理解） 4. 「生物は刺激を受容し反応する」について、理解し、分子レベルで説明できる。（知識・理解） 5. 「生物は恒常性を持つ」について、理解し、分子レベルで説明できる。（知識・理解）	1. 「生物は細胞を基本単位としている」について説明できる。（知識・理解） 2. 「生物は物質の代謝をしている」について説明できる。（知識・理解） 3. 「生物は自己増殖する」について説明できる。（知識・理解） 4. 「生物は刺激を受容し反応する」について説明できる。（知識・理解） 5. 「生物は恒常性を持つ」について説明できる。（知識・理解）
化学実験 I	家政学部 学科 専門教育科目 食物栄養学科 食物学専攻	1	1	食物栄養学科の学生が身につけておくべき最低限の化学実験の技術と知識の習得を目指す。また、実験と合わせて、化学の基礎知識の講義や問題演習を数多く行う。実験については、ほとんどの学生が高校までに化学実験の経験がないことを前提として、天秤の扱い方から始め、定量実験、化学量論計算などの初歩から講義するが、高校までの実験経験では体験しないものも一部含まれている。この科目を学習することにより、化学の基礎が習得でき、より高度な化学系の科目が学べるようになる。	1. 化学の基礎知識に関しては、与えられた練習問題や課題に積極的に取り組み、化学の定量計算ができるようになる（知識・理解）。 2. 実験にきちんと出席し、自ら積極的に実験に取り組み、わからないことは実験中に積極的に質問することができる（関心・意欲・態度）。 3. 実験中に現象（マクロの側面）の観察をよく行い、分子の挙動（ミクロの側面）との関連について考察することにより、化学の基礎について深く理解できるようになる（知識・理解）。 4. 化学の基礎を理解した上で、化学の基礎的な実験が自分でできるようになる（技能）。 5. 期日内に実験レポートを提出でき、内容的に化学のレポートとして、論旨が明瞭なものを書くことができる（技能）。	1. 化学の基礎知識に関しては、与えられた練習問題や課題に取り組み、化学の定量計算が授業資料を見ながら解くことができるようになる（知識・理解）。 2. 実験にきちんと出席し、きちんと実験に取り組むことができる（関心・意欲・態度）。 3. 実験中に現象（マクロの側面）の観察をよく行い、分子の挙動（ミクロの側面）との関連について考察することにより、分子のイメージをもてるようになる（知識・理解）。 4. 化学の基礎を理解した上で、化学の基礎的な実験が人と相談しながらできるようになる（技能）。 5. 実験レポートは期日内に提出し、それを化学のレポートの形式として適格なものにできる（技能）。
化学実験II	家政学部 学科 専門教育科目 食物栄養学科 食物学専攻	1	1	化学実験Iを履修して多少の実験技術を身につけている者が、より高度な分析および現実に近い系（system）での実験を行うことができるようになる。この科目を学ぶことにより、食物栄養学科の専門的な実験（栄養学、食品学など）に取り込みやすくなる。	1. 実験にきちんと出席し、自ら積極的に実験に取り組み、わからないことは実験中に積極的に質問することができる（関心・意欲・態度）。 2. 化学実験Iを履修した学生や高校である程度の実験を行って多少の実験技術を身につけている者が、より高度な分析および現実に近い系（system）での実験を自ら行うことができるようになる（技能）。 3. 食品の人体に対する影響を自ら評価できる（思考・判断・表現）。 4. 期日内に実験レポートを提出でき、内容的に化学のレポートとして、論旨が明瞭なものを書くことができる（技能）。	1. 実験にきちんと出席し、きちんと実験に取り組むことができる（関心・意欲・態度）。 2. 化学実験Iを履修した学生や高校である程度の実験を行って多少の実験技術を身につけている者が、より高度な分析および現実に近い系（system）での実験を人と相談しながら行うことができるようになる（技能）。 3. 食品の人体に対する影響を人と相談しながら評価できる（思考・判断・表現）。 4. 実験レポートは期日内に提出し、それを化学のレポートの形式として適格なものにできる（技能）。
生物学実験	家政学部 学科 専門教育科目 食物栄養学科 食物学専攻	1	1	私たちが日々食べている食物が、生物体そのものであることを理解する。身近な生物（植物・動物・微生物）を材料にして、生命を維持するしくみや、食物の美味しさや機能などに関する知識を身につけるとともに、自分の手でそれを確かめる実験技術を修得する。具体的には、細胞の構造や機能、および消化や代謝などの生命現象を顕微鏡で観察する技術のみならず、食物のDNA、色素、酵素、および食物の美味しさや熟成のしくみなどを、生物学的に解析する技術を学ぶ。	1. 生命を維持するしくみについて、独自の考察を加えながら説明できる。（知識・理解）（思考・判断・表現） 2. 食物の美味しさや機能について、独自の考察を加えながら説明できる。（知識・理解）（思考・判断・表現） 3. 生命を維持するしくみについて、独自の工夫を加えながら顕微鏡を使って観察できる。（技能）（関心・意欲・態度） 4. 食物の美味しさや熟成のしくみ等について、独自の工夫を加えながら生物学的手法で評価できる。（技能）（思考・判断・表現）	1. 生命を維持するしくみについて、基本的内容を説明できる。（知識・理解）（思考・判断・表現） 2. 食物の美味しさや機能について、基本的内容を説明できる。（知識・理解）（思考・判断・表現） 3. 生命を維持するしくみについて、顕微鏡を使って観察できる。（技能）（関心・意欲・態度） 4. 食物の美味しさや熟成のしくみ等について、生物学的手法で評価できる。（技能）（思考・判断・表現）

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
有機化学	家政学部 学科 専門教育科目 食物栄養学科 食物学専攻	1	1	有機化学は、有機物すなわち炭素を含む化合物を取り扱う化学である。炭素原子は、お互いに結合して長い鎖や環を作る性質をもっている。そのため炭素原子は、膨大な数の化合物を作ることができ、生体や食物中の重要な化合物のほとんどは有機物といえる。よって、有機化学の基礎がなくては、生命や食物に関するほとんどの科学の理解は困難である。本講義では、食物栄養学科の学生に必要な最低限の有機化学の基礎についての解説を行う。受講者は、原子構造や化学結合に関する基礎知識が要求される。この科目で学ぶ概念は、食品学、生化学、栄養学、食品加工学、食品衛生学など、食物栄養学科の自然科学の学習に活用できる。	1. 基本的な官能基の構造と名称を記憶し、性質を理解している(知識・理解)。 2. 有機化合物に関する化学構造の認識能力を身につけている(知識・理解)。 3. 基本的な有機化学反応に関する知識が一通り身につけている(知識・理解)。 4. 食物栄養学科での専門科目を身につける上で重要な糖(炭水化物)および誘導体、油脂、アミノ酸・タンパク質の構造について確実に理解できる(知識・理解)。 5. 復習をきちんとして講義内容を着実に身につけ、与えられた演習問題をきちんと解くことができるようになる(思考・判断・表現)。	1. 基本的な官能基の構造と名称を記憶している(知識・理解)。 2. 重要な化合物に関しての付加反応、酸化・還元反応、加水分解反応について理解している(知識・理解)。 3. 食物栄養学科での専門科目を身につける上で重要な糖(炭水化物)、油脂、アミノ酸・タンパク質の構造について理解できる(知識・理解)。 4. 復習をして講義内容を着実に身につけ、与えられた演習問題を解答を見ながら理解できる(思考・判断・表現)。
生化学	家政学部 学科 専門教育科目 食物栄養学科 食物学専攻	1	1	専門科目を学ぶ上で必要とされる生化学の基礎知識を修得することを目標とする。生物を構成する様々な物質の化学的性質を知り、こうした物質の生体内(特にヒト)における化学変化や、生命現象との関係について理解する。特に、細胞の基本構造と機能、生体成分である糖質・脂質・タンパク質・アミノ酸・核酸・ビタミンなどの化学構造と機能、酵素の作用メカニズム、消化吸収のメカニズム、エネルギー代謝、糖質・脂質・タンパク質の代謝などに関する知識を得る。	1. 細胞の基本構造と機能について、分子レベルで総合的内容を説明できる。(知識・理解) 2. 生体成分の化学構造と機能について、分子レベルで総合的内容を説明できる。(知識・理解) 3. 酵素の作用メカニズムについて、分子レベルで総合的内容を説明できる。(知識・理解) 4. 消化吸収のメカニズムについて、分子レベルで総合的内容を説明できる。(知識・理解) 5. エネルギー・糖質・脂質・タンパク質・アミノ酸の代謝について、分子レベルで総合的内容を説明できる。(知識・理解)	1. 細胞の基本構造と機能について、基本的内容を説明できる。(知識・理解) 2. 生体成分の化学構造と機能について、基本的内容を説明できる。(知識・理解) 3. 酵素の作用メカニズムについて、基本的内容を説明できる。(知識・理解) 4. 消化吸収のメカニズムについて、基本的内容を説明できる。(知識・理解) 5. エネルギー・糖質・脂質・タンパク質・アミノ酸の代謝について、基本的内容を説明できる。(知識・理解)
生理学	家政学部 学科 専門教育科目 食物栄養学科 食物学専攻	1	1	生理学は人体が生きて活動するための仕組みを解明する学問である。その理解のためには機能を発揮するための形態学の知識が不可欠であるため、解剖学を含めて講義する。内容は、細胞と組織、消化器系、血液系、循環器系、呼吸器系、腎・尿路系、生殖器系、骨格系、筋肉系、内分泌系、神経系、感覚器系、免疫系など、人体全般について広く学習する。	1. 人の細胞と組織について系統的に理解し基礎知識および発展的知識を身につける(知識・理解)。 2. 人の各器官系について、その解剖学的構造と生理機能の基礎的および発展的知識を習得し、さらに各器官系の相互作用を理解することができる(知識・理解)。 3. 解剖学、生理学の深い各論的知識をもとに、生命および健康の意味を思索し、適切な専門用語を用いて説明できるようになる(思考・判断・表現)。	1. 人の細胞と組織について系統的に理解し基礎知識を身につける(知識・理解)。 2. 人の各器官系について、その解剖学的構造と生理機能の基礎知識を習得し、さらに各器官系の関連を理解することができる(知識・理解)。 3. 解剖学、生理学の各論的知識をもとに、生命および健康の意味を思索し、わかりやすく説明できるようになる(思考・判断・表現)。
微生物学	家政学部 学科 専門教育科目 食物栄養学科 食物学専攻	2	2	微生物は肉眼では見えない生物であるが、環境の至るところに存在し、生態系の一次生産を支えると同時に疾病因子として我々に脅威を与える。食物栄養の分野において微生物は、主に食中毒、腸内細菌、発酵食品などで関わっている。本講義では、細菌類、菌類(カビ・酵母)、ウイルス類を中心に微生物の分類と生活環、および微生物の増殖条件や代謝に関する基礎的な知識を身につける。さらに微生物の持つ特異な機能について掘り下げ、それらを利用した発酵食品や物質生産についても理解する。	1. 細菌と菌類の区別を進化の過程から説明できる。(知識・理解) 2. 細菌と菌類の増殖条件について、細胞機能の観点から説明できる。(知識・理解) 3. 細菌と菌類の代謝について細胞機能の観点から説明できる。(知識・理解) 4. ウイルスの構造や増殖について説明でき、感染症対策についても説明できる。(知識・理解) 5. 発酵について、分子生物学的観点から説明できる。(知識・理解) 6. 発酵食品の製造工程について、食品ごとに説明できる。(知識・理解)	1. 細菌と菌類の区別ができる。(知識・理解) 2. 細菌と菌類の増殖条件について説明できる。(知識・理解) 3. 細菌と菌類の代謝について説明できる。(知識・理解) 4. ウイルスの構造や増殖について説明できる。(知識・理解) 5. 発酵について説明できる。(知識・理解) 6. 発酵食品の製造工程の概要を説明できる。(知識・理解)
食物情報処理演習	家政学部 学科 専門教育科目 食物栄養学科 食物学専攻	3	3	食物・栄養に関する膨大な情報を収集、分析、評価、判定し、その情報を発信するためには、コンピュータを利用しデータを適切に処理する実践的能力が必要とされる。そこで、本演習では、主に栄養関連ソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの操作法と連携を学び、コンピュータによる食物情報処理技術を修得する。主に食物摂取評価を題材とし、データの作成・表現方法の他、プレゼンテーションに活用できる応用力を身につける。	1. 栄養関連ソフト・エクセル・パワーポイント等のソフトの使用法について、説明ができる。(知識・理解) 2. 栄養関連ソフトを使用し、食物摂取状況について、栄養素面、食品群面、エネルギー産生栄養素バランス面等様々な角度から、分析できる。(技能) 3. エクセルを使用し、食物摂取状況について、適正値や平均値との比較等様々な角度から、表とグラフにより表現できる。(技能) 4. 栄養関連ソフト、エクセル、パワーポイント等ソフトを連携させ、食物摂取状況について、効率的に報告書・プレゼンテーション資料が作成できる。(技能) 5. パワーポイントを使用し、食事摂取状況について、文章と視覚的表現方法により問題点、改善策も含めて総合的評価を行い、発表できる。(思考・判断・表現) 6. 自主的に比較すべき資料調査ができ、文章と視覚的表現方法により強調できる。(関心・意欲・態度)	1. 栄養関連ソフト・エクセル・パワーポイント等のソフトの使用法について、説明ができる。(知識・理解) 2. 栄養関連ソフトを使用し、食物摂取状況について、分析できる。(技能) 3. エクセルを使用し、食物摂取状況について、表とグラフにより表現できる。(技能) 4. 栄養関連ソフト、エクセル、パワーポイント等ソフトを連携させ、食物摂取状況について、報告書・プレゼンテーション資料が作成できる。(技能) 5. パワーポイントを使用し、食事摂取状況について、文章と視覚的表現方法により総合的評価を行い、発表できる。(思考・判断・表現) 6. 比較すべき資料調査ができ、文章と視覚的表現方法により強調できる。(関心・意欲・態度)

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
食品学	家政学部 学科 専門教育科目 食物栄養学科 食物学専攻	2	2	食品学とは、食品の種類、成分、性状などについて基礎的な知識を幅広く学ぶ科目であり、食物分野・栄養分野全体の基礎となる科目である。今日、食品は世界中から輸入され、食生活が欧米化したことにより、がん、循環器疾患、糖尿病などの生活習慣病が増加し、これらの疾病の防止に食生活の改善が求められている。このようなことを背景に、本講義においては、水および食品について食品学的な側面から理解を深めていくとともに、調理・加工中のこれらの成分の変化について理解する。また、食品の嗜好成分、機能成分について学ぶとともに、食品表示法について理解する。	1. 人間と食べ物の関わりについて、食品の歴史の変遷と食物連鎖の両面から総合的に説明できる。（知識・理解） 2. 水の性質を理解した上で、水分含量と食品の保存性の関係について、代表的な食品ごとに説明できる。（知識・理解） 3. 食品の五大栄養素の性質および栄養性について、代表的な食品ごとに説明できる。（知識・理解） 4. 食品成分の調理・加工における成分の変化について、2と3の理解をふまえた上で総合的に説明できる。（知識・理解） 5. 食品の嗜好成分について、代表的な食品ごとに含有成分とその性質を説明できる。（知識・理解） 6. 食品成分の機能性、健康に与える影響、疾病予防に対する関与成分について、代表的な食品ごとにその名称と役割を総合的に説明できる。（知識・理解） 7. 食品の成分表示法について理解した上で、代表的な食品の特徴を説明できる。（知識・理解）	1. 人間と食べ物の関わりについて、食品の歴史の変遷と食物連鎖の両面から基本的な事項について説明できる。（知識・理解） 2. 水の性質、水分含量と食品の保存性の関係について基本的な事項を説明できる。（知識・理解） 3. 食品の五大栄養素の性質および栄養性について基本的な事項を説明できる。（知識・理解） 4. 食品成分の調理・加工における成分の変化について基本的な事項を理解している。（知識・理解） 5. 食品の嗜好成分について、代表的な成分についてその基本的な性質を説明できる。（知識・理解） 6. 食品成分の機能性、健康に与える影響、疾病予防について基本的な事項を説明できる。（知識・理解） 7. 食品の成分表示法について基本的な事項を説明できる。（知識・理解） 8. 食品の嗜好成分について、代表的な成分についてその基本的な性質を説明できる。（知識・理解） 9. 食品成分の機能性、健康に与える影響、疾病予防について基本的な事項を説明できる。（知識・理解） 10. 食品の成分表示法について基本的な事項を説明できる。（知識・理解）
応用食品学	家政学部 学科 専門教育科目 食物栄養学科 食物学専攻	2	2	現代の日本では、豊かな食生活を送ることが出来るようになったことと引き換えに、生活習慣病が増加しその予防が大きな課題となっている。私たちの食生活を支える食品は膨大であり、これら多くの食品を調理・活用し、健康で豊かな食生活を送るためには、素材としての食品についての知識が必要である。また、健康志向や食品の安全性への関心の高まりから加工食品のマイナス面が指摘されているものの、ライフスタイルの変化等により多くの人が加工食品の恩恵を受けているのも現状である。本科目では、食品学で学んだ知識に加え、各種食品の体系的な把握および各種食品材料の分類と種類、性状と形態、成分特性、加工食品について理解するとともに、食品の加工原理や保蔵・貯蔵についても学ぶ。また実際の売り場に並ぶ各種食品素材に関心を示し、規格や表示制度等についても認識する。	1. 食品を体系的に把握し、食品の分類と種類が説明できる。（知識・理解） 2. 各種食品の性状や形態を理解し、栄養素や成分特性などの特徴および加工食品の種類について説明できる。（知識・理解） 3. 従来からの食品加工の目的および意義について説明できるとともに、これからの社会における意義・目的を考察できる。（知識・理解）（思考・判断・表現） 4. 科学的な視点で各種食品の製造原理および具体的な加工法を説明できる。（知識・理解） 5. 食品の規格・表示に関心をもち、必要に応じて最適な食品の選択ができる。（思考・判断・表現）	1. 食品の分類と種類が説明できる。（知識・理解） 2. 各種食品の性状や形態を理解し、特徴や加工食品について基本的なことを説明できる。（知識・理解） 3. 基本的な食品加工の目的および意義について説明できる。（知識・理解） 4. 各種食品の製造原理や基本的な加工方法について説明できる。（知識・理解） 5. 食品の規格・表示に関心をもち、食品の選択ができる。（思考・判断・表現）
食品学実験	家政学部 学科 専門教育科目 食物栄養学科 食物学専攻	3	3	食品学（2年次前期）で学んだ水分、5大栄養素（糖質、タンパク質、脂質、ビタミン、ミネラル）、嗜好成分について、主として日本食品標準成分表の分析法に準じ、身近な食品を用いて定量・定性分析を行う。この実験を通じて化学分析、食品分析の基本的な考え方を学び、あわせて食品学の講義で得た知識の理解を深める。	1. 各分析法について、原理、方法について理解し、説明ができる。（知識・理解） 2. グループで実験の進め方について話し合い、イニシアチブをとって実験を進めることができる。（関心・意欲・態度） 3. ガラス器具等の器具の取り扱いについて習熟し、使用法を正しく説明できる。（技能） 4. 分析に使用する試薬の作製法、使用目的を理解し、安全な使用方法について説明できる。（技能） 5. 液体クロマトグラフィー等の分析機器の構成を理解し、基本的な取り扱い方を説明できる。（技能） 6. 実験の経過を踏まえながら、得られた分析結果についてグループ内でイニシアチブをとって考察できる。（思考・判断・表現） 7. 6をもとに実験経過、分析結果等を適切に考察したレポートを作成することができる。（思考・判断・表現）	1. 各分析法について、基本的な原理、方法について説明ができる。（知識・理解） 2. グループで実験の進め方について話し合い、安全に実験を進めることができる。（関心・意欲・態度） 3. ガラス器具等の器具の取り扱いについて説明できる。（技能） 4. 分析に使用する試薬の作製法、使用目的を理解し、安全に使用できる。（技能） 5. 液体クロマトグラフィー等の分析機器の構成を説明できる。（技能） 6. 実験の経過を踏まえながら、得られた分析結果についてグループで考察できる。（思考・判断・表現） 7. 6をもとにレポートを作成することができる。（思考・判断・表現）
応用食品学実験	家政学部 学科 専門教育科目 食物栄養学科 食物学専攻	3	3	2年次の食品学、応用食品学で学んだ事項について、主として日本食品標準成分表の分析法に準じて身近な食品を用いて定量・定性分析を行う。また、高速液体クロマトグラフィー（HPLC）、ガスクロマトグラフィー（GC）等、食品分析には欠かせない機器を使用し、機器の取り扱い方の基礎的な知識を習得する。さらに、それぞれの食品特性を活かして、代表的な加工食品を実際に製造する。この実験を通じて化学分析、食品分析の基本的な考え方を学ぶとともに、加工食品を製造することにより食品学および応用食品学の講義の理解を深める。	1. 各分析法について、原理、方法について理解し、説明ができる。（知識・理解） 2. グループで実験の進め方について話し合い、イニシアチブをとって実験を進めることができる。（関心・意欲・態度） 3. 分析に使用する試薬の作製法、使用目的を理解し、安全な使用方法について説明できる。（技能） 4. 液体クロマトグラフィー等の分析機器の構成を理解し、基本的な取り扱い方を説明できる。（技能） 5. 実験の経過を踏まえながら、得られた分析結果についてグループ内でイニシアチブをとって考察できる。（思考・判断・表現） 6. 5をもとに実験経過、分析結果等を適切に考察したレポートを作成することができる。（思考・判断・表現） 7. 加工食品の製造原理を理解し、加工食品の特性を物質レベルで説明できる。（知識・理解） 8. グループでイニシアチブをとって、加工食品を製造できる。（関心・意欲・態度） 9. 8をもとに製造した加工食品について適切に考察したレポートを作成することができる。（思考・判断・表現）	1. 各分析法について、基本的な原理、方法について説明ができる。（知識・理解） 2. グループで実験の進め方について話し合い、安全に実験を進めることができる。（関心・意欲・態度） 3. 分析に使用する試薬の作製法、使用目的を理解し、安全に使用できる。（技能） 4. 液体クロマトグラフィー等の分析機器の構成を説明できる。（技能） 5. 実験の経過を踏まえながら、得られた分析結果についてグループで考察できる。（思考・判断・表現） 6. 5をもとにレポートを作成することができる。（思考・判断・表現） 7. 加工食品の製造原理を理解し、加工食品の特性を説明できる。（知識・理解） 8. グループで話し合い、加工食品を製造できる。（関心・意欲・態度） 9. 8をもとに製造した加工食品についてのレポートを作成することができる。（思考・判断・表現）

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
食品の鑑別（統計処理演習を含む）	家政学部 学科 専門教育科目 食物栄養学科 食物学専攻	3	3	官能とは感覚器官の機能を指し、「官能評価」とは人間の五感（視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚）を用いて食品をはじめ様々な事物の特性を検査・評価すること、及びその方法を指す。講義では、官能検査を実施するにあたってのルールや注意点、得られたデータの統計処理法について学び、食品を総合的に評価する手がかりとして、化学的・物理的側面からの品質と嗜好性の測定法、個別食品についての鑑別法を解説する。受講生自身が、実験や実習を通じて、人間の五感の働きを認識することが修得の出発点である。	1. 官能評価の概要について説明でき、官能評価の具体的方法について説明できる。（知識・理解） 2. 食品の化学的評価法、物理的評価法の種類について具体的な例を挙げながら説明できる。（知識・理解） 3. 個別食品の鑑別について、具体的な例を挙げながら説明できる。（知識・理解） 4. 食品の品質、特性、嗜好性を見極め、総合的に評価できる。（思考・判断・表現）	1. 官能評価の概要について説明できる。（知識・理解） 2. 食品の化学的評価法、物理的評価法の種類について説明できる。（知識・理解） 3. 個別食品の鑑別の仕方への概要を説明できる。（知識・理解） 4. 食品の評価を行うことができる。（思考・判断・表現）
食品衛生学	家政学部 学科 専門教育科目 食物栄養学科 食物学専攻	3	3	食における安全性の確保は、食生活および食品産業を健全に維持・持続させるための最重要な課題である。腸管出血性大腸菌O157に代表されるように、我々の命を脅かす食中毒の要因は身近に存在する。また、食のグローバル化に伴う危険要因の多様化と伝播も国際的な問題となっている。このような背景をもとに、本科目では、食品の変質、食中毒、汚染物質、食品添加物、残留農薬についての知識を身につけ、併せて食品衛生に関わる法規と機構についても理解する。また、最新の情報をもとに、食の安全性確保のあり方についても考察する。	1. 腐敗および酸敗の化学的な視点から総合的に説明できる。（知識・理解） 2. 食中毒の発生時期と分類について説明できる。（知識・理解） 3. 食中毒要因物質の種類と食中毒症状および防除方法を化学的視点から物質レベルで説明できる。（知識・理解） 4. 汚染物質の種類と健康への影響を化学的視点から物質レベルで説明できる。（知識・理解） 5. 食品添加物の種類と用途および安全性評価について化学的視点から物質レベルで説明できる。（知識・理解） 6. 食品衛生の法規と行政機構について国際状況を踏まえて説明できる。（知識・理解） 7. 最新の食品衛生事件から食の安全について考察し、自ら資料調査ができる。（思考・判断・態度）	1. 腐敗および酸敗について説明できる。（知識・理解） 2. 食中毒の発生時期と分類について説明できる。（知識・理解） 3. 食中毒要因物質の種類と食中毒症状および防除方法を説明できる。（知識・理解） 4. 汚染物質の種類と健康への影響を説明できる。（知識・理解） 5. 食品添加物の種類と用途および安全性評価について説明できる。（知識・理解） 6. 食品衛生の法規と行政機構について説明できる。（知識・理解） 7. 最新の食品衛生事件から食の安全について考察できる。（思考・判断・態度）
食品衛生学実験	家政学部 学科 専門教育科目 食物栄養学科 食物学専攻	3	3	食品衛生法における食品衛生とは「食品」「添加物」「器具」「容器包装」を衛生的に保つことをいい、各検査法は食品衛生検査指針に示されている。本実験は、食品衛生検査指針の微生物学的試験および理化学的試験の一部を行い、食中毒の原因となる細菌の同定、汚染物質の検出、添加物の定量等の技術を身につける。また、食品添加物や器具等の規格基準の意義について理解する。さらに、食の安全を保つために必要な行動について考察する。	1. 細菌類を扱う基本的な操作ができ、かつ原理と必要性を説明できる。（技能） 2. 細菌類の増殖条件について生化学的な側面から説明できる。（知識・理解） 3. 汚染物質や添加物を検出する実験操作ができ、定量のための計算式を説明できる。（技能） 4. 食品添加物の安全性について添加物ごとに説明できる。（知識・理解） 5. 実験結果を適切にまとめ、得られた結果だけでなく背景についても考察し、レポートにまとめることができる。（思考・判断・表現） 6. 食の安全を保つための必要な行動を考察し、発表することができる。（思考・判断・表現）	1. 細菌類を扱う基本的な操作ができる。（技能） 2. 細菌類の増殖条件について説明ができる。（知識・理解） 3. 汚染物質や添加物を検出する実験操作ができる。（技能） 4. 食品添加物の安全性について基礎的な説明ができる。（知識・理解） 5. 実験結果を適切にまとめ、得られた結果について考察し、レポートにまとめることができる。（思考・判断・表現） 6. 食の安全を保つための必要な行動を考察できる。（思考・判断・表現）
食品分析学	家政学部 学科 専門教育科目 食物栄養学科 食物学専攻	2	2	「食の安全」という言葉を耳にしなない日はほとんどない今日、食品分析の重要性については言うまでもない。食品は多成分系なので、そこで用いられる分析法も、化学的方法、物理的方法と多様であり、化学的分析法（分析化学）を理解するためにも様々な物理的、化学的原理を理解する必要がある。本講義では、近年、主流となっている機器分析を中心として、各分析法によりどのような定量的、あるいは定性的な情報が得られるかといった概要について解説する。この科目における知識は、将来、食品の品質管理、工程管理、商品開発など、食品業界の仕事に従事するうえでも大変重要である。	1. 化学分析における基本的な定量計算ができる（技能）。 2. 食品分析を理解するための物理および化学の基本原則が理解できる（知識・理解）。 3. 食品の一般分析や基本的分析法の原理を理解し、目的によりどの分析法を選択すべきか、体系的にまとめられる（知識・理解）。 4. 重要な機器分析法の概要を理解し、文章として体系的にまとめられる（知識・理解）。 5. 食品物性などの物理測定の意義を理解し、その適用領域を文章としてまとめられる（知識・理解）。	1. 授業資料を見ながら、化学分析における基本的な定量計算ができる（技能）。 2. 食品分析を理解するための物理および化学の基本原則を教科書を見ながら説明できる（知識・理解）。 3. 食品の一般分析や基本的分析に関して、目的によりどの分析法を選択すべきかを授業資料を見ながらまとめられる（知識・理解）。 4. 重要な機器分析法の概要に関して、授業資料を見ながら箇条書きにまとめられる（知識・理解）。 5. 食品物性などの物理測定に関して、その適用領域を本で調べられる（知識・理解）。
食品バイオテクノロジー	家政学部 学科 専門教育科目 食物栄養学科 食物学専攻	2	2	近年、バイオテクノロジー（生物工学）は学術・産業の各分野でめざましい進歩を遂げ、将来の食品産業においても、その研究を遂行・発展させてゆくことは重要な課題である。このような背景をもとに、本科目ではまず、食品分野におけるバイオテクノロジー全般の基礎知識を身につける。次に、バイオテクノロジーの応用について学び、それらを理解する。さらに、最新の知見をもとに食と環境に関わるバイオテクノロジーについて考察する。	1. バイオテクノロジー全般について、生化学的及び生物工学的視点から基礎的説明ができる。（知識・理解） 2. バイオテクノロジーの食品生産への利用について、生化学的及び生物工学的視点から説明できる。（知識・理解） 3. バイオテクノロジーの食の安全性への利用について生化学的及び生物工学的視点から説明できる。（知識・理解） 4. バイオテクノロジーを用いた遺伝子組換え食品の歴史について生化学的及び生物工学的視点から説明できる。（知識・理解） 5. バイオテクノロジーの食と環境への関わりについて考察し、自ら資料調査ができる。（思考・判断・態度）	1. バイオテクノロジー全般の基礎的説明ができる。（知識・理解） 2. バイオテクノロジーの食品生産への利用について説明できる。（知識・理解） 3. バイオテクノロジーの食の安全性への利用について説明できる。（知識・理解） 4. バイオテクノロジーを用いた遺伝子組換え食品の歴史について説明できる。（知識・理解） 5. バイオテクノロジーの食と環境への関わりを考察できる。（思考・判断・態度）
食と安全	家政学部 学科 専門教育科目 食物栄養学科 食物学専攻	3	3	食品の安全性は、生産・製造、加工、保存、流通、提供など広範な領域において、多くの人の手を介して支えられているが、同時にその過程には多くのリスクを孕んでいるともいえる。食中毒、異物混入、偽装表示、有害化学物質などにより食の安全が損なわれ、ヒトの健康を害する問題が起ることもあれば、近年では、根拠不十分な情報によって消費者の不安をおおるような問題も目立つ。いずれにせよ、消費者は情報を取捨選択し、知識を身に付け、食品の安全性を確保するために自らの判断で行動するべきであると食品安全基本法などにも明記されている。本科目では、課題を通し、食の安全に関する情報を消費者として、また食の専門家として正しく判断し、解説できる能力を身につける。加えて、既に「食品衛生学」等において習得済みの食品衛生に関わる法規や機構、飲食に起因する健康危害、またそれを予防するための科学的論拠について、日常生活（購入、調理、保存、洗浄消毒など）で発揮する具体的方法について考察し、身につける。	1. 過去の事例を読み、加害者被害者に起こったことが説明でき、両者の背景を考察できる。（思考・判断・表現） 2. 食の安全に関する情報を収集し、内容を説明でき、日常生活に関連付けて解釈できる。（思考・判断・表現） 3. 近年の国内食中毒発生状況の実際と科学的知識を関連付けて説明できる。（知識・理解） 4. 調理現場の汚染状況のパターンを解釈し、衛生管理の日常的実動作を説明できる。（知識・理解） 5. 衛生的手洗いの重要性、具体的方法を説明でき、第三者に衛生的手洗いを継続させる方法について考察できる。（知識・理解） 6. 第三者に食を提供する際の購入から片付けまで、一連の動作の中で起こり得るリスクを説明でき、リスク回避方法について日常的実動作として説明できる。（知識・理解）	1. 過去の事例を読み、加害者被害者に起こったことを説明できる。（思考・判断・表現） 2. 食の安全に関する情報を収集し、内容を説明できる。（思考・判断・表現） 3. 近年の国内食中毒発生状況の実際を説明できる。（知識・理解） 4. 調理現場の汚染状況のパターンを説明できる。（知識・理解） 5. 衛生的手洗いの重要性、具体的方法を説明できる。（知識・理解） 6. 第三者に食を提供する際の購入から片付けまで、一連の動作の中で起こり得るリスクを考察できる。（知識・理解）

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
健康科学概論	家政学部 学科 専門教育科目 食物栄養学科 食物学専攻	1	1	今日の社会は、技術化・情報化が著しく進歩した反面、ライフスタイルの急激な変容や環境破壊、人口の高齢化など様々な問題を抱えている。私たちの健康はそうした変化する生活環境に日々曝されている。このような背景をもとに、本科目では、どうしたら健やかに毎日を過ごすことができるのかを知るために、国民健康づくり運動の変遷、日本人の食事摂取基準、ライフステージごとの身体的特徴の変化とそれに伴う栄養摂取、ストレスなど周囲環境の変化に伴う栄養摂取についての知識を身につける。	1. 健康を維持するための食事摂取について理論的に説明できる。（知識・理解） 2. ライフステージごとの身体的特徴について体系的に説明することができる。（知識・理解） 3. 身体的特徴の変化に伴う食事摂取について体系的に説明することができる。（知識・理解） 4. 各自の健康を維持するための運動と栄養について考察し、自ら計画、実施することができる。（思考・判断・態度）	1. 健康を維持するための食事摂取について基礎的な事項を説明できる。（知識・理解） 2. ライフステージごとの身体的特徴について基礎的な事項を説明することができる。（知識・理解） 3. 身体的特徴の変化に伴う食事摂取について基礎的な事項を説明することができる。（知識・理解） 4. 各自の健康を維持するための運動と栄養について考察できる。（思考・判断・態度）
実践栄養学Ⅱ	家政学部 学科 専門教育科目 食物栄養学科 食物学専攻	4	4	実践栄養学Ⅱでは人のライフステージのなかで、妊娠・授乳期、乳児・幼児・小児期の栄養学を扱う。基盤となる母子保健学について系統的に学習しながら、その中の栄養分野を詳しく学習する。具体的には、妊娠および授乳期の生理、病理、栄養摂取基準、乳児、幼児および小児期の生理、病理、栄養摂取基準などを学習する。	1. 妊娠および授乳期の生理、病理、栄養摂取基準について、基礎知識および発展的知識を身につける（知識・理解）。 2. 乳児・幼児・小児期の生理、病理、栄養摂取基準について、基礎知識および発展的知識を身につける（知識・理解）。 3. 母子保健学の系統的な知識を基盤に、適切な栄養摂取を考察し、適切な専門用語を用いて説明できるようになる（思考・判断・表現）。	1. 妊娠および授乳期の生理、病理、栄養摂取基準について、基礎知識を身につける（知識・理解）。 2. 乳児・幼児・小児期の生理、病理、栄養摂取基準について、基礎知識を身につける（知識・理解）。 3. 母子保健学の基礎的な知識を基盤に、適切な栄養摂取を考察し、わかりやすく説明できるようになる（思考・判断・表現）。
実践栄養学Ⅲ	家政学部 学科 専門教育科目 食物栄養学科 食物学専攻	4	4			
スポーツ栄養論	家政学部 学科 専門教育科目 食物栄養学科 食物学専攻	3	3	選手が目標とする大会でパフォーマンスを発揮するためには、日々のコンディションを計画的に整えること、すなわちコンディショニングの成功が課題である。コンディショニングにおける栄養の役割は大きい。このような背景をもとに、本科目では、運動強度、運動時間によるエネルギー基質の変化や、競技力向上に関わる骨・からだづくりのための栄養素摂取についての知識を身につけ、併せて低栄養によるスポーツ障がい予防、期分けによる食事管理のあり方についても理解する。また、個々の選手の目的に応じた栄養補給の方法についても考察する。	1. 身体活動時のエネルギー基質について、運動強度・時間による変化を説明できる。（知識・理解） 2. 身体活動時の競技特性、目的に合わせた栄養素の補給、適切な摂取目標量について説明できる。（知識・理解） 3. スポーツ選手のスポーツ障がいを予防するための栄養補給について説明できる（知識・理解） 4. ジュニア選手、女性アスリートなど、ライフステージに合わせた栄養補給の留意点について説明できる（知識・理解） 5. スポーツ選手への栄養管理について立案できる。（思考・判断・態度）	1. 身体活動時のエネルギー基質について説明できる。（知識・理解） 2. 身体活動時の適切な栄養素の補給、摂取目標量について説明できる。（知識・理解） 3. スポーツ選手のスポーツ障がいを予防するための栄養補給について説明できる（知識・理解） 4. ジュニア選手、女性アスリートなど、ライフステージに合わせた栄養補給の留意点について説明できる（知識・理解） 5. スポーツ選手への栄養管理について立案できる。（思考・判断・態度）
栄養学	家政学部 学科 専門教育科目 食物栄養学科 食物学専攻	2	2	栄養学は、栄養学分野の専門家を志す者にとって、重要な第一歩にあたる基幹となる科目である。今後履修する応用系専門科目を学習する上で必要とされる基本的な栄養学の知識をここで身につける。本授業では、生化学、解剖生理学の基礎も含めた栄養学の基礎を学ぶ。栄養とは何か、その意義についてしっかり習得する。五大栄養素の構造と機能、栄養素の消化吸収と代謝の基礎、遺伝子と栄養の基礎、食欲の調節、エネルギー代謝についての理解を目指す。	1. 五大栄養素の構造と機能について総合的に説明することができる。（知識・理解） 2. 栄養素の消化吸収と代謝の基礎について総合的に説明することができる。（知識・理解） 3. 遺伝子と栄養の基礎について総合的に説明することができる。（知識・理解） 4. 食欲の調節について総合的に説明することができる。（知識・理解） 5. エネルギー代謝について総合的に説明することができる。（知識・理解） 6. 今後履修していく関連科目の習得に必要な栄養学の総合的な知識をしっかりと身につけることができる。（知識・理解）	1. 五大栄養素の構造と機能について基本的な事項を理解している。（知識・理解） 2. 栄養素の消化吸収と代謝の基礎について基本的な事項を理解している。（知識・理解） 3. 遺伝子と栄養の基礎について基本的な事項を理解している。（知識・理解） 4. 食欲の調節について基本的な事項を理解している。（知識・理解） 5. エネルギー代謝について基本的な事項を理解している。（知識・理解） 6. 今後履修していく関連科目の習得に必要な栄養学の基本的な最低限の事項について説明することができる。（知識・理解）
食品機能学	家政学部 学科 専門教育科目 食物栄養学科 食物学専攻	2	2	栄養成分が身体のはたらきに対して及ぼす機能について、基礎から学ぶ。食品は、栄養素の補給源としての一次機能、「おいしさ」としての二次機能のほか、疾病予防や健康維持のためにはたらく体調調節機能としての三次機能を有する。本授業では、まず前半に栄養学をさらに深く掘り下げ、詳しく学んだあと、食品の機能全体について理解していく。前期に学んだ栄養学の知識をもとに、今後学んでいく関連科目の習得に役立つ基礎力を身につける。	1. 前期で学んだ栄養学の知識をさらに詳しく定着させ、具体的に説明できるようになる。（知識・理解）（思考・判断・表現） 2. 近年話題となっている機能性成分（食品の三次機能）について、正しく科学的に説明することができる。（知識・理解）（思考・判断・表現） 3. これから学ぶ関連専門科目の習得に役立つ栄養学的・食品学的基础力をしっかりと身につけることができる。（知識・理解）	1. 前期で学んだ栄養学の知識をさらに定着させることができる（知識・理解） 2. 近年話題となっている機能性成分（食品の三次機能）について、基本的な最低限の事項に関して正しく科学的に説明することができる。（知識・理解）（思考・判断・表現） 3. これから学ぶ関連専門科目の習得に役立つ栄養学的・食品学的基础力を、基本的な最低限の事項に関して身につけることができる。（知識・理解）
栄養学実験	家政学部 学科 専門教育科目 食物栄養学科 食物学専攻	3	3	植物性タンパク質あるいは動物性タンパク質を摂取させたラットの成長実験、窒素出納実験などのほか、生体試料を用いた栄養生化学的実験を通して既に修了している講義内容を深く理解する。ラット生体試料中の各種成分の変動を様々な分析法により求め、ラットの栄養状態との関連性を実験的に解析する。実験で得られた知見と講義で学んだ内容を総合して考察することにより、栄養学に関する理解をより深めることを目的とする。加えて三大栄養素の消化実験も行い、さらに栄養学の知識を深める。	1. 本授業内容をしっかりと理解し、疑問点を抽出することとその知識を基に当該内容について正しく議論することができる。（知識・理解）（思考・判断・表現） 2. 植物性タンパク食と動物性タンパク食それぞれが身体におよぼす違いについて、栄養学的観点から具体的に述べるることができる。（思考・判断・表現）（知識・理解） 3. 栄養学に関して他者にその内容を論理的かつ科学的に説明することができる。（知識・理解）（思考・判断・表現）	1. 本授業内容をしっかりと理解し、疑問点を抽出することができる。（知識・理解） 2. 植物性タンパク食と動物性タンパク食それぞれが身体におよぼす違いについて、栄養学的観点から基本的な最低限の事項に関して述べるることができる。（思考・判断・表現）（知識・理解）

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
食と環境	家政学部 学科 専門教育科目 食物栄養学科 食物学専攻	3	3	ヒトの健全な生活に食は欠かすことができない。食をめぐる営みは、自然・社会・経済さらには人間という環境に変化をもたらし、一方で、環境からの変化も受ける。今、我々を取り巻く環境では、世界規模での地球温暖化、人口増加等の課題を抱え、大量生産・大量消費・大量廃棄型の社会経済システムに対し早急な対策が求められている。このような背景をもとに本科目では、食を軸にした地球環境や人間環境、「持続可能な環境」の構築への関心、理解を深め、より望ましい「食」について考え、それを実現する態度、実行力などを身につける。また、多角的な視点による最前線の研究や取り組みをもとに、食と環境のあり方についても考察する。	1. 食が様々な環境と繋がっていることを具体的に説明できる。（知識・理解） 2. 地球温暖化にまつわる食問題とその対策について、例を挙げて説明できる。（知識・理解） 3. 経済の発展が食に与える影響について理解し、課題を提示することができる。（知識・理解） 4. 食がもたらす健康への影響、疾病との関わりについて国際的な比較を含めて説明できる。（知識・理解） 5. 持続可能な食・農について理解し、例を挙げて説明できる。（知識・理解） 6. 食と環境について問題意識を持ち、行動、実行することができる。（思考・判断・態度） 7. 現代の食を取り巻く環境について自ら資料調査ができ、得られた情報をもとに考察できる。（思考・判断・表現）	1. 食が様々な環境と繋がっていることが理解できる。（知識・理解） 2. 地球温暖化にまつわる食問題について説明できる。（知識・理解） 3. 経済の発展が食に与える影響について理解し、説明できる。（知識・理解） 4. 食がもたらす健康への影響、疾病との関わりについて説明できる。（知識・理解） 5. 持続可能な食・農について説明できる。（知識・理解） 6. 食と環境について問題意識を持ち、行動することができる。（思考・判断・態度） 7. 現代の食を取り巻く環境について自ら資料調査ができ、得られた情報をまとめることができる。（思考・判断・表現）
調理学	家政学部 学科 専門教育科目 食物栄養学科 食物学専攻	1	1	調理は食事計画に従って、各食品材料の特性を考慮した様々な調理操作を行い、衛生的で安全、栄養バランスが整った美味しい食事を作ることを目的としている。本科目では調理操作、食品の調理性を科学的視点から理解するとともに、食事計画、官能評価、食の安全、調理の設備・器具・エネルギー資源・管理、調理文化論など広く調理に関わる知識を身につける。本科目は、人の健康と生活文化に資する学問であるとともに、これに続く調理学実習や実際の食生活、あるいは食に関わる現場に活かすことができる学修内容である。	1. 調理操作、食品の調理性について理論的に説明できる。（知識・理解） 2. 食品の安全性の重要性を認識し、衛生管理の方法について食品、調理操作ごとに説明できる。（知識・理解） 3. 食事計画に関わる事項を体系的に説明できる。（知識・理解） 4. 官能評価に関わる事項を各手法の特徴もふまえて説明できる。（知識・理解） 5. 調理の設備・器具・エネルギー資源・管理に関わる事項を体系的に説明できる。（知識・理解） 6. 日本の食事の歴史と文化、外国の食文化について基礎的な事項を説明できる。（知識・理解）	1. 調理操作、食品の調理性について基礎的な事項を説明できる。（知識・理解） 2. 食品の安全性の重要性を認識し、衛生管理の方法について基礎的な事項を説明できる。（知識・理解） 3. 食事計画に関わる基礎的な事項を説明できる。（知識・理解） 4. 官能評価に関わる基礎的な事項を説明できる。（知識・理解） 5. 調理の設備・器具・エネルギー資源・管理に関わる基礎的な事項を説明できる。（知識・理解） 6. 日本の食事の歴史と文化、外国の食文化について、いくつか説明できる。（知識・理解）
調理学実習Ⅰ	家政学部 学科 専門教育科目 食物栄養学科 食物学専攻	2	2	調理学の講義をもとに、各種食品の栄養特性、調理性（植物性食品、動物性食品、成分抽出素材等）ならびに基礎的調理手法（非加熱調理操作、加熱調理操作、調味操作等）の要点を科学的に学び、理論と実習の結びつきを理解する。さらに献立構成、食事作法なども学ぶ。食品の特徴を理解し、適切な調理手法を用いて日本料理、中国料理、西洋料理（各料理様式別）、行事食の実習を食品の安全性・衛生管理を考慮しながら行う。実習を経験することにより、机上で理解した知識を調理技能とともに深く身につけることができる。本科目は実際の食生活、あるいは食に関わる現場で活かすことができる学修内容である。	1. 食品の栄養特性、調理性等について植物性食品、動物性食品、成分抽出素材、その他の食品ごとに説明できる。（知識・理解） 2. 栄養面、安全面、嗜好面の各特性を高める食品の基礎的調理方法について調理理論と結びつけて説明できる。（知識・理解） 3. 食品の安全性の重要性を認識し、衛生管理の方法について食品、調理操作ごとに説明できる。（知識・理解） 4. 効率よく、適切な調理・調味操作ができる。（思考・判断・表現）（技能） 5. 料理様式別に（日本料理、中国料理、西洋料理）、日常の献立を組むことができ、行事食の実習を実際の食生活で活かすことできる。（知識・理解）（思考・判断・表現）（技能）	1. 食品の栄養特性、調理性等について基礎的な事項を説明できる。（知識・理解） 2. 栄養面、安全面、嗜好面の各特性を高める基礎的調理方法について基礎的な事項を説明できる。（知識・理解） 3. 食品の安全性の重要性を認識し、衛生管理の方法について基礎的な事項を説明できる。（知識・理解） 4. 適切な調理・調味操作ができる。（思考・判断・表現）（技能） 5. 日常の献立を組むことができ、行事食の実習を実際の食生活の中で結びつけることができる。（知識・理解）（思考・判断・表現）
調理学実習ⅠⅠ	家政学部 学科 専門教育科目 食物栄養学科 食物学専攻	3	3	調理学および調理学実習Ⅰで学んだ基礎的調理法をふまえ、応用調理の手法を科学的に学び、効率的な調理操作法を身につける。日本料理、中国料理および西洋料理等の料理様式の特徴・食膳形式・食事作法、その他の国の料理や融合料理の特徴、行事食の種類と特徴、各種Partyの料理の献立の構成・テーブルセッティングおよび食事作法などを、食文化や調理理論に基づき理解を深め実施する。本科目を履修することにより、調理に関する知識・技術を向上させ、家庭での食生活や社会における食の現場で活かすことができる。また、履修者一人ひとりが「日々の食事や行事食の意義を考えて調理を実施し、食に関わる専門家としての知識と技術を発信する能力を身につけることができる。」	1. 応用料理の手法を、調理理論に基づいて各種説明することができる。（知識・理解） 2. 栄養面、安全面、嗜好面の各特性を高める食品の応用調理手法について、調理理論と結びつけて説明できる。（知識・理解） 3. 各料理様式およびParty等の特徴や献立構成について説明でき、実際の食生活で効率的に選択して利用できる。（知識・理解）（思考・判断・表現） 4. 行事食の実習を通して家庭、社会における行事食の意義について理解し説明することができる。また、ハレの食事を自ら計画し実生活に利用できる。（知識・理解）（思考・判断・表現） 5. 各自で献立作成、調理操作、テーブルセッティングを含めた食企画を立案し、PDCAサイクルに基づき実行することができる。また、それを詳しく発表できる。（関心・意欲・態度）（技能）（思考・判断・表現）	1. 応用料理の手法を、調理理論に基づいて代表的なものを説明することができる。（知識・理解） 2. 栄養面、安全面、嗜好面の各特性を高める食品の応用調理手法について、いくつか説明できる。（知識・理解） 3. 各料理様式およびParty等の特徴や献立構成についていくつか説明でき、実際の食生活で利用できる。（知識・理解）（思考・判断・表現） 4. 行事食の実習を通して家庭における行事食の意義について理解し説明することができる。また、ハレの食事を利用できる。（知識・理解）（思考・判断・表現） 5. 各自で献立作成、調理操作、テーブルセッティングを含めた食企画を立案し、実行することができる。また、それを発表できる。（関心・意欲・態度）（技能）（思考・判断・表現）
調理学実験	家政学部 学科 専門教育科目 食物栄養学科 食物学専攻	3	3	調理過程に起こる現象のほとんどは化学・物理・生物的要素が深く関わっている。そこで基礎的な調理操作および食品の調理特性などから実験テーマをとりあげ、何故このような現象がおこるのか、科学的思考および官能評価による食味特性から考察する。また得られた結果から調理への適用を考察し、調理が理論的に、しかも再現性よく行えるようにする。本科目は机上で学んだ調理学の知識を実験を通してより理解することができ、調理学実習や実際の食生活、あるいは食に関わる現場で活かすことができる学修内容である。	1. 各回の実験から、調理操作、食品の調理性を理解し、科学的根拠をもとに説明できるようになる。（知識・理解） 2. レポートのまとめ方を習得し、実験結果を理論的に考察できるようになる。（知識・理解） 3. 自ら調理をする上で疑問に感じていることを指摘・発見し、その原因・理由は何であるか実験や文献検索をしながら証明できるようになる。（知識・理解）（思考・判断・表現） 4. フードスペシャリストの過去問題（調理学に関する分野）を間違えずに解答することができる。（知識・理解）	1. 各回の実験から、調理操作、食品の調理性を理解し説明できるようになる。（知識・理解） 2. レポートのまとめ方を習得し、実験結果を考察できるようになる。（知識・理解） 3. 自ら調理をする上で疑問に感じていることを指摘・発見することができる。（知識・理解）（思考・判断・表現）

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
調理科学	家政学部 学科 専門教育科目 食物栄養学科 食物学専攻	3	3	調理素材としての食品の多くは複合成分から構成されており、調理過程においては成分変化などの様々な現象が起こる。実際の調理においては一種以上の食品を組み合わせて、調理操作を行い、調味し供す。この過程においては化学、生物学、物理学が深く関与し、さらに食べる段階においては人の嗜好や文化的背景、心理状態も加わり様々な要因が関わってくる。失敗なく再現性のある調理を行い、且つ美味しく食べるためには調理に関わる諸問題を科学的に解明する必要がある。本科目は、「調理学」の調理操作論および食品の調理性の内容をさらに深く学び、調理を科学的視点から考察する。また、これまで報告されている調理科学に関する論文を通読する。これにより得た知識を応用展開できる力を身につける。本科目は調理学実習や実際の食生活、あるいは食に関わる現場で活かすことができる学修内容である。	1. 調理素材としての食品の特性を理解し、調理過程において食品の組織や成分がどのように変化するか、その理由とともに説明できる。（知識・理解） 2. 失敗なく再現性のある調理を行い、且つ美味しく食べるためにはどのような要因が関わってくるのかを理論的に説明できる。（知識・理解） 3. 興味ある調理科学に関する研究論文について、その内容を理論的に説明できる。（知識・理解）（関心・意欲・態度） 4. 日々の生活から調理に関わる疑問点を見出し、説明するための方法を提案することができる。（知識・理解）（関心・意欲・態度）	1. 調理素材としての食品の特性を理解し、調理過程において食品の組織や成分がどのように変化するか説明できる。（知識・理解） 2. 失敗なく再現性のある調理を行い、且つ美味しく食べるためにはどのような要因が関わってくるのかを説明できる。（知識・理解） 3. 興味ある調理科学に関する研究論文について、その内容を説明できる。（知識・理解）（関心・意欲・態度） 4. 日々の生活から調理に関わる疑問点を見出すことができる。（知識・理解）（関心・意欲・態度）
食事計画・評価論	家政学部 学科 専門教育科目 食物栄養学科 食物学専攻	3	3	現代の食生活は、物質的な豊かさや経済的な合理性の追求よりも、心情的にも質の高い食事が求められるようになってきた。食に関するさまざまな場面において満足できる環境を効果的に演出するためには、食物自体のおいしさに関する科学的知識や技術に加えて、人の心に内在する食に対する充足感を満たすための心理的、文化的側面についての教養や感性も必要となる。 本科目では、食に関するコーディネートを行う際に必要な基礎知識、専門用語を身につけるため、1)食べ物のおいしさの本質、2)もてなしの形ともてなしの心、3)各国の食事様式が形成された食文化、4)各国食事様式の特徴およびサービスとマナーについて学び、5)メニュープランニングのための基礎的な手法、6)食空間のコーディネート法、7)起業の基礎、8)食企画の流れや基礎スキルを理解する。また、食事計画の実践として、食品成分表や食事バランスガイドを活用してライフステージに合わせた安全面・栄養面・嗜好面の考慮のし方を学び、①行事食に合わせた献立、②日常の献立の立て方を身につける。	1. 食べ物のおいしさの本質にかかわる要因や、もてなしの形およびもてなしの心の必要性について説明できる。（知識・理解） 2. 各国の食事様式の特徴および食文化について、文化的、社会的な役割および社会情勢を踏まえて説明できる。（知識・理解） 3. 食事様式別のサービスとマナーの特徴と技法、プロトコルについて説明できる。（知識・理解） 4. 顧客やTP0に応じた食事様式別のメニュープランニングについて説明できる。（知識・理解） 5. 6W3Hを意識した食空間のコーディネートに関する基礎的な手法について説明できる。（知識・理解） 6. 起業の基礎および食企画の基礎を理解し、食企画の立案をまとめて提案することができる。（思考・判断・表現） 7. 日常食および行事食を用いた献立を組み立てることができ、食事計画を評価することができる。（思考・判断・表現）	1. 食べ物のおいしさの本質、もてなしの形、もてなしの心について基本的な事項を説明できる。（知識・理解） 2. 各国の食事様式の特徴および食文化について基本的な事項を説明できる。（知識・理解） 3. もてなす側のサービスおよびもてなされる側のマナーについて説明できる。（知識・理解） 4. 食事様式別のメニュープランニングについて説明できる。（知識・理解） 5. 食空間のコーディネートの基礎について説明できる。（知識・理解） 6. 起業の基礎および食企画の基礎を理解し、食企画を立案できる。（思考・判断・表現） 7. 日常食および行事食を用いた献立を組み立てることができる。（思考・判断・表現）
伝統食品・調理論	家政学部 学科 専門教育科目 食物栄養学科 食物学専攻	4	4	我が国には各地の風土、文化などに対応して様々な伝統食品、郷土料理や調理方法などがある。イタリアからはじまったスローフード活動が世界に広がり、日本でも改めて伝統食品、郷土料理などが見直されている。これらは長い歴史の中で、各地域独特のものとして発達し、そこから先人の知恵や文化的背景をうかがい知ることができる。特に調理方法や調理器具は合理的、機能的であり調理理論にかなったものである。しかし現代、食品や調理法は多様化し、これら伝統食品への関心は薄れている。本科目では伝統食品、郷土料理の特徴をこれらが発達した各地域の風土、原材料、調理方法、調理器具、文化的背景などから調理理論と合わせて理解する。伝統とは何か、真の豊かさとは何かについて考え、その重要性を認識し、食の専門家としてのアイデンティティーを確立する。確立したアイデンティティーは日々の食生活や食に関わる現場での判断基準となり、様々な場面で活かすことができる。	1. 日本の伝統食品、各地の郷土料理の種類、特徴を文化的背景もふまえて説明できる。（知識・理解） 2. 先人の知恵と調理理論を結びつけて食品ごと、調理操作ごとに説明できる。（知識・理解） 3. 伝統とは何か、真の豊かさとは何かについて考え、自分なりの結論を導き出すことができる。さらになぜ伝統を重んじる必要があるか、なぜ後世に伝え繋ぐ必要があるか具体的に述べることができる。（思考・判断・表現）	1. 日本の伝統食品、各地の郷土料理の種類、特徴を説明できる。（知識・理解） 2. 先人の知恵と調理理論を結びつけて説明できる。（知識・理解） 3. 伝統とは何か、真の豊かさとは何かについて考え、自分なりの結論を導き出すことができる。（思考・判断・表現）
伝統食品・調理論実習	家政学部 学科 専門教育科目 食物栄養学科 食物学専攻	4	4	伝統食品・調理論の講義を基に実習を行う。日本料理は、季節感を大切にし、旬のものを用いる他、食品の持ち味を生かした味付け、繊細な盛り付けなど世界からの関心も高い。また南北に長い日本では各地域の風土、文化に対応した伝統食品、郷土料理が発達してきた。日本料理、郷土料理の実習を通してこれらの特徴を学び、調理の技術を身につけることはもちろん、献立作成、食品素材、調理理論、盛り付け、配膳、試食の際のマナーなどについて理解する。授業は日本料理、郷土料理を中心に実習を行う。また各自、郷土料理、正月料理、諸外国の伝統料理などについて調査し、プレゼンテーションおよび実習を行う。実習を通じて自国の食を見直し、食の専門家としてのアイデンティティーを確立する。確立したアイデンティティーは日々の食生活や食に関わる現場での判断基準となり、様々な場面で活かすことができる。	1. 日本料理、西洋料理、中国料理の特徴を気候風土・文化的背景もふまえて説明できる。（知識・理解） 2. 日本の郷土料理を気候風土・文化的背景もふまえて都道府県ごとに列挙することができる。（知識・理解） 3. 伝統とは何か、真の豊かさとは何かについて考え、自分なりの結論を導き出すことができる。さらになぜ伝統を重んじる必要があるか、後世に伝え繋ぐ必要があるか具体的に述べることができる。（思考・判断・表現） 4. 目的に応じた献立作成、効率のよい調理、美しい盛り付け、配膳ができる。さらに、高度な調理技術として桂むきができる。（技能）	1. 日本料理、西洋料理、中国料理の特徴を説明できる。（知識・理解） 2. 日本の郷土料理を都道府県ごとに列挙することができる。（知識・理解） 3. 伝統とは何か、真の豊かさとは何かについて考え、自分なりの結論を導き出すことができる。（思考・判断・表現） 4. 目的に応じた献立作成、効率のよい調理、美しい盛り付け、配膳ができる。（技能）
食文化概論	家政学部 学科 専門教育科目 食物栄養学科 食物学専攻	1	1	文化の側面からとらえた人間の食について理解する。食生活は、人間の営みである。そのため、人間の食を理解するためには、身体の生理的必要性や自然環境の条件付けをふまえながらも、社会・文化的環境についても知らなければならぬ。私たちが異なる食文化の背景には、私たちとは異なる身体観、衛生観、社会構造があるのである。食文化の多様性は、人類の文化の多様性の一つのあらわれなのである。現在、我々の目前で展開される食に関する諸現象も、文化の側面から考えることもできる。このような背景をもとに、本科目では人間の食の文化的側面について、基本的事項を理解する。	1. 食文化を学ぶための基本的な概念について、説明できる。（知識・理解） 2. 世界の食料生産の技術と食文化について、その歴史、地域性、課題について、例を挙げて説明できる。（知識・理解） 3. 世界各地の主食について、その文化的背景について、説明できる。（知識・理解） 4. 世界各地の食具の扱い方、食のタブーについて、包括的に説明することができる。（知識・理解） 5. 日本の食文化の文化的歴史的構造について、説明できる。（知識・理解） 6. 人類の食文化の多様性について考察し、自分の意見を表現することができる。（思考・判断・態度）	1. 食文化を学ぶための基本的な概念について、列記できる。（知識・理解） 2. 世界の食料生産の技術と食文化について、その歴史、地域性について、列記できる。（知識・理解） 3. 世界各地の主食について、挙げるができる。（知識・理解） 4. 世界各地の食具の扱い方、食のタブーについて、列記できる。（知識・理解） 5. 日本の食文化の特色について、述べるができる。（知識・理解） 6. 人類の食文化の多様性について述べるができる。（知識・理解）

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
食物史	家政学部 学科 専門教育科目 食物栄養学科 食物学専攻	2	2	この授業の目的は、日本の自然環境や社会背景に配慮しながら、日本の食物の変遷と日本型食生活の特色について知ることである。目標は、世界史の流れのなかで培われた日本の食文化の特色を理解し、それを踏まえて現代日本の食について複合的に判断できるようになることである。日本には、狩猟・最終の時代とその後の農耕生活と長い食の歴史があり、食物史は、守備範囲が広く多岐にわたり裾野が広大な分野である。この授業では、前半は日本の各時代の食生活の特徴について知り、後半は、食器・食具、茶、酒、菓子、行事食、カレー、ラーメンなどのテーマ別に日本の食物の歴史について理解する。	1. 食物の歴史を、日本を立脚点として体系的に説明することができる。（知識・理解） 2. 日常生活でよく食べる料理の起源について、解釈することができる。（知識・理解） 3. 身近な食物を、包括的に説明することができる。（知識・理解） 4. 他の地域の食文化について、比較して関係づけながら、説明することができる。（知識・理解） 5. 世界各地の食事マナーについて、包括的に説明することができる。（知識・理解） 6. 日本における主食の意義について系統立て、自分の意見を表現することができる。（思考・判断・態度）	1. 食物の歴史を、例を挙げて説明することができる。（知識・理解） 2. 日常生活でよく食べる料理の起源について、述べることができる。（知識・理解） 3. 身近な食物を、具体的に説明することができる。（知識・理解） 4. 他の地域の食文化について、列記することができる。（知識・理解） 5. 世界各地の食事マナー、食のタブーについて、列挙することができる。（知識・理解） 6. 日本の主食について、説明することができる。（知識・理解）
食器論	家政学部 学科 専門教育科目 食物栄養学科 食物学専攻	2	2			
比較食文化論	家政学部 学科 専門教育科目 食物栄養学科 食物学専攻	3	3	この授業の目的は、食文化の基本的概念を知り、食文化の様々な側面の学習を通して、食文化全体についての理解を深めることである。私たちは、毎日食事を行うが、その行動は我々自身の背景にある文化によって決定づけられている。自分たちにとっては当たり前のことも、他の文化に属する人々から見るとそうではないかもしれない。そのため、食文化理解のためには常に「比較」の視点を持つことが必要である。我々は、地域や時代が異なる社会の食文化を考察することによって、自分たちの食文化の恣意性をも判断することができるのである。この授業では、食文化の様々な側面に焦点を当て、食文化の奥深さを理解し、ユネスコの無形文化遺産に登録された「和食」が持つ、日本の年中行事食の豊かな伝統についても認識する。	1. 食文化の主要な主題について説明できる。（知識・理解） 2. 食生活の具体例について、文化面から比較できる。（知識・理解） 3. 現代社会における食の社会的現象を、文化研究の視点から解釈することができる。（知識・理解） 4. 食文化についての自己の意見を系統立てて表現することができる。（態度・習慣） 5. 世界各地の食事マナー、食のタブーについて、包括的に説明することができる。（知識・理解） 6. 世界各地の主食の種類について、系統立てて、自分の意見を表現することができる。（思考・判断・態度）	1. 食文化の主要な主題について述べるることができる。（知識・理解） 2. 食生活の具体例について、列挙できる。（知識・理解） 3. 現代社会における食の社会的現象を、列記することができる。（知識・理解） 4. 食文化についての自己の意見を表現することができる。（態度・習慣） 5. 世界各地の食事マナー、食のタブーについて、述べるることができる。（知識・理解） 6. 世界各地の主食の種類について、列挙できることができる。（思考・判断・態度）
食物特別講義	家政学部 学科 専門教育科目 食物栄養学科 食物学専攻	3	3	この科目は、フードスペシャリスト資格の取得には必修である。フードスペシャリストとは、流通・消費分野において、食品の品質判別、情報提供、コーディネートなど、供給側と消費者側との間に立った食品の専門家としての活躍が期待されている。即ち、食と健康、食と嗜好、食卓とサービス、各種のこだわり食品などについての広い知識と、現実に流通している食商品についての十分な知識を持っていることが必要である。	1. 「フードスペシャリスト資格認定試験」、専門フードスペシャリスト資格認定試験」に合格するための関連知識を得る。（知識・理解） 2. 「フードスペシャリスト資格認定試験」、専門フードスペシャリスト資格認定試験」に合格することを目的に、自発的に試験対策を行う。（関心・意欲・態度） 3. 成績評価試験（学内模試）で、「フードスペシャリスト資格認定試験」、専門フードスペシャリスト資格認定試験」合格ラインに達する（関心・意欲・態度）	1. 「フードスペシャリスト資格認定試験」に合格するための関連知識を得る。（知識・理解） 2. 「フードスペシャリスト資格認定試験」に合格することを目的に、自発的に試験対策を行う。（関心・意欲・態度） 3. 成績評価試験（学内模試）で、「フードスペシャリスト資格認定試験」合格ラインに達する。（関心・意欲・態度）
食料経済	家政学部 学科 専門教育科目 食物栄養学科 食物学専攻	2	2	食料は、経済の発展に伴い流通、加工を担う主体や家庭内での調理過程が外部化され外食産業の登場、拡大等により需要の変化に応じたフードシステムが形成され、食料の安定供給と食生活の向上が図られてきた。その一方で、食料自給率の低下、食の安全・安心の確保、環境問題への対応等の課題が発生している。こうした状況の下、国民の豊かで健全な食生活の実現に向けては、このような食市場の変化や課題の発生がどのように起こったのかを理解することが重要である。本科目では、わが国における食市場の変化とそれを支えている食品産業の実態についての知識を身につけるとともに、その背景にある経済社会の構造および経済学的概念を理解する。併せて、食に関連する諸制度の内容とそれが及ぼす効果・影響について理解するとともに、関連する統計情報等のデータを把握し、使用できるようにする。	1. 農産物の市場取引における需要、供給、価格に関する経済学的概念について、具体的な現象例を示して説明できる。（知識・理解） 2. 食生活、食料消費の変化とその要因について、関連するデータを収集・整理・分析して説明できる。（知識・理解） 3. フードシステムを構成する食品製造業、食品流通業、外食産業の実態について、関連するデータを収集・整理・分析して説明できる。（知識・理解） 4. 米麦、野菜、畜産等の主要な農産物の品目について、生産、流通にかかる制度の概要および関連するデータを使用して生産、流通、消費の現状と特徴について説明できる。（知識・理解） 5. 食品の安全性、食品ロスとリサイクル、食品表示等の食に関する近年の課題について、関連制度を含めて説明できる。（知識・理解）	1. 農産物の市場取引における需要、供給、価格に関する経済学的概念について、基本的な事項を説明できる。（知識・理解） 2. 食生活、食料消費の変化とその要因について、基本的な事項を関連するデータを使用して説明できる。（知識・理解） 3. フードシステムを構成する食品製造業、食品流通業、外食産業の実態について、基本的な事項を関連するデータを使用して説明できる。（知識・理解） 4. 米等の代表的な農産物の品目について、その生産、流通、消費の現状と特徴について、基本的な事項を関連するデータを使用して説明できる。（知識・理解） 5. 食品の安全性、食品ロスとリサイクル、食品表示等の食に関する近年の課題について、基本的な事項を説明できる。（知識・理解）
食資源論	家政学部 学科 専門教育科目 食物栄養学科 食物学専攻	2	2			

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
製品開発論	家政学部 学科 専門教育科目 食物栄養学科 食物学専攻	3	3	食品企業で実際の研究開発に携わり経験豊富な講師陣が、広い視点から食品関係の製品開発について、オムニバス形式で講義を行う。製品（食品）を開発するには原料から製造、流通、消費までの流れ（フードシステム）を理解しておく必要がある。近年、わが国の食生活はニーズの多様化、健康志向など急速に変化しており、また食品産業も国際化により原料、製造技術、生産体制など著しい変容を遂げている。食の現場での製品開発の具体例を学ぶことにより、食品開発についての実際の深い理解を得ることができる。	1.原料から製造、流通、消費までの流れ（フードシステム）について、具体的な事例を挙げて説明できる。（知識・理解） 2.製品開発のコンセプトについて、具体的な事例を挙げて説明することができる。（知識・理解） 3.講師が紹介した原料を用いた製品開発のレポート作成し、経験豊かな講師の高評価を得ることができる。（思考・判断・表現）	1.原料から製造、流通、消費までの流れ（フードシステム）について説明できる。（知識・理解） 2.製品開発のコンセプトについて説明することができる。（知識・理解） 3.講師が紹介した原料を用いた製品開発のレポートを作成できる。（思考・判断・表現）
健康管理概論 （社会福祉概論を含む）	家政学部 学科 専門教育科目 食物栄養学科 管理栄養士専攻	1	1	健康管理概論は、管理栄養士国家試験の「社会・環境と健康」の前半三分の一に相当する部分である。健康とは何か、そして人間の健康を規定する要因としての社会や環境を理解することは、地域社会、学校、職域などの集団に健康増進や疾病予防対策を展開するための基礎的な知識である。そこで、本科目では、人間の生活を生態系に位置付けて理解し、集団の健康に影響を及ぼす環境と生活習慣（ライフスタイル）、我が国の健康状態の現状を把握し、社会や環境が人間の健康をどのように決定し左右するか、あるいは人間の健康を保持増進するための社会や環境のあり方など、社会や環境と健康の関係を理解する。	1.社会の発展に伴う健康の概念の移り変わりを、時系列で説明できる（知識・理解）。 2.社会や環境が人間の健康の規定する仕組みや要因を理解し、論理的に説明できる（知識・理解）。 3.人間の健康を保持・増進するための社会や環境について、これまでのあり方の問題点を説明できる（知識・理解）。 4.我が国の保健統計の概要を理解し、それぞれの違い比較しながら説明できる（知識・理解）。 5.人間の健康状態に影響を及ぼす環境と生活習慣を理解し、具体例を説明できる（知識・理解）。	1.健康の概念を説明できる（知識・理解）。 2.社会や環境が人間の健康の規定する仕組みや要因について、基本的な事項を説明できる（知識・理解）。 3.人間の健康を保持・増進するための社会や環境のあり方について、基本的な事項を説明できる（知識・理解）。 4.我が国の保健統計の概要を説明できる（知識・理解）。 5.人間の健康状態に影響を及ぼす環境と生活習慣を説明できる（知識・理解）。
公衆衛生学I	家政学部 学科 専門教育科目 食物栄養学科 管理栄養士専攻	3	3	公衆衛生学は管理栄養士国家試験の「社会・環境と健康」の後半に相当するものである。地域社会、学校、職域などの集団に対し、健康増進や疾病予防対策を展開するためには、保健・医療・福祉・介護制度を理解する必要がある。そこで、本科目では、わが国の健康・疾病に関わる統計資料、健康状態・疾病の測定と評価の考え方、健康増進や疾病予防を理解する。	1.健康や疾病に関わる統計資料について、日本と海外の違いを理解し、それらの過去から現在の移り変わりを説明できる（知識・理解）。 2.わが国の保健・医療・福祉・介護制度や関連法規の概要を理解し、それぞれの制度のつながりを説明できる（知識・理解）。 3.わが国の保健・医療・福祉・介護システムを理解し、その中で管理栄養士が果たすべき役割を説明できる（関心・意欲・態度）。 4.健康状態や疾病の測定と評価方法について、目的に応じた測定および評価方法を述べることができる（知識・理解）。 5.1から4を理解したうえで、対象集団に応じた健康増進や疾病予防について総合的に説明できる（関心・意欲・態度）。	1.わが国の健康や疾病に関わる統計資料を説明できる（知識・理解）。 2.わが国の保健・医療・福祉・介護制度や関連法規の概要を説明できる（知識・理解）。 3.わが国の保健・医療・福祉・介護システムにおける管理栄養士の役割を説明できる（関心・意欲・態度）。 4.健康状態や疾病の測定と評価方法を述べることができる（知識・理解）。 5.1から4を理解したうえで、健康増進や疾病予防の基本的な事項を説明できる（関心・意欲・態度）。
公衆衛生学II	家政学部 学科 専門教育科目 食物栄養学科 管理栄養士専攻	3	3	集団の健康増進や疾病予防対策を展開するためには、健康状態の健康状態・疾病の測定と評価方法と主要な疾患の疫学を理解する必要がある。本科目では、公衆衛生学Iに引き続き、集団の健康状態・疾病の測定と評価方法と主要な疾患（がん・循環器疾患・代謝疾患・感染症など）の疫学と、予防対策を理解する。	1.様々な疫学研究の方法の科学的エビデンスのレベルの違いについて理解し、対象集団の健康状態を評価するのに最適な方法を述べる（知識・理解）。 2.様々な集団の健康状態の評価方法の精度について、その違いを科学的に述べる（知識・理解）。 3.主要な疾患の疫学について、過去から現在の移り変わりを、海外の状況と比較しながら述べる（知識・理解）。 4.主要な疾患の予防およびリスク要因について理解し、対象集団の現状に即した疾病の予防およびリスク要因を述べる（知識・理解）。 5.1から4を理解したうえで、我が国の健康増進や疾病対策の利点と欠点を総合的に述べる（知識・理解）。	1.様々な疫学研究の方法の科学的エビデンスのレベルの違いを述べる（知識・理解）。 2.様々な集団の健康状態の評価方法の精度を理解している（知識・理解）。 3.主要な疾患の疫学について、過去から現在の移り変わりを述べる（知識・理解）。 4.主要な疾患の予防およびリスク要因について述べる（知識・理解）。 5.1から4を理解したうえで、我が国の健康増進や疾病対策の基本的な事項を述べる（知識・理解）。
生化学I	家政学部 学科 専門教育科目 食物栄養学科 管理栄養士専攻	1	1	管理栄養士として社会に貢献するために必要とされる生化学の基礎知識を修得することを目標とする。専門科目を学習する前に、生命の基本メカニズムに関する基礎知識が理解できるようになる。生物を構成する様々な物質の化学的性質を知り、こうした物質の生体内（特にヒト）における化学変化や、生命現象との関係を学習する。生化学Iでは、細胞の基本構造と機能、生体成分である糖質・脂質・タンパク質・核酸・ビタミンなどの化学構造と機能、酵素の作用メカニズム、消化吸収のメカニズム、エネルギー代謝、糖質代謝などについて学ぶ。	1.細胞の基本構造と機能について、分子レベルで総合的内容を説明できる。（知識・理解） 2.生体成分の化学構造と機能について、分子レベルで総合的内容を説明できる。（知識・理解） 3.酵素の作用メカニズムについて、分子レベルで総合的内容を説明できる。（知識・理解） 4.消化吸収のメカニズムについて、分子レベルで総合的内容を説明できる。（知識・理解） 5.エネルギーおよび糖質の代謝について、分子レベルで総合的内容を説明できる。（知識・理解）	1.細胞の基本構造と機能について、基本的内容を説明できる。（知識・理解） 2.生体成分の化学構造と機能について、基本的内容を説明できる。（知識・理解） 3.酵素の作用メカニズムについて、基本的内容を説明できる。（知識・理解） 4.消化吸収のメカニズムについて、基本的内容を説明できる。（知識・理解） 5.エネルギーおよび糖質の代謝について、基本的内容を説明できる。（知識・理解）

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
生化学II	家政学部 学科 専門教育科目 食物栄養学科 管理栄養士専攻	2	2	管理栄養士として社会に貢献するために必要とされる生化学の基礎知識を修得することを目標とする。専門科目を学習する前に、生命の基本メカニズムに関する基礎知識が理解できるようになる。生物を構成する様々な物質の化学的性質を知り、こうした物質の生体内（特にヒト）における化学変化や、生命現象との関係を学習する。生化学IIでは、1年次に履修した生化学Iの内容を復習するとともに、糖質代謝、脂質代謝、アミノ酸代謝、ヌクレオチド代謝、核酸およびタンパク質の合成、ホルモンの作用メカニズム・シグナル伝達、血液・体液・免疫機構、ゲノムと遺伝子などについて学ぶ。	1.糖質・脂質・アミノ酸・ヌクレオチドの代謝について、分子レベルで総合的内容を説明できる。（知識・理解） 2.核酸およびタンパク質の合成について、分子レベルで総合的内容を説明できる。（知識・理解） 3.ホルモンの作用メカニズム・シグナル伝達について、分子レベルで総合的内容を説明できる。（知識・理解） 4.血液・体液・免疫機構について、分子レベルで総合的内容を説明できる。（知識・理解） 5.ゲノムと遺伝子について、分子レベルで総合的内容を説明できる。（知識・理解）	1.糖質・脂質・アミノ酸・ヌクレオチドの代謝について、基本的内容を説明できる。（知識・理解） 2.核酸およびタンパク質の合成について、基本的内容を説明できる。（知識・理解） 3.ホルモンの作用メカニズム・シグナル伝達について、基本的内容を説明できる。（知識・理解） 4.血液・体液・免疫機構について、基本的内容を説明できる。（知識・理解） 5.ゲノムと遺伝子について、基本的内容を説明できる。（知識・理解）
生化学実験I	家政学部 学科 専門教育科目 食物栄養学科 管理栄養士専攻	2	2	「生化学実験I」では、生化学・基礎栄養学及びその関連科目の講義で学んでいることを基盤として、三大栄養素の消化実験および定量実験・反応速度論実験、さらには遺伝子実験を実際に体験することで、楽しみながら、机上の学習だけでは得られない深い理解を目指す。栄養分野の専門家となるためには、栄養素および生体物質の化学的特性と代謝への理解は特に重要である。また、これからの時代に即した専門家となるために分子生物学への深い知識も欠かせない。実体験を通じて、生化学の基礎を確実に習得する。	1.生化学・基礎栄養学の知識を基盤として、栄養素の構造と機能、栄養素の消化吸収と代謝の基礎、遺伝子と栄養の基礎について、実感を持って理解し、科学的に説明することができる。（知識・理解）（思考・判断・表現） 2.興味の対象を追究するために必要な実験手技および科学レポートの書き方をしっかりと習得することができる。（知識・理解）（思考・判断・表現）	1.生化学・基礎栄養学の知識を基盤として、栄養素の構造と機能、栄養素の消化吸収と代謝の基礎、遺伝子と栄養の基礎について、実感を持って理解し身につけることができる。（知識・理解） 2.興味の対象を追究するために必要な実験手技および科学レポートの書き方について基本的な事項を習得することができる。（知識・理解）（思考・判断・表現）
生化学実験II	家政学部 学科 専門教育科目 食物栄養学科 管理栄養士専攻	3	3	管理栄養士として社会に貢献するために必要とされる生化学の基礎知識を深める上で必要な実験技術を修得する。人体を構成する様々な物質の化学的性質を知り、生体内における化学変化や生命現象との関係について、生化学的手法を用いた実験を自分で実際に行いながら学習する。また、仮説を証明するために、自分自身で実験データを取得し、得られた結果から仮説の妥当性を考察するプロセスを学ぶ。具体的には、基本的な生化学実験操作技術（緩衝液の調製、定性、定量等）、生体成分（血糖、グリコーゲン、アミノ酸、タンパク質、酵素、DNA、ビタミン、ミネラル等）の分析技術、タンパク質や遺伝子の解析技術などを修得する。	1.人体を構成する様々な物質の化学的性質について、分子レベルで総合的内容を説明できる。（知識・理解） 2.生体内における化学変化や生命現象と、生体内物質との関係について、分子レベルで総合的内容を説明できる。（知識・理解） 3.基本的な生化学実験操作、生体成分の分析および解析などを、自ら率先して実施できる。（技能）（関心・意欲・態度） 4.自分自身で実験データを取得し、得られた結果から仮説の妥当性について、関連情報を調べた上で自分独自の視点を加えながら考察できる。（思考・判断・表現）（関心・意欲・態度）	1.人体を構成する様々な物質の化学的性質について、基本的内容を説明できる。（知識・理解） 2.生体内における化学変化や生命現象と、生体内物質との関係について、基本的内容を説明できる。（知識・理解） 3.基本的な生化学実験操作、生体成分の分析および解析などを、グループメンバーと協力し合いながら実施できる。（技能）（関心・意欲・態度） 4.自分自身で実験データを取得し、得られた結果から仮説の妥当性について、グループメンバーと協力し合いながら考察できる。（思考・判断・表現）（関心・意欲・態度）
病理学I	家政学部 学科 専門教育科目 食物栄養学科 管理栄養士専攻	2	2	病理学は正常な身体が外的および内的要因による刺激を受け、それに対する生体反応のプロセスと結果を理解する分野である。病理学Iでは、総論として、細胞傷害と再生、炎症、免疫、循環障害、先天異常と遺伝性疾患、感染症、環境因子と栄養、腫瘍、生活習慣病と代謝性疾患、難病と代謝障害、老年症候群などを学習する。また、管理栄養士国家試験科目の「人体の構造と機能および疾病の成り立ち」の中の一分野であることより、試験対策も行う。	1.病理学総論分野の基本的および発展的な知識を理解する。（知識・理解）。 2.人に起こる病気に興味を持ち、その原因、過程、結果について深く考察し、適切な専門用語を使い説明できる（思考・判断・表現）。 3.管理栄養士国家試験科目「人体の構造と機能および疾病の成り立ち」の中の該当する問題と同レベルの問題の80%以上を正解できる（思考・判断・表現）。	1.病理学総論分野の基本的な知識を理解する。（知識・理解）。 2.人に起こる病気に興味を持ち、その原因、過程、結果について考察し、わかりやすく説明できる（思考・判断・表現）。 3.管理栄養士国家試験科目「人体の構造と機能および疾病の成り立ち」の中の該当する問題と同レベルの問題の60%以上を正解できる（思考・判断・表現）。
病理学II	家政学部 学科 専門教育科目 食物栄養学科 管理栄養士専攻	2	2	病理学は正常な身体が外的および内的要因による刺激を受け、それに対する生体反応のプロセスと結果を理解する分野である。病理学IIでは、各論的事項を、臨床的見地から学習する。内容は、診断法、治療の概要、栄養・代謝系疾患、内分泌系疾患、消化管疾患、肝・胆・膵疾患、循環器系疾患、腎・尿路系疾患、神経・精神系疾患、呼吸器系疾患、血液・造血管系疾患、運動器疾患、皮膚系疾患、免疫・アレルギー系疾患、婦人科疾患などである。また、管理栄養士国家試験科目の「人体の構造と機能および疾病の成り立ち」の中の一分野であることより、試験対策も行う。	1.病理学各論分野の基本的および発展的な知識を理解する。（知識・理解）。 2.人に起こる病気に興味を持ち、その原因、過程、結果について深く考察し、適切な専門用語を使い説明できる（思考・判断・表現）。 3.管理栄養士国家試験科目「人体の構造と機能および疾病の成り立ち」の中の該当する問題と同レベルの問題の80%以上を正解できる（思考・判断・表現）。	1.病理学総論分野の基本的な知識を理解する。（知識・理解）。 2.人に起こる病気に興味を持ち、その原因、過程、結果について考察し、わかりやすく説明できる（思考・判断・表現）。 3.管理栄養士国家試験科目「人体の構造と機能および疾病の成り立ち」の中の該当する問題と同レベルの問題の60%以上を正解できる（思考・判断・表現）。

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
解剖生理学I	家政学部 学科 専門教育科目 食物栄養学科 管理栄養士専攻	1	1	人体を構造（形態）の面から追究する解剖学と機能（はたらき）の面から追究する生理学は相互に関係づけることで効率的に学習できる。解剖生理学Iでは、細胞と組織、骨格系、筋系、血液と免疫系、循環器系、内分泌系について学習する。発展的内容も取り入れ、将来学習する病理学や臨床栄養学への導入の役割をはたす。管理栄養士国家試験科目の「人体の構造と機能および疾病の成り立ち」の一分野であることより、試験対策も行う。	1. 人の細胞と組織について系統的に理解し基礎知識および発展的知識を身につける（知識・理解）。 2. 人の骨格系について、一般的に、その解剖学的構造と生理機能を理解することができる（知識・理解）。 3. 人の筋系について、一般的に、その解剖学的構造と生理機能を理解することができる（知識・理解）。 4. 人の血液と免疫系について、一般的に、その解剖学的構造と生理機能を理解することができる（知識・理解）。 5. 人の循環器系について、一般的に、その解剖学的構造と生理機能を理解することができる（知識・理解）。 6. 人の内分泌系について、一般的に、その解剖学的構造と生理機能を理解することができる（知識・理解）。 7. 解剖学、生理学の深い各論的知識をもとに、生命および健康の意味を思索し、適切な専門用語を用いて説明できるようになる（思考・判断・表現）。	1. 人の細胞と組織について系統的に理解し基礎知識を身につける（知識・理解）。 2. 人の骨格系について、その解剖学的構造と生理機能の基本事項を理解することができる（知識・理解）。 3. 人の筋系について、その解剖学的構造と生理機能の基本事項を理解することができる（知識・理解）。 4. 人の血液と免疫系について、その解剖学的構造と生理機能の基本事項を理解することができる（知識・理解）。 5. 人の循環器系について、その解剖学的構造と生理機能の基本事項を理解することができる（知識・理解）。 6. 人の内分泌系について、その解剖学的構造と生理機能の基本事項を理解することができる（知識・理解）。 7. 解剖学、生理学の基本的な各論的知識をもとに、生命および健康の意味を思索し、わかりやすく説明できるようになる（思考・判断・表現）。
解剖生理学II	家政学部 学科 専門教育科目 食物栄養学科 管理栄養士専攻	1	1	人体を構造（形態）の面から追究する解剖学と機能（はたらき）の面から追究する生理学は相互に関係づけることで効率的に学習できる。解剖生理学IIでは、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、神経系、感覚器系について学習する。発展的内容も取り入れ、将来学習する病理学や臨床栄養学への導入の役割をはたす。管理栄養士国家試験科目の「人体の構造と機能および疾病の成り立ち」の一分野であることより試験対策も行う。	1. 人体の構造と機能について系統的に理解し基礎知識および発展的知識を身につける（知識・理解）。 2. 人の消化器系について、一般的に、その解剖学的構造と生理機能を理解することができる（知識・理解）。 3. 人の呼吸器系について、一般的に、その解剖学的構造と生理機能を理解することができる（知識・理解）。 4. 人の泌尿、生殖器系について、一般的に、その解剖学的構造と生理機能を理解することができる（知識・理解）。 5. 人の神経系について、一般的に、その解剖学的構造と生理機能を理解することができる（知識・理解）。 6. 人の感覚器系について、一般的に、その解剖学的構造と生理機能を理解することができる（知識・理解）。 7. 解剖学、生理学の深い各論的知識をもとに、生命および健康の意味を思索し、適切な専門用語を用いて説明できるようになる（思考・判断・表現）。	1. 人体の構造と機能について系統的に理解し基礎知識を身につける（知識・理解）。 2. 人の消化器系について、その解剖学的構造と生理機能の基本事項を理解することができる（知識・理解）。 3. 人の呼吸器系について、その解剖学的構造と生理機能の基本事項を理解することができる（知識・理解）。 4. 人の泌尿、生殖器系について、その解剖学的構造と生理機能の基本事項を理解することができる（知識・理解）。 5. 人の神経系について、その解剖学的構造と生理機能の基本事項を理解することができる（知識・理解）。 6. 人の感覚器系について、その解剖学的構造と生理機能の基本事項を理解することができる（知識・理解）。 7. 解剖学、生理学の基本的な各論的知識をもとに、生命および健康の意味を思索し、わかりやすく説明できるようになる（思考・判断・表現）。
解剖生理学実験I	家政学部 学科 専門教育科目 食物栄養学科 管理栄養士専攻	2	2	解剖生理学実験Iの授業では、解剖生理学I、IIおよび病理学Iで学んだ知識をもとに、実験および自ら被験者となる体験によって人体の働きを理解する。 (1)神経系（膝蓋腱反射）・感覚系（嗅覚測定、視野測定）の実験 (2)心肺機能に関する実験（運動生理学的実験）(3)血圧に関する実験 (4)尿の化学検査、沈渣標本の作製と観察などの実験を行う。	1. 実験に先立ち、関連する解剖生理学的知見を深く理解できる（知識・理解）。 2. 実験の目的を理解し、実験方法を自ら構築し、実行できる（思考・判断・表現）。 3. 実験方法に習熟し、効率よく安全に実験し、安定した結果を得ることができる（技能）。 4. 実験結果を詳細に評価し、実験の意義を深く考察できる。 5. 実験で得た知見をもとに、さらに発展的な知見を文献的に調査し、考察を深めることができる（関心・意欲・態度）。	1. 実験に先立ち、関連する基本的な解剖生理学的知見を理解できる（知識・理解）。 2. 実験の目的を理解し、指示された実験方法を、実行できる（思考・判断・表現）。 3. 実験方法に習熟し、安全に実験し、結果を得ることができる（技能）。 4. 実験結果を評価し、実験の意義を考察できる。 5. 実験で得た知見に関する事項を文献的に調査し、考察に加えることができる（関心・意欲・態度）。
解剖生理学実験II	家政学部 学科 専門教育科目 食物栄養学科 管理栄養士専攻	2	2	解剖生理学実験IIの授業では、解剖生理学I、IIおよび病理学I、IIで学んだ知識をもとに、実験および模型やプレパラートの観察によって人体の構造と機能を理解する。(1)ラットの解剖実験 (2)骨格、筋、臓器標本の観察とスケッチ (3)組織プレパラートの顕微鏡観察とスケッチを行う。	1. 動物実験の方法に習熟し、効率よく安全に実行し、安定した結果を得ることができる（技能）。 2. 解剖所見を収集し、基礎的および発展的な知識と統合し、考察を加えたレポートを書くことができる（思考・判断・表現）。 3. 模型や標本を用いた学習により、人体の構造と機能に関する基礎的および発展的知識を確認する（知識・理解）。 4. 顕微鏡を正しく使用し、プレパラートの観察をスムーズに行うことができる（技能）。 5. 標本に興味を持って根気良く観察し、多くの所見を得て記述することができる（関心・意欲・態度）。	1. 動物実験の基本的な方法を習得し、安全に実行し、基本的な結果を得ることができる（技能）。 2. 解剖所見を収集し、基礎的な知識と統合し、考察を加えたレポートを書くことができる（思考・判断・表現）。 3. 各種標本を用いた学習により、人体の構造と機能に関する基礎的知識を確認する（知識・理解）。 4. 顕微鏡を正しく使用し、プレパラートの観察をスムーズに行うことができる（技能）。 5. 標本に興味を持って観察し、基礎的な所見を得て記述することができる（関心・意欲・態度）。
運動生理学	家政学部 学科 専門教育科目 食物栄養学科 管理栄養士専攻	3	3	近年、わが国では生活習慣病およびメタボリックシンドローム、ロコモティブシンドロームといった健康問題が認知され、健康づくりへの関心が高まっている。このような背景をもとに、本科目では、運動における身体の変化について形態的および機能的な面から理解する。また、健康づくりを目的とした運動処方考え方を理解する。さらに、近年取り上げられている運動方法や健康づくりに関する情報について考察する。	1. レジスタンストレーニング実施による身体の変化について、形態面および機能面から説明できる。（知識・理解） 2. 有酸素性トレーニング実施による身体の変化について、形態面および機能面から説明できる。（知識・理解） 3. 身体組成について、身体情報をもとに必要な数値を算出し、適切な評価ができる。（技能） 4. 1日のエネルギー消費量について、各項目別に算出し、予測できる。（技能） 5. 目的に合わせた運動処方の作成について、情報を活用しながら適切な運動内容を作成できる。（思考・判断・表現）	1. レジスタンストレーニング実施による身体の変化について説明できる。（知識・理解） 2. 有酸素性トレーニング実施による身体の変化について説明できる。（知識・理解） 3. 身体組成について評価ができる。（技能） 4. 1日のエネルギー消費量について予測できる。（技能） 5. 目的に合わせた運動処方の作成について、適切な運動を選択できる。（思考・判断・表現）

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
微生物学・免疫学	家政学部 学科 専門教育科目 食物栄養学科 管理栄養士専攻	1	1	微生物は、栄養学、農学、理学、薬学、遺伝学、医学など多くの分野に利用されており、その有用性を理解することや、また食中毒など感染症を認識する上で病原微生物と生体防御の関係をを理解することとは必要である。本科目では、微生物を知る上で、分類、形態構造、発育増殖の基本的な知識を身につけ、さらに感染症の要因とその生体の反応を知ることにより、免疫反応による生体防御機構を理解する。さらに、生活の中での基本的な感染症防御法を身につける。	1. 微生物の分類学上における種類を説明出来る。（知識・理解） 2. 微生物の基本的な形態構造と異なる種類の特徴的構造を細胞レベルで説明出来る。（知識・理解） 3. 微生物の増殖に関するメカニズムと必要な環境要因を生化学の視点から説明出来る。（知識・理解） 4. 微生物の利用において、その有用性を具体例を示して説明出来る。（知識・理解） 5. 病原微生物の感染様式と感染症の分類を説明出来る。（知識・理解） 6. 生体防御機構を細胞レベルと分子レベルで説明出来る。（知識・理解） 7. 感染防御の方法を法規と安全性の視点に立って説明出来る。（知識・理解）	1. 微生物の種類を総合的に説明出来る。（知識・理解） 2. 微生物の基本的な形態構造を説明出来る。（知識・理解） 3. 微生物の増殖に関する環境要因を総合的に説明出来る。（知識・理解） 4. 微生物の利用において有用な食品を列挙できる。（知識・理解） 5. 病原微生物の種類と感染症を総合的に列挙できる。（知識・理解） 6. 生体防御に関与する細胞と分子を列挙できる。（知識・理解） 7. 感染防御の具体的な方法を説明出来る。（知識・理解）
食品学総論	家政学部 学科 専門教育科目 食物栄養学科 管理栄養士専攻	2	2	食品学とは、食品の種類、成分、性状などについて基礎的な知識を幅広く学ぶ科目であり、食物分野・栄養分野全体の基礎となる科目である。今日、食品は世界中から輸入され、食生活が欧米化したことにより、がん、循環器疾患、糖尿病などの生活習慣病が増加し、これらの疾病の防止に食生活の改善が求められている。このようなことを背景に、本講義においては、水および食品について食品学的な側面から理解を深めていくとともに、調理・加工中のこれらの成分の変化について理解する。また、食品の嗜好成分、機能成分について学ぶとともに、食品表示法について理解する。	1. 人間と食べ物の関わりについて、食品の歴史の変遷と食物連鎖の両面から総合的に説明できる。（知識・理解） 2. 水の性質を理解した上で、水分含量と食品の保存性の関係について、代表的な食品ごとに説明できる。（知識・理解） 3. 食品の五大栄養素の性質および栄養性について、代表的な食品ごとに説明できる。（知識・理解） 4. 食品成分の調理・加工における成分の変化について、2と3の理解をふまえた上で総合的に説明できる。（知識・理解） 5. 食品の嗜好成分について、代表的な食品ごとに含有成分とその性質を説明できる。（知識・理解） 6. 食品成分の機能性、健康に与える影響、疾病予防に対する関与成分について、代表的な食品ごとにその名称と役割を総合的に説明できる。（知識・理解） 7. 食品の成分表示法について理解した上で、代表的な食品の特徴を説明できる。（知識・理解）	1. 人間と食べ物の関わりについて、食品の歴史の変遷と食物連鎖の両面から基本的な事項について説明できる。（知識・理解） 2. 水の性質、水分含量と食品の保存性の関係について基本的な事項を説明できる。（知識・理解） 3. 食品の五大栄養素の性質および栄養性について基本的な事項を理解している。（知識・理解） 4. 食品成分の調理・加工における成分の変化について基本的な事項を理解している。（知識・理解） 5. 食品の嗜好成分について、代表的な成分についてその基本的な性質を説明できる。（知識・理解） 6. 食品成分の機能性、健康に与える影響、疾病予防について基本的な事項を説明できる。（知識・理解） 7. 食品の成分表示法について基本的な事項を説明できる。（知識・理解）
食品学総論実験I	家政学部 学科 専門教育科目 食物栄養学科 管理栄養士専攻	2	2	食品学総論（2年次前期）で学んだ水分、5大栄養素(糖質、タンパク質、脂質、ビタミン、ミネラル)、嗜好成分について、主として日本食品標準成分表の分析法に準じ、身近な食品を用いて定量・定性分析を行う。この実験を通じて化学分析、食品分析の基本的な考え方を学び、あわせて食品学総論の講義で得た知識の理解を深める。	1. 各分析法について、原理、方法について理解し、説明ができる。（知識・理解） 2. グループで実験の進め方について話し合い、イニシアチブをとって実験を進めることができる。（関心・意欲・態度） 3. ガラス器具等の器具の取り扱いについて習熟し、使用法を正しく説明できる。（技能） 4. 分析に使用する試薬の作製法、使用目的を理解し、安全な使用方法について説明できる。（技能） 5. 実験の経過を踏まえながら、得られた分析結果についてグループ内でイニシアチブをとって考察できる。（思考・判断・表現） 6. 5をもとに実験経過、分析結果等を適切に考察したレポートを作成することができる。（思考・判断・表現）	1. 各分析法について、基本的な原理、方法について説明ができる。（知識・理解） 2. グループで実験の進め方について話し合い、安全に実験を進めることができる。（関心・意欲・態度） 3. ガラス器具等の器具の取り扱いについて説明できる。（技能） 4. 分析に使用する試薬の作製法、使用目的を理解し、安全に使用できる。（技能） 5. 実験の経過を踏まえながら、得られた分析結果についてグループで考察できる。（思考・判断・表現） 6. 5をもとにレポートを作成することができる。（思考・判断・表現）
食品学総論実験II	家政学部 学科 専門教育科目 食物栄養学科 管理栄養士専攻	3	3	食品学総論（2年次前期）で学んだ水分、5大栄養素(糖質、タンパク質、脂質、ビタミン、ミネラル)、嗜好成分について、主として日本食品標準成分表の分析法に準じ、身近な食品を用いて定量・定性分析を行う。この実験を通じて化学分析、食品分析の基本的な考え方を学び、あわせて食品学総論の講義で得た知識の理解を深める。また、高速液体クロマトグラフィー（HPLC）、ガスクロマトグラフィー（GC）等、食品分析には欠かせない機器を使用し、機器の取り扱い方の基礎的な知識を習得する。	1. 各分析法について、原理、方法について理解し、説明ができる。（知識・理解） 2. グループで実験の進め方について話し合い、イニシアチブをとって実験を進めることができる。（関心・意欲・態度） 3. ガラス器具等の器具の取り扱いについて習熟し、使用法を正しく説明できる。（技能） 4. 分析に使用する試薬の作製法、使用目的を理解し、安全な使用方法について説明できる。（技能） 5. 液体クロマトグラフィー等の分析機器の構成を理解し、基本的な取り扱い方を説明できる。（技能） 6. 実験の経過を踏まえながら、得られた分析結果についてグループ内でイニシアチブをとって考察できる。（思考・判断・表現） 7. 6をもとに実験経過、分析結果等を適切に考察したレポートを作成することができる。（思考・判断・表現）	1. 各分析法について、基本的な原理、方法について説明ができる。（知識・理解） 2. グループで実験の進め方について話し合い、安全に実験を進めることができる。（関心・意欲・態度） 3. ガラス器具等の器具の取り扱いについて説明できる。（技能） 4. 分析に使用する試薬の作製法、使用目的を理解し、安全に使用できる。（技能） 5. 液体クロマトグラフィー等の分析機器の構成を説明できる。（技能） 6. 実験の経過を踏まえながら、得られた分析結果についてグループで考察できる。（思考・判断・表現） 7. 6をもとにレポートを作成することができる。（思考・判断・表現）

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
食品衛生学	家政学部 学科 専門教育科目 食物栄養学科 管理栄養士専攻	2	2	食における安全性の確保は、食生活および食品産業を健全に維持・持続させるための最重要な課題である。腸管出血性大腸菌O157に代表されるように、我々の命を脅かす食中毒の要因は身近に存在する。また、食のグローバル化に伴う危険要因の多様化と伝播も国際的な問題となっている。このような背景をもとに、本科目では、食品の変質、食中毒、汚染物質、食品添加物、残留農薬についての知識を身につけ、併せて食品衛生に関わる法規と機構についても理解する。また、最新の情報をもとに、食の安全性確保のあり方についても考察する。	1. 腐敗および酸敗の化学的な視点から総合的に説明できる。（知識・理解） 2. 食中毒の発生時期と分類について説明できる。（知識・理解） 3. 食中毒要因物質の種類と食中毒症状および防除方法を化学的視点から物質レベルで説明できる。（知識・理解） 4. 汚染物質の種類と健康への影響を化学的視点から物質レベルで説明できる。（知識・理解） 5. 食品添加物の種類と用途および安全性評価について化学的視点から物質レベルで説明できる。（知識・理解） 6. 食品衛生の法規と行政機構について国際状況を踏まえて説明できる。（知識・理解） 7. 最新の食品衛生事件から食の安全について考察し、自ら資料調査ができる。（思考・判断・態度）	1. 腐敗および酸敗について説明できる。（知識・理解） 2. 食中毒の発生時期と分類について説明できる。（知識・理解） 3. 食中毒要因物質の種類と食中毒症状および防除方法を説明できる。（知識・理解） 4. 汚染物質の種類と健康への影響を説明できる。（知識・理解） 5. 食品添加物の種類と用途および安全性評価について説明できる。（知識・理解） 6. 食品衛生の法規と行政機構について説明できる。（知識・理解） 7. 最新の食品衛生事件から食の安全について考察できる。（思考・判断・態度）
食品利用学	家政学部 学科 専門教育科目 食物栄養学科 管理栄養士専攻	2	2	人は限られた食材を美味しくかつ長く食するために様々な加工食品を開発してきたが、食の多様化とグローバル化に伴い、加工食品の種類はますます増加している。そのため、加工と保存およびそれらの規格基準について、正確な知識を持つことが必要とされる。本科目では、食品の加工や保存方法について科学的な視点から理解する。さらに世界各地の様々な加工食品についての知識を深める。また、近年増加している保健機能食品についても学ぶ。	1. 加工に伴う食品成分の変化について食品ごとに説明できる。（知識・理解） 2. 食品の保存方法の種類と意義について科学的に説明できる。（知識・理解） 3. 容器包装の種類を材料成分の特性の面から説明できる。（知識・理解） 4. 発酵食品の製造方法について食品ごとに具体的に説明できる。（知識・理解） 5. 世界各地の加工食品について地理的および文化的背景を含めて説明できる。（知識・理解）	1. 加工に伴う食品成分変化について説明できる。（知識・理解） 2. 食品の保存方法の種類について説明できる。（知識・理解） 3. 容器包装の種類について説明できる。（知識・理解） 4. 発酵食品の基礎的な製造方法について説明できる。（知識・理解） 5. 世界各地の加工食品について説明ができる。（知識・理解）
食品利用学実習	家政学部 学科 専門教育科目 食物栄養学科 管理栄養士専攻	3	3	食の多様化とグローバル化に伴い、食生活上で加工食品が占める割合はますます増加している。それゆえ、管理栄養士は様々な加工食品に対して、正確な知識をもつことが必要とされる。本実習では、食品利用学の講義で得た知識をもとに、身近な加工食品を原料から実際に製造し、原料の特性、加工原理、および加工工程についての技術を修得し、知識を深める。さらに、瓶詰や殺菌方法などの保存技術も修得する。	1. 加工食品を製造するための基礎的な操作について、操作の意義を理解しながら行える。（技能） 2. 加工食品の製造法について科学的観点から説明できる。（知識・理解） 3. 実習の結果だけでなく独自で調査した内容を踏まえて多面的に考察できる。（思考・判断・表現） 4. 編成された班内で協力ができ、かつ自ら主体的に作業ができる。（関心・意欲・態度）	1. 加工食品を製造するための基礎的な操作が行える。（技能） 2. 加工食品の製造法について説明できる。（知識・理解） 3. 実習結果について考察できる。（思考・判断・表現） 4. 編成された班内で協力して作業ができる。（関心・意欲・態度）
基礎栄養学	家政学部 学科 専門教育科目 食物栄養学科 管理栄養士専攻	2	2	基礎栄養学は、栄養学分野の専門家を志す者にとって、重要な第一歩にあたる基幹となる科目である。今後履修する応用系専門科目を学習する上で必要とされる基本的な栄養学の知識をここで身につける。本授業では、生化学、解剖生理学の基礎も含めた栄養学の基礎を学ぶ。栄養とは何か、その意義についてしっかり習得する。国家試験受験ガイドラインに沿った教科書を基に講義を進め、五大栄養素の構造と機能、栄養素の消化吸収と代謝の基礎、遺伝子と栄養の基礎、食欲の調節、エネルギー代謝についての理解を目指す。	1. 五大栄養素の構造と機能について総合的に説明することができる。（知識・理解） 2. 栄養素の消化吸収と代謝の基礎について総合的に説明することができる。（知識・理解） 3. 遺伝子と栄養の基礎について総合的に説明することができる。（知識・理解） 4. 食欲の調節について総合的に説明することができる。（知識・理解） 5. エネルギー代謝について総合的に説明することができる。（知識・理解） 6. 今後履修していく関連科目の習得に必要な栄養学の総合的な知識をしっかりと身につけることができる。（知識・理解）	1. 五大栄養素の構造と機能について基本的な事項を理解している。（知識・理解） 2. 栄養素の消化吸収と代謝の基礎について基本的な事項を理解している。（知識・理解） 3. 遺伝子と栄養の基礎について基本的な事項を理解している。（知識・理解） 4. 食欲の調節について基本的な事項を理解している。（知識・理解） 5. エネルギー代謝について基本的な事項を理解している。（知識・理解） 6. 今後履修していく関連科目の習得に必要な栄養学の基本的な最低限の事項について説明することができる。（知識・理解）
基礎栄養学実験	家政学部 学科 専門教育科目 食物栄養学科 管理栄養士専攻	3	3	植物性タンパク質あるいは動物性タンパク質を摂食させたラットの成長実験、窒素出納実験などのほか、生体試料を用いた栄養生化学的実験を通して既に修了している講義内容について実感を持って深く理解する。ラット生体試料中の各種成分の変動を様々な分析法により求め、ラットの栄養状態との関連性を実験的に解析する。実験で得られた知見と講義で学んだ内容を総合して考察することにより、栄養学に関する理解をより深めることを目的とする。加えて三大栄養素の消化実験も行い、さらに基礎栄養学についての知識を深める。	1. 本授業内容をしっかりと理解し、疑問点を抽出することとその知識を基に当該内容について正しく議論することができる。（知識・理解）（思考・判断・表現） 2. 植物性タンパク食と動物性タンパク食それぞれが身体におよぼす違いについて、栄養学的観点から具体的に述べることができる。（思考・判断・表現）（知識・理解） 3. 栄養学に関して他者にその内容を論理的かつ科学的に説明することができる。（知識・理解）（思考・判断・表現）	1. 本授業内容をしっかりと理解し、疑問点を抽出することができる。（知識・理解） 2. 植物性タンパク食と動物性タンパク食それぞれが身体におよぼす違いについて、栄養学的観点から基本的な最低限の事項に関して述べることができる。（思考・判断・表現）（知識・理解）
応用栄養学I	家政学部 学科 専門教育科目 食物栄養学科 管理栄養士専攻	2	2	個人の栄養管理では、各ライフステージ別における栄養状態や心身機能の特徴を理解が重要である。応用栄養学Iでは、栄養管理の基本と、妊娠・授乳期の母親の栄養管理を理解する。さらに、ライフステージ別に、生理的特徴、栄養アセスメント、病態と疾患、栄養ケアおよび食事摂取基準の考え方を身につける。	1. 個人を対象とした栄養管理の概要について、ライフステージの特徴と関連づけて基本的事項を説明できる（知識・理解）。 2. 身体状況や栄養状態に応じた栄養管理の考え方を身につける（知識・理解）。 3. 妊娠期および授乳期における身体機能の変化に伴う栄養状態の変化に応じた栄養管理について、妊娠期と授乳期と非妊娠時を比較しながら説明できる（思考・判断・表現）。 4. 新生児期および乳幼期における身体機能の変化に伴う栄養状態の変化に応じた栄養管理について、その違いを比較しながら説明できる（思考・判断・表現）。 5. ライフステージ別の食事摂取基準の考え方の違いについて、身体機能の変化と関連づけて説明できる（思考・判断・表現）。	1. 個人を対象とした栄養管理の概要について、基本的事項を説明できる（知識・理解）。 2. 身体状況や栄養状態に応じた栄養管理の考え方を説明できる（知識・理解）。 3. 妊娠期および授乳期における身体機能の変化に伴う栄養状態の変化に応じた栄養管理を説明できる（思考・判断・表現）。 4. 新生児期および乳幼期における身体機能の変化に伴う栄養状態の変化に応じた栄養管理を説明できる（思考・判断・表現）。 5. ライフステージ別の食事摂取基準の考え方の違いを説明できる（思考・判断・表現）。

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
応用栄養学II	家政学部 学科 専門教育科目 食物栄養学科 管理栄養士専攻	2	3	応用栄養学とは、人の生涯の各ライフステージへ適切な栄養ケア・マネジメントを行うことのできる力を養うことを目的とした科目である。学修により、新生児期から高齢期まで各ライフステージの生理的特徴を理解し、対象の個人ならびに集団の栄養学的問題を適切にアセスメントする手法を身に付ける。さらに、食事摂取基準の理論に基づいた適切な栄養ケア・マネジメントを行い、対象者の健康維持・増進、疾病の発症・重症化予防へ導くための理論と手法を理解する。 本科目では、応用栄養学Iに引き続き、幼児期、学童期・思春期、成人期、高齢期における栄養ケア・マネジメントの理論と手法を理解する。	1. 幼児期の栄養ケア・マネジメントの理論と手法について、近年の国民の栄養状態を踏まえ、科学的根拠をもとに説明できる。（知識・理解） 2. 学童期・思春期の栄養ケア・マネジメントの理論と手法について、近年の国民の栄養状態を踏まえ、科学的根拠をもとに説明できる。（知識・理解） 3. 成人期の栄養ケア・マネジメントの理論と手法について、近年の国民の栄養状態を踏まえ、科学的根拠をもとに説明できる。（知識・理解） 4. 高齢期の栄養ケア・マネジメントの理論と手法について、近年の国民の栄養状態を踏まえ、科学的根拠をもとに説明できる。（知識・理解）	1. 幼児期の栄養ケア・マネジメントの理論と手法について、説明できる。（知識・理解） 2. 学童期・思春期の栄養ケア・マネジメントの理論と手法について、説明できる。（知識・理解） 3. 成人期の栄養ケア・マネジメントの理論と手法について、説明できる。（知識・理解） 4. 高齢期の栄養ケア・マネジメントの理論と手法について説明できる。（知識・理解）
応用栄養学III	家政学部 学科 専門教育科目 食物栄養学科 管理栄養士専攻	4	4	応用栄養学とは、人の生涯の各ライフステージへ適切な栄養ケア・マネジメントを行うことのできる力を養うことを目的とした科目である。 本科目では、応用栄養学I、IIで学んだ各ライフステージの栄養ケア・マネジメント理論の基となる食事摂取基準への理解を深め、実践につながる知識を定着させる。さらに、健康維持・増進、疾病の発症予防を目的とした運動や、競技力を高めることを目的としたスポーツ、ストレス状況や高温・低温、高圧・低圧、無重力環境、災害時などの特殊環境下における栄養管理の理論を理解する。	1. 日本人の食事摂取基準（2015年版）における理論と活用法について、科学的根拠をもとに説明できる。（知識・理解） 2. 運動の意義、運動・スポーツ時における生体内の生理的機能、適切な栄養管理のための理論について、近年の気候変化を踏まえ、科学的根拠をもとに説明できる。（知識・理解） 3. ストレス状況における適切な栄養管理について、近年の社会環境を踏まえ、科学的根拠をもとに説明できる。（知識・理解） 4. 高温・低温環境、高圧・低圧環境、無重力環境、災害時における適切な栄養管理について、近年の自然環境・社会環境を踏まえて、科学的根拠をもとに説明できる。（知識・理解）	1. 日本人の食事摂取基準（2015年版）における理論と活用法について、説明できる。（知識・理解） 2. 運動の意義、運動・スポーツ時における生体内の生理的機能、適切な栄養管理のための理論について、説明できる。（知識・理解） 3. ストレス状況における適切な栄養管理について、説明できる。（知識・理解） 4. 高温・低温環境、高圧・低圧環境、無重力環境、災害時における適切な栄養管理について、説明できる。（知識・理解）
応用栄養学実習	家政学部 学科 専門教育科目 食物栄養学科 管理栄養士専攻	3	3	栄養学は食生活と健康との関係を考究することが目的であり、応用栄養学実習では応用栄養学など各教科で得た知識、技術を応用研究してライフステージごとの栄養の理論と実際を実習する。すなわち妊娠期、授乳期、乳児期、幼児期、学童期、思春期、成人期、高齢期の各ステージにおいて、身体ならびに精神の両面についてその特性を十分に理解した上で、各ステージの栄養ケアについて身につける。	1. ライフステージごとの身体的特徴に伴う正しい栄養摂取について体系的に説明することができる。（知識・理解） 2. 上記1.を踏まえたうえで、対象者に対し科学的根拠をもとにアセスメントができる。（思考・判断・表現） 3. 上記1.と2.を踏まえたうえで、対象者に食事計画をその理由とともに理論的に示すことができる。（思考・判断・表現）	1. ライフステージごとの身体的特徴に伴う正しい栄養摂取について基本的事項を説明することができる。（知識・理解） 2. 上記1.を踏まえたうえで、対象者に対しアセスメントができる。（思考・判断・表現） 3. 上記1.と2.を踏まえたうえで、対象者に食事計画を示すことができる。（思考・判断・表現）
栄養教育論I	家政学部 学科 専門教育科目 食物栄養学科 管理栄養士専攻	1	1	栄養教育の目的は、対象とする個人や集団のQOLを高めるため、安全で適正な食生活を営み、望ましい健康状態を維持・増進できるよう、教育的手段を用いて好ましい食行動の実践と習慣化をさせることである。この講義では、そのために必要な栄養・食生活に関する基礎知識を身につける。	1. 栄養教育に必要な法的根拠を理解し、説明できる（知識・理解）。 2. 栄養価計算ができ、食品構成の計算に応用できる（技能）。 3. 食品分類の理念を理解し、説明できる（知識・理解）。 4. 糖尿病食品交換表、腎臓病食品交換表の使い方が理解でき、病院実習で応用できる（知識・理解）。	1. 栄養教育に必要な法的根拠を理解できる（知識・理解）。 2. 栄養価計算ができる（技能）。 3. 食品分類の理念を理解できる（知識・理解）。 4. 糖尿病食品交換表、腎臓病食品交換表の使い方が理解できる（知識・理解）。
栄養教育論II	家政学部 学科 専門教育科目 食物栄養学科 管理栄養士専攻	1	1	栄養教育は、対象者の健康・栄養状態、食行動、食環境等に関する情報を収集・分析し、総合的にそれらの評価・判定を行い、対象者に適じた栄養教育プログラムの作成・実施・評価を総合的にマネジメントし、QOLの向上につながる正しい食生活習慣を定着させることを目的としている。そのために必要な基礎知識を身につける。	1. 対象者の健康・栄養状態、食行動、食環境等に関する情報を収集・分析できる（技能）。 2. 栄養教育を展開する際の計画、方法、実施、評価の判定ができる（知識・理解）。 3. 栄養教育の一連のプログラムを立てることができる（知識・理解）。 4. 栄養状態の変化に応じた栄養教育マネジメントができる（技能）。	1. 対象者の健康・栄養状態、食行動、食環境等に関する情報を収集できる（技能）。 2. 栄養教育を展開する際の計画、方法、実施、評価にいたる理念を理解できる（知識・理解）。 3. 栄養教育計画の立案について理解できる（知識・理解）。 4. 栄養教育マネジメントができる（技能）。
栄養教育論実習	家政学部 学科 専門教育科目 食物栄養学科 管理栄養士専攻	3	3	栄養教育の効果を高めるための補助的手段として、教育者と対象者との間の知識や意思の伝達を仲介するものを媒体という。対象者に適した指導方法の検討及び媒体の選択方法を学び、集団教育の実践を通して、その技術を身につける。	1. 栄養教育のプレゼンテーションの技法を対象者に合わせて理解する（技能）。 2. 対象に応じた媒体の選択方法を理解する（知識・理解）。 3. 対象に応じた栄養教育の発表を、媒体を利用して説明できる（思考・判断・表現）。	1. 栄養教育のプレゼンテーションの技法を理解する（技能）。 2. 媒体の種類を理解する（知識・理解）。 3. 対象に応じた栄養教育の発表を行うことができる（思考・判断・表現）。
栄養教育論演習	家政学部 学科 専門教育科目 食物栄養学科 管理栄養士専攻	3	3	カウンセラーは、クライアントの食・栄養に対して、専門的な立場から支援している。カウンセラー自身の態度として基本的なことは、受容・共感・自己一致のほかに、観察・傾聴・確認・沈黙・要約などがあり、クライアントの状況に合わせて使い分けながら進めていくことが大切である。この演習では、妊娠期から高齢期と疾患をテーマにして、教員を相手に20～25分間、パワーポイントを使用して、教員の話に柔軟に対応しながらテーマの話を行い、カウンセリングの基本を身につける。	1. テーマごとの特徴、食事について理解したものを説明できる（知識・理解）。 2. パワーポイントを使用して、説明できる（技能）。 3. 病院実習・保健所実習で、学んだことを応用できる（関心・意欲・態度）。	1. テーマごとの特徴、食事について理解できる（知識・理解）。 2. パワーポイントを使用できる（技能）。 3. 病院実習・保健所実習に必要な内容を理解する（関心・意欲・態度）。

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
学校栄養教育論I	家政学部 学科 専門教育科目 食物栄養学科 管理栄養士専攻	3	3	「栄養教諭」は学校における食に関する指導体制を整備し、学校における食育推進の要となる教員である。本科目は、学校における「栄養に係る教育に関する科目」において「栄養教諭」の免許を取得するための必修科目である。食に関する指導と学校給食管理の一体的なものを職務とする栄養教諭の使命や職務内容の重要性を理解し、栄養教諭に求められている専門性について知り、食育の推進のために食に関する指導として学校給食を生きた教材として活用する方法を身につける。	1. 教諭制度創設の経緯を把握し、その役割と職務内容の特徴をとらえて説明できる。（知識・理解） 2. 学校給食の歴史と食文化の変遷を関連づけて説明できる。（知識・理解） 3. 学校給食の教育的意義と役割を総合的に説明できる。（知識・理解） 4. 子供の発育と食生活について特徴をとらえてに説明できる。（知識・理解） 5. 学校給食法等関連法規について専門的に説明できる。（知識・理解） 6. 給食時間における指導を学校給食を教材として、創意工夫して行うことができる。（思考・判断・態度）	1. 栄養教諭制度創設の経緯を知り、栄養教諭の役割と職務内容を説明できる。 2. 学校給食の歴史と食文化の変遷を説明できる。（知識・理解） 3. 学校給食の教育的意義と役割を総合的に説明できる。（知識・理解） 4. 子供の発育と食生活について基本手な事項を説明できる。（知識・理解） 5. 学校給食法等関連法規について基本的な事項を説明できる。（知識・理解） 6. 給食時間における指導を学校給食を教材として行うことができる。（思考・判断・態度）
学校栄養教育論II	家政学部 学科 専門教育科目 食物栄養学科 管理栄養士専攻	3	3	「学校栄養教育論I」に続き、栄養に関する専門性と教職に関する専門性、さらにそれらの専門性を横断的に理解し、食に関する指導として学校給食を生きた教材として活用し効果的な指導ができる。生涯を通じた健康づくりのために、食を中心とした健康教育の重要性を理解し、栄養教諭として児童生徒に食に関する指導ができる能力を身につける。	1. 「食に関する指導」に係る各教科等について、代表的な事項について説明できる。（知識・理解） 2. 「食に関する指導」に係る各教科等について、効果的な指導の技術を身につける。（思考・判断・態度） 3. 栄養教諭の行う個別指導について、意義や特徴、方法について専門的に説明できる。（知識・理解） 4. 栄養教諭の行う個別指導について、効果的な指導の技術を身につける。（思考・判断・態度）	1. 「食に関する指導」に係る各教科等について、基本的な事項について説明できる。（知識・理解） 2. 「食に関する指導」に係る各教科等について、基本的な指導の技術を身につける。（思考・判断・態度） 3. 栄養教諭の行う個別指導について、基本的に説明できる。（知識・理解） 4. 栄養教諭の行う個別指導について、基本的な指導の技術を身につける。（思考・判断・態度）
臨床栄養学I	家政学部 学科 専門教育科目 食物栄養学科 管理栄養士専攻	2	2			
臨床栄養学II	家政学部 学科 専門教育科目 食物栄養学科 管理栄養士専攻	3	3			
臨床栄養学III	家政学部 学科 専門教育科目 食物栄養学科 管理栄養士専攻	3	3			
臨床栄養学IV	家政学部 学科 専門教育科目 食物栄養学科 管理栄養士専攻	2	4			
臨床栄養学実験	家政学部 学科 専門教育科目 食物栄養学科 管理栄養士専攻	4	4			
臨床栄養学実習	家政学部 学科 専門教育科目 食物栄養学科 管理栄養士専攻	4	4	臨床を目的とした食事プランづくりは、通常の食事とは異なり、疾病の回復を促進するためにある。したがって、特定の栄養成分の増減、形態の変更、量的な制限や食事回数、調味の制約など、通常の調理操作を変化させることが多く、食味を低下させない工夫が必要となってくる。そこで本実習では、どんな制約があっても、できるかぎりおいしく、食べやすくするために、目的に合うような食品を選択し、調理法を工夫して調和のとれた食事療法の方法を身につける。	1. 疾病の特徴と食事療法を理解し、説明できる（知識・理解）。 2. どのような制約があっても、できるかぎりおいしく、目的に合うような食品を選択することができる（技能）。 3. 食べやすくするために、調理法を工夫して、調和のとれた食事を作ることができる（技能）。 4. その内容を多人数の前で説明できる（思考・判断・表現）。	1. 疾病の特徴と食事療法を理解できる（知識・理解）。 2. 目的に合うような食品を選択することができる（技能）。 3. 食べやすくするために、調理法を工夫できる（技能）。 4. その内容を説明できる（思考・判断・表現）。
公衆栄養学I	家政学部 学科 専門教育科目 食物栄養学科 管理栄養士専攻	2	2	地域社会、学校、職域などの集団において、人々の健康・栄養状態や社会・生活環境を理解することは、適切な公衆栄養プログラムを展開するための基礎的な知識である。そこで、本科目では、人々の健康・栄養状態を評価するための知識や技能として、食事調査法と日本人の食事摂取基準を理解する。さらに、諸外国の健康・栄養問題に関する動向とそれに対応する栄養施策を理解する。	1. わが国や諸外国の健康・栄養問題に関する動向とそれらに対応した主要な栄養政策について、我が国と海外の違いを説明できる（知識・理解）。 2. 集団や地域における人々の健康・栄養状態や社会・生活環境に基づいた公衆栄養活動を理解し、具体例を説明できる（知識・理解）。 3. 日本人の食事摂取基準について、策定と活用の基本的事項について、総合的に説明できる。（知識・理解） 4. 日常の身体活動状況から推定エネルギー必要量を算出することができる（関心・意欲・態度）。 5. 日本人の食事摂取基準で策定されているエネルギーと各栄養素について、対象集団の健康・栄養状態の特徴や、エネルギーや栄養素の働きを踏まえたうえで、目指すべき摂取量を述べる（関心・意欲・態度）。	1. わが国や諸外国の健康・栄養問題に関する動向とそれらに対応した主要な栄養政策の概要を説明できる（知識・理解）。 2. 集団や地域における人々の健康・栄養状態や社会・生活環境に基づいた公衆栄養活動を説明できる（知識・理解）。 3. 日本人の食事摂取基準について、策定と活用の基本的事項を説明できる。（知識・理解） 4. 身体活動レベルから推定エネルギー必要量を算出することができる（関心・意欲・態度）。 5. 日本人の食事摂取基準で策定されているエネルギーと各栄養素について、摂取量を述べる（関心・意欲・態度）。

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
公衆栄養学II	家政学部 学科 専門教育科目 食物栄養学科 管理栄養士専攻	2	2	公衆栄養学IIでは、公衆栄養学Iで学んだ基礎的知識を応用し、公衆栄養プログラムを展開するうえで管理栄養士が具備すべき基礎的な知識を身に着ける。具体的には、我が国の健康・栄養問題の現状と課題、栄養政策としての公衆栄養関連法規と食生活指針、諸外国の健康・栄養政策、公衆栄養マネジメントの考え方を理解する。	1. 公衆栄養活動の歴史を、時系列で説明できる（知識・理解）。 2. 国民健康・栄養調査の結果などから、我が国の健康栄養・問題の現状を理解し、解決すべき課題を具体的に述べる（知識・理解）。 3. 地域集団における公衆栄養活動マネジメントとは何かを理解し、説明できる（思考・判断・表現）。 4. 我が国の栄養施策としての栄養関連法規について、諸外国と比較しながら説明できる（知識・理解）。 5. 行政における管理栄養士の役割を理解し、系統立てて説明できる（関心・意欲・態度）。	1. 公衆栄養活動の歴史を説明できる（知識・理解）。 2. 我が国の健康栄養・問題の現状を理解し、解決すべき課題を述べる（知識・理解）。 3. 地域集団における公衆栄養活動マネジメントを説明できる（思考・判断・表現）。 4. 我が国の栄養施策としての栄養関連法規について、説明できる（知識・理解）。 5. 行政における管理栄養士の役割を説明できる（関心・意欲・態度）。
公衆栄養学実習	家政学部 学科 専門教育科目 食物栄養学科 管理栄養士専攻	4	4	集団の健康・栄養状態を評価し、公衆栄養プログラムを立案・実行・検証し、さらなる改善案を提案することが公衆栄養活動である。本科目では、公衆栄養学I および公衆栄養学IIで学んだ集団の健康・栄養問題についての基礎的知識をもとに、集団の健康・栄養問題を把握し、適切な公衆栄養プログラムを計画、実施するための具体的な技能を身に着ける。具体的には、集団の健康栄養アセスメントを行い、性、年齢階級別に健康・栄養問題を明らかにし、その結果をもとに公衆栄養プログラムを計画する。また、集団の中の個人の栄養アセスメントとして食事調査方法および身体活動量調査法を理解する。	1. 地域集団に対する公衆栄養マネジメント方法を理解し、実践できるようになる（思考・判断・表現）。 2. 食事記録から食品・栄養素摂取量を推定し、集団の健康栄養アセスメントができる（技能）。 3. 運動習慣の記録から、身体活動量を推定し、集団の健康・栄養アセスメントができる（技能）。 4. 食習慣や運動習慣のような生活習慣は、個人内および個人間で変動することを論理的に説明できる（思考・判断・表現）。 5. 集団の健康・栄養状態をアセスメントし、その集団の健康・栄養問題を解決するための公衆栄養プログラムの立案・実行・検証およびさらなる改善案の提案にの一連の作業について、リーダーシップをとって進めることができる（技能）。	1. 地域集団に対する公衆栄養マネジメント方法を理解する（思考・判断・表現）。 2. 食事記録から食品・栄養素摂取量を推定できる（技能）。 3. 運動習慣の記録から、身体活動量を推定できる（技能）。 4. 食習慣や運動習慣のような生活習慣は変動することを説明できる（思考・判断・表現）。 5. 集団の健康・栄養状態をアセスメントし、その集団の健康・栄養問題を解決するための公衆栄養プログラムの立案・実行・検証およびさらなる改善案の提案ができる（技能）。
給食経営管理論I（給食計画・実務論を含む）	家政学部 学科 専門教育科目 食物栄養学科 管理栄養士専攻	2	2	特定給食施設で提供される給食は「安全でおいしい」ものでなくてはならず、安全でおいしい給食提供をするためには、給食経営管理が徹底されていなくてはならない。本科目では、給食経営管理業務における栄養・食事管理、安全・衛生管理、食材料管理、施設・設備管理について理解する。	1. 対象者の給与栄養目標量が理論的に理解した上で算出できる。（知識・理解） 2. 対象者の献立計画をその理由とともに示すことができる。（知識・理解） 3. 人、食材、調理機器ごとの衛生管理について具体的な事例を示して説明ができる。（知識・理解） 4. 食材について、発注、納品、保管に沿って具体的な事例を示して説明ができる。（知識・理解） 5. 大型厨房機器の種類について知り、その設置についてその理由とともに説明ができる。（知識・理解）	1. 対象者の給与栄養目標量が算出できる。（知識・理解） 2. 対象者の献立計画を示すことができる。（知識・理解） 3. 人、食材、調理機器ごとの衛生管理について説明ができる。（知識・理解） 4. 食材について、発注、納品、保管に沿って説明ができる。（知識・理解） 5. 大型厨房機器の種類について知り、その設置について説明ができる。（知識・理解）
給食経営管理論II	家政学部 学科 専門教育科目 食物栄養学科 管理栄養士専攻	2	2	特定給食施設で提供される給食は「安全でおいしい」ものでなくてはならず、安全でおいしい給食提供をするためには、給食経営管理が徹底されていなくてはならない。給食経営管理論Iの講義を受け、本科目では、給食経営管理業務における給食経営管理、品質管理、人事管理について理解する。	1. 給食業務におけるマーケティングについて具体的な事例を示して説明できる。（知識・理解） 2. 給食業務における組織構築ならびに運営について具体的な事例を示して説明できる。（知識・理解） 3. 給食の原価構成についてその根拠となる算出方法を交えて説明できる。（知識・理解） 4. 給食の品質基準について科学的根拠を基に説明できる。（思考・判断・表現） 5. 大量調理の基本的特性を理解し、科学的根拠を基に調理変化を説明できる。（知識・理解） 6. 給食従事者の雇用形態について具体的な事例を示して説明できる。（知識・理解）	1. 給食業務におけるマーケティングについて説明できる。（知識・理解） 2. 給食業務における組織構築ならびに運営について説明できる。（知識・理解） 3. 給食の原価構成について説明できる。（知識・理解） 4. 給食の品質基準について説明できる。（思考・判断・表現） 5. 大量調理の基本的特性について説明できる。（知識・理解） 6. 給食従事者の雇用形態について説明できる。（知識・理解）
給食経営管理実習I	家政学部 学科 専門教育科目 食物栄養学科 管理栄養士専攻	2	2	給食経営管理論と関連教科で修得した基礎知識をもとに、学内の給食経営管理実習室で大量調理を行う実習である。本科目は、実際の特定給食施設での給食経営管理業務を理解することを目的に、実際の給食組織体を想定して各人が業務内容に基づき役割分担を行い、ローテーションすることにより、給食組織運営、教育方法などを体験し、給食管理業務における管理栄養士の業務を身につける。	1. 大量調理の特性を科学的根拠とともに理解し、実践できる。（知識・理解） 2. 食材料の取り扱いについて、講義で学んだことに基づき、効率的に実践できる。（知識・理解） 3. 大型の調理機器の取り扱いについて理解し、効率的に使用できる。（知識・理解） 4. 喫食者への教育方法について具体的に事例を示して実践できる。（知識・理解） 5. 組織体の運営方法を理解し、実践できる。（知識・理解）	1. 大量調理の特性を理解し、実践できる。（知識・理解） 2. 食材料の取り扱いについて、講義で学んだことを実践できる。（知識・理解） 3. 大型の調理機器の取り扱いについて理解し、説明できる。（知識・理解） 4. 喫食者への教育方法について説明できる。（知識・理解） 5. 組織体の運営方法を説明できる。（知識・理解）
給食経営管理実習II	家政学部 学科 専門教育科目 食物栄養学科 管理栄養士専攻	3	3	給食経営管理実習Iと同様、実際の給食組織体を想定して各人が業務内容に基づき役割分担を行い、ローテーションすることにより、給食組織運営、教育方法などを体験し、給食管理業務における管理栄養士の業務を理解することを目的とする。特に本科目では、対象者の栄養管理ならびに経営管理を中心に、給食管理業務における管理栄養士の業務を身につける。	1. 喫食者の把握が科学的根拠を示して実践できる。（思考・判断・表現） 2. 喫食者の給与栄養目標量について算出根拠を理解した上で設定ができる。（知識・理解） 3. 喫食者に対して食事計画を含んだ献立作成ができ、食事計画について示すことができる。（知識・理解） 4. 給食の原価構成について具体的な算出方法を基に理解できる。（知識・理解） 5. 喫食者へ安全・衛生管理が科学的根拠を基に説明できる。（知識・理解） 6. 給食管理業務全般について体系的に説明ができる。（知識・理解）	1. 喫食者の把握が実践できる。（思考・判断・表現） 2. 喫食者の給与栄養目標量の設定ができる。（知識・理解） 3. 喫食者に対して食事計画を含んだ献立作成ができる。（知識・理解） 4. 給食の原価構成について理解できる。（知識・理解） 5. 喫食者へ安全・衛生管理が説明できる。（知識・理解） 6. 給食管理業務全般について説明ができる。（知識・理解）

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
総合演習	家政学部 学科 専門教育科目 食物栄養学科 管理栄養士専攻	4	4	本演習では、実践的な管理栄養士として社会に貢献するために、4年間で学修した専門分野を網羅的に復習し、管理栄養士としての応用力を総合的に高める。また、管理栄養士国家試験の対策を通して、必要な知識を再確認し、適切な判断力を身につける。	1. 管理栄養士に必要な専門分野の知識があり、その知識を具体的事例と共に説明できる。（知識・理解） 2. 管理栄養士に必要な適切な判断力があり、判断の基準を的確に説明できる。（思考・判断・表現） 3. 管理栄養士国家試験対策のための模擬試験において、指定された以上の点数を取得できる。（関心・意欲・態度）	1. 管理栄養士に必要な専門分野の知識がある。（知識・理解） 2. 管理栄養士に必要な適切な判断力がある。（思考・判断・表現） 3. 管理栄養士国家試験対策のための模擬試験において、指定された以上の点数を取得できる。（関心・意欲・態度）
臨地実習I(校外実習)	家政学部 学科 専門教育科目 食物栄養学科 管理栄養士専攻	3	3	「給食の運営」に係る校外実習として、給食業務の概要について理解するとともに、給食計画を含め、給食の実務の実際について理解する。小・中学校、病院、事業所、特別養護老人ホーム等の特定給食施設において、栄養士業務である栄養・食事管理、給食の生産（調理）管理、施設・設備管理等について、すでに学んだ理論の応用として実務業務を身につける。臨地実習にあたり事前教育の一環として学外講師（事業所管理栄養士）による講義を受け、実際の管理栄養士業務を理解する。	1. 実習テーマの設定・計画・まとめをし、その内容を整理して検討・意見交換ができる。（知識・理解） 2. 実習先の給食システムについて具体的な事例を示して説明ができる。（知識・理解） 3. 対象者の把握をし、科学的根拠に基づきアセスメントができる。（思考・判断・表現） 4. 対象者に対して食事計画を含んだ献立作成をし、それを実践するための具体例を示すことができる。（知識・理解） 5. 献立作成に伴う食材料管理について具体的な事例を示して説明ができる。（知識・理解） 6. 実習先の大量調理の特徴について科学的根拠に基づき説明ができる。（知識・理解）	1. 実習テーマの設定・計画・まとめができる。（知識・理解） 2. 実習先の給食システムについて説明ができる。（知識・理解） 3. 対象者の把握ができる。（思考・判断・表現） 4. 対象者に対して食事計画を含んだ献立作成ができる。（知識・理解） 5. 献立作成に伴う食材料管理について説明ができる。（知識・理解） 6. 実習先の大量調理の特徴について説明ができる。（知識・理解）
臨地実習II	家政学部 学科 専門教育科目 食物栄養学科 管理栄養士専攻	3	3			
エコデザイン論	家政学部 学科 専門教育科目 建築・デザイン学科	1	1	現在、様々なデザインの分野で環境への配慮が重要なテーマとなっています。特に建築、インテリアの分野では、スクラップアンドビルドからストックへの時代となりサステナブルな建築がもたらされています。使い続けられることが環境への最大の配慮です。「人」が生活し建築を利用しつづけるためには、その建築は機能的でかつ快適で愛着が持てるものでなければなりません。そのためには形態の発想だけではだめで、周辺環境をしっかり分析、その自然環境（光、風、音、水、土、緑）を生かすしかけ、環境に優しくかつ建築にふさわしい材料、構造、設備システムの選択と開発、そして社会的な必要性など様々な工夫が必要で、その工夫を最終的に形や空間にまとめていくことが必要となります。本講義では環境に配慮した様々なしかけ、システムを取り入れた実例をもとに、その工夫と手法について理解することを目的とします。	基本的なエコデザインのあり方と重要性について理解し、実際のデザインや生活に役立てる知識を習得できる。（知識・理解）	基本的なエコデザインのあり方と重要性について理解し、知識を習得できる。（知識・理解）
色彩学	家政学部 学科 専門教育科目 建築・デザイン学科	1	1	色彩学の基本となる物理的、光学的、測色学的、生理学的、心理学的な考察及び色彩調和論の基本を概説する。その上で、生活デザインの中で使われている色彩や美術における色彩、建築空間、プロダクトやグラフィック、ファッションにおける色彩など、多角的な視点で色彩を考察する。授業内容は、光と色彩、色の感情効果、測色、色の表色体系、色彩調和論、色彩文化などの多岐にわたるテーマを扱うが、CDジャケット、身の回り品の色彩調査、色の対比や感情効果、配色技法演習など、数多くの演習を交えながら、色のしくみを学ぶ。授業を通して、色彩を鑑賞、表現、選択するとき役立つ知識と技術と感性の習得を目指し、最終的には、履修者各自の専門領域と色彩をどのように関連させていけるかを、考え実践する力を育んでもらいたい。	・色彩学に関する基本的な知識を身につけ、身のまわりの対象物の色彩を理解できる。（知識・理解） ・創造や選択において主体的に関与できる。（関心・意欲・態度） ・また、自身で考えたアイデアを、ボードや模型に的確に表現し制作する技量を修得することができる。（技能） ・履修者同志の作品発表をみて、オリジナルなアイデアを評価したり、議論したりを通して、次の課題のヒントに繋げることが出来るようになる。さらには、色彩の文化や歴史に対する造詣を深め、アートやデザインに関する審美眼を養う力を修得出来るようになる。（思考・判断・表現）	・色彩学に関する基本的な知識を身につけ、身のまわりの対象物の色彩を理解できる。（知識・理解） ・創造や選択において主体的に関与できる。（関心・意欲・態度） ・また、自身で考えたアイデアを、ボードや模型に的確に表現し制作する技量を修得することができる。（技能）
デザイン概論 I	家政学部 学科 専門教育科目 建築・デザイン学科	1	1	デザインの本質に触れ、デザインとは何かを探り、デザイン概論 I では [視覚伝達デザイン] [情報デザイン] を解説する。	・視覚伝達デザインと情報デザインを中心に、デザインの本質的理解ができる。また、デザインの分野と範囲などにおいて知識が得られる。（知識・理解） ・デザイン概論の理解と知識は、デザインの応用において制作時の思考や表現において効果をいえる事ができる。また、教員と学生の双方向のコミュニケーションとして、授業中の小レポート等参加型の授業である。（関心・意欲・態度）	・視覚伝達デザインと情報デザインを中心に、デザインの本質的理解ができる。また、デザインの分野と範囲などにおいて知識が得られる。（知識・理解） 教員と学生の双方向のコミュニケーションとして、授業中の小レポート等参加型の授業である。（関心・意欲・態度）

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
デザイン概論 II	家政学部 学科 専門教育科目 建築・デザイン学科	1	1	デザインの本質に触れ、デザインとは何かを探り、デザイン概論 II では「プロダクトデザイン」「空間デザイン」を解説する。	・プロダクトデザインと空間デザインを中心に、デザインの本質的理解ができる。また、デザインの分野と範囲などにおいて知識が得られる。（知識・理解） ・デザイン概論の理解と知識は、デザインの応用において制作時の思考や表現において効果をいえる事ができる。また、教員と学生の双方向のコミュニケーションとして、授業中の小レポート等参加型の授業である。（関心・意欲・態度）	・プロダクトデザインと空間デザインを中心に、デザインの本質的理解ができる。また、デザインの分野と範囲などにおいて知識が得られる。（知識・理解） 教員と学生の双方向のコミュニケーションとして、授業中の小レポート等参加型の授業である。（関心・意欲・態度）
近代デザイン史	家政学部 学科 専門教育科目 建築・デザイン学科	1	1	近代デザインの源流からひも解く。理解しやすいエピソードであるデザイン史のポイントを解説する。具体的には、ウィリアム・モリス、ドイツ工作連盟、バウハウス、アールヌボール、アールデコ、アメリカマシネイジ、レーモンド・ローウィ等を点と線で結び基本的な知識と理解が得られる。	・近代デザインの歴史がどのように流れて来たのかを理解できる。具体的な知識として、ウィリアム・モリス、ドイツ工作連盟、バウハウス、アールヌボール、アールデコ、アメリカマシネイジ、レーモンド・ローウィ等の知識が得られる。（知識・理解） ・それらが点と線で結び合わされ将来的な思考に結びつく。また、図版や写真の豊富な資料提示により関心・意欲が高まる。（関心・意欲・態度）	・近代デザインの歴史がどのように流れて来たのかを理解できる。具体的な知識として、ウィリアム・モリス、ドイツ工作連盟、バウハウス、アールヌボール、アールデコ、アメリカマシネイジ、レーモンド・ローウィ等の知識が得られる。（知識・理解） また、図版や写真の豊富な資料提示により関心・意欲が高まる。（関心・意欲・態度）
人間工学	家政学部 学科 専門教育科目 建築・デザイン学科	2	2	人間工学は、アメリカを中心に産業における作業効率や安全性の改善、機械の操作のわかりやすさ、ユーザビリティ、労働環境の向上をめざして大いに進んだ。現代は複雑な機械や、IT関連のインターフェースなどの問題が大きくクローズアップしている。特に現在においては「ユーザビリティ」というキーワードが人間工学の根幹をなすようになった。具体的には現代の人間工学はITと人間との関係を考える方向に向かっている事を解説する。	・人間工学の歴史としてアメリカを中心に産業における作業効率や安全性の改善、機械の操作のわかりやすさ、ユーザビリティ、労働環境の向上をめざして大いに進んだ事を理解する。（知識・理解） ・そして現在においては、複雑な機械や、IT関連のインターフェースなどの問題が大きくクローズアップしている。特に現在においては「ユーザビリティ」というキーワードが人間工学の根幹をなすようになった。具体的には現代の人間工学はITと人間との関係を考える方向に向かっている事がわかる。（知識・理解） ・そして、今を生きる人間としてのあり方を得る事ができる。（関心・意欲・態度）	・人間工学の歴史としてアメリカを中心に産業における作業効率や安全性の改善、機械の操作のわかりやすさ、ユーザビリティ、労働環境の向上をめざして大いに進んだ事を理解する。（知識・理解） ・そして現在においては、複雑な機械や、IT関連のインターフェースなどの問題が大きくクローズアップしている。特に現在においては「ユーザビリティ」というキーワードが人間工学の根幹をなすようになった。具体的には現代の人間工学はITと人間との関係を考える方向に向かっている事がわかる。（知識・理解）
ユニバーサルデザイン論	家政学部 学科 専門教育科目 建築・デザイン学科	2	2	これからの建築・都市環境やそれに付随した生活用品をすべての人々にとって望ましくする「ユニバーサルデザイン」、これまで人と環境の間に生じた障壁の解消を目的とする「バリアフリー」について学び、それらの暮らしを一部だけでなく総体として機能するよう、配慮して考える「福祉空間学」について、住宅・公共施設・設備・外部空間・まちづくりを中心として認識し理解する。	ユニバーサルデザインはその言葉の目新しさが注視され、その根本的な意味ではなく、万能選手のような使われ方で流行用語のようになってきているが、この講義では本来のノーマライゼーションの基本に立ちかえり、住宅、公共建築空間、外部環境の整備、安心・安全のまちづくりなどに関する知識を習得し、建築設計やデザインに活かすことができるようになる。また、それらの知識を習得することによって、二級建築士、一級建築士、住環境福祉コーディネータの資格取得に向けた基礎を養う。（知識・理解）	本来のノーマライゼーションの基本に立ちかえり、住宅、公共建築空間、外部環境の整備、安心・安全のまちづくりなどに関する知識を習得し、日々の生活に適用できるようになる。（知識・理解）
メディア概論	家政学部 学科 専門教育科目 建築・デザイン学科	3	3	新聞、雑誌、ラジオ、テレビは、長らく「四大マス・メディア」と呼ばれてきた。しかし、いまやインターネットが強大なメディアとして急成長を遂げ、旧来のメディアの地位を脅かし始めている。これからのマス・メディアは、そしてマス・メディアに不可欠の広告活動・広告表現は、どのように変化していくのか。本授業においては、「メディアの歴史」を通観しつつ、「私たちにとって、メディアとは何か」を考え、その本質に迫っていく。	・メディアの歴史の知識と歩みが、系統的に身に付くようになる。各メディアの長所・短所・特性などを理解できるようになる。（知識・理解） ・情報を取捨選択する能力を身につけ、メディアへの関心が高まり、意欲が増す。将来的な思考、判断力が身に付く。（関心・意欲・態度）	・メディアの歴史の知識と歩みが、系統的に身に付くようになる。各メディアの長所・短所・特性などを理解できるようになる。（知識・理解） ・情報を取捨選択する能力を身につけ、メディアへの関心が高まる。関心・態度）
商品企画情報論	家政学部 学科 専門教育科目 建築・デザイン学科	3	3	この授業は、商品とは何かからはじめて、商品コンセプト開発、新商品のデザイン開発まで幅広いジャンルの商品開発について講義とグループ演習で構成されます。この授業が力点を置いているのはコンセプトワークで、問題課題の把握とその問題を解決するための発想力の養成に力をいれます。実社会で使われている主な発想法をグループワークで取り組み、発表をすることでコンセプト構築力を身につけます。	・商品とは何かを知り関心を持って、その商品を開発するために、生活者のニーズがどのようなものかを理解する。（知識・理解） ・最終的に商品企画力を身につけるには、コンセプトが重要であるため、発想力やアイデア力の訓練に力をいれて商品企画、ディレクション力が疑似実践技能として身に付く。（技能） ・また、その思考プロセスが分かる。（思考・判断・表現）	・商品とは何かを知り関心を持って、その商品を開発するために、生活者のニーズがどのようなものかを理解する。（知識・理解） ・最終的に商品企画力を身につけるには、コンセプトが重要であるため、発想力やアイデア力の訓練に力をいれて商品企画、ディレクション力が疑似実践技能として身に付く。（技能）
家具論	家政学部 学科 専門教育科目 建築・デザイン学科	2	2	我々は、無意識のうちに様々な要因を身の回りに「まとい」自分の周囲と距離を縮めたり離したりしながら生活しています。そんな我々の目線で物事を切り取ると、様々な原点が見えてきます。かつて原野で1本の切り株は、旅人にとって大変な拠り所となりました。人と環境を繋ぐ家具たちは、物でありながら環境を作り出します。原点の1本の切り株から、現在の我々を取り巻く家具やインテリアマーケット、住宅産業を含め、家具という切り口から「物と環境の世界」を理解し、これからの世の中についての仕組みや繋がりを認識することをこの授業の目的とします。	家具の歴史や素材、製造プロセスやマーケット、ビジネスなどを知ることで、物や建築、人々の歴史や文化、これからの世の中についての知識とノウハウを身に付けることができます。（知識・理解）	家具の歴史や素材、製造プロセスやマーケット、ビジネスなどの知識とノウハウを身に付けることができます。（知識・理解）
照明論	家政学部 学科 専門教育科目 建築・デザイン学科	2	2	人は「あかり」と共に歴史を歩んできました。今日の私たちの生活に照明はなくてはならないものです。「照明の歴史」や「照明と人間の関係」の理解を通じて、生活に生かす照明器具や照明方法などを考察する。	・照明について理解を深め、知識を身につける事が出来るようになる。（知識・理解） ・また、効果的な照明を実際にコントロールできるようにする。（技能）	・照明について理解を深める事が出来るようになる。（知識・理解） ・また、実際にコントロールできるようにする。（技能）

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
インテリアデザイン論	家政学部 学科専門教育科目 建築・デザイン学科	2	2	インテリアは、壁面や天井、照明などの造作に始まり、そこに置かれる家具や小物まで含めた、トータルで把握されるべき総合的なデザイン環境です。そこでインテリア全般について、空間的な側面は勿論のこと、家具や小物まで含めたうえで感じる空気感や、使う人との関係など、多様な角度から考察していきます。	<ul style="list-style-type: none"> 優れた建築家やインテリアデザイナーの仕事に限らず、現代アートや家具・生活道具のデザイナー、そしてファッションデザイナーのライフスタイルワークなど幅広い分野からインテリアに関する知識を身につけ、理解を深めることができる。（知識・理解） また、ホテルや旅館、カフェなど優れたサービス体験を伴う空間にもスポットライトを当て、インテリアデザインを行なう際の姿勢や知識を身につけます。（関心・意欲・態度） 	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い分野からインテリアに関する知識を身につけ、理解を深めることができる。（知識・理解） インテリアデザインを行なう際の姿勢や知識を身につけます。（関心・意欲・態度）
住居史I	家政学部 学科専門教育科目 建築・デザイン学科	2	2	「住居史I」では古代から19世紀までの西欧の居住空間を理解する。西洋文化の影響を強く受けた現在の私達の住宅を考える上で、西洋の住宅文化の源流を知り、その展開を知ることは不可欠である。この授業では歴史の流れに沿ってできるだけ明快なキーワードを理解するとともに、スライドや映像を用いて考察する。	<ul style="list-style-type: none"> 住空間が成立した歴史的背景を知り、風土的、文化的、社会制度的な枠組みについて多角的に学ぶことにより、今後の住環境の在り方について自らの視点を持つことができる。（知識・理解） 設計デザインにおける場や歴史を読むことができる。（技能） 建築学を学ぶために必要な知識や教養と共に、建築デザインを考える上で不可欠な基礎力を身につけることができる。（技能） 	<ul style="list-style-type: none"> 住空間が成立した歴史的背景を知り、風土的、文化的、社会制度的な枠組みについて説明することができる。（知識・理解） 設計デザインにおける場や歴史を読むことができる。（技能）
住居史II	家政学部 学科専門教育科目 建築・デザイン学科	2	2	「住居史II」では、古代から現代に至るまでの日本の住宅の流れを理解する。我が国の居住空間の原点と発展の歴史を理解すると共に、近代以降における西洋文化の吸収と展開の背景を考察する。日本の住宅の歴史という視点を軸としながらも、同時代性の理解とグローバルな視点から、できるだけ明快なキーワードを理解するとともに、日本および近現代における住宅をスライドや映像を用いて考察する。	<ul style="list-style-type: none"> 住空間が成立した歴史的背景を知り、風土的、文化的、社会制度的な枠組みについて多角的に学ぶことにより、今後の住環境の在り方について自らの視点を持つことができる。（知識・理解） 設計デザインにおける場や歴史を読むことができる。（技能） 建築学を学ぶために必要な知識や教養と共に、建築デザインを考える上で不可欠な基礎力を身につけることができる。（技能） 	<ul style="list-style-type: none"> 住空間が成立した歴史的背景を知り、風土的、文化的、社会制度的な枠組みについて説明することができる。（知識・理解） 設計デザインにおける場や歴史を読むことができる。（技能）
住生活論	家政学部 学科専門教育科目 建築・デザイン学科	2	2	この授業の目的は、日頃何気なく過ごしている我々の住環境、取り分け、日々祭りの状況にある都市空間の中で、無意識のうちに造り上げられた世界観そのものの再構築にある。その方法として、ひと（広くは生き物）・もの・空間の三つの概念と、それに時間の概念をそこに加えることによって、今や、もつれあいながら混沌とし、虚像と化しつつある我々の近傍の住生活や、更に、時空を越えて厳然と実体化して存在している住生活を可能な限り考察しながら、深く自己に沈潜してそれらをとくほぐし、再び、己自信の意志で、縄を縛うように自分自身の世界観の再構築を図る。なお、授業では映像や図式を利用し、事象を出来る限り総体として感じ認識し理解できることを目標とする。	<ul style="list-style-type: none"> 住生活を構成している一つの「すまいのかたち」である、「形」、「表」、「添」、「気」がどのようなものであるのかを理解できるようになる。（知識・理解） 住生活を構成しているもう一つの「すまいかた」がどのようなものであるのかを理解できるようになる。（知識・理解） この二つのことを理解することによって、明日どのようなあるべきかを考え、自身の「すまい観」を構築し生きて行くことができるようになる。（思考・判断・表現） 常に化する社会や時代に常に関心を持ち、「すまい観」を再構築し生きて行くことができるようになる。（関心・意欲・態度） 	<ul style="list-style-type: none"> 住生活を構成している一つの「すまいのかたち」である、「形」、「表」、「添」、「気」がどのようなものであるのかを理解できるようになる。（知識・理解） 住生活を構成しているもう一つの「すまいかた」がどのようなものであるのかを理解できるようになる。（知識・理解）
建築史I	家政学部 学科専門教育科目 建築・デザイン学科	2	2	「建築史I」では古代から19世紀までのヨーロッパ建築の大きな流れを紹介する。テーマと歴史の流れに沿って、できるだけ明快なキーワードを提示しながら、ユネスコ世界遺産にも指定されている都市や建築、それらをつくりあげた建築家たちに注目し、スライドや映像を用いながら考察する。	<ul style="list-style-type: none"> 今日に至るまで様々な建築がつくられてきた目的と意義、風土や文化との密接なつながり、社会的要請や表現の欲求を学ぶことで、多様な文化、価値観を解釈することができる。（知識・理解） 現在の私たちを取り巻く都市と建築の歴史的背景を知り、建築学を学ぶために必要な知識や教養と共に、建築デザインを考える上で不可欠な基礎力と場のコンテクストを読解することができる。（技能） 	<ul style="list-style-type: none"> 多様な文化、価値観を解釈することができる。（知識・理解） 建築デザインを考える上で不可欠な基礎力と場のコンテクストを読解することができる。（技能）
建築史II	家政学部 学科専門教育科目 建築・デザイン学科	2	2	「建築史II」では日本古来の建築にはじまり、近代日本に強い影響を与えた西洋の建築様式をふまえながら、現在に至るまでの建築の大きな流れを紹介する。日本で建築を学ぶ際に不可欠な内容をとりあげ、できるだけ明快なキーワードを提示しながら、現在の私たちに脈々と流れる空間感覚の源流を、スライドや映像を用いながら考察する。	<ul style="list-style-type: none"> 今日に至るまで様々な建築がつくられてきた目的と意義、風土や文化との密接なつながり、社会的要請や表現の欲求を学ぶことで、多様な文化、価値観を解釈することができる。（知識・理解） 現在の私たちを取り巻く都市と建築の歴史的背景を知り、建築学を学ぶために必要な知識や教養と共に、建築デザインを考える上で不可欠な基礎力と場のコンテクストを読解することができる。（技能） 	<ul style="list-style-type: none"> 多様な文化、価値観を解釈することができる。（知識・理解） 建築デザインを考える上で不可欠な基礎力と場のコンテクストを読解することができる。（技能）
環境心理学	家政学部 学科専門教育科目 建築・デザイン学科	2	2	環境心理学とは、環境と人間の心との相互作用を取り扱う学問領域である。環境を創造する際、心理学の考え方や手法を用いて人間(特に環境を実際に利用する人々)を分析・考察することで、より質の高い環境を設計・計画することが可能になる。本講義では、「環境心理学的な視座から人間と環境との関係を捉えるとはどのようなことか？」を理解することを主たる目的とし、人間の心理や行動の特性に関する基礎的な概念を説明し考察する。さらに、それらに基づく環境デザインの方法についても考察する。	<ul style="list-style-type: none"> 環境心理学的な視点から人間と環境との関係を捉えることによって、人間の心理や行動の特性に関する基礎的な概念を習得することができるようになる。（知識・理解） また、そのことによって、より質の高い環境を設計・計画することができるようになる。（思考・判断・表現） 	<ul style="list-style-type: none"> 環境心理学的な視点から人間と環境との関係を捉えることによって、人間の心理や行動の特性に関する基礎的な概念を習得することができるようになる。（知識・理解）
平面構成演習I	家政学部 学科専門教育科目 建築・デザイン学科	1	1	授業は色彩演習と形態演習を行う。色彩演習ではマンセルの色彩体系を基に、色相・明度・彩度の特性を理解した上で、色彩の相互関係と色の効果を学ぶ。形態演習では形の成り立ちを学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 造形要素となる色彩と形態についての基礎的な理論の知識を得て、理解できるようになる。（知識・理解） 色彩と形態が伝える意味とその特性を実技演習することで、造形知識と表現制作技術を取得できるようになる。（技能） また、生活の中にある色や形に関心が持てるようになり生活を体感する力が増す。（関心・意欲・態度） デザインにおける思考や表現においてその基礎をなすものであり、それらを判断する力が身に付く。（思考・判断・表現） 	<ul style="list-style-type: none"> 造形要素となる色彩と形態についての基礎的な理論の知識を得て、理解できるようになる。（知識・理解） 色彩と形態が伝える意味とその特性を実技演習することで、造形知識と表現制作技術を取得できるようになる。（技能） デザインにおける思考や表現においてその基礎をなすものであり、それらを判断する力が身に付く。（思考・判断・表現）

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
平面構成演習 II	家政学部 学科 専門教育科目 建築・デザイン学科	1	1	授業は形態演習と構成演習を行う。形態演習では形が持つ特性と意味を学ぶ。構成演習では点・線・面の概念と、それらが持つ造形的な機能と特性を学ぶ。最後にコラージュ制作を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・造形要素となる色彩と形態についての基礎的な理論の知識を得て、理解できるようになる。（知識・理解） ・色彩と形態が伝える意味とその特性を実技演習することで、造形知識と表現制作技術を取得できるようになる。（技能） ・また、生活の中ある色や形に関心が持てるようになり生活を体感する力が増す。（関心・意欲・態度） ・デザインにおける思考や表現においてその基礎をなすものであり、それらを判断する力が身に付く。（思考・判断・表現） 	<ul style="list-style-type: none"> ・造形要素となる色彩と形態についての基礎的な理論の知識を得て、理解できるようになる。（知識・理解） ・色彩と形態が伝える意味とその特性を実技演習することで、造形知識と表現制作技術を取得できるようになる。（技能） ・デザインにおける思考や表現においてその基礎をなすものであり、それらを判断する力が身に付く。（思考・判断・表現）
立体構成演習 I	家政学部 学科 専門教育科目 建築・デザイン学科	1	1	立体造形プロセスで重要な「観察」→「構造化」→「単純化」→「抽象化」を学ぶ。紙やスチレンボード、プラ板などの平面素材を使った立体造形を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・デザインの立体造形プロセスで重要な「観察」→「構造化」→「単純化」→「抽象化」を学ぶ。紙やスチレンボード、プラ板などの平面素材を使った立体造形を行う事によって立体を理解し、素材を通し本質的な道理としての知識を得ることができる。（知識・理解） ・その中で思考し判断し、表現に結び付けることができるようになる。（技能） ・この演習において、生活の中での立体デザインがいかなるものかが認識できる。（関心・意欲・態度） 	<ul style="list-style-type: none"> ・デザインの立体造形プロセスで重要な「観察」→「構造化」→「単純化」→「抽象化」を学ぶ。紙やスチレンボード、プラ板などの平面素材を使った立体造形を行う事によって立体を理解し、素材を通し本質的な道理としての知識を得ることができる。（知識・理解） ・その中で思考し判断し、表現に結び付けることができるようになる。（技能） ・この演習において、生活の中での立体デザインがいかなるものかが認識できる。（関心・意欲・態度）
立体構成演習 II	家政学部 学科 専門教育科目 建築・デザイン学科	1	1	機能と形態の関係を考え立体造形を行う。スタイロフォーム、インダストリアルクレイ、シリコンやエポキシ系樹脂などのデザインモデル素材の加工方法を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・デザインの立体造形プロセスで重要な「観察」→「構造化」→「単純化」→「抽象化」を学ぶ。紙やスチレンボード、プラ板などの平面素材を使った立体造形を行う事によって立体を理解し、素材を通し本質的な道理としての知識を得ることができる。（知識・理解） ・その中で思考し判断し、表現に結び付けることができるようになる。（技能） ・この演習において、生活の中での立体デザインがいかなるものかが認識できる。（関心・意欲・態度） 	<ul style="list-style-type: none"> ・デザインの立体造形プロセスで重要な「観察」→「構造化」→「単純化」→「抽象化」を学ぶ。紙やスチレンボード、プラ板などの平面素材を使った立体造形を行う事によって立体を理解し、素材を通し本質的な道理としての知識を得ることができる。（知識・理解） ・この演習において、生活の中での立体デザインがいかなるものかが認識できる。（関心・意欲・態度）
観察・描写	家政学部 学科 専門教育科目 建築・デザイン学科	1	1	演習の課題を始める上で建築、インテリアデザインともに自分たちを取り巻いているのと同じ「空間のデザイン」であるということを理解してほしい。それには日頃から3次元でものを「観て」「感じる」ちからが必要である。この授業ではまず多くのスケッチを通し、デザイン、造形の最も基礎である物事を観察し把握する力を身につける。決して上手に対象を写すことを目的とするのではなく、様々な機能や思いから生まれた形や空間を観察し、その必然性を探り、手を動かすことで理解を深める習慣を身につける。さらに三面図から立体をイメージする練習や立体を創造する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ものの形や成り立ちを表現する技術が身につく。（技能） ・多くのスケッチを通し、デザイン、造形の最も基礎である物事を観察、把握、記憶、考える力を養う。（思考・判断・表現） ・常にものを「観て」、その成り立ちを「感じる」習慣を身につけ、「ものづくり」に活用する態度を養うことができる。（関心・意欲・態度） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ものの形や成り立ちを表現する技術が身につく。（技能） ・常にものを「観て」、その成り立ちを「感じる」習慣を身につける態度を養うことができる。（関心・意欲・態度）
建築&デザイン総合演習	家政学部 学科 専門教育科目 建築・デザイン学科	3	3	図「空間」と「もの」はひとつになって初めて生き生きとした場や街となります。その「空間」と「もの」を対象として生活者の立場から具体的な生活の場や街を提案するのが建築・デザイン学科です。そのため各コース各分野の垣根を越えて横断的に繋ぐチームを編成し、互いに競い合いながら作品を制作するのがこの演習です。「街を元気にする」をテーマに、各チームで街を調査し、必要な空間・機能・ものを抽出し具体的な空間とそこで必要な家具やサイン等をトータルに計画し、創造し、提案することを目的としています。最終講評会には地元の方々をお招きして講評して頂く。	<ul style="list-style-type: none"> ・チームとして設計・デザインする技術を修得することができる。（技能） ・チームのなかで適切な役割分担を行い、テーマに沿って状況を分析・評価し、設計・デザインする力を修得することができる。（思考・判断・表現） ・常に変化する生活環境に関心を持ち続け、どのようにあるべきかを考え続ける力を修得することができる。（関心・意欲・態度） 	<ul style="list-style-type: none"> ・チームとして設計・デザインする技術を修得することができる。（技能） ・テーマに沿って状況を分析・評価し、設計・デザインする力を修得することができる。（思考・判断・表現）
プレゼンテーションテクニック	家政学部 学科 専門教育科目 建築・デザイン学科	1	1	ニューヨークマジソン・アベニューのアドマンたちが、企画案を広告主に提案・説明することを「プレゼンテーション」と呼び、その言葉や形式が日本の広告業界にも取り入れられた。その「プレゼンテーション」は、いまや広告業界のみならず、あらゆる業界において、ビジネスの成否のカギを握るイベントとなっている。しかし「プレゼンテーション」は、産業界に限った儀式ではない。たとえば、日本国の首相や大臣たちの演説や答弁も、私たち国民に対する「プレゼンテーション」に他ならない。身近なところでは、授業での発表や就職等に際しての面接も「プレゼンテーション」そのものである。つまり、自分の考えや思いを相手に伝え、理解・共感してもらおうとする行為は、すべて「プレゼンテーション」と呼んでも過言ではない。本授業は、充実した「プレゼンテーション」のあり方を考えつつ、演習をふんだんに取り入れて進めていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・日本国の首相や大臣たちの演説や答弁も、私たち国民に対する「プレゼンテーション」に他ならない。身近なところでは、授業での発表や就職等に際しての面接も「プレゼンテーション」そのものである。このプレゼンテーションの本質の知識と理解を得る事ができ。（知識・理解） ・自分の考えを相手にきちんと伝える方法が身に付く。（技能） ・どのようにプレゼンするかを思考する事こそ、判断力、思考力が身に付き最終的なプレゼンテーションの表現力となる。（思考・判断・表現） ・世の中に対する関心、自分の立ち振る舞いとしての態度と意欲が身に付く。（関心・意欲・態度） 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本国の首相や大臣たちの演説や答弁も、私たち国民に対する「プレゼンテーション」に他ならない。身近なところでは、授業での発表や就職等に際しての面接も「プレゼンテーション」そのものである。このプレゼンテーションの本質の知識と理解を得る事ができ。（知識・理解） ・自分の考えを相手にきちんと伝える方法が身に付く。（技能） ・どのようにプレゼンするかを思考する事こそ、判断力、思考力が身に付き最終的なプレゼンテーションの表現力となる。（思考・判断・表現）

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
写真基礎演習	家政学部 学科 専門教育科目 建築・デザイン学科	2	2	写真は今や、技術の著しい進歩で、シャッターを押せば写る時代である。しかし、複写でもしない限り、同じ写真は存在しない。なぜならカメラの後ろには人間がいるからであり、必ず何かしらその人間の特性が写真に反映されるからである。それゆえに、写真は本来科学技術でありながら、今や一つの芸術のジャンルになっている。 この授業では、この二次元の世界に意味を持たせるための視覚的構成要素となるものを理解しつつ、実践していく。また、写真が科学技術に基づくものである以上、その特性を理解しコントロールしなければならない。写真は感性、哲学、思想などいろいろなことが複雑に相関しながら、1枚の写真を撮る過程で、多くの選択を迫られる。その訓練の意味でも、撮ることに講義同様、重きを置きたい。	・35ミリカメラを使って、フィルム、デジタルの使い方を覚える。（技能） ・写真技能を身に付け映像を構成する基本的な要素を学習し実践しながら、写真を撮ることに慣れ親しんでいきながら写真の知識と理解を身に付ける事ができる。（知識・理解） ・写真を撮ると言う行為は判断力そのものであり、そこに思考と表現が伴う。それらが身に付く。（思考・判断・表現） ・写真を撮る行為を持って世の中を見ると、日常生活の細部がよく見えるようになり関心が高まる。（関心・意欲・態度）	・35ミリカメラを使って、フィルム、デジタルの使い方を覚える。（技能） ・写真技能を身に付け映像を構成する基本的な要素を学習し実践しながら、写真を撮ることに慣れ親しんでいきながら写真の知識と理解を身に付ける事ができる。（知識・理解） ・写真を撮る行為を持って世の中を見ると、日常生活の細部がよく見えるようになり関心が高まる。（関心・意欲・態度）
木工演習I	家政学部 学科 専門教育科目 建築・デザイン学科	2	2	木工とは、木材を用いて家具や生活用品等を制作することをいい、この木工の技術、知識を身につけるには、まず木の性質、木工具、加工方法等について知ると共に、木材や道具の扱い方に慣れることが必要となる。そのため、この基礎段階では基本的な形態をした生活用品をつくることで、これを学ぶ。	・「木工の基礎」を理解できるようになる。（知識・理解） ・「汎用的技能」として基本的な木工作品を表現することができるようになる。（技能） ・「態度や志向性」として、木製品・木工作品に関心を持つことができるようになる。（関心・意欲・態度） ・「総合的な学習経験と創造的思考力」として、この科目で獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、これから出会う新たな課題にそれらを適用し、解決することができるようになる。（思考・判断・表現）	・「木工の基礎」を理解できるようになる。（知識・理解） ・「汎用的技能」として基本的な木工作品を表現することができるようになる。（技能） ・「態度や志向性」として、木製品・木工作品に関心を持つことができるようになる。（関心・意欲・態度） ・「総合的な学習経験と創造的思考力」として、この科目で獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用できるようになる。（思考・判断・表現）
木工演習II	家政学部 学科 専門教育科目 建築・デザイン学科	2	2	この木工演習IIでは、木工演習Iで修得した基礎的内容を発展させ、各自が木工製品をデザイン、制作するための力を養う。様々な木工具による加工技術、電動工具を扱う基礎技術を修得し、木材の種類と特徴、塗装について等のより専門的な知識や技術を学ぶ。	・「木工の基礎」を理解できるようになる。（知識・理解） ・「汎用的技能」として基本的な木工作品を表現することができるようになる。（技能） ・「態度や志向性」として、木製品・木工作品に関心を持つことができるようになる。（関心・意欲・態度） ・「総合的な学習経験と創造的思考力」として、この科目で獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、これから出会う新たな課題にそれらを適用し、解決することができるようになる。（思考・判断・表現）	・「木工の基礎」を理解できるようになる。（知識・理解） ・「汎用的技能」として基本的な木工作品を表現することができるようになる。（技能） ・「態度や志向性」として、木製品・木工作品に関心を持つことができるようになる。（関心・意欲・態度） ・「総合的な学習経験と創造的思考力」として、この科目で獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用できるようになる。（思考・判断・表現）
建築概論	家政学部 学科 専門教育科目 建築・デザイン学科	1	1	本授業は、建築コースの各分野（住生活、意匠、構造、計画、環境）の先生が、各分野の専門の立場から、人の視点に立った建築についての講義を、オムニバス形式で行うことにより、多くの観点から建築を理解する能力を身につけることを目的とする。 建築は様々な要素から成り立っている。周辺環境（光、風、緑などの自然環境、町並）、使い手、使い方（用途）、骨格をつくる構造、空間の環境をつくる設備、社会性などを総合して出来上がる。特に建築はそれ自体では成り立たず、「ひと」が関わることによって初めて成り立つ。「ひと」が関わるということは、十人十色というように10人いれば、10通りの使い方、感じ方があるはずである。すなわち、10通りの解答があるということである。しかし、ひとつの建築をつくるということは、様々な解答の中からひとつの快適な空間をつくるということである。	・各分野の専門の立場から建築を論じて行くことで、建築を多視点から捉えることができる。（知識・理解） ・各分野の知識が数多くあることによって、対象となる空間の分析・評価ができ、目的にあった適切なデザインコンセプトを構築する力を修得することができる。（思考・判断・表現） ・自分自身の建築に対する好学姿勢の確立を図ることができる。（関心・意欲・態度）	・建築を多視点から捉えることができる。（知識・理解） ・目的にあった適切なデザインコンセプトを構築する力を修得することができる。（思考・判断・表現） ・自分自身の建築に対する好学姿勢の確立を図ることができる。（関心・意欲・態度）
建築材料学（170以降は実験含む）	家政学部 学科 専門教育科目 建築・デザイン学科	2	2	建築物は、人命と財産およびそこに暮らす人々の身体と心の健康と安全を保証するものでなければならない。これは建築物の設計に際し、建築の造形・材料・構造の選択が適正なものであって初めて可能となる。このことを踏まえ、本授業では、代表的な建築材料を分類し、その物理的・化学的性質の基本的知識を理解するとともに「建築空間に使用された状態の材料の特性」について考察する。特に「省エネ・省資源・環境保全・廃棄物削減」に大きく影響し、建築物の安全性・耐久性・快適性を担保する構造材料について、歴史的視点を踏まえつつ視覚媒体を用いて考察する。また、最も代表的なコンクリート材料について、実際に配合実験を実施し、材料の構造的特徴を理解する。	1. 築空間の安全性・耐久性・居住性などを考慮した主に構造材料に関する基礎知識を習得できる。（知識・理解） 2. 質系・コンクリート系・鋼材系材料の分類と物理的・化学的性質を説明できる。（知識・理解） 3. コンクリートの配合実験を通してコンクリートの構造的な材料特性を説明できる。（知識・理解） 4. 表的仕上げ材料、機能材料を説明できる。（知識・理解） 5. エネ・省資源・環境保全・廃棄物削減への意識の高揚をすることができる。（関心・意欲・態度）	1. 築空間の安全性・耐久性・居住性などを考慮した主に構造材料に関する基礎知識を習得できる。（知識・理解） 2. 質系・コンクリート系・鋼材系材料の分類と物理的・化学的性質を説明できる。（知識・理解） 3. 表的仕上げ材料、機能材料を説明できる。（知識・理解）

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
建築法規	家政学部 学科 専門教育科目 建築・デザイン学科	2	2	建築を設計する際には建築基準法を中心とした関連法規を守ることが最低限必要になります。また建築・インテリア・不動産関係の仕事で必要になることはもとより、それらの資格試験で必要科目となります。さらに生活のさまざまな場面で活用することもあるでしょう。授業では建築基準法の概要から法令、関連法規の概要の理解と、また建築に携わる者の責任・モラルなどの認識を目的とする。	<ul style="list-style-type: none"> ・建築・インテリアを学び、また建築・インテリア関連の資格取得を目指す方は、建築関連法規の基礎知識を修得して具体的に説明できるようになる。（知識・理解） ・建築に携わる者の責任・モラルなどについて理解して具体的に説明できるようになる。（知識・理解） ・具体的な事象に知識を応用し判断できるようになる。（思考・判断・表現） 	<ul style="list-style-type: none"> ・建築に携わる者の責任・モラルなどについて理解して具体的に説明できるようになる。（知識・理解） ・具体的な事象に知識を応用し判断できるようになる。（思考・判断・表現）
建築構法	家政学部 学科 専門教育科目 建築・デザイン学科	2	2	屋根、床、壁、天井、階段、開口部など建築は様々な部位から成り立っています。建築はこれら各々の役割を担った部位が、ある関係性を持ちながら複合し、建築の機能を満足する空間を創り出しています。当然建築は、その用途の種類にかかわらず安全で使いやすく、そして快適性が常に求められます。同時に、建築はそれ自体単独では成り立ちません。都市を構成するひとつの要素として街並を創り出す様に、街の財産として周辺環境との調和や次世代への配慮も求められています。この様に建築はものとして形づくられるだけでなく、環境への配慮というサスティナブルな視点など多種多様な要素が必要となっており、それを実現するために、それらを構成する部位が様々な“しくみ”を持っています。本講義では、建築を構成する各部位の具体的な“しくみ”を実例をもとに理解し、基礎的な知識と設計の手法を身につける。	<ul style="list-style-type: none"> ・建築はどのように建っているのか、材料特性を理解し、その組み合わせを理解することができるようになる。（知識・理解） ・建築空間の質に構法が重要な役割をはたしていることを理解することができるようになる。（知識・理解） ・具体的な「もの」を見ることにより視覚的に理解することができるようになる。（知識・理解） ・建築を学び建築士を目指す方に基本的知識を習得することができるようになる。（知識・理解） ・多くの事例を見ることによって、どのような“しくみ”にすればいいのか考え提案できるようになる。（思考・判断・表現） 	<ul style="list-style-type: none"> ・建築はどのように建っているのか、材料特性を理解し、その組み合わせを理解することができるようになる。（知識・理解） ・具体的な「もの」を見ることにより視覚的に理解することができるようになる。（知識・理解）
建築施工	家政学部 学科 専門教育科目 建築・デザイン学科	2	2	建設プロジェクトの構想、企画から設計、施工までがどのようなプロセスで進行しているかという大きな視点から、建築施工の分野をフォーカスし考察する。主な講義内容はテキストに沿ったものとするが、自身の経験を基にリアリティのある内容とする。建築工事を施工者、監理者、PM r（プロジェクトマネージャ）の視点から考察することで現実の建設プロジェクトを理解してもらいたい。また、それぞれの分野における理解を確認するための課題を出題する。	<ul style="list-style-type: none"> ・建築生産および建設プロジェクト全体の仕組みが理解でき、関心が持てる（関心・意欲・態度） ・建築施工の主要分野における管理項目、管理技術について基礎知識が理解できる（知識・理解） 	<ul style="list-style-type: none"> ・建築施工の主要分野における管理項目、管理技術について基礎知識が理解できる（知識・理解）
まちづくり論	家政学部 学科 専門教育科目 建築・デザイン学科	3	3	近年、地方都市では中心市街地の空洞化が顕著になり、中山間地域では高齢化が進んでいる。しかし、このような場所においても住民・自治体・NPO・企業などが、様々な知恵を絞りながらいきいきと生活している場所が数多く存在している。そこで様々な手法で取り組まれている各地のまちづくりの動向について理解し、それらの成功要因・課題を明らかにした上で、その重要性や可能性について考察する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「まちづくり」とは何か、その概念や手法、問題点などを学び、現代におけるまちづくりから歴史的なまちなみ保存のまちづくりまで、様々な具体例を通してその基礎知識を説明することができる。（知識・理解） ・近年日本国内の地方都市で問題となっている「中心市街地の空洞化」「郊外」「コミュニティ」「中山間地域」をテーマの中心として、その問題に対する地方都市の生き残り策について列挙するとともに、自分たちがその立場になって考え説明することができるようになる。（思考・判断・表現） ・日々変化するまちづくりに身近な問題として関心が持てるようになる。（関心・意欲・態度） 	<ul style="list-style-type: none"> ・「まちづくり」とは何か、その概念や手法、問題点などを学び、現代におけるまちづくりから歴史的なまちなみ保存のまちづくりまで、様々な具体例を通してその基礎知識を修得することができる。（知識・理解） ・地方都市の生き残り策について学ぶとともに、自分たちがその立場になって考え説明することができるようになる。（思考・判断・表現）
環境工学	家政学部 学科 専門教育科目 建築・デザイン学科	3	3	建築をとりまく環境は多種多様であるが、特に人間にとって快適な環境を創造することは重要である。環境工学とは、自然環境を利用したり、制御したりしながら、安全でより快適な空間をつくるために必要な知識や技術を学ぶための学問分野である。本講義では、主として「気候」「日照と日射」「光環境」について、その原理、内容、方法、課題などの観点から考察し、環境工学を学ぶ上で必要な基礎知識を理解する。関連性が極めて強いため、後期の『建築設備』を併せて履修することが望ましい。	<ul style="list-style-type: none"> ・環境、光環境の様々な問題について、その原理、内容、方法、課題などの観点から論じ、環境工学を学ぶ上で必要な基礎知識を習得することができるようになる。（知識・理解） ・生活を取り巻いている環境因子に常に関心を持てるようになる。（関心・意欲・態度） 	<ul style="list-style-type: none"> 環境工学を学ぶ上で必要な基礎知識を習得することができるようになる。（知識・理解）
建築設備	家政学部 学科 専門教育科目 建築・デザイン学科	3	3	建築設備とは、快適な建築環境を実現するための積極的手段であり、建築を計画する上で欠くことの出来ない要素技術である。本講義では、建築設備を用いて対応される熱環境、空気環境、音環境の様々な問題について、その内容、原理、方法、課題などの観点から考察していく。関連性が極めて強いため、前期の『環境工学』を併せて履修することが望ましい。	<ul style="list-style-type: none"> ・熱環境、空気環境、水環境の様々な問題について、その原理、内容、方法、課題などの観点から論じ、建築設備を学ぶ上で必要な基礎知識を習得することができるようになる。（知識・理解） ・生活に身近な、熱、空気、水がどのようにあるべきなのかを常に考えるようになる。（関心・意欲・態度） 	<ul style="list-style-type: none"> 建築設備を学ぶ上で必要な基礎知識を習得することができるようになる。（知識・理解）
構造力学 I	家政学部 学科 専門教育科目 建築・デザイン学科	2	2	構造は建築を成立させるための必要条件の一つである。構造力学では、基礎的な力学を用いてこの構造を理解し、建築設計を行うために必要な構造的センスを身につけることを目標とする。また、建築士受験に必要な構造の基礎知識を理解する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 建物の構造的安全性を満たす条件の理解ができるようになる。（知識・理解） 2. 建築の設計に必要な基本的な力の流れが理解できるようになる。（技能） 3. 簡単な建造物の構造計算ができるようになる。（技能） 4. 一級建築士、二級建築士受験に必要な構造計算、構造設計の基礎知識が習得できるようになる。（知識・理解）（技能） 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 建物の構造的安全性を満たす条件の理解ができるようになる。（知識・理解） 2. 建築の設計に必要な基本的な力の流れが理解できるようになる。（技能）

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
構造計画	家政学部 学科 専門教育科目 建築・デザイン学科	3	3	建築の構造は、「災害から社会資本としての建築の安全性や耐久性を確保するための重要な分野」であり、さらに近年環境問題に関心が高まる中で省資源・省エネルギー・脱廃棄物・環境保全を推進させ、低炭素社会を実現するための、「人間の営みを地球環境に調和させる技術分野」の一つでもある。本授業では、建築を設計するうえで必要な条件である構造の計画するにあたって、建物が要求する建築空間を以下に安全で機能的な構造で実現するかについて理解する。特に構造をデザインするうえで重要な構造材料に注目し、それぞれの材料が持つ構造的特徴を生かした構造の特徴について事例を挙げながら考察する。	・力学的知識と建築の構え方の知識を修得し、身に付けることができるようになる。（知識・理解） ・「構造計画」は建築のデザインを行う上で重要な構造的基礎項目であり、建物を設計する過程で、適切な構造材料の選択やその構造材料を使った構造方式の計画（構造計画）ができるようになる。（思考・判断・表現）	・「構造計画」は建築のデザインを行う上で重要な構造的基礎項目であり、建物を設計する過程で、その構造材料を使った構造方式の計画（構造計画）ができるようになる。（思考・判断・表現）
構造設計	家政学部 学科 専門教育科目 建築・デザイン学科	3	3	構造力学、構造計画で学習した構造の知識を応用し、建築設計を行ってゆくうえで構造設計の基礎知識は重要である。本授業では、主要構造部材にかかる力にたいしていかに部材をデザインするかを模型実験を通して理解する。	・建築構造の設計理論と設計方法などを修得できるようになる。（知識・理解） ・各種構造と構造力学との関連を理解し、それぞれの目的にあった、「広さ」・「長さ」・「高さ」を安全に確保するため、調和のとれた構造設計ができるようになる。（思考・判断・表現） ・また、その技能が身につく。（技能）	・各種構造と構造力学との関連を理解し、それぞれの目的にあった、「広さ」・「長さ」・「高さ」を安全に確保するため、調和のとれた構造設計ができるようになる。（思考・判断・表現）
建築計画学I	家政学部 学科 専門教育科目 建築・デザイン学科	3	3	人間の日常生活、特に「住まう」行為を中心として、戦前から戦後までの社会背景と建築計画について、時系列的にその変遷を学ぶとともに、それぞれの段階で課題となる学術的理論、芸術的評価、技術的蓄積、さらに社会的役割などを理解する。この授業の中で、建築の実情を把握できるレポートを課す。	・近代以降、家族や共同体のあり方が多様になり、それとともに住宅や集合住宅の建築空間も大きく変わりつつある。そこで、時代の変遷とともにそれらがどのように変わってきたのかを学び理解することができるようになる。（知識・理解） ・また、「使われ方」研究を基盤とした住まいの計画と施設の計画、そして人間一環境行動研究を基盤とした空間の計画ができるようになる。（思考・判断・表現） ・日常生活で日々ふれる施設空間に関心を持つようになる。（関心・意欲・態度）	・時代の変遷とともにそれらがどのように変わってきたのかを学び理解することができるようになる。（知識・理解） ・「使われ方」研究を基盤とした住まいの計画と施設の計画ができるようになる。（思考・判断・表現）
建築計画学II	家政学部 学科 専門教育科目 建築・デザイン学科	3	3	人間の日常生活でも「学ぶ」「集う」「治す」といった機能を持つ公共建築空間を講義の対象として、それらの建築の計画や設計プロセスに沿う形で授業を進行し、それぞれの段階で課題となる学術的理論、芸術的評価、技術的蓄積、さらに社会的役割などを理解する。	・公共建築のあり方は社会の動きに大きく影響され、それと共にその建築空間も変わっていく。本講義では様々な属性の人たちが使う建築空間としての「公共建築」をとりあげ、近代以降の公共建築計画の変遷や計画手法などを学び、知識を身に付ける。（知識・理解） ・具体的な実例を通して建築空間にどのようにフィードバックされているかについて理解し、自分たちの設計課題へと活かすことができるようにする。（思考・判断・表現） ・日常生活で日々ふれる公共建築に関心を持つようになる。（関心・意欲・態度）	・近代以降の公共建築計画の変遷や計画手法などを学び、知識を身に付ける。（知識・理解） ・具体的な実例を通して建築空間にどのようにフィードバックされているかについて理解できるようになる。（思考・判断・表現）
建築積算	家政学部 学科 専門教育科目 建築・デザイン学科	4	4	2010年代を迎え、わが国の建築を取り巻く社会経済環境は著しく変わりつつある。こうした中で、建築の生産プロセスについても、従来のものからは大きく変わろうとしている。本授業においては、こうした建築生産を取り巻く環境の変化から始め、建築プロジェクトの起こり方、経済行為としての建築プロジェクト、住宅産業と建設業、発注と契約、建築企画、業務としての設計と監理、建築積算とコスト管理、生産管理、維持保全とストックの活用、解体と資源循環について、その概要を理解することを目的とする。	・建築のプロジェクトを成功させるためには、建物の、企画から設計、施工、完成、利用・運用、解体・廃棄に至る建築生産プロセスの中で、一貫したコスト管理を導入することが必要である。この授業は、「建築積算」という科目名称を使っているが、上記のコスト管理の手法や考え方を軸にしながら、建築生産プロセス全般の基礎知識について学ぶことで、学生がより実践的な視点で建築物や経営主体としての生産者の役割・機能等を理解することができるようになる。（知識・理解） ・常に建築の生滅に関心を持つことができるようになる。（関心・意欲・態度）	・建築生産プロセス全般の基礎知識について学ぶことで、建築物や生産者の役割・機能等を理解することができるようになる。（知識・理解） ・常に建築の生滅に関心を持つことができるようになる。（関心・意欲・態度）
造園	家政学部 学科 専門教育科目 建築・デザイン学科	3	3	私達の生活は人工の内部空間だけで完結しているのではなく、外部空間や自然とバランスのなかで成り立っているものである。かつて「造園」とは庭園・公園・緑地等を造ることといわれていたが、19世紀半ばに行われたアメリカ・セントラルパークの国際コンペ以降、建築と造園を総合的に考え、自然と人間生活の共存を背景に、建築や都市の快適な環境を造ることが必要と考えられるようになった。この授業では、国内外の歴史的背景を俯瞰し、現在のランドスケープデザインのなかに根付いている日本特有の自然観や現在のランドスケープデザインの考え方や手法のもととなっている背景を認識し、実際に身近にある都市公園を事例に、ランドスケープの分析方法・デザイン手法を演習形式で理解する。	・既存の風景・景色の成り立ちや特徴の分析方法を認識し、新たな生活空間としての屋外空間・景色の創造する基本的な手法について理解出来るようになる。（知識・理解） ・日々変化する日常生活のなかで、内部空間と外部空間との関係がどのようにあるべきかを常に関心をもって体験し評価することができるようになる。（関心・意欲・態度）	・既存の風景・景色の成り立ちや特徴の分析方法を学び、新たな生活空間としての屋外空間・景色の創造する基本的な手法について理解出来るようになる。（知識・理解）
構造力学II	家政学部 学科 専門教育科目 建築・デザイン学科	2	2	構造力学Iで学んだ構造力学の基礎を使って、実際の構造物に働く力を、演習問題を解くことで理解する。	・構造力学Iで学んだ構造力学の基礎を使って、実際の構造物に働く力を、演習問題を中心に解くことで応用できるようになる。（知識・理解） ・構造物に荷重がかかった時に力の流れを把握し対処することができる。（技能）	・構造力学Iで学んだ構造力学の基礎を使って、実際の構造物に働く力を、演習問題を中心に解くことで応用できるようになる。（知識・理解）

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
ビジュアルコミュニケーション論	家政学部 学科 専門教育科目 建築・デザイン学科	2	2	現代の生活は、サイン、シンボル、ロゴマークや広告デザインなどたくさんのビジュアルコミュニケーションに満ちあふれている。しかもそれは人間の生活に欠かさない重要な役割を担っている。授業ではその重要性を国内・国外を問わず、たくさんの実際のデザインや広告作品を見ることで理解する。またカンヌ広告賞などのCMも見ることで、世界最新のビジュアルコミュニケーションのトレンドに接しながら、優れた発想を理解し学生が自らも発信できる発想力を養う。毎回行うミニ演習で実際にアイデアを考える訓練を同時に行いながら、ビジュアルコミュニケーション・デザインの創造性を身につける。	<ul style="list-style-type: none"> この授業では、ビジュアル・コミュニケーションの様々な種類の解説をして、その中でミニ演習を体験する事により理解できるようになる。（知識・理解） その結果、基本となる視覚デザインや広告デザインの最も原点となる思考・判断・表現力を身につけることができるようになる。（思考・判断・表現） また、将来的なデザイン制作におけるディレクション技能の基礎が身に付く。（技能） デザインを通して世の中を知る事により、変化する生活に対する感性が増す。（関心・意欲・態度） 	<ul style="list-style-type: none"> この授業では、ビジュアル・コミュニケーションの様々な種類の解説をして、その中でミニ演習を体験する事により理解できるようになる。（知識・理解） その結果、基本となる視覚デザインや広告デザインの最も原点となる思考・判断・表現力を身につけることができるようになる。（思考・判断・表現） また、将来的なデザイン制作におけるディレクション技能の基礎が身に付く。（技能）
建築図学I	家政学部 学科 専門教育科目 建築・デザイン学科	1	1	「かたち」を創造しようとするとき、ただ頭のなかでイメージするだけでなく、そのイメージした「かたち」を具体的に手を動かして、頭の中から外に取り出し、目で確認できるように表現することが必要となる。その表現手法を修得することを目的としているのが建築図学である。この授業ではさらに、「かたち」を考えるときに有効となる、グラフィックシンキング（図式思考）の中で利用できる図法に絞り込んで講義・演習を進めていく。「建築図学I」では、立体を3Dの単面で表現する、OBLIQUE ProjectionとAXONOMETRIC Projection、また、立体を2Dの複面で表現する複面投象の理解に重点をおいている。なかでも、OBLIQUEとAXONOMETRICにおいては独自の手法を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 3Dの立体と空間を把握する方法を理解できるようになる。（知識・理解） 建築を紙と鉛筆で正しく表現し、伝えるための手段として、図法を身につけることができるようになる。（技能） イメージしている建築を紙と鉛筆で表現し、それを目で確認しながらイメージを膨らませ、さらに手を加えより良いものに仕上げていく、グラフィックシンキングの力を学生が付けることができるようになる。（思考・判断・表現） 	<ul style="list-style-type: none"> 3Dの立体と空間を把握する方法を理解できるようになる。（知識・理解） 建築を紙と鉛筆で正しく表現し、伝えるための手段として、学生が図法を身につけることができるようになる。（技能）
建築図学II	家政学部 学科 専門教育科目 建築・デザイン学科	1	1	建築の分野で必要となる、空間の広がりや奥行き、高さや深みを設計段階のエスキースで確認しながら設計を進められるように目標を定め、立体図学のなかのPERSPECTIVE Projectionの図法の講義と演習を行う。ややもすると建築やインテリアの完成予想図としての位置づけがなされる透視図であるが、本来は設計をしている本人が自分のイメージしている空間であるのかどうかを視覚的に確認するための図法でもあり、施主との打ち合わせで簡単に利用できるものでもなければいけないものである。この授業では、一般の図学や設計製図の授業で行われている図法とは違って、より実践的に簡単に利用できるような、独自に開発した図法に絞り込んで集中的に演習を行い、これらの図法をつかって、フリーハンドで空間をデザインできる力を身につける。	<ul style="list-style-type: none"> 建築的スケールの、3Dの立体と空間を把握する方法を理解できるようになる。（知識・理解） 建築を紙と鉛筆で正しく表現し、伝えるための手段として、透視図法を学生が身につけることができるようになる。（技能） イメージしている建築を紙と鉛筆で表現し、それを目で確認しながらイメージを膨らませ、さらに手を加えより良いものに仕上げていく、グラフィックシンキングの力を身につけることができるようになる。（思考・判断・表現） 	<ul style="list-style-type: none"> 建築的スケールの、3Dの立体と空間を把握する方法を理解できるようになる。（知識・理解） 建築を紙と鉛筆で正しく表現し、伝えるための手段として、透視図法を身につけることができるようになる。（技能）
建築・インテリア演習I	家政学部 学科 専門教育科目 建築・デザイン学科	1	1	日常、我々を取り巻いている空間は、ただ何気なく見て感じているだけでは、真に捉えることはできない。見る側の目や脳や身体そのものの構造や特性を一方で知り、もう一方で空間が客観的にどのような構成で成り立ち、機能しているのかを知る必要がある。更にそれらが相互関係を持ち、依存しあっていることを知ることで、始めてその全容が把握できる。次に、把握した数多くの諸要素に正しい評価を与え設計因子とし、それらを総合化して第三者に情報伝達するための二次元や三次元の図面等に表現しなければならない。このような設計の基礎となる空間の把握と、その表現の方法を身につけることを目的とし、その理解と実践を積み重ねながら、それらを身につけていく。最後に自分自身の行き方を住宅として設計する。	<ul style="list-style-type: none"> 建築や環境を把握する基礎知識を修得できるようになる。（知識・理解） もの・空間や状況を五感すべてから感じ取ることができ、あらゆるスケールの視点からも、もの・空間を観ることができるようになる。（知識・理解） 空間を伝達する手法を修得できるようになる。（技能） それらをデータとして記録でき、第三者に表現し伝えることができるようになる。（思考・判断・表現） もの・空間・状況を分析し、適切な「かたち」や「システム」を解決策として、学生が提案できるようになる。（思考・判断・表現） 	<ul style="list-style-type: none"> 建築や環境を把握する基礎知識を修得できるようになる。（知識・理解） 空間を伝達する手法を修得できるようになる。（技能） それらをデータとして記録でき、第三者に表現し伝えることができるようになる。（思考・判断・表現）
建築・インテリア演習II	家政学部 学科 専門教育科目 建築・デザイン学科	1	1	建築・インテリアデザインの基礎として、過去の作品の考察からはじめる。つづいて、図面や模型の制作を通して空間デザインの表現方法を身につける。最終五回の授業では設計課題を実施し、空間デザインに対する理解を深めるとともに発想力および構想力を身につける。	<ul style="list-style-type: none"> 建築空間・インテリア空間をデザインの視点で読み取ることができるようになる。（知識・理解） 意図する空間を図面、模型等で正しく表現できるようになる。（技能） 生活環境を歴史的・社会的文脈の中でとらえ、設計者として問題提起できるようになる。（思考・判断・表現） 周辺環境や条件を分析し、建築・インテリア空間を計画できるようになる。（思考・判断・表現） 	<ul style="list-style-type: none"> 建築空間・インテリア空間を読み取ることができるようになる。（知識・理解） 意図する空間を図面、模型等で正しく表現できるようになる。（技能） 周辺環境や条件を分析し、建築・インテリア空間を計画できるようになる。（思考・判断・表現）
建築総合演習	家政学部 学科 専門教育科目 建築・デザイン学科	2	2	建築を学ぶにあたり、空間を主観的に感じることは重要であるが、一方で、それらを客観的に捉え、万人と共有することも必要となる。そのためには、様々な測定機器を使用して、対象となる「もの」や「空間」を数量化し、客観的な指標と比較・検討することができるようにしなければならない。本科目では、調査・見学、実験等を通して、一般の講義形式の授業では得られない総合的な技術や知識を身につけるために行うものである。授業の後半では、各自具体的なテーマを設定し、それぞれの視点で調査・研究を行い、授業にて意見交換を行いながら内容を深化させ、その成果をレポートにまとめ、プレゼンテーションを実施する。	<ul style="list-style-type: none"> 調査・見学、実験等を通して、一般の講義形式の授業では得られない知識の総合的な関連付けをおこない結論を導き出すことができるようになる。（知識・理解） また、それぞれの視点で調査・研究を行い、授業の中で意見交換や議論を行いながら内容を深化させ、その成果をまとめ、プレゼンテーションする能力を養うことができるようになる。（思考・判断・表現） 	<ul style="list-style-type: none"> 調査・見学、実験等を通して、一般の講義形式の授業では得られない、結論を導き出すことができるようになる。（知識・理解） また、その成果をまとめ、プレゼンテーションする能力を養うことができるようになる。（思考・判断・表現）

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
建築CAD演習Ⅰ	家政学部 学科 専門教育科目 建築・デザイン学科	2	2	CAD(Computer Aided Design)とはデザイン行為を行うときの支援システムであって、決して図面を描くための道具ではない。この授業ではCADの原点であるスケッチパッドシステムの考え方に立ち返り、コンピュータの画面の中でスケッチするように、空間や形を3Dや2Dでデザインし、自分のイメージをモニター上で視覚的に確認しながら構築してゆく。そして、それを3Dの画像や2Dの図面にして、プレゼンテーションや生産の場で活かしてゆく能力を身につける。	・CAD演習Ⅰでは2Dの表現のCAD手法を学び、3Dで立体をモデリングする手法を学び、学生が実務で使えるレベルまでその技術を高め、第三者にプレゼンテーション出来るようになる。(技能) ・CADシステムを紙と鉛筆のように、新しい設計ツールとして使いこなせるようになる。(技能) ・CADシステムを利用して家具・インテリア・建築の設計ができる力を修得できる。(思考・判断・表現)	・CAD演習Ⅰでは2Dの表現のCAD手法を学び、3Dで立体をモデリングする手法を学び、学生が実務で使えるレベルまでその技術を高め、第三者にプレゼンテーション出来るようになる。(技能) ・CADシステムを利用して家具・インテリア・建築の設計ができる力を修得できる。(思考・判断・表現)
建築CAD演習Ⅱ	家政学部 学科 専門教育科目 建築・デザイン学科	2	2	CAD(Computer Aided Design)とはデザイン行為をおこなうときの支援システムであって、決して図面を描くための道具ではない。この授業ではCADの原点であるスケッチパッドシステムの考え方に立ち返り、コンピュータの画面の中で設計条件や生活行為を設定し、スケッチするように、3Dの空間や形にデザインし、自分のイメージを構築してゆく。そして、それを3D動画や画像、また、2Dの図面にして、プレゼンテーションや生産の場でいかしてゆく能力を身につける。建築CAD演習Ⅱでは3D(Axonometric Projection・PerspectiveProjection)の画面でエスキースを行う能力と、それをもとにプレゼンテーションボードを作成する能力も身につける。	・建築CAD演習Ⅰで学んだことを受けて、2次元・3次元で、より高度なエスキースとショードローイングできる力を付け、実務で使えるレベルまでその技術を高め、学生が第三者に表現することが出来るようになる。(技能) ・学生がCADシステムを紙と鉛筆のように、新しい設計ツールとして使いこなせるようになる。(技能) ・CADシステムを利用して家具・インテリア・建築の設計をして、プレゼンテーションできる力を修得できる。(思考・判断・表現) ・テーマにそって身近な空間に関心を持ち、常に何かをつかもうとする意欲や態度が身に付く。(関心・意欲・態度)	・建築CAD演習Ⅰで学んだことを受けて、2次元・3次元で、より高度なエスキースとショードローイングできる力を付け、実務で使えるレベルまでその技術を高め、学生が第三者に表現することが出来るようになる。(技能) ・CADシステムを利用して家具・インテリア・建築の設計をして、プレゼンテーションできる力を修得できる。(思考・判断・表現)
建築構造材料実験	家政学部 学科 専門教育科目 建築・デザイン学科	2	2	建造物に使用される材料の性質には、物理的・化学的性質をはじめ、力学的性質や耐久性などがあることを理解する。また、これらの諸性質は、建造物の目的(用途)や機能(用法)、設計上の条件、施工上の作業性・工期などに関係するばかりでなく、構造上の安全性・安定性・耐久性・快適性などの性能に直接影響することも理解する。本授業は「材料の諸性質を実験的に考察し、建築材料学の講義で習得した知識を確認する場」として位置付けているが、併せて「材料が建造物に使用された状態で、空間要素としてどのような性能をもっているかを認識すること」を目的としている。	・建築空間の安全性・耐久性・居住性などを考慮した主に構造材料に関する基礎知識が理解できる。(知識・理解) ・木質系・コンクリート系・鋼材系材料の分類と物理的・化学的性質が理解できる。(知識・理解) ・省エネ・省資源・環境保全・廃棄物削減への基礎知識の理解ができる。(知識・理解) ・身の回りにおける生活で必要となる全ての材料に関心を持てるようになる。(関心・意欲・態度)	・建築空間の安全性・耐久性・居住性などを考慮した主に構造材料に関する基礎知識が理解できる。(知識・理解)
建築設計演習Ⅰ	家政学部 学科 専門教育科目 建築・デザイン学科	2	2	建築とインテリアは本来内部空間だけでは成り立たず、建築の骨格をなす構造とともに成立するもので建築空間を理解することはとても重要であるとともに、ランドスケープ、街並みなどの外部環境との関係も考えなければ成立しない。又、その空間に配置される家具や、プロダクト照明計画なども重要で、すべてをトータルに考える必要がある。本演習ではキャンパス内学生会館など、単純な機能の建築空間を通して、家具からランドスケープまでトータルなデザインの進め方や手法を身につけ、構造と空間を理解し自ら設計し表現する力を身につける。周辺環境に考慮した配置計画、建築計画、インテリア計画、家具詳細設計、照明計画等トータルなデザインを段階を追って実施する。(1) 建築架構を考慮したインテリアの設計手法 (2) 各機能(家具、家具配置、水まわり、トイレ、通路、階段など)の適切な寸法 (3) 家具詳細設計 (4) プレゼンテーションの基礎的技術なども併せて身につける。最終講評日に学外より先生をお招きして講評する。	・建築と人の生活の関係を理解できるようになる。(知識・理解) ・設計した空間を図面や模型として伝える技術が身につく。(技能) ・単純な機能の建築空間で建築の設計からインテリアまでトータルに設計を行い計画の進め方や手法を学ぶとともに、構造と空間のデザインを理解し、自ら設計し表現する力を養うことができるようになる。(思考・判断・表現) ・テーマにそって身近な空間に関心を持ち、常に何かをつかもうとする意欲や態度が身に付く。(関心・意欲・態度)	・設計した空間を図面や模型として伝える技術が身につく。(技能) ・単純な機能の建築空間で建築の設計からインテリアまでトータルに設計を行い計画の進め方や手法を学ぶとともに、構造と空間のデザインを理解し、自ら設計し表現する力を養うことができるようになる。(思考・判断・表現)
建築設計演習Ⅱ	家政学部 学科 専門教育科目 建築・デザイン学科	2	2	小さな公共施設の課題を通して、それらの建築の計画手法を身につけるとともに、空間のあり方、周辺環境との関係性を読み取り、自らの作品を表現する力を身につける。課題の進め方としては、各課題とも敷地調査、空間分析、配置計画、建築計画、断面、立面計画、外構計画と段階を追って進め、それと併せて、プレゼンテーションの基礎的技術も身につける。最終講評会において、学外講師を招き、学生作品のクリティークを行う。	・建築と人の生活の関係を理解できるようになる。(知識・理解) ・設計した空間を図面や模型として伝える技術が身につく。(技能) ・小さな公共施設の設計・計画を通して、ユーザーの空間を真摯に考え、建築計画・環境と調和・構造と空間のデザインを習得し、それらを建築として表現が出来るようになる。(思考・判断・表現) ・テーマにそって身近な空間に関心を持ち、常に何かをつかもうとする意欲や態度が身に付く。(関心・意欲・態度)	・設計した空間を図面や模型として伝える技術が身につく。(技能) ・小さな公共施設の設計・計画を通して、ユーザーの空間を真摯に考え、建築計画・環境と調和・構造と空間のデザインを習得し、それらを建築として表現が出来るようになる。(思考・判断・表現)
インテリアデザイン演習Ⅰ	家政学部 学科 専門教育科目 建築・デザイン学科	2	2	インテリアは本来内部空間だけでは成り立たず、建築の骨格をなす構造とともに成立するもので建築空間を理解することはとても重要であるとともに、ランドスケープ、街並みなどの外部環境との関係も考えなければ成立しない。又、その空間に配置される家具や、プロダクト照明計画なども重要で、すべてをトータルに考える必要がある。本演習ではキャンパス内学生会館など、単純な機能の建築空間を通して、家具からランドスケープまでトータルなデザインの進め方や手法を身につけ、構造と空間を理解し自ら設計し表現する力を身につける。周辺環境に考慮した配置計画、建築計画、インテリア計画、家具詳細設計、照明計画等トータルなデザインを段階を追って実施する。(1) 建築架構を考慮したインテリアの設計手法 (2) 各機能(家具、家具配置、水まわり、トイレ、通路、階段など)の適切な寸法 (3) 家具詳細設計 (4) プレゼンテーションの基礎的技術なども併せて身につける。最終講評日に学外より先生をお招きして講評する。	・建築と人の生活の関係を理解できるようになる。(知識・理解) ・設計した空間を図面や模型として伝える技術が身につく。(技能) ・単純な機能の建築空間で建築の設計からインテリアまでトータルに設計を行い計画の進め方や手法を学ぶとともに、構造と空間のデザインを理解し、自ら設計し表現する力を養うことができるようになる。(思考・判断・表現) ・テーマにそって身近な空間に関心を持ち、常に何かをつかもうとする意欲や態度が身に付く。(関心・意欲・態度)	・設計した空間を図面や模型として伝える技術が身につく。(技能) ・単純な機能の建築空間で建築の設計からインテリアまでトータルに設計を行い計画の進め方や手法を学ぶとともに、構造と空間のデザインを理解し、自ら設計し表現する力を養うことができるようになる。(思考・判断・表現)

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
インテリアデザイン演習II	家政学部 学科 専門教育科目 建築・デザイン学科	2	2	最も身近である住宅のインテリア設計(新築・改修)を通して、生活と住空間、仕事と住空間、外部環境と住空間(採光・通風・眺望)、そして構造躯体と空間のデザインなどを理解し、自ら設計し表現する力を身につける。	・インテリア空間と人の生活の関係を理解できるようになる。(知識・理解) ・設計した空間を図面や模型として伝える技術が身につく。(技能) ・テーマとして投げかかれた住空間を適切に把握し、設計を行うことができ、伝達手段としてのプレゼンテーションの技術を身につけることができる。(思考・判断・表現) ・テーマにそって身近な空間に関心を持ち、常に何かをつかもうとする意欲や態度が身に付く。(関心・意欲・態度)	・設計した空間を図面や模型として伝える技術が身につく。(技能) ・テーマとして投げかかれた住空間を適切に把握し、設計を行うことができ、伝達手段としてのプレゼンテーションの技術を身につけることができる。(思考・判断・表現)
インテリアデザイン演習III	家政学部 学科 専門教育科目 建築・デザイン学科	3	3	働くことをテーマにした、インテリアデザインの設計演習を通じて (1)実例の調査分析により各職業における単位空間の適切なスケールの把握 (2)各機能の適切な寸法把握 (3)架構とインテリア (4)外部環境との関連 (5)相手に設計意図を伝える効果的なプレゼンテーション技術など、これらを実行できる能力を身につける。	・建築空間とインテリア空間と人の生活の関係を理解できるようになる。(知識・理解) ・設計した空間を図面や模型として伝える技術が身につく。(技能) ・働く「場」は一般的には効率性が求められ、機能的が最優先される。一方で働く人の立場にたったゆとりのある快適なワークスペースも求められている。インテリア演習IIIでは、働く場を持つ単位空間の適切なスケールを把握するとともに、機能的かつ快適なオフィス空間を自ら設計し、表現できるようになる。(思考・判断・表現) ・テーマにそって身近な空間に関心を持ち、常に何かをつかもうとする意欲や態度が身に付く。(関心・意欲・態度)	・設計した空間を図面や模型として伝える技術が身につく。(技能) ・働く場を持つ単位空間の適切なスケールを把握するとともに、機能的かつ快適なオフィス空間を自ら設計し、表現できるようになる。(思考・判断・表現)
インテリアデザイン演習IV	家政学部 学科 専門教育科目 建築・デザイン学科	3	3	都市には、その地域に根ざした様々な生活支援施設がある。これらの人々の生活をフォローする施設の計画を通して、各施設がもつ単位空間の適切なスケール感を把握するとともに、機能的で快適で、かつ演出性にすぐれた空間を自ら設計し表現する力を身につけるとともに、使う人の立場になって、必要な機能や空間を分析し合理的に計画、設計できるという能力を身につける。またカタチだけでなく、生活を楽しむ場としての、心豊かな生き方のデザインという視点も大切にしたいデザインができる能力を身につける。	・建築空間とインテリア空間と人の生活の関係を理解できるようになる。(知識・理解) ・設計した空間を図面や模型として伝える技術が身につく。(技能) ・生活環境の中で心地よく暮らす為の快適で魅力的なデザインとは何かを具体的な空間にすることができるようになる。(思考・判断・表現) ・テーマにそって身近な空間に関心を持ち、常に何かをつかもうとする意欲や態度が身に付く。(関心・意欲・態度)	・設計した空間を図面や模型として伝える技術が身につく。(技能) ・生活環境の中で心地よく暮らす為の快適で魅力的なデザインとは何かを具体的な空間にすることができるようになる。(思考・判断・表現)
インテリアデザイン演習V	家政学部 学科 専門教育科目 建築・デザイン学科	4	4	2つの課題の通じて、インテリア空間と人との関係を理解し、そのあるべき「かたち」を提案できる能力を身につける。 (課題1)空間が人に行動を促す仕掛けを「自然光」をエネルギーとして提案する。 (課題2)課題1のコンセプトに基づき空間へ展開する。	・建築空間とインテリア空間と人の生活の関係を理解できるようになる。(知識・理解) ・設計した空間を図面や模型として伝える技術が身につく。(技能) ・クライアントや社会のニーズを分析し、それらに最適な環境を決定し表現できるようになる。(思考・判断・表現) ・テーマにそって身近な空間に関心を持ち、常に何かをつかもうとする意欲や態度が身に付く。(関心・意欲・態度)	・設計した空間を図面や模型として伝える技術が身につく。(技能) ・クライアントや社会のニーズを分析し、それらに最適な環境を決定し表現できるようになる。(思考・判断・表現)
建築設計演習III	家政学部 学科 専門教育科目 建築・デザイン学科	3	3	建築設計演習I、IIで習得したことを元に、さらに建築がもつ社会的要素を分析・考察し、建築をデザインするためのテーマを発見すること、そしてそれを表現していく方法を段階的に身につける。日常生活を支援する施設の中で、子どものための施設や、文化施設に焦点を当てて2課題の設計をする。これらの施設の機能や役割・構成を理解し、その上でこれからの街や都市において必要な「日常支援施設」のあり方を考え、提案することを目的とする。	・環境と建築と人の生活の関係を理解できるようになる。(知識・理解) ・設計した空間を図面や模型として伝える技術が身につく。(技能) ・日常生活を支援する施設の敷地および周辺環境を読み取り、そこから配置計画、平面計画、ならびに断面、立面計画を総合的に検討し建築として形作っていくこと、またそれらを表現できるようになる。(思考・判断・表現) ・テーマにそって身近な空間に関心を持ち、常に何かをつかもうとする意欲や態度が身に付く。(関心・意欲・態度)	・設計した空間を図面や模型として伝える技術が身につく。(技能) ・日常生活を支援する施設の敷地および周辺環境を読み取り、そこから配置計画、平面計画、ならびに断面、立面計画を総合的に検討し建築として形作っていくこと、またそれらを表現できるようになる。(思考・判断・表現)

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
建築設計演習Ⅳ	家政学部 学科 専門教育科目 建築・デザイン学科	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・移動可能シェルター 建築の設計は縮尺によって行う。縮尺で行った空間で実際の空間を理解する能力がとても重要である。いわゆるスケール感である。日頃から、図面や写真で見ていた建築を実体験することがスケール感を身につけることに役立つ。移動可能 シェルターを段ボールで実寸を製作し体験することで、ものづくり方と身体感覚・スケール感を身につける。 ・社会と建築Ⅰ 〇〇を核とした複合施設（〇〇は年度によって替わる）建築はそれ自体では成り立たない。周辺の環境を十分観察・分析し、その場所に何が最も適切であるかを考えることが重要である。本課題は、設定された地域を調査分析し、中心となる施設を含み相乗効果を生み出し、そこに必要な施設を設定し、設計する手法を理解するとともに、敷地周辺の環境（自然、文化、歴史）のコンテキストを読み取り計画に反映させる手法を身につける。 最終講評日に学外より先生を招いて講評する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境と建築と人の活動の関係を理解できるようになる。（知識・理解） ・設計した空間を図面や模型として伝える技術が身につく。実寸のものを設計し制作することで、身体感覚・スケール感が身につく。（技能） ・敷地周辺の環境（自然、文化、歴史）のコンテキストを読み取り、自らその地域に必要な機能をプログラムでき、計画に反映させる計画力及び設計力を養うことができるようになる。（思考・判断・表現） ・テーマにそって身近な空間に関心を持ち、常に何かをつかもうとする意欲や態度が身に付く。（関心・意欲・態度） 	<ul style="list-style-type: none"> ・設計した空間を図面や模型として伝える技術が身につく。実寸のものを設計し制作することで、身体感覚・スケール感が身につく。（技能） ・敷地周辺の環境（自然、文化、歴史）のコンテキストを読み取り、自らその地域に必要な機能をプログラムでき、計画に反映させる計画力及び設計力を養うことができるようになる。（思考・判断・表現）
建築設計演習Ⅴ	家政学部 学科 専門教育科目 建築・デザイン学科	4	4	<ul style="list-style-type: none"> 建築設計演習Ⅴは卒業制作への取り組みの一環として位置付けられる。今まで学んできた計画や構造の基礎的理解、周辺環境を読み込む力、分析する力によって自ら問題を設定し、そしてそれをもとにデザインする能力を身につける。 課題は敷地とテーマのみが提示される。規模、機能等のプログラム設定から最後の建築空間まで自ら企画し設計を行なう。併せて (1) 社会性を意識した計画 (2) 課題に対するより深い分析や自分自身の指向を鮮明に建築化する (3) 卒業設計を意識した効果的なプレゼンテーション能力を身につける 課題についての資料収集、分析、企画提案といった途中経過を重視しながら創造していく。最終講評日に学外より先生をお招きして講評する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境と建築と人の生活の関係を理解できるようになる。（知識・理解） ・設計した空間を図面や模型として伝える技術が身につく。（技能） ・今まで学んできた計画力で自らプログラムを設定し、デザインする力を養うことができるようになる。（思考・判断・表現） ・テーマにそって身近な空間に関心を持ち、常に何かをつかもうとする意欲や態度が身に付く。（関心・意欲・態度） 	<ul style="list-style-type: none"> ・設計した空間を図面や模型として伝える技術が身につく。（技能） ・今まで学んできた計画力で自らプログラムを設定し、デザインする力を養うことができるようになる。（思考・判断・表現）
デッサンⅠ	家政学部 学科 専門教育科目 建築・デザイン学科	1	1	<ul style="list-style-type: none"> デッサンは建築・デザイン学科デザインコースの必修基礎科目に位置付けている。デッサンとは観察力、形態の把握力、構成力、質感、動勢等を養うものであり、グラフィックデザイン、プロダクトデザイン、美術分野共通の基礎を担うものである。デッサンⅠにおいては、立体感表現、質感・空間表現、人物の動勢表現、人物のプロポーション把握、観察力、総合的構成力を養うカリキュラムになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・デッサンⅠでは鉛筆という使い慣れた素材を使い、立体感表現、質感・空間表現、人物の動勢表現、人物のプロポーション把握、観察力、総合的構成力を養うカリキュラムにおいて知識と理解、デッサンする能力が身に付く。（知識・理解） ・デッサン力はデザインの基礎をなし、将来的なデザイン制作の技能の大元が身に付く。（技能） ・また、デッサン力が身に付く事によって、この世の中を構成している形態に対して理解が深まり、関心・意欲が高まる。（関心・意欲・態度） 	<ul style="list-style-type: none"> ・デッサンⅠでは鉛筆という使い慣れた素材を使い、立体感表現、質感・空間表現、人物の動勢表現、人物のプロポーション把握、観察力、総合的構成力を養うカリキュラムにおいて知識と理解、デッサンする能力が身に付く。（知識・理解） ・デッサン力はデザインの基礎をなし、将来的なデザイン制作の技能の大元が身に付く。（技能）
デッサンⅡ	家政学部 学科 専門教育科目 建築・デザイン学科	1	1	<ul style="list-style-type: none"> デッサンは建築・デザイン学科デザインコースの必修基礎科目に位置付けている。デッサンとは観察力、形態の把握力、構成力、質感、動勢等を養うものであり、グラフィックデザイン、プロダクトデザイン、美術分野共通の基礎を担うものである。デッサンⅡにおいては、形態と質感、形態と量感、モノの機能と質感、モノの機能と構造と細部の表現を養うカリキュラムになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・デッサンⅡでは鉛筆という使い慣れた素材を使い、形態と質感、形態と量感、モノの機能と質感、モノの機能と構造と細部の表現を養うカリキュラムにおいて知識と理解が得られる。（知識・理解） ・デッサンする能力が身に付く。デッサン力はデザインの基礎をなし、将来的なデザイン制作の技能の大元が身に付く。（技能） ・また、デッサン力が身に付く事によって、この世の中を構成している形態に対して理解が深まり、関心・意欲が高まる。（関心・意欲・態度） 	<ul style="list-style-type: none"> ・デッサンⅡでは鉛筆という使い慣れた素材を使い、形態と質感、形態と量感、モノの機能と質感、モノの機能と構造と細部の表現を養うカリキュラムにおいて知識と理解が得られる。（知識・理解） ・デッサンする能力が身に付く。デッサン力はデザインの基礎をなし、将来的なデザイン制作の技能の大元が身に付く。（技能）
図学Ⅰ	家政学部 学科 専門教育科目 建築・デザイン学科	1	1	<ul style="list-style-type: none"> 「図学」とは、「もの」を平面に表現する方法です。この方法を理解し使いこなせば、立体的な「もの」を平面に表現したり、逆に平面の情報から立体に再生することが可能になります。グラフィック・プロダクト・インテリアデザインの基礎として、基本的な図学を理解し、図学に従って図面を描くことや図面を読むことを通じて、スケッチと図面と「もの」との一致感を養い、デザインに役立つ構成原理を学びます。そのためこの授業では、「描く技術」を身につける訓練もします。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「もの」を実物や写真や絵ではなく、約束に従って平面に表す方法である「図学」を学ぶことにより、学生は、空間や立体形状を理解し、「図学」という方法の知識を習得できる。（知識・理解） ・二次元(図)で表現したり、図から立体をイメージでき、そこから制作する技能が身に付く。（技能） ・そこには、どのような表現をしたいのかという思考プロセスや判断力も身に付く。（思考・判断・表現） 	<ul style="list-style-type: none"> ・「もの」を実物や写真や絵ではなく、約束に従って平面に表す方法である「図学」を学ぶことにより、学生は、空間や立体形状を理解し、「図学」という方法の知識を習得できる。（知識・理解） ・二次元(図)で表現したり、図から立体をイメージでき、そこから制作する技能が身に付く。（技能）

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
モデリング演習	家政学部 学科 専門教育科目 建築・デザイン学科	2	2	プロダクトデザインを学習する上で、図面を理解することと同時に、図面から立体に起こして検証すること、更にはイメージを立体にしながら形やサイズを検討する作業は不可欠である。この授業では、工業材料と試作材料の学習と、デザインの現場で活用されている様々な材料を使ったモデリングを体験する。	<ul style="list-style-type: none"> ・試作のレベルや目的による材料の知識と、造り方の違いを理解できるようになる。（知識・理解） ・図面を見れば目的に合ったモデルが自分で制作できるようになる。（技能） ・そこには、どのような表現をしたいのかという思考プロセスや判断力も身に付く。（思考・判断・表現） 	<ul style="list-style-type: none"> ・試作のレベルや目的による材料の知識と、造り方の違いを理解できるようになる。（知識・理解） ・図面を見れば目的に合ったモデルが自分で制作できるようになる。（技能）
レンダリング演習 I	家政学部 学科 専門教育科目 建築・デザイン学科	2	2	思考し、発想する能力として“フリーハンドスケッチ”に実際に取り組みながら、素早かつ確に表現するための方法や、デザインドローイングの基本技術について学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・物の形を構成する基本的な立体（立方体、円柱、球）を、紙という二次元に立体的に描画するという方法の知識を習得でき、その表現方法を理解できるようになる。（知識・理解） ・立体を生み出す制作プロセスが習得でき、ディレクション技能が身に付く。（技能） ・そこには、どのような表現をしたいのかという思考プロセスや判断力も身に付く。（思考・判断・表現） 	<ul style="list-style-type: none"> ・物の形を構成する基本的な立体（立方体、円柱、球）を、紙という二次元に立体的に描画するという方法の知識を習得でき、その表現方法を理解できるようになる。（知識・理解） ・立体を生み出す制作プロセスが習得でき、ディレクション技能が身に付く。（技能）
レンダリング演習 II	家政学部 学科 専門教育科目 建築・デザイン学科	2	2	毎回のテーマに対して形を発想し、立体的なデザインスケッチ、レンダリングを描く。目の前に物の形（モチーフ）がなくても、自由に形を発想し、表現するための技術を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・頭の中にある自分の考え（デザインコンセプト）をデザインスケッチ、レンダリングとして可視化するという制作プロセス、ディレクション技能が身に付く。（技能） ・コミュニケーションツールとしての描画能力を養うことを目的としている事を理解でき、それらの知識が身に付く。（知識・理解） ・そこには、どのような表現をしたいのかという思考プロセスや判断力も身に付く。（思考・判断・表現） 	<ul style="list-style-type: none"> ・頭の中にある自分の考え（デザインコンセプト）をデザインスケッチ、レンダリングとして可視化するという制作プロセス、ディレクション技能が身に付く。（技能） ・コミュニケーションツールとしての描画能力を養うことを目的としている事を理解でき、それらの知識が身に付く。（知識・理解）
CG演習(基礎) I	家政学部 学科 専門教育科目 建築・デザイン学科	2	2	マッキントッシュの基本操作と米国アドビ社のイラストレータを習得する。平面CGIにおいて、米国アドビ社のイラストレータとフォトショップは世界共通のアプリケーションである。日本においてもデザイン、印刷業界では必須のアプリケーションである。DTP（デスクトップ・プリプレス）という概念を理解し、オフセット印刷に対応できる確かな知識と技能を習得する。制作物としては、ロゴ、名刺、地図、ポストカード、チラシ、などのデザイン制作を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・マッキントッシュの基本操作とイラストレータの知識が身に付く。（知識・理解） ・PCによる色再現、形の表現、文字の把握、紙面のレイアウトを理解し、制作ができる技能が身に付く。（技能） ・また、印刷を前提としたDTPを理解し、制作してデータ化できる技能が身に付く。（技能） ・そしてこれらのプロセスはどのような表現をしたいのかという思考や判断力も身に付く。（思考・判断・表現） ・日進月歩のデジタル技術の中にあって、生活を取り巻く多様なものに関心を持ち、自分の態度を明確にして意欲的に表現する力が身に付く。（関心・意欲・態度） 	<ul style="list-style-type: none"> ・マッキントッシュの基本操作とイラストレータの知識が身に付く。（知識・理解） ・PCによる色再現、形の表現、文字の把握、紙面のレイアウトを理解し、制作ができる技能が身に付く。（技能） ・また、印刷を前提としたDTPを理解し、制作してデータ化できる技能が身に付く。（技能） ・そしてこれらのプロセスはどのような表現をしたいのかという思考や判断力も身に付く。（思考・判断・表現）
版画演習	家政学部 学科 専門教育科目 建築・デザイン学科	2	2	シルクスクリーンと木版コラグラフ。シルクスクリーンでは、感光法による基本的な製版と印刷方法を、作品制作を通して学ぶ。木版コラグラフでは、版木に紙や布などをカラーズして製版し、多色印刷で作品を制作する。	<ul style="list-style-type: none"> ・シルクスクリーンと木版コラグラフの基本的技法を正しく理解、習得することにより、現代における印刷技法の原理を理解し、知識として習得できる。（知識・理解） ・版画表現を通して、制作プロセスを計画し実行することにより、デザインにおけるディレクション技能が身に付く。（技能） ・そこには、どのような表現をしたいのかという思考プロセスや判断力も身に付く。（思考・判断・表現） 	<ul style="list-style-type: none"> ・シルクスクリーンと木版コラグラフの基本的技法を正しく理解、習得することにより、現代における印刷技法の原理を理解し、知識として習得できる。（知識・理解） ・版画表現を通して、制作プロセスを計画し実行することにより、デザインにおけるディレクション技能が身に付く。（技能）
図学 I I (3D)	家政学部 学科 専門教育科目 建築・デザイン学科	1	1	図学IIでは3D-CADソフトのRhinceros v.4を用いてPCによる三面図の作成や、3Dレンダリングの演習を行う。演習教材はすべてKYONETにてPDF書類で配布、演習室のデスクトップPCにはすでにRhinoがインストールしてあるので、解説をして順次課題を学生自身が実習してゆく。操作方法やコマンドの種類を覚えPCによる図学図法を習得する。	<ul style="list-style-type: none"> ・図入りのオリジナルテキストを用意し、PCによるオーソドックスな立体物の図が制作できるようになる。また、レンダリングとして立体彩色印刷や、三面図の作成、3Dプリンタによるオブジェクト制作ができるようになる。（技能） ・オリジナルテキストによって解説、演習する事により、PC図学図法を理解し、知識を得る事ができる。（知識・理解） ・そこには、どのような表現をしたいのかという思考プロセスや判断力も身に付く。（思考・判断・表現） 	<ul style="list-style-type: none"> ・図入りのオリジナルテキストを用意し、PCによるオーソドックスな立体物の図が制作できるようになる。また、レンダリングとして立体彩色印刷や、三面図の作成、3Dプリンタによるオブジェクト制作ができるようになる。（技能） ・オリジナルテキストによって解説、演習する事により、PC図学図法を理解し、知識を得る事ができる。（知識・理解）

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
CG演習(基礎)II	家政学部 学科 専門教育科目 建築・デザイン学科	2	2	マッキントッシュの基本操作と米国アドビ社のフォトショップを習得する。平面CGにおいて、米国アドビ社のイラストレータとフォトショップは世界共通のアプリケーションである。日本においてもデザイン、印刷業界では必須のアプリケーションである。DTP（デスクトップ・プリプレス）という概念を理解し、オフセット印刷に対応できる確かな知識と技能を習得する。フォトショップの基本操作を習得し、イラストレータとフォトショップの併用の仕方学ぶ。カラー ジュ、パッケージ、CDジャケット、カレンダーなど、写真や手書きイラスト、文字を素材としてレイアウトの基本を学び、デザイン制作を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・写真をデータ化し、写真の色補正や加工する知識が習得でき、イラストレータとフォトショップを併用し、印刷入稿を前提とした正確なデータ作成ができるようになる。（知識・理解） ・DTPを理解し、写真の解像度の知識が習得され、印刷入稿できる技能が習得される。（技能） ・そしてこれらのプロセスにおいて、どのような表現をしたいのかという思考や判断力も身に付く。（思考・判断・表現） ・また、日進月歩のデジタル技術の中にあって、生活を取り巻く多様なものに関心を持ち、自分の態度を明確にして意欲的に表現する力が身に付く。（関心・意欲・態度） 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真をデータ化し、写真の色補正や加工する知識が習得でき、イラストレータとフォトショップを併用し、印刷入稿を前提とした正確なデータ作成ができるようになる。（知識・理解） ・DTPを理解し、写真の解像度の知識が習得され、印刷入稿できる技能が習得される。（技能） ・そしてこれらのプロセスにおいて、どのような表現をしたいのかという思考や判断力も身に付く。（思考・判断・表現）
CG演習 I I (応用)	家政学部 学科 専門教育科目 建築・デザイン学科	3	3	WEBデザインを中心に学ぶ。Dreamweaverの操作方法を習得し、HTMLとCSS のコーディング、WEB特有のデザインの知識・技術を学ぶ。具体的にはホームページの制作を通して、自分自身の作品のWEBポートフォリオを制作する。	<ul style="list-style-type: none"> ・WEBサイト作成する上で必要なWEBの基礎知識を得、理解する事ができる。（知識・理解） ・HTML+CSS、デザイン、コーディング、アップロードする技能を養うことができる。（技能） ・そしてこれらのプロセスにおいて、どのような表現をしたいのかという思考や判断力も身に付く。（思考・判断・表現） ・また、日進月歩のデジタル技術の中にあって、生活を取り巻く多様なものに関心を持ち、自分の態度を明確にして意欲的に表現する力が身に付く。（関心・意欲・態度） 	<ul style="list-style-type: none"> ・WEBサイト作成する上で必要なWEBの基礎知識を得、理解する事ができる。（知識・理解） ・HTML+CSS、デザイン、コーディング、アップロードする技能を養うことができる。（技能） ・そしてこれらのプロセスにおいて、どのような表現をしたいのかという思考や判断力も身に付く。（思考・判断・表現）
木工演習 III	家政学部 学科 専門教育科目 建築・デザイン学科	3	3	木材を使い身近な日常生活道具や、簡単な家具のデザインを考え、その制作を行う。自分でデザインした形を図化し、自分の手で工具や機械を使い、作品として完成するまで演習する。デザインと製作の過程を通して、私たちが生活の中で無意識で付き合っている道具=物との関係につき考察して、形/機能/構造/材質/加工/仕上げ等を習得する。前期はカトラリーを製作する。クライアントを架空設定し、デザインアイデアを出し製図をおこし、原価管理、製品価格設定を行うことにより、実社会を認識した演習である。	<ul style="list-style-type: none"> ・木材を素材として様々なものの知識を得、デザインし、製作する過程・図面を描く技術、木の性質・加工技術・仕上げ等を学ぶ事により木の性質を理解し、自分で設計した図面からどのように加工していくかというプロセスを習得する事ができる。（知識・理解） ・また、どのような方法で完成させるかというディレクション技能が身に付く。（技能） ・木工作品を製作するという表現は思考、判断が伴いそれらが身に付く。（思考・判断・表現） ・また、生活の中でどのように位置づけるかと言う関心・意欲・態度が身に付く。（関心・意欲・態度） 	<ul style="list-style-type: none"> ・木材を素材として様々なものの知識を得、デザインし、製作する過程・図面を描く技術、木の性質・加工技術・仕上げ等を学ぶ事により木の性質を理解し、自分で設計した図面からどのように加工していくかというプロセスを習得する事ができる。（知識・理解） ・また、どのような方法で完成させるかというディレクション技能が身に付く。（技能） ・木工作品を製作するという表現は思考、判断が伴いそれらが身に付く。（思考・判断・表現）
木工演習 IV	家政学部 学科 専門教育科目 建築・デザイン学科	3	3	木材を使い身近な日常生活道具や、簡単な家具のデザインを考え、その制作を行う。自分でデザインした形を図化し、自分の手で工具や機械を使い、作品として完成するまで演習する。デザインと製作の過程を通して、私たちが生活の中で無意識で付き合っている道具=物との関係につき考察して、形/機能/構造/材質/加工/仕上げ等を習得する。後期子どもの椅子を製作する。クライアントを架空設定し、デザインアイデアを出し製図をおこし、原価管理、製品価格設定を行うことにより、実社会を認識した演習である。	<ul style="list-style-type: none"> ・木材を素材として様々なものの知識を得、デザインし、製作する過程・図面を描く技術、木の性質・加工技術・仕上げ等を学ぶ事により木の性質を理解し、自分で設計した図面からどのように加工していくかというプロセスを習得する事ができる。（知識・理解） ・また、どのような方法で完成させるかというディレクション技能が身に付く。（技能） ・木工作品を製作するという表現は思考、判断が伴いそれらが身に付く。（思考・判断・表現） ・また、生活の中でどのように位置づけるかと言う関心・意欲・態度が身に付く。（関心・意欲・態度） 	<ul style="list-style-type: none"> ・木材を素材として様々なものの知識を得、デザインし、製作する過程・図面を描く技術、木の性質・加工技術・仕上げ等を学ぶ事により木の性質を理解し、自分で設計した図面からどのように加工していくかというプロセスを習得する事ができる。（知識・理解） ・また、どのような方法で完成させるかというディレクション技能が身に付く。（技能） ・木工作品を製作するという表現は思考、判断が伴いそれらが身に付く。（思考・判断・表現）
陶芸演習I	家政学部 学科 専門教育科目 建築・デザイン学科	3	3	土の特性を理解し、陶芸作品を制作する。その行程において素材の変化などを知る観察力や、作品そのものの表現力を養う。まず、手捻りから入り、サラダボール、動物をモチーフにした入れ物。タタラによる制作として置き時計の制作をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・土を素材にした器などを製作する技能が身に付き、「土」という素材が習得できる。（技能） ・立体を把握する事により、立体物を理解する。（知識・理解） ・また、それを使い人やそれが使われる生活環境を理解する事により、プロダクトデザインの意味を思考し、判断し、表現する事が身に付く。（思考・判断・表現） ・また、生活の中でどのように位置づけるかと言う関心・意欲・態度が身に付く。（関心・意欲・態度） 	<ul style="list-style-type: none"> ・土を素材にした器などを製作する技能が身に付き、「土」という素材が習得できる。（技能） ・立体を把握する事により、立体物を理解する。（知識・理解） ・また、それを使い人やそれが使われる生活環境を理解する事により、プロダクトデザインの意味を思考し、判断し、表現する事が身に付く。（思考・判断・表現）
陶芸演習II	家政学部 学科 専門教育科目 建築・デザイン学科	3	3	土の特性を理解し、陶芸作品を制作する。その行程において素材の変化などを知る観察力や、作品そのものの表現力を養う。タタラによる制作として音の出る作品「笛」の制作をする。また、素焼きだけでなく、釉薬を使った焼きものの色再現も習得する。	<ul style="list-style-type: none"> ・土を素材にした器などを製作する技能が身に付き、「土」という素材が習得できる。（技能） ・立体を把握する事により、立体物を理解する。（知識・理解） ・また、それを使い人やそれが使われる生活環境を理解する事により、プロダクトデザインの意味を思考し、判断し、表現する事が身に付く。（思考・判断・表現） ・また、生活の中でどのように位置づけるかと言う関心・意欲・態度が身に付く。（関心・意欲・態度） 	<ul style="list-style-type: none"> ・土を素材にした器などを製作する技能が身に付き、「土」という素材が習得できる。（技能） ・立体を把握する事により、立体物を理解する。（知識・理解） ・また、それを使い人やそれが使われる生活環境を理解する事により、プロダクトデザインの意味を思考し、判断し、表現する事が身に付く。（思考・判断・表現）

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
写真演習Ⅰ	家政学部 学科 専門教育科目 建築・デザイン学科	3	3	写真基礎演習を踏まえた上で、ポートレート、風景、ドキュメンタリー、ジャーナリズム、基本的なスタジオ撮影技術などのジャンルを追求する。どのような被写体に対しても、必ず自分の個性が反映されるものであり、いかにそれを表現に結びつけるか、そのための技能を、試行錯誤しながら習得する。	<ul style="list-style-type: none"> ポートレート、風景、ドキュメンタリー、ジャーナリズム、スタジオ撮影技術などいろいろなジャンルを追求する事で、実践的な写真の知識と理解が得られる。（知識・理解） それぞれのテーマの中で、自分のアプローチを見つめる中で、思考し判断する事によって表現方法が身に付く。（思考・判断・表現） 写真は現代社会の中で、重要な位置を担っている。デザインの中で、写真をどのようにディレクションして行くかと言う技能も身に付ける事ができる。（技能） また、それらが、生活の中でどのように位置づけるかと言う関心・意欲・態度が身に付く。（関心・意欲・態度） 	<ul style="list-style-type: none"> ポートレート、風景、ドキュメンタリー、ジャーナリズム、スタジオ撮影技術などいろいろなジャンルを追求する事で、実践的な写真の知識と理解が得られる。（知識・理解） それぞれのテーマの中で、自分のアプローチを見つめる中で、思考し判断する事によって表現方法が身に付く。（思考・判断・表現） 写真は現代社会の中で、重要な位置を担っている。デザインの中で、写真をどのようにディレクションして行くかと言う技能も身に付ける事ができる。（技能）
写真演習ⅠⅠ	家政学部 学科 専門教育科目 建築・デザイン学科	3	3	写真演習Ⅰに引き続きさらに、静物、ファッション、コマーシャルアート、ファインアート、などのジャンルを追求していく。また、この写真演習Ⅱでは、暗室によるプリント作業も実践する。どのような被写体に対しても、必ず自分の個性が反映されるものであり、いかにそれを表現に結びつけるか、そのための技能を、試行錯誤しながら習得する。	<ul style="list-style-type: none"> 静物、ファッション、コマーシャルアート、ファインアート、などのジャンルを追求する事で、実践的な写真の知識と理解が得られる。（知識・理解） それぞれのテーマの中で、自分のアプローチを見つめる中で、思考し判断する事によって表現方法が身に付く。（技能） また、暗室によるプリント作業も実践する事により写真の根本的特性が理解できる。写真は現代社会の中で、重要な位置を担っている。デザインの中で、写真をどのように位置付け分析して行くかと言う思考・判断・表現を身に付ける事ができる。（思考・判断・表現） また、それらが、生活の中でどのように位置づけるかと言う関心・意欲・態度が身に付く。（関心・意欲・態度） 	<ul style="list-style-type: none"> 静物、ファッション、コマーシャルアート、ファインアート、などのジャンルを追求する事で、実践的な写真の知識と理解が得られる。（知識・理解） それぞれのテーマの中で、自分のアプローチを見つめる中で、思考し判断する事によって表現方法が身に付く。（技能） また、暗室によるプリント作業も実践する事により写真の根本的特性が理解できる。写真は現代社会の中で、重要な位置を担っている。デザインの中で、写真をどのように位置付け分析して行くかと言う思考・判断・表現を身に付ける事ができる。（思考・判断・表現）
イラストレーションテクニック	家政学部 学科 専門教育科目 建築・デザイン学科	2	2	イラストレーション制作全般の基礎知識及び基礎技術と知識を実技の演習を通して理解する。具体的には、水彩絵具、パステル、色鉛筆、クレヨンなど多様な画材による演習によりイラストレーションを制作する。また、何枚もの質の違う用紙を体験し、絵具と用紙の関係も理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 水彩絵具、パステル、色鉛筆、クレヨンなど多様な画材による演習によって、イラストレーションが何であるかの知識を得、また、何枚もの違う用紙を使用する事によって、絵具と用紙の関係を理解できる。（知識・理解） そして、いくつもの表現のイラストレーション技能が身に付く。（技能） モチーフも自分で設定し、そのプロセスを思考する事によって判断力が身に付き、表現できるようになる。（思考・判断・表現） また、イラストレーションそのものや、描くテーマが生活の中でどのように位置づけるかと言う関心・意欲・態度が身に付く。（関心・意欲・態度） 	<ul style="list-style-type: none"> 水彩絵具、パステル、色鉛筆、クレヨンなど多様な画材による演習によって、イラストレーションが何であるかの知識を得、また、何枚もの違う用紙を使用する事によって、絵具と用紙の関係を理解できる。（知識・理解） そして、いくつもの表現のイラストレーション技能が身に付く。（技能） モチーフも自分で設定し、そのプロセスを思考する事によって判断力が身に付き、表現できるようになる。（思考・判断・表現）
メタルクラフト演習	家政学部 学科 専門教育科目 建築・デザイン学科	3	3	メタルクラフトの技法（彫金・鍛金・鍍金）で実際に使えるクラフト作品、具体的にはカトラリーとブローチを制作する。数種類の金属を素材に、基本的な加工法（切る・曲げる・削る・たたく・磨く・接合する）と表面処理法を学ぶ。金属の素材特性を生かしたデザイン・制作をし、それを実際に使うことで暮らしに対する新たな提案をおこなう。	<ul style="list-style-type: none"> 数種類の金属を素材に、基本的な加工法（切る・曲げる・削る・たたく・磨く・接合する）と表面処理法を習得する事ができる。（技能） そして、メタルクラフトの知識を得、理解する事ができる。（知識・理解） 金属の素材特性を生かしたデザイン・制作をする事により思考し、判断し、表現する事が身に付く。（思考・判断・表現） そして、それを実際に使うことで暮らしに対する新たな関心や意欲が身に付く。（関心・意欲・態度） 	<ul style="list-style-type: none"> 数種類の金属を素材に、基本的な加工法（切る・曲げる・削る・たたく・磨く・接合する）と表面処理法を習得する事ができる。（技能） そして、メタルクラフトの知識を得、理解する事ができる。（知識・理解） 金属の素材特性を生かしたデザイン・制作をする事により思考し、判断し、表現する事が身に付く。（思考・判断・表現）
グラフィックデザイン基礎演習Ⅰ	家政学部 学科 専門教育科目 建築・デザイン学科	2	2	この2年次のグラフィックデザイン基礎演習は、3年次のグラフィックデザイン演習Ⅰ・Ⅱ、4年次のグラフィックデザイン演習ⅢⅠⅡⅢを続けて履修し、その専門性を養う事を前提としている。歴史を振り返ると、グラフィックデザインは印刷の発明と深い関わりがある。写真も図版もない当時は、文字のデザインだけでいかに読みやすく、そして楽しませるかを競い、その文字情報を印刷によって広く伝えていった。現代においてもグラフィックデザインにおける文字の役割はきわめて大きい。具体的にはまず、レタリング、文字のデザイン、夏をテーマにしたポスター、和文ポスター、英文ポスター等の演習課題を行う。前期はアナログによる演習で手で描く技能が身に付くよう考えられている。	<ul style="list-style-type: none"> グラフィックデザインの基本とも言うべき、文字デザインの知識を得、理解する事ができる。（知識・理解） そして、タイポグラフィーの技能を習得することができるようになる。（技能） また、テーマの理解、コンセプトの設定、アイデアを生み出す力とそれを表現する技能を習得することができるようになる。そのプロセスにおいて思考し判断する事が身に付く。また、テーマから生活の中でどのような位置づけがいかか思考し、判断し、表現する事が身に付く。（思考・判断・表現） 当然、生活に対する関心、意欲が身に付く。（関心・意欲・態度） 	<ul style="list-style-type: none"> グラフィックデザインの基本とも言うべき、文字デザインの知識を得、理解する事ができる。（知識・理解） そして、タイポグラフィーの技能を習得することができるようになる。（技能） また、テーマの理解、コンセプトの設定、アイデアを生み出す力とそれを表現する技能を習得することができるようになる。そのプロセスにおいて思考し判断する事が身に付く。 当然、生活に対する関心、意欲が身に付く。（関心・意欲・態度）
グラフィックデザイン基礎演習ⅠⅠ	家政学部 学科 専門教育科目 建築・デザイン学科	2	2	この2年次のグラフィックデザイン基礎演習は、3年次のグラフィックデザイン演習Ⅰ、Ⅱ、そして4年次のグラフィックデザイン演習Ⅲ、を続けて履修し、その専門性を養う事を前提としている。タイポグラフィ、レイアウト、イラストレーション、写真等の演習を通じ、雑誌や新聞の媒体を想定したデザイン制作をする。雑誌のコンセプトを考え、タイトルロゴのデザイン、特集見開きページのレイアウトデザイン、表紙デザインなどに挑戦し、最後はその雑誌の新聞広告へ展開する。また、書体や文字組み版について、読みやすさ、美しさなど、文字の基本的な使い方と表現方法およびレイアウトの基本構造について学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> グラフィックデザインの基礎として、文字は重要な要素である。この演習は、文字を中心としたエディトリアルデザインを学び知識と理解を得、（知識・理解） 最終的にはタイポグラフィを意識した画像を含む雑誌と新聞広告を完成することが出来るようになる。（技能） 書体や文字組版について、その用途や読みやすさ、美しさ等を考慮したレイアウトを制作できるようにする。（技能） コンセプトの確立や、コンテンツの構成、写真撮影、イラスト作成、記事執筆、編集、レイアウトなど、全ての役割を経験することで、エディトリアルデザインを総合的に身につける事が出来るようになる。（技能） 演習のテーマから生活の中でどのような位置づけがいかか思考し、判断し、表現する事が身に付く。（思考・判断・表現） 当然、生活に対する関心、意欲が身に付く。（関心・意欲・態度） 	<ul style="list-style-type: none"> グラフィックデザインの基礎として、文字は重要な要素である。この演習は、文字を中心としたエディトリアルデザインを学び知識と理解を得、（知識・理解） 最終的にはタイポグラフィを意識した画像を含む雑誌と新聞広告を完成することが出来るようになる。（技能） 書体や文字組版について、その用途や読みやすさ、美しさ等を考慮したレイアウトを制作できるようにする。（技能） コンセプトの確立や、コンテンツの構成、写真撮影、イラスト作成、記事執筆、編集、レイアウトなど、全ての役割を経験することで、エディトリアルデザインを総合的に身につける事が出来るようになる。（技能） 当然、生活に対する関心、意欲が身に付く。（関心・意欲・態度）

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
グラフィックデザイン演習Ⅰ	家政学部 学科 専門教育科目 建築・デザイン学科	3	3	グラフィックデザインの専門知識と技能を養うための最初の授業です。この演習では、オリジナルブランドを作ります。はじめに、チームに別れ様々なブランドの調査を行うことで、デザインの根本となるブランド戦略の重要性を学びます。次に、調査を基に各自のオリジナルブランドのデザインに取り組みます。ネーミング、ロゴ・マークのデザイン、商品パッケージのデザイン、サイン・ファサードのデザインを経て、最終的にVI（ビジュアルアイデンティティ）マニュアルを完成します。課題一つ一つを積み重ね、全体の包括的なデザインで結びつけることで、ブランドの世界観を構築します。	<ul style="list-style-type: none"> ・ブランドにおけるデザインの知識を得、役割を理解する事が出来るようになる。（知識・理解） ・独自の戦略とアイデアをどのようにロゴ・マーク、商品パッケージ、サイン・ファサードのデザインへと展開するか、自主性を促す演習によって制作する技能が身に付く。（技能） ・さらに、ブランドとして一貫性のあるデザインへと導くことの重要性を学び、自己中心的な表現にこだわらず、広い視野に立ち、思考力、判断力、表現力を高める事ができるようになる。（思考・判断・表現） ・また、社会性や生活のありかたを思考する為、関心・意欲が身に付く。（関心・意欲・態度） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ブランドにおけるデザインの知識を得、役割を理解する事が出来るようになる。（知識・理解） ・独自の戦略とアイデアをどのようにロゴ・マーク、商品パッケージ、サイン・ファサードのデザインへと展開するか、自主性を促す演習によって制作する技能が身に付く。（技能） ・さらに、ブランドとして一貫性のあるデザインへと導くことの重要性を学び、自己中心的な表現にこだわらず、広い視野に立ち、思考力、判断力、表現力を高める事ができるようになる。（思考・判断・表現）
グラフィックデザイン演習Ⅱ	家政学部 学科 専門教育科目 建築・デザイン学科	3	3	ここでの演習は3つのグラフィックエレメントを取組む。 1. 自分自身が会社を起こすことを想定したデザイン計画としての、ロゴマークとピクトグラム制作。 2. ダイアグラムは図形、図表、図式、という意味であるが、グラフィック・デザインにおいてその可能性は高い。論理的、観念的な内容から世の中にかかる様々な事象までを表現できるダイアグラムデザインを制作。 3. パッケージは荷、梱（こり）、包み、包装紙、包装用容器などの意味がある。 大型家電商品のパッケージから、小さなガムやミニ菓子のパッケージまで、私たちの生活にパッケージは深く入り込んでいる。パッケージには商品そのものの内容を示す働き共に、ブランドを示し、その商品のメッセージをも示す付加価値を生み出す。現代社会にそのように存在しているパッケージを認識して制作する。	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフィックデザインの重要なエレメントである、◎ロゴマーク、◎ピクトグラム、◎ダイアグラム、◎パッケージデザインの課題を主とする。それぞれのエレメントの知識と理解を習得できるようになる。（知識・理解） ・また、市場の調査と分析により、消費者のニーズ、ウォンツを探し、提案性のあるデザイン制作ができるようになる。（技能） ・デザインは生産する側であり、産業として消費者にどうアピールするかを考えなければならない。生産者と消費者を以て生活者と言える。その生活者が何であるかを思考し、判断し、表現する事ができるようになる。（思考・判断・表現） ・当然、社会性や生活のありかたを思考する為、関心・意欲が身に付く。（関心・意欲・態度） 	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフィックデザインの重要なエレメントである、◎ロゴマーク、◎ピクトグラム、◎ダイアグラム、◎パッケージデザインの課題を主とする。それぞれのエレメントの知識と理解を習得できるようになる。（知識・理解） ・また、市場の調査と分析により、消費者のニーズ、ウォンツを探し、提案性のあるデザイン制作ができるようになる。（技能） ・当然、社会性や生活のありかたを思考する為、関心・意欲が身に付く。（関心・意欲・態度）
グラフィックデザイン演習Ⅲ	家政学部 学科 専門教育科目 建築・デザイン学科	4	4	グラフィックデザイン演習の総仕上げとしての授業である。「神保町活性化デザイン計画」に取り組む。チームを作り、1チーム5名で構成。プロデューサー・ロゴ・シンボルマークデザイナー・キャラクターデザイナー・ポスターデザイナー・リーフレットデザイナーとそれぞれが役割を担いチームに貢献する。6チームを組み、それぞれが6つのテーマに取り組む。調査を行い、チームで何度も話し合い、プレゼンテーションを何度も行い完成に向けていく。これはさながら、実践するデザインの現場の疑似体験である。	<ul style="list-style-type: none"> 総合デザイン計画の把握としての知識と理解を、共立女子大学がある神保町という地域を調査する事により、体感を伴う知識と理解が得られる。（知識・理解） ・また、市場調査によって得られるデザインワークの技能を習得する事ができるようになる。（技能） ・机の上だけの事ではなく市場調査をすることにより、そして、チーム編成の演習を設定している為、自己理解（チームと個人）を習得する事ができるようになり、その中で思考し判断し、チームとして表現する事が身に付く。（思考・判断・表現） ・これは、社会に出る為の重要な要素である。社会性のある関心・意欲・態度が身に付く。（関心・意欲・態度） 	<ul style="list-style-type: none"> 総合デザイン計画の把握としての知識と理解を、共立女子大学がある神保町という地域を調査する事により、体感を伴う知識と理解が得られる。（知識・理解） ・また、市場調査によって得られるデザインワークの技能を習得する事ができるようになる。（技能） ・机の上だけの事ではなく市場調査をすることにより、そして、チーム編成の演習を設定している為、自己理解（チームと個人）を習得する事ができるようになり、その中で思考し判断し、チームとして表現する事が身に付く。（思考・判断・表現）
プロダクトデザイン基礎演習Ⅰ	家政学部 学科 専門教育科目 建築・デザイン学科	2	2	この演習はプロダクトデザインの専門領域に入る最初の演習です。身近な素材として「紙の立体」に取組みます。具体的には段ボール紙によりイスの制作です。イスの作図をして組立ていき、彩色をします。段ボールの目を理解し、紙による強度などを研究します。もう一つは石鹼とそのパッケージです。石鹼のコンセプトを考え、石鹼のプロトタイプモデルを制作します。その石鹼がどのようなものかを思考し、ブランド化を考えたり、そのコンセプトのメッセージをどのように伝えていくかを判断しながら制作します。そして、最後に制作したものをプレゼンテーションします。	<ul style="list-style-type: none"> ・プロダクトデザインの専門領域に入る最初の演習として私たちの身の回りに存在するプロダクト製品の解説を享受し理解できるようになる。（知識・理解） ・身近な素材として「紙の立体」に取組む。具体的には段ボール紙によりイスの制作である。イスの作図をして組立ていき、彩色をし、段ボールの目を理解し、紙による強度などの研究ができる。もう一つは石鹼とそのパッケージである。石鹼のコンセプトを考え、石鹼のプロトタイプモデルを制作することができるようになる。（技能） ・その石鹼がどのようなものかを思考し、ブランド化を考えたり、そのコンセプトのメッセージをどのように伝えていくかを判断しながら制作できるようになる。（思考・判断・表現） ・最後に制作したものをプレゼンテーションできるようになる。（関心・意欲・態度） 	<ul style="list-style-type: none"> ・プロダクトデザインの専門領域に入る最初の演習として私たちの身の回りに存在するプロダクト製品の解説を享受し理解できるようになる。（知識・理解） ・身近な素材として「紙の立体」に取組む。具体的には段ボール紙によりイスの制作である。イスの作図をして組立ていき、彩色をし、段ボールの目を理解し、紙による強度などの研究ができる。もう一つは石鹼とそのパッケージである。石鹼のコンセプトを考え、石鹼のプロトタイプモデルを制作することができるようになる。（技能） ・最後に制作したものをプレゼンテーションできるようになる。（関心・意欲・態度）
プロダクトデザイン基礎演習Ⅱ	家政学部 学科 専門教育科目 建築・デザイン学科	2	2	この演習でのテーマは「収納と運搬」です。日本という狭い国土で暮らす私たちはモノは必要だが収納する場所に困っています。それらを問題解決できる手段として、プロダクトデザインの製品を考えていきます。キーワードは「つながる、かさなる」です。この言葉から導き出されるイメージを具現化していきます。制作プロセスとして、市場調査を行い、アイデアを考え、ディスカッションを行い、何枚もアイデアスケッチを描き、簡易モデルを制作し、中間のプレゼンテーションを行い、最終デザインモデルを制作します。そしてそれをレンダリングして図面を制作し、最終モデルと共にプレゼンテーションします。	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマは「収納と運搬」です。日本という狭い国土で暮らす私たちはモノは必要だが収納する場所に困っています。その現状の知識を得、理解できるようになります。（知識・理解） ・それらを問題解決できる手段として、プロダクトデザインの製品を考えていきます。キーワードは「つながる、かさなる」です。この言葉から導き出されるイメージを具現化できるようになります。（技能） ・制作プロセスとして、市場調査を行い、アイデアを思考し、ディスカッションを行い、何枚もアイデアスケッチを描きどれがいいかを判断し、簡易モデルを制作し、中間のプレゼンテーションを行い、最終デザインモデルを提案します。（思考・判断・表現） ・そして、それをレンダリングして図面を制作し、最終モデルと共にプレゼンテーションできるようになる。（関心・意欲・態度） 	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマは「収納と運搬」です。日本という狭い国土で暮らす私たちはモノは必要だが収納する場所に困っています。その現状の知識を得、理解できるようになります。（知識・理解） ・それらを問題解決できる手段として、プロダクトデザインの製品を考えていきます。キーワードは「つながる、かさなる」です。この言葉から導き出されるイメージを具現化できるようになります。（技能） ・制作プロセスとして、市場調査を行い、アイデアを思考し、ディスカッションを行い、中間のプレゼンテーションを行い、最終デザインモデルを提案します。（思考・判断・表現） ・そして、それをレンダリングして図面を制作し、最終モデルと共にプレゼンテーションできるようになる。（関心・意欲・態度）

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
プロダクトデザイン演習I	家政学部 学科 専門教育科目 建築・デザイン学科	3	3	3年次のこの演習は、より身近な人と、より身近な製品を考えます。テーマは「あの人の為の、キッチンツール」です。いかに問題解決できるプロダクト製品を提案できるか！まずターゲットを考えます。キッチンだったら、お母さんでしょうか？最近では男性も料理好きがいますので、お父さんかもしれません。そのターゲットにインタビューをして問題点やこういうものがあつたらいいなという意見を聞き出します。それらの視点を持って市場調査を行います。そこからアイデアを考え、ディスカッションを行い、何枚もアイデアスケッチを描き、簡易モデルを制作し、中間のプレゼンテーションを行い、最終デザインモデルを制作します。そしてそれをレンダリングして図面を制作し、最終モデルと共にプレゼンテーションボードも制作し、共立祭で展示もします。	より身近な人と、より身近な製品を考えます。テーマは「あの人の為の、キッチンツール」です。日本のキッチンツールの現状を理解します。（知識・理解） ・問題解決できるプロダクト製品を提案できるようになるにはターゲットを考えます。キッチンだったら、お母さんですが最近はお父さんかもしれない事も知ります。そのターゲットにインタビューをして問題点やこういうものがあつたらいいなという意見を聞き出します。それらの視点を持って市場調査を行います。（思考・判断・表現） ・そこからアイデアを考え、ディスカッションを行い、何枚もアイデアスケッチを描き、簡易モデルを制作し、中間のプレゼンテーションを行い、最終デザインモデルを制作します。（技能） ・そしてそれをレンダリングして図面を制作し、最終モデルと共にプレゼンテーションします。（関心・意欲・態度）	・より身近な人と、より身近な製品を考えます。テーマは「あの人の為の、キッチンツール」です。日本のキッチンツールの現状を理解します。（知識・理解） ・問題解決できるプロダクト製品を提案できるようになるにはターゲットを考えます。キッチンだったら、お母さんですが最近はお父さんかもしれない事も知ります。（思考・判断・表現） ・そこからアイデアを考え、ディスカッションを行い、何枚もアイデアスケッチを描き、簡易モデルを制作し、中間のプレゼンテーションを行い、最終デザインモデルを制作します。（技能） ・そしてそれをレンダリングして図面を制作し、最終モデルと共にプレゼンテーションします。（関心・意欲・態度）
プロダクトデザイン演習II	家政学部 学科 専門教育科目 建築・デザイン学科	3	3	プロダクトデザインの中でも、屋外空間における環境デザインとして、ストリートファニチュア課題を演習する。ストリートファニチュアにも様々なものがあり、どれをテーマにするかは自分で選択する。対象は、自分の生活で関わりのある場所、もしくはよく知られた場所とし、現況を調査して問題点を洗い出し、新しい提案をおこなう。最終成果物は、模型とパネルである。	・対象地区の問題点を分析し、どのようなデザイン提案をするかを思考し判断する事が身に付く。（思考・判断・表現） ・公的な空間におけるストリートファニチュアは、様々な制約や、機能、意図をもって設置される事を解説する。（関心・意欲・態度） ・これを十分検討することで自主的な知識と理解が身に付く。（知識・理解） ・この演習をとおして、デザイナーの関心・意欲が増し、ストリートファニチュアの意味やデザイン的な関わり方を学ぶと共に、制作提案する技能が身に付く。（技能）	・対象地区の問題点を分析し、どのようなデザイン提案をするかを思考し判断する事が身に付く。（思考・判断・表現） ・公的な空間におけるストリートファニチュアは、様々な制約や、機能、意図をもって設置される事を解説する。（関心・意欲・態度） ・この演習をとおして、デザイナーの関心・意欲が増し、ストリートファニチュアの意味やデザイン的な関わり方を学ぶと共に、制作提案する技能が身に付く。（技能）
プロダクトデザイン演習III	家政学部 学科 専門教育科目 建築・デザイン学科	4	4	4年次の演習として広い視野から、新しい提案や問題解決としてのプロダクトデザインを考えます。テーマは「日本」です。現在日本では海外からの観光客がととも増えています。2020年にはオリンピック・パラリンピックの開催が予定されています。いわゆる「メイド・イン・ジャパン」という日本製品は不祥事が続いています、ここで言う「日本」とは日本らしさです。それが「お土産」であったり、「記念品」であったり、海外の人たちから見た日本のイメージに作用するようなものを考えていきます。ワクワクするような日本です。それらの視点を持って市場調査を行います。そこからアイデアを考え、ディスカッションを行い、何枚もアイデアスケッチを描き、簡易モデルを制作し、中間のプレゼンテーションを行い、最終デザインモデルを制作します。そしてそれをレンダリングして図面を制作し、最終モデルと共にプレゼンテーションボードも制作し、共立祭で展示もします。	テーマは「日本」。現在日本では海外からの観光客がととも増えている。2020年にはオリンピック・パラリンピックの開催が予定されている。これらの解説を受け知識が身に付き理解ができるようになる。（知識・理解） ・ここで言う「日本」とは日本らしさだ。それが「お土産」であったり、「記念品」であったり、海外の人たちから見た日本のイメージに作用するようなものを思考できるようになる。ワクワクするような日本。それらの視点を持って市場調査を行う。（思考・判断・表現） ・そこからアイデアを考え、ディスカッションを行い、何枚もアイデアスケッチを描き、簡易モデルを制作し、中間のプレゼンテーションを行い、取捨選択という判断をして最終デザインモデルを制作する。（技能） ・最終モデルと共にプレゼンテーションします。ボードも制作し、共立祭で展示する。（関心・意欲・態度）	テーマは「日本」。現在日本では海外からの観光客がととも増えている。2020年にはオリンピック・パラリンピックの開催が予定されている。これらの解説を受け知識が身に付き理解ができるようになる。（知識・理解） ・ここで言う「日本」とは日本らしさだ。それが「お土産」であったり、「記念品」であったり、海外の人たちから見た日本のイメージに作用するようなものを思考できるようになる。ワクワクするような日本。それらの視点を持って市場調査を行う。（思考・判断・表現） ・そこからアイデアを考え、ディスカッションを行い、取捨選択という判断をして最終デザインモデルを制作する。（技能） ・最終モデルと共にプレゼンテーションします。ボードも制作し、共立祭で展示する。（関心・意欲・態度）
ゼミナール	家政学部 学科 専門教育科目 建築・デザイン学科	3	3	4年間の集大成となる、卒業制作・卒業論文にむけて、各教員が自身の専門分野から独自のテーマを掲げ、そのテーマに沿ったそれぞれの手法で行われる演習系の授業である。テーマによっては、文献研究や資料収集、実験や実測、フィールドワークなど、知識の一方の伝達になりがちな一般の講義とは違って、この授業では学生が主体となって、観て、聴いて、嗅いで、触れて、感じて、計測して、分析し、評価し、考察し、提案していく。これらの活動を通して、4年次の卒業論文と卒業制作のテーマを各自見つけ出すことを目標とする。	・各ゼミナールのテーマに沿って必要となる知識と能力を修得できるようになる。（知識・理解） ・設計、デザインのコンセプト造りの能力と、表現するプレゼンテーション能力を修得できるようになる。（技能） ・ゼミナールの活動のなかで、卒業論文・卒業制作のテーマを提示し、そのテーマの目的と意義を明らかにすることができるようになる。（思考・判断・表現） ・社会の状況に常に関心を持ち続け、そのあり方を考え提案できる力を修得できるようになる。（思考・判断・表現）（関心・意欲・態度）	・各ゼミナールのテーマに沿って最低限必要となる知識と能力を修得できるようになる。（知識・理解） ・設計、デザインのコンセプト造りの基本的な能力と、表現するプレゼンテーションの基本的な能力を修得できるようになる。（技能） ・ゼミナールの活動のなかで、卒業論文・卒業制作のテーマを発見し、そしてそのテーマの目的と意義を見つけ出すことができるようになる。（思考・判断・表現）
卒業論文I（研究）	家政学部 学科 専門教育科目 建築・デザイン学科	4	4	3年次で培った各自のテーマを、4年間の集大成として調査・分析し論文形式で纏めあげていく前半の授業である。それぞれが掲げたテーマの意義、目的にあった研究方法を設定し、指導教員のもとで半年間かけ論文の構成と骨子をまとめることを目的とし、期末にはその成果を発表し、広くその評価を問い、今後の研究に繁栄させる。	・テーマに沿って更に必要となる知識を、個別に担当教員の適切な指導を受けながら修得することができるようになる。（知識・理解） ・収集した資料を分析、評価する能力が習得できる。（技能） ・事実や結果から考察して結論を導き出す手法を身につけることができる。（技能） ・自身の思考過程と結果としての形を表現する技術を身につけることができる。（技術） ・分析、評価したものを元に思考、判断し、論文の骨子を組み立てる能力が身につく。（思考・判断・表現） ・建築コースにおいては、4年間の集大成としての論文にするための基礎資料を常に意欲的に収集する力がつく。（関心・意欲・態度） ・デザインコースにおいては、自分自身でテーマを探し、自分の頭で考え、自分の足で行動し卒業論文若しくは作品の完成へ向けて能動的に取り組むことができるようになる。（関心・意欲・態度）	・テーマに沿って更に必要となる知識を、個別に担当教員の適切な指導を受けながら修得することができるようになる。（知識・理解） ・収集した資料を分析、評価する能力が習得できる。（技能） ・事実や結果から考察して結論を導き出す手法を身につけることができる。（技能） ・分析、評価したものを元に思考、判断し、論文の骨子を組み立てる能力が身につく。（思考・判断・表現）

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
卒業論文Ⅱ	家政学部 学科 専門教育科目 建築・デザイン学科	4	4	3年次で培った各自のテーマを、4年間の集大成として調査・分析し論文形式でまとめあげていく後半の授業である。卒業論文Ⅰ(研究)で行った論文の構成と骨子をもとに、半年間かけ論理展開が明確な論文形式にまとめあげることを目的とし、最後にその成果を発表し広く評価を問う。	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマに沿って更に必要となる知識を、個別に担当教員の適切な指導を受けながら修得することができるようになる。(知識・理解) ・収集した資料を分析、評価する能力が習得できる。(技能) ・事実や結果から考察して結論を導き出す手法を身につけることができる。(技能) ・自身の思考過程と結果としての形を表現する技術を身につけることができる。(技能) ・自分自身の見つけたテーマを、4年間の集大成として、論文にまとめ、理路整然と自分の考えを相手に伝えることができる。(思考・判断・表現) ・建築コースにおいては、4年間の集大成としての論文にするための基礎資料を常に意欲的に収集する力がつく。(関心・意欲・態度) ・デザインコースにおいては、自分自身でテーマを探し、自分の頭で考え、自分の足で行動し卒業論文の完成へ向けて能動的に取り組むことができるようになる。(関心・意欲・態度) 	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマに沿って更に必要となる知識を、個別に担当教員の適切な指導を受けながら修得することができるようになる。(知識・理解) ・収集した資料を分析、評価する能力が習得できる。(技能) ・事実や結果から考察して結論を導き出す手法を身につけることができる。(技能) ・自分自身の見つけたテーマを、4年間の集大成として、論文にまとめ、理路整然と自分の考えを相手に伝えることができる。(思考・判断・表現)
卒業制作Ⅰ（研究）	家政学部 学科 専門教育科目 建築・デザイン学科	4	4	3年次で培った各自のテーマを、4年間の集大成として制作形式でまとめあげてい前半の授業である。それぞれが掲げたテーマの意義、目的にあった研究・制作方法を設定し、指導教員のもとで半年間かけコンセプト造りを行い、卒業制作の原案となる「空間」や「もの」として提案することを目的とし、期末にはその成果を発表し、広くその評価を問い、今後の制作過程に繁栄させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマに沿って更に必要となる知識を、個別に担当教員の適切な指導を受けながら修得することができるようになる。(知識・理解) ・収集した資料を分析、評価する能力が習得できる。(技能) ・自身の思考過程と結果としての形を表現する技術を身につけることができる。(技能) ・分析、評価したものを元に思考、判断しデザインコンセプトの骨子を組み立て、かたちを創造する能力が身につく。(思考・判断・表現) ・建築コースにおいては、4年間の集大成としての作品にするための基礎資料を常に意欲的に収集する力がつく。(関心・意欲・態度) ・デザインコースにおいては、自分自身でテーマを探し、自分の頭で考え、自分の足で行動し、作品の完成へ向けて能動的に取り組むことができるようになる。(関心・意欲・態度) 	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマに沿って更に必要となる知識を、個別に担当教員の適切な指導を受けながら修得することができるようになる。(知識・理解) ・収集した資料を分析、評価する能力が習得できる。(技能) ・自身の思考過程と結果としての形を表現する技術を身につけることができる。(技能) ・分析、評価したものを元に思考、判断しデザインコンセプトの骨子を組み立て、かたちを創造する能力が身につく。(思考・判断・表現)
卒業制作Ⅱ	家政学部 学科 専門教育科目 建築・デザイン学科	4	4	3年次で培った各自のテーマを、4年間の集大成として制作形式でまとめあげていく後半の授業である。それぞれが掲げたテーマの意義、目的にあった研究・制作方法を設定し、卒業制作Ⅰ(研究)で行ったコンセプト造りと、「かたち」の原案をもとに、半年間かけ、「空間」や「もの」としての「ありよう」を常に問いながら卒業制作としてまとめあげることがを目的とし、最後にその成果を発表し広く評価を問う。	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマに沿って更に必要となる知識を、個別に担当教員の適切な指導を受けながら修得することができるようになる。(知識・理解) ・また、収集した資料を分析、評価する能力が習得できる。(技能) ・また、自身の思考過程と結果としての形を表現する技術を身につけることができる。(技能) ・自分自身の見つけたテーマを、4年間の集大成として、作品にまとめ、理路整然と自分の考えを相手に伝えることができる。(思考・判断・表現) ・建築コースにおいては、4年間の集大成としての作品にするための基礎資料を常に意欲的に収集する力がつく。(関心・意欲・態度) ・デザインコースにおいては、自分自身でテーマを探し、自分の頭で考え、自分の足で行動し、作品の完成へ向けて能動的に取り組むことができるようになる。(関心・意欲・態度) 	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマに沿って更に必要となる知識を、個別に担当教員の適切な指導を受けながら修得することができるようになる。(知識・理解) ・また、収集した資料を分析、評価する能力が習得できる。(技能) ・また、自身の思考過程と結果としての形を表現する技術を身につけることができる。(技能) ・自分自身の見つけたテーマを、4年間の集大成として、作品にまとめ、理路整然と自分の考えを相手に伝えることができる。(思考・判断・表現)
児童学基礎演習	家政学部 学科 専門教育科目 児童学科	1	1	本授業のねらいは、4年間を通して学ぶ児童学の基礎を理解することにある。家庭、地域、社会などにおいて身近に取り上げられている子どもに関連するさまざまな事象や課題に触れ、子どもをとりまく自己・人・ものなどの諸関係に気づくとともに、発達・文化・教育・福祉などの視点から、子どもの生活活動への関心を高める。また、子どもにかかわる専門的実践者の基盤づくりとして、グループワークなどの演習、発表、討論、施設見学などを通して自主的・主体的な学びの姿勢を養う。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 家庭、地域、社会などにおいて身近に取り上げられている子どもに関連する事象や課題を具体的に挙げるができる(知識・理解)。 2. 子どもに関連する事象や課題について発表、討論、グループワークができる(思考・判断・表現)。 3. 子どもをとりまく自己・人・ものなどの諸関係に気づき、子どもの生活活動に積極的な関心をもってかかわることができる(関心・意欲・態度)。 4. 施設見学などに積極的に参加することを通して、子どもにかかわる専門的実践者としての役割をについて説明できる(知識・理解)。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもに関連する事象や課題について発表、討論、グループワークができる(思考・判断・表現)。 2. 子どもの生活活動に積極的な関心をもってかかわることができる(関心・意欲・態度)。 3. 施設見学などに積極的に参加することを通して、子どもにかかわる専門的実践者としての役割をについて説明できる(知識・理解)。
発達心理学Ⅰ	家政学部 学科 専門教育科目 児童学科	1	1	生涯発達の視点から、乳幼児および児童・生徒の発達について、身体・運動、言語・認知、情緒・社会性など各領域の特徴と相互の関連性についての基本的な知識を学ぶ。その際、ピアジェ、ヴィゴツキー、ポウルビー、田中昌人などの代表的な発達理論を基に、発達を規定する内的、外的要因およびその相互作用などの観点について理解する。また、子どもの健全な発達を保障するうえで必要なかかわりや援助のあり方を学ぶ。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 身体・運動、言語・認知、情緒・社会性など各領域の発達特徴と相互の関連性について各時期ごとに具体的に述べるができる(知識・理解)。 2. 代表的な発達理論とその特徴を挙げるができる(知識・理解)。 3. 各時期の発達特徴に応じた保育・教育上のかかわりや援助の課題を見出すことができる(思考・判断・表現)。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 身体・運動、言語・認知、情緒・社会性など各領域の発達特徴について各時期ごとに述べることができる(知識・理解)。 2. 代表的な発達理論を挙げるができる(知識・理解)。 3. 各時期の発達特徴に応じた保育・教育上のかかわりや援助の課題を見出すことができる(思考・判断・表現)。
発達心理学ⅠⅠ	家政学部 学科 専門教育科目 児童学科	2	2	子どもの心身の発達と保育実践について、子どもの生活と遊び、それらを通じた子どもの経験や学習のプロセスから理解し、個人差や発達過程に応じた保育・教育、発達の課題に応じた援助、さらに、発達の連続性や就学への支援などについて学ぶ。乳幼児期を中心に、実際に幼児とかかわる体験を通して、発達や遊びの特徴について具体的、実践的な知識を習得し、かかわり方の実際を学ぶ。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育における子どもの生活と遊びにおける経験や学習の役割や特徴について、個人差や発達の課題を考慮して具体的に説明できる(知識・理解) 2. 子どもの生活や遊びについて、発達の特徴と関連づけて述べるができる(知識・理解)。 3. 発達特徴をふまえた遊びやかかわり方について考案できる(思考・判断・表現)(技能)。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育における子どもの生活と遊びにおける経験や学習の特徴について説明できる(知識・理解) 2. 子どもの生活や遊びの特徴について述べるができる(知識・理解)。 3. 遊びの際のかかわり方について考案できる(思考・判断・表現)(技能)。
教育心理学	家政学部 学科 専門教育科目 児童学科	1	1	教育心理学には、子どもの学びを支えることと適応を支えるという2つの役割がある。本科目では、子どもの発達、学習メカニズム、動機づけ、教育評価などの教育にかかわる心理学理論や実践方法について理解する。基本的な概念の習得とともに、具体的な子ども理解の方法、教育方法なども学ぶ。また、近年、特別支援教育についても扱い、学習のつまづきへの支援のあり方についても考察する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育心理学の定義や内容を理解したうえで、子どもの発達の特性について説明できる。(知識・理解) 2. 学習メカニズム、動機づけ、教育評価などの教育心理学理論について説明できる。(知識・理解) 3. 実際に、子どもの保育・教育活動を行う時に必要な子ども理解や子ども支援についての専門的技能が習得できる。(技能) 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育心理学の定義や内容を理解できる。(知識・理解) 2. 学習メカニズムや動機づけについて説明できる。(知識・理解) 3. 実際に、子どもの保育・教育活動を行う時に必要な子ども理解や子ども支援についての基礎技能が習得できる。(技能)

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
児童理解の方法	家政学部 学科 専門教育科目 児童学科	2	2			
発達臨床学	家政学部 学科 専門教育科目 児童学科	3	3	保育・教育・福祉領域の実習やこれまで行ったボランティア活動等において体験したことを、授業内での振り返り、文献講読、研究発表などを通して、理論的に位置付けながら学びを深める。	1. 保育・教育領域で実際に展開している発達臨床・支援活動について具体的な例を挙げて提案できる（知識・理解）。 2. 発達臨床的支援技法を子どもの障がい特性に応じてどのように実践するか説明できる（思考・判断・表現）。 3. 個別指導計画に応じた環境・教材の開発・工夫に関心を持って取り組むことができる（関心・意欲・態度）。	1. 保育・教育領域で実際に展開している発達臨床・支援活動について説明できる（知識・理解）。 2. 発達臨床的支援技法を説明できる（思考・判断・表現）。 3. 支援のための環境・教材の工夫に関心をもって取り組むことができる。（技能・関心・意欲・態度）。
教育相談の理論と方法	家政学部 学科 専門教育科目 児童学科	3	3	社会の変容とともに、教育現場では、いじめ、不登校、社会性の未熟さや発達の偏り、虐待などさまざまなリスクがあることが指摘されている。このような状況の中、教育相談とは子どもの育ちへの支援を目的とする教育方法であり、教育実践の枠組みである。本科目で用いる「教育相談」の概念には、保育・教育者が行う相談活動および保育・教育者と連携して行う心理臨床等を基盤とした相談活動の両方を含む。したがって、どちらにも共通して必要な理論と方法およびそれぞれの専門的立場を活かした相談活動とコラボレーションのあり方について講義する。	1. 乳幼児・児童およびその保護者等とかわる保育・教育相談活動における心理・教育臨床の基礎理論を理解できる。（知識・理解） 2. 保育・教育相談で取り扱う乳幼児・児童期の問題を理解したうえで援助技法を説明できる。（思考・判断・表現） 3. 保育・教育相談活動を担い、家族や関係機関と協働・連携していく専門職として、カウンセリング、コンサルテーション、コラボレーションのあり方について理解し、保育・教育現場とのつながりを考えることができる。（関心・意欲・態度）	1. 教育相談の基礎知識が理解できる。（知識・理解） 2. 保育・教育相談で取り扱う乳幼児・児童期の問題が理解できる。（知識・理解） 3. 保育・教育相談活動を担い、家族や関係機関と協働・連携していく専門職として、カウンセリング、コンサルテーション、コラボレーションのあり方について理解できる。（関心・意欲・態度）
障害児保育	家政学部 学科 専門教育科目 児童学科	2	2	現代の幼稚園・保育所・学校において、子どもの1割が発達障害などの特別な支援ニーズをもっているとされる。特に、保育士や教師になる学生は、このような社会的な現状をふまえながら、障害の概念に関する正しい知識と肯定的な視線・態度をもつことが求められる。本講義では、障害の概念、種類、理解の方法、支援方法について具体的に学ぶ。	1. 乳幼児・児童にかかわる障害の概念と種類について具体的な例を挙げて説明できるようになる（知識・理解）。 2. 障害のある子どもの理解の方法、支援の方法について具体的に説明できるようになる（知識・理解）。 3. 障がいのある子どもの個々のニーズに合わせた実践的な配慮方法、発達支援の方法について工夫できる（技能）。	1. 乳幼児・児童にかかわる障害の概念と種類について説明できるようになる（知識・理解）。 2. 障害のある子どもに対する配慮方法、発達支援の方法について工夫ができる。（技能）。
発達障害心理学	家政学部 学科 専門教育科目 児童学科	3	3	文部科学省によると、通常学級に約6.3%の割合で発達障害を疑われる子どもが在籍していると報告されている。これは40人学級で2、3人が在籍している計算になる。そのため、乳幼児期、児童期の子どもたちにかかわる保育者や教育者は、発達障害の基礎知識について理解したうえで適切な対応をする必要がある。そのため、本科目では、LD、ADHD、自閉症スペクトラムなどの発達障害の特徴について理解する。さらに、発達障害児への対応の仕方や支援方法について理解する。	1. 発達障害の概念、種類、特徴について理解できるようになる。（知識・理解） 2. 療育現場で活用される知能・発達・行動面の心理検査の実施法や活用法について学び、保育・教育現場において実際に支援ができるようになる。（技能） 3. 認知指導、適応指導、社会性や行動面の指導、運動動作の指導、保育や教育における配慮や指導といった発達促進のための発達障害臨床における援助技法について理解し、考察することができるようになる。（思考・判断・表現）	1. 発達障害の概念について理解できる。（知識・理解） 2. 療育現場で活用される知能・発達・行動面の心理検査の実施法や活用法について理解できる。（技能） 3. 認知指導、適応指導、社会性や行動面の指導、運動動作の指導、保育や教育における配慮や指導といった発達促進のための発達障害臨床における援助技法について理解できる。（思考・判断・表現）
発達支援論	家政学部 学科 専門教育科目 児童学科	3	3	幼稚園・保育所において子どもの発達を支援するには、幼児を理解し、互いにかかわりあう関係の構築が必要となる。理解すること・理解されることの体験を通して、理解しあえることの喜びを感じ、様々な場面での理解と援助について事例を通して学ぶ。他者を理解する自己を確立し、自ら理解に基づく援助の方針を立てられるようにする。	1. 幼児理解・保護者理解の基本を理解し、その必要性とともに説明できる（知識・理解）。 2. 様々な場面における幼児理解と援助について、発達を踏まえ、事例を通して考えられるようになる（思考・判断・表現）。 3. 幼児や幼児を取り巻く関係を理解・援助するための態度・技術を意欲的に養い、保育との関係を考慮したうえで実践に活かすことができるようになる（技能） 4. 上記の知識、技術、判断力をもとに保育者としての意欲、態度を養う（関心・意欲・態度）。	1. 幼児理解・保護者理解の基本を理解し説明できる（知識・理解）。 2. 様々な場面における幼児理解と援助について、事例を通して考えられるようになる（思考・判断・表現）。 3. 幼児や幼児を取り巻く関係を理解・援助するための態度・技術を養い、実践に活かすことができるようになる（技能） 4. 上記の知識、技術、判断力をもとに保育者としての意欲、態度を養う（関心・意欲・態度）。
発達支援演習	家政学部 学科 専門教育科目 児童学科	3	3	本授業では、ヒトの「生涯発達」という視点から乳幼児の発達プロセスを概観することにより、教育・保育現場における様々な課題を理解し、個々のニーズに応じた実践的な支援方法を、理論・演習を通して習得することを目的とする。内容としては、さまざまな障がいによる困難さの体験学習、多様な発達支援のアプローチ方法についての映像による学修、実際の発達支援の様子の見学などを行い、振り返りや討論を通して、自分自身の発達支援に対する考え方を構築する。	1. 発達支援ニーズのある子どもと保護者に対する多様な支援方法について理論的かつ実践的に説明できるようになる（知識・理解）。 2. 子どもの発達支援ニーズに合わせた支援方法を選択することができる（思考・判断・表現）。 3. 子どもと保護者を理解・支援するための基本的な技術を身に付けて実践することができる。（技能） 4. 子どもの発達支援に関わる意欲を持つことができる（関心・意欲・態度）。	1. 発達支援ニーズのある子どもと保護者に対する多様な支援方法について説明できるようになる（知識・理解）。 2. 子どもの発達支援ニーズに合わせた支援方法を選択することができる（思考・判断・表現）。 3. 子どもを理解・支援するための基本的な技術を身に付けることができる。（技能） 4. 子どもの発達支援について関心を持つ（関心・意欲・態度）。
心理学研究法	家政学部 学科 専門教育科目 児童学科	3	3	心理学の方法論には多種多様な形態がある。研究における理論や目的が異なるためである。本講義では、人間の「こころ」の仕組みや働きを研究するための心理学についての基礎的方法を概観し、科学としての心理学の研究の考え方や各種研究法の特徴、心理学研究を実施するうえで心得ておくべき倫理基準、科学論文の書き方の基礎について学習する。	1. 心理学研究の各研究法の基本的な手法と、その長所・短所を説明できる（知識・理解）。 2. 心理学研究論文の構造を理解し、研究の意義を理解するとともに、批判的思考に基づき新たな課題を見出すことができる（思考・判断・表現）。 3. 研究における倫理を身に付けることができるようになる（思考・判断・表現）。 4. 基礎的な統計手法としての記述統計を理解し、データをまとめることができる 5. （技能）。 6. 自らの問題意識に基づいて研究を立案し、具体的で実現可能な方法を計画できる（思考・判断・表現・技能）。	1. 心理学研究の各研究法の基本的な手法と、その長所・短所を説明できる（知識・理解）。 2. 心理学研究論文の構造を理解し、研究の意義を見出すことができる（思考・判断・表現）。 3. 研究における倫理を身に付けることができるようになる（思考・判断・表現）。 4. 基礎的な統計手法としての記述統計を理解し、データをまとめることができる 5. （技能）。 6. 自らの問題意識に基づいて研究を立案できる（思考・判断・表現・技能）。

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
行動科学研究法	家政学部 学科 専門教育科目 児童学科	2	2	幼児、児童を理解するための臨床心理学、保育心理学における方法を理解する。フィールドワークにおける記録の取り方、行動観察法、エスノグラフィ等を理解したあとに、各フィールドに出向いて、調査を実施し、それらのデータをもとに、考察を行う。	1. 幼児、児童を理解するための心理学や保育学における方法を習得することができる（技能）。 2. フィールドワークにおける記録の取り方、記録用紙の作成、データの処理方法、フィールドノートの作成の留意点等について説明することができる（知識・理解）。 3. 行動観察法、エスノグラフィそれぞれの特徴および長所と短所について説明することができる（知識・理解）。 4. 自らの視点でフィールドワークを実施し、その結果について分析し、考察・まとめができる（思考・判断・表現）（技能）。	1. 幼児、児童を理解するための心理学や保育学における方法を習得することができる（技能）。 2. フィールドワークにおける記録の取り方を説明することができる（知識・理解）。 3. 行動観察法、エスノグラフィの特徴を挙げる（知識・理解）。 4. 自らの視点でフィールドワークを実施し、その結果をまとめることができる（思考・判断・表現）（技能）。
保育・教育インターンシップ	家政学部 学科 専門教育科目 児童学科	2	2	児童学に即した保育・教育体験を自発的に行いながら、子どもと保護者・家族、保育・教育者、保育・教育施設等、子どもの育つ環境におけるさまざまな関係や仕組みを体験的に学ぶことを目的とする。インターンシップの計画立案、実施、経過報告、インターンシップ報告会までの一連の活動により、大学で学んだ理論や技能がどのように発展していくのか見通しを得たり、現場の保育・教育環境等を理解したりする。	1. 児童学の指標に基づいた保育・教育活動などに自発的に参加して30時間以上のインターンシップ体験実習を行い、そこで学び得た子ども理解等について具体的に説明することができる。（知識・理解） 2. 保育・教育実践力の向上のために、インターンシップ体験実習を省察し、記録として詳細にまとめることができる。（技能） 3. インターンシップ体験実習を通して保育者・教育者としての意欲・関心を高め、今後の学びにどのように活用していくか具体的に述べることができる。（関心・意欲・態度） 4. 実習報告会で自己のインターンシップ体験実習について報告し、他の受講生と体験を共有して考察をまとめることができる。（思考・判断・表現）	1. 児童学の指標に基づいた保育・教育活動などに参加して30時間以上のインターンシップ体験実習を行い、そこで学び得た子ども理解等について説明することができる。（知識・理解） 2. 保育・教育実践力の向上のために、インターンシップ体験実習の記録をまとめることができる。（技能） 3. インターンシップ体験実習を通して保育者・教育者としての意欲・関心をもち、今後の学びにどのように活用していくか述べる（知識・理解） 4. 実習報告会で自己のインターンシップ体験実習について報告することができる。（思考・判断・表現）
行動科学基礎実験Ⅰ	家政学部 学科 専門教育科目 児童学科	3	3	心理学の基礎実験や調査を演習形式での講義を通して学び、その中で、心理学実験における目的、手続き データ収集と分析手法の基礎を学ぶ。特に、データ分析の基本となる統計的検定の理解を重視する。実験後、レポートの提出を義務づけ、科学論文作成の基本を修得する。	1. 独力で、心理学の実験レポートをまとめられるよう、議論の組み立て、データの処理、及び実験に関する基礎知識を総合的に説明できる（知識・理解）。 2. データの処理に関しては、エクセルやワードなどの操作をはじめ、統計的検定ができるようになる（思考・判断・表現）（技能）。	1. 心理学の実験レポートをまとめられるよう、データの処理、及び実験に関する基礎知識を説明できる（知識・理解）。 2. データの処理に関しては、エクセルやワードなどの操作をはじめ、統計的検定ができるようになる（思考・判断・表現）（技能）。
行動科学基礎実験Ⅱ	家政学部 学科 専門教育科目 児童学科	3	3	要因計画法に基づく実験法の基礎を学び、心理学に関する仮説の因果関係の検証という観点から、実験法を学ぶ。分析手法として、要因計画に対応した分散分析法を学ぶとともに、レポート作成に必要な情報の収集をおこなう。基礎実験から心理尺度を用いた質問紙実験まで幅広く学ぶ。	1. 心理学の実験レポートを独力でまとめることができる（ただし、実験計画法を前提とする）（思考・判断・表現）。 2. 分析では要因計画に対応した分散分析法を用いて、平均値の差の検定が実施できる（知識・理解）。	1. 心理学の実験レポートをまとめることができる（思考・判断・表現）。 2. 分析では平均値の差の検定が実施できる（知識・理解）。
家族心理学	家政学部 学科 専門教育科目 児童学科	1	1	近年、私たちを取り巻く社会環境は大きな変遷を遂げようとしているなかで、現代の家族には、これまでにない新たな課題が生じている。その一方で、いかなる時代、文化においても普遍的な課題を有している。私たちにとって家族は、もっとも身近な人間関係の単位でありながら、全ての家族は均質ではない。家族は、社会の変化とともにどのような変遷を遂げたのか、家族関係はどのように発達するのかを踏まえ、家族関係における様々な問題について、社会的背景との関係から理解を深める。	1. 現代社会における家族の状況を理解し、その背景にある歴史的変遷を踏まえて説明できる（知識・理解）。 2. 夫婦関係・親子関係など様々な家族関係における仕組みと発達について理解し説明できる（知識・理解）。 3. 家族関係における様々な心理的問題と社会的背景の相互的影響について理解し、社会的文脈や政策を含めた対応について説明できる（知識・理解）。 4. 家族関係の構築における発展的な課題を見出すことができるようになる（思考・判断・表現）。	1. 現代社会における家族の状況を理解し、説明できる（知識・理解）。 2. 夫婦関係・親子関係など様々な家族関係における仕組みと発達について理解し説明できる（知識・理解）。 3. 家族関係における様々な心理的問題と社会的背景の相互的影響について理解し、説明できる（知識・理解）。 4. 家族関係の構築における発展的な課題を見出すことができるようになる（思考・判断・表現）。
家庭支援論	家政学部 学科 専門教育科目 児童学科	3	3	社会の変化とともに家庭のあり方も変化し、子育て家庭も多様化し、そこには多くの課題がある。保育の仕事に携わる者として、子育て家庭の現状を理解し、必要とされる支援のあり方、その目的を理解するとともに、様々な支援のアプローチについて学ぶ。「子育て」「親育ち」「親子関係の育ち」を支える家庭支援について理解を深める。	1. 子育てにおける「家庭支援」の背景や必要性、目的を歴史的背景、社会的文脈と関連させながら理解し、説明できる（知識・理解）。 2. 「家庭支援」の具体的な方法を理解し、状況に応じた支援の可能性を考えることができる（思考・判断・表現）。 3. 「家庭支援」における今後の課題を理解し、保育実践との関連を考察できる（関心・意欲・態度）。	1. 子育てにおける「家庭支援」の背景や必要性、目的を歴史的背景、社会的文脈と関連させながら理解し、説明できる（知識・理解）。 2. 「家庭支援」の具体的な方法を説明できる（思考・判断・表現）。 3. 「家庭支援」における今後の課題を理解し、考察できる（関心・意欲・態度）。
子どもと多文化共生	家政学部 学科 専門教育科目 児童学科	3	3	前半で、日本における多文化の歴史を追いながら、その変遷を理解する。日本における多文化地域の教育実践例を取り上げながら、実態を把握することに努める。その後、世界の多文化共生社会の教育の取り組みを学習する。また、日本に住む外国人の中でも割合が多いアジア諸地域の保育・幼児教育の現場をビデオで観察し、共通点や差異点を見付け、その地域から日本に移住した家族が日本の就学前教育或いは初等教育現場で体験するであろう問題、或いはそのような子どもを受け入れた就学前施設側が直面するであろう困難点について話し合う。	1. 多文化環境で育つ子どもとその親たちの実態を、国内外の具体的な現状を踏まえて説明することができる。（知識・理解） 2. 国内の乳幼児施設や学校に通う多文化環境で育つ子どもと親たちとのよりよいコミュニケーションのあり方について考察し、具体的な方法について提案できるようになる（思考・判断・表現）。	1. 多文化環境で育つ子どもとその親たちの実態を説明することができる。（知識・理解） 2. それらの子どもや親たちとのよりよいコミュニケーションのあり方について考察できるようになる。（思考・判断・表現）
子育て支援論	家政学部 学科 専門教育科目 児童学科	3	3	近年、少子化や核家族化の進行もあり、子育ては家庭だけでなく、社会全体で子育てを行っていくという考え方が主流になりつつある。また、子どもの発達は育つ環境との関係に大きく依存しており、子どもと家庭が所属している地域の影響も大きく受けている。この授業では、地域の子育て資源を活用しながら子ども、親、地域が一体になって子育てすることの意義について学び、家庭の子育てと緊密な連携を図り、子育て支援ネットワークの中核的役割を担う人材を育成することを目指す。	1. 地域子育て支援の意義とその機能について総合的に説明できる。（知識・理解） 2. 子育て家庭や地域を取り巻く社会的状況等について総合的に説明できる。（知識・理解） 3. 子育て支援の制度、支援体制等について代表的な制度、支援体制について説明できる。（知識・理解） 4. 子育て支援の多様な支援の展開と関係機関との連携について総合的に説明できる。（知識・理解） 5. 子育て支援における保育者の役割を総合的に説明できる。（知識・理解）	1. 地域子育て支援の意義とその機能について基本的な事項を説明できる。（知識・理解） 2. 子育て家庭や地域を取り巻く社会的状況等について基本的な事項を説明できる。（知識・理解） 3. 子育て支援の制度、支援体制等について基本的な制度、支援体制について説明できる。（知識・理解） 4. 子育て支援の多様な支援の展開と関係機関との連携について基本的な事項を説明できる。（知識・理解） 5. 子育て支援における保育者の役割を基本的な事項を説明できる。（知識・理解）

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
教育原理	家政学部 学科 専門教育科目 児童学科	1	1	価値観の多様化にともない、現代社会はどのような教育が求められているのかが不透明な時代である。そして教育や学校がどのような目的を持ち、機能しているのか、その全体像を見渡すことは非常に困難な状況でもある。すなわち、“教育”すとはどのような行為なのか、“学校”とはどのような役割を持つ存在なのか、という問いには、容易に解答を見出し得ない難解さが含まれている。また教育という分野は、自身の経験をもとに誰でも容易に（あるいは安易に）語るができる。また教育という分野は、自身の経験をもとに誰でも容易に（あるいは安易に）語るができる。また教育という分野は、自身の経験をもとに誰でも容易に（あるいは安易に）語るができる。また教育という分野は、自身の経験をもとに誰でも容易に（あるいは安易に）語るができる。	1. “教育”と何か“学校”とはいかなる役割を持つのかについてその多義性を理解する。（知識・理解） 2. 教育の理念・思想および歴史に関する事実や概念について深く理解し、論理的に説明することができる。（知識・理解） 3. 現代の教育とその基底をなす近代社会の関係性を、歴史的・思想的観点から深く考察し、未来の教育を担う教員としての使命感を十分に身につける。（関心・意欲・態度） 4. 教育という営みが抱える諸課題について、自律的に思考し本質的な側面について判断することができる。（思考・判断・表現）	1. “教育”と何か“学校”とはいかなる役割を持つのかについて基礎的な事項を理解する。（知識・理解） 2. 教育の理念・思想および歴史に関する基礎的な事実や概念について理解し、説明することができる。（知識・理解） 3. 現代の教育とその基底をなす近代社会の関係性を、歴史的・思想的観点から考察し、未来の教育を担う教員としての使命感を身につける。（関心・意欲・態度） 4. 教育という営みが抱える諸課題について、思考し判断することができる。（思考・判断・表現）
保育原理	家政学部 学科 専門教育科目 児童学科	1	1	保育・幼児教育とは、「育つ、育てる、育ち合う」営みである。「育つ子ども」と「育てる大人」が出会って、「共に育ち合う」活動を創っていくことである。授業では、保育・幼児教育の意義について理解し、子どもの発達に応じた保育者のかかわり、保育所・幼稚園・認定こども園における多様な保育ニーズについて理解することを目的とする。具体的には、保育・幼児教育の歴史から得られる保育・幼児教育の課題、乳幼児期の子どもを取り巻く環境の重要性、乳幼児期の心身の発達のプロセス、家庭、地域との連携の重要性、現在の保育制度と保育・幼児教育を取り巻く今日的課題について学ぶ。	1. 保育・幼児教育の意義について総合的に説明できる。（知識・理解） 2. 保育所保育指針・幼稚園教育要領・認定こども園教育・保育要領等における保育・幼児教育の基本について総合的に説明できる。（知識・理解） 3. 保育・幼児教育の内容と方法について総合的に説明できる。（知識・理解） 4. 保育・幼児教育の思想と歴史の変遷について総合的に説明できる。（知識・理解） 5. 保育・幼児教育の現状と課題について総合的に考察できる。（思考・判断・表現）	1. 保育・幼児教育の意義について基本的な事項を説明できる。（知識・理解） 2. 保育所保育指針・幼稚園教育要領・認定こども園教育・保育要領等における保育・幼児教育の基本について基本的な事項を説明できる。（知識・理解） 3. 保育・幼児教育の内容と方法について基本的な事項を説明できる。（知識・理解） 4. 保育・幼児教育の思想と歴史の変遷について基本的な事項を説明できる。（知識・理解） 5. 保育・幼児教育の現状と課題について基本的な事項を考察できる。（思考・判断・表現）
保育内容総論	家政学部 学科 専門教育科目 児童学科	2	2			
教職論	家政学部 学科 専門教育科目 児童学科	3	3	本講義の目的は、教職を目指す学生に対して、教職の意義と役割、教員の職務・服務等に関する制度や法令について総合的に学び、教師という職業への理解と認識を深めることにある。また、幼稚園・小学校や教員をめぐる諸課題についても取り上げ、教職に就く意義と責任を自覚し、今日の教師に求められる資質について考察していく。さらに具体的な実践事例についてグループワーク等を通して考察することにより、将来の教師としての児童理解及び実践理解を深めていく。	1. 教職の意義と役割、教師の職務・服務等に関する制度や法令について理解し、説明することができる。（知識・理解） 2. 教師という職業についての理解と認識を深め、自身の教職観を述べる。（知識・理解） 3. グループ内でイニシアチブをとって実践事例の検討を行い、児童理解を根拠にした教師の役割について考察することができる。（思考・判断・表現） 4. 教師に求められる資質について、グループ内でイニシアチブをとって議論し、教職に就く意義と責任を明確に自覚することができる。（関心・意欲・態度）	1. 教職の意義と役割、教師の職務・服務等に関する制度や法令についての概略を理解し、説明することができる。（知識・理解） 2. 教師という職業について理解し、自身の教職観を述べる。（知識・理解） 3. グループ内で実践事例の検討を行い、教師の役割について考察することができる。（思考・判断・表現） 4. 教師に求められる資質についてグループで議論し、教職に就く意義と責任を自覚することができる。（関心・意欲・態度）
乳児保育	家政学部 学科 専門教育科目 児童学科	2	2	乳児保育が対象とする0～3歳未満の子どもたちは、人生の中でも最も成長・発達が顕著な時期である。その発達の特徴をふまえ、乳児保育の意義、理念、目標、内容、方法、制度、専門性に関する基礎的知識を、講義により理解する。また、寝かしつけ、離乳食の介助およびオムツ替え等の実践的技術の基本を身につける。	1. 乳児期の発達について、現実の子どもの身体運動、人間関係、食事、睡眠リズムなど多角的な観点を統合した説明ができる（知識・理解）。 2. 発達の理解を基盤として、乳児のあそびに対する保育者の応答、関与について、例を挙げながら望ましいあり方を述べる。（思考・判断・表現） 3. 寝かしつけやオムツ替えの実技に主体的に参加し（関心・意欲・態度）、実習開始時に必要な技術を身につける（技能）。	1. 乳児期の発達の概要を知っており、月齢による身体運動能力の違いを説明できる（知識・理解）。 2. 乳児のあそびについて例を挙げながら、保育者の応答、関与を考察する（思考・判断・表現）。 3. 寝かしつけやオムツ替えの実技に参加し（関心・意欲・態度）、手順を身につける（技能）。
子どもと人間関係	家政学部 学科 専門教育科目 児童学科	2	2	幼稚園教育要領及び保育所保育指針において、保育内容領域のひとつに「人間関係」がおかれている。ここでは領域「人間関係」のねらいと内容を理解し、乳幼児期の人とかかわる力の発達過程を理解しつつ、豊かな人とかかわりを育む保育者の援助について考える。	1. 領域「人間関係」のねらいと内容を、歴史的変遷との対応を踏まえて説明できる（知識・理解）。 2. 乳幼児期の人とかかわる能力の基礎として、アタッチメント、自己の発達を説明でき、現代的課題との関連を考えられる（知識・理解）。 3. 保育の様々な場面における子どもと保育者の関係、子ども同士の関係、集団の関係の育ちについて理解し、そこでの保育の意図や具体的な様相の例を含めて説明できる。 4. 人とかかわりを援助する保育者の役割について探り、課題を見出すことができる（関心・意欲・態度）。	1. 領域「人間関係」のねらいと内容を説明できる（知識・理解）。 2. 乳幼児期の人とかかわる能力の発達について、アタッチメント、自己の発達を説明できる（知識・理解）。 3. 保育の様々な場面における子どもと保育者の関係、子ども同士の関係、集団の関係の育ちについて理解し、説明できる。 4. 人とかかわりを援助する保育者の役割について探り、課題を見出すことができる（関心・意欲・態度）。
子どもの生活と遊び（健康）	家政学部 学科 専門教育科目 児童学科	3	3	子どもの健康な生活と健全な発育発達を支える保育者として、必要な知識と技術を習得する。また、社会背景や子どもの体力データの推移などをもとに、さまざまな遊具や道具を使った運動遊び、ルールのある遊びなどの実際を学び、健康な子どもを育成することについて学ぶ。	1. 健康について基本的知識および考え方を学び、これを基礎に、乳幼児期の心と身体の健康に関わる育ちについて理解し適切に説明することができる。（知識・理解） 2. 乳幼児期の発達に即した、具体的な遊びや生活の援助について、適切に考察する力を身に付ける。（思考・判断・表現） 3. 乳幼児期にふさわしい育ちを促すことができるよう、保育者として必要な実践力について意欲的に考える。（関心・意欲・態度） 4. 子どもの健康を守る保育者として必要な知識と技術を習得し、それを活かして指導計画を立案したり、積極的に模擬保育を実践したりする。（思考・判断・表現）（態度）	1. 健康について基本的知識および考え方を学び、これを基礎に、乳幼児期の心と身体の健康に関わる育ちについて理解し説明することができる。（知識・理解） 2. 乳幼児期の発達に即した、具体的な遊びや生活の援助について、考察する力を身に付ける。（思考・判断・表現） 3. 乳幼児期にふさわしい育ちを促すことができるよう、保育者として必要な実践力について考える。（関心・意欲・態度） 4. 子どもの健康を守る保育者として必要な知識と技術を習得し、指導計画を立案し模擬保育を実践する。（思考・判断・表現）（態度）

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
子どもの生活と遊び（言葉）	家政学部 学科 専門教育科目 児童学科	3	3	乳幼児の言葉に関する現状や課題を踏まえた上で、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された領域「言葉」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深める。その上で、乳幼児の発達に即して、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身につける。	1. 幼児教育・保育の基本を踏まえ、領域「言葉」のねらい及び内容を理解することができる。また、小学校の教科等との繋がりを含め説明することができる。（知識・理解） 2. 子どもの心情、認識、思考、体験などを視野に入れて、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。（技能） 3. 模擬保育などを通して、反省的に指導案を改善し、保育実践の向上に取り組むことができる。（関心・意欲・態度）	1. 幼児教育・保育の基本を踏まえ、領域「言葉」のねらい及び内容を理解することができる。（知識・理解） 2. 具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。（技能） 3. 模擬保育などを通して、反省的に指導案を改善することができる。（関心・意欲・態度）
子どもと健康	家政学部 学科 専門教育科目 児童学科	1	1	領域「健康」の指導で必要となる感性を養い、教育内容に関する知識・技能を身につける。身体諸機能の発達や、遊びのなかでの身体の育ちなどを理解し、乳幼児期の健康について科学的根拠に基づく知識を得ることで、乳幼児やその保護者に対して必要な援助を行うことができるようになる。	1. 領域「健康」の指導に関連する、身体諸機能の発達や現代の子どもの運動機能の状況について理解し、遊びを通して心と身体を育むことの重要性を適切に説明することができる。（知識・理解） 2. 健康をめぐるさまざまな現代的課題を理解し説明するとともに、生涯発達の観点から幼児期にふさわしい健康教育について保育者の役割を適切に示すことができる。（知識・技能） 3. 子どもの運動遊びの実際を知り、乳幼児期の発達に応じた適切な環境の構成やふさわしい保育実践を創造することができる。（知識・技能） 4. 子どもの健康と安全教育について理解するとともに、食育や睡眠など基本的な生活習慣の自立に向けて必要な取り組みを考えたり、調査したり、まとめたりする。（思考・判断・表現） 5. 子どもの心身の育ちをめぐる諸問題について自分の視点をもって調べたり考えをまとめたりして、適切に考察したレポートを作成することができる。（思考・判断・表現） 6. 作成したレポートをもとに積極的にグループ討議に参加し、イニシアチブをとって集約した意見をわかりやすく発表することができる。（態度）	1. 領域「健康」の指導に関連する、身体諸機能の発達や現代の子どもの運動機能の状況について理解し、遊びを通して心と身体を育むことの重要性を説明する。（知識・理解） 2. 健康をめぐるさまざまな現代的課題を理解し、生涯発達の観点から幼児期にふさわしい健康教育について保育者の役割を示すことができる。（知識・技能） 3. 子どもの運動遊びの実際を知り、乳幼児期の発達に応じた適切な環境の構成やふさわしい保育実践をテキストを参照しながら創造することができる。（知識・技能） 4. 子どもの健康と安全教育について理解するとともに、食育や睡眠など基本的な生活習慣の自立に向けて必要な取り組みを考えたり、調査したり、まとめたりする。（思考・判断・表現） 5. 子どもの心身の育ちをめぐる諸問題について調べたり考えをまとめたりして、レポートを作成することができる。（思考・判断・表現） 6. 作成したレポートをもとにグループ討議に参加し、意見を発表することができる。（態度）
子どもと人間関係（2019以降）	家政学部 学科 専門教育科目 児童学科	1	1	現代の乳幼児の人間関係の育ちに影響を与えている社会的要因について理解し、幼児教育で保障すべき教育内容に関する知識を身につける。特に領域「人間関係」の指導の基盤理論として、関係発達論的視点について学び、他者との関係や集団との関係の中で乳幼児期の人と関わる力が育つことを理解する。	1. 乳幼児を取り巻く人間関係をめぐる現代的課題について理解し、歴史的変遷や社会的背景との関連を踏まえて説明できる。（知識・理解） 2. 乳幼児期の人間関係の発達において、身近な大人との関係性の重要性を具体的な姿を含めて説明できる。（知識・理解） 3. 遊びや生活の中で育つ人と関わる力の発達について、教師との関係、友達との関係、集団の中で育ちという観点で説明できる。（知識・理解・意欲・関心） 4. 自立心の育ち、協同性の育ち、道徳性・規範意識の芽生え、家族や地域との関わりと育ちについて、発達の姿、保育の様子とあわせて説明できる。（知識・理解・意欲・関心）	1. 乳幼児を取り巻く人間関係をめぐる現代的課題について理解し、説明できる。（知識・理解） 2. 乳幼児期の人間関係の発達において、身近な大人との関係性の重要性を説明できる。（知識・理解） 3. 遊びや生活の中で育つ人と関わる力の発達について、教師との関係、友達との関係、集団の中で育ちという観点で説明できる。（知識・理解・意欲・関心） 4. 自立心の育ち、協同性の育ち、道徳性・規範意識の芽生え、家族や地域との関わりと育ちについて説明できる。（知識・理解・意欲・関心）
子どもと環境	家政学部 学科 専門教育科目 児童学科	1	1	領域「環境」の指導で必要となる感性を養い、教育内容に関する知識・技能を身につける。特に領域「環境」の指導の基盤となる、現代の子どもを取り巻く環境とその現代的課題、子どもと身近な環境とのかかわりの発達等について学ぶ。	1. 領域「環境」の指導に関連する、子どもを取り巻く環境と、子どもの発達における環境の重要性や意義について理解し、それらを総合的に説明することができる。（知識・理解） 2. 環境をめぐるさまざまな現代的課題を理解し説明するとともに、その知識をもとに幼児期の教育の具体的実践を創造することができる。（知識・技能） 3. 子どもの生物・自然との関わりや、物理的、数量・図形との関わりの実際を知り、乳幼児期の思考や科学的概念の発達を理解し、適切に説明することができる。（知識・技能） 4. 子どもを取り巻く標識・文字等との関わりや、生活に関連の深い情報・施設とのかかわりの実際を知り、標識・文字等、情報・施設との関わりを発達を理解し、適切に説明することができる。（知識・技能） 5. 人間を取り巻く身近な環境に興味や関心を持ち、自分の視点をもって環境に関わったり調べたりしたことを、創意工夫してまとめてマップやレポートを作成することができる。（思考・判断・表現） 6. 作成したマップやレポートをもとに、積極的にグループ討議に参加し、イニシアチブをとって集約した意見をわかりやすく発表することができる。（態度）	1. 領域「環境」の指導に関連する、子どもを取り巻く環境と、子どもの発達における環境の重要性や意義について理解し、説明することができる。（知識・理解） 2. 環境をめぐるさまざまな現代的課題を理解し、幼児期の教育の具体的実践をテキストを参照しながら創造することができる。（知識・技能） 3. 子どもの生物・自然との関わりや、物理的、数量・図形との関わりの実際を知り、乳幼児期の思考や科学的概念の発達を理解する。（知識・技能） 4. 子どもを取り巻く標識・文字等との関わりや、生活に関連の深い情報・施設とのかかわりの実際を知り、標識・文字等、情報・施設との関わりを発達を理解し、説明することができる。（知識・技能） 5. 人間を取り巻く身近な環境に興味や関心を持ち、環境に関わったり調べたりして、マップやレポートを作成することができる。（思考・判断・表現） 6. 作成したマップやレポートをもとにグループ討議に参加し、発表することができる。（態度）
子どもと言葉	家政学部 学科 専門教育科目 児童学科	1	1	領域「言葉」の指導の基盤となる、乳幼児が豊かな言葉や表現を身につけ想像する楽しさを広げるために必要な基礎的知識について視聴覚教材を利用して講義する。具体的には、言葉の意義と機能、言葉の発達過程について理解した上で、乳幼児の言葉を育て、言葉に対する感覚を豊かにする教材や実践に関する知識を獲得するようグループ討論などアクティブラーニングを取り入れた授業を行う。	1. 言葉のもつ意義と機能について発達過程も含め説明できる。（知識・理解） 2. 言葉の感覚を豊かにする実践について構想し、幼児の姿と合わせて説明することができる。（思考・判断・表現） 3. 子どもの発達における児童文化財の意義を説明できる。（知識・理解） 4. 絵本、物語、紙芝居など自ら積極的に取り組み、子どもに合わせて実践する技能を身に付ける。（関心・意欲・態度）（技能）	1. 言葉のもつ意義と機能について説明できる。（知識・理解） 2. 言葉の感覚を豊かにする実践について構想することができる。（思考・判断・表現） 3. 児童文化財の意義を説明できる。（知識・理解） 4. 絵本、物語、紙芝居など積極的に実践し、基本的な技能を身に付ける。（関心・意欲・態度）（技能）

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
子どもの生活と遊び（表現）	家政学部 学科 専門教育科目 児童学科	3	3	この授業は実際の表現活動を通して感性と技術を磨き、自分の表現活動を省察することで、子どもの表現活動にかかわる知識を深める事を目的とした授業である。実際の表現活動を踏まえて、幼稚園教育要領「表現」のねらいを読み取り、子どもの表現を充実させていくために必要な知識を獲得し、表現活動のための手立てについて考えていく。	1. 幼稚園教育要領 領域「表現」について、その史的展開を含め説明できるようになる（知識・理解）。 2. 造形表現・身体表現・音楽表現に関わる子どもの発達について理解し、保育の展開を考えることができるようになる（知識・理解）。 3. 子どもが表現活動するために必要となる様々な方法・技法について思考・表現でき、環境設定を行えるようになる（思考・判断・表現）。 4. 上記の知識、思考力、判断力を実際に活用できるようになる（技能）。	1. 幼稚園教育要領 領域「表現」について理解できるようになる（知識・理解）。 2. 造形表現・身体表現・音楽表現に関わる子どもの発達について理解できるようになる（知識・理解）。 3. 子どもが表現活動するために必要となる様々な方法・技法について思考・表現できるようになる（思考・判断・表現）。 4. 上記の知識、思考力、判断力を実際に活用できるようになる（技能）。
造形基礎	家政学部 学科 専門教育科目 児童学科	1	1	教育現場の指導者として造形作品の制作技法はもちろん、その素材や用具などにも精通した上で自ら発案し改良を加え、より楽しい造形を積極的に提案することが必要になってくる。そうした幅広い認識を持ちながら、まず「造形基礎」では主に「紙」による様々な造形表現と取り組む。紙を使った立体造形から紙版画まで、基本的な表現技法に各自が創意工夫を加えながらの制作実習を行う。また、近隣の美術館等での作品鑑賞から、取材考察したレポートを作成発表する。	1. 子どもの発育にとって大切な遊びに通じる手作業を理解しながら、身近にある素材や用具を使った造形表現を数多く実践演習することで、造形の体験と知識を増やすことが出来ている（知識・理解）。 2. 自分自身の創造力や感性を豊かに育むことができるようになっている（関心・意欲・態度）。 3. 教育現場において子どもが作ることに興味を持って楽しく活動ができるように、授業計画をたてる事が出来ている（技能）。 4. 美術館等で様々な作品に触れることで観賞力を身につける事が出来ている（思考・判断・表現）。	1. 遊びに通じる手作業の大切さを理解し、身近にある素材や用具を使いながらの制作で、造形の知識を身につける事が出来ている（知識・理解）。 2. 自分自身の創造力や感性に気付き、それを豊かに育むことができている（関心・意欲・態度）。 3. 子どもが作ることに興味を持って楽しく活動ができるような造形活動が理解できている（技能）。 4. 美術館等で様々な作品に触れることで観賞力を身につける事ができている（思考・判断・表現）。
造形表現	家政学部 学科 専門教育科目 児童学科	2	2	「造形基礎」での基礎的学習を踏まえながら、より具体的に子どもの養育に沿った造形活動を行う。教育現場のグループ活動として実用的な「土粘土遊び」から、個別表現としての「張り造形」や、ブルーノ・ムナーリの造形デザインを参考にした「造本」などを提案し、身近にある様々な素材を広範囲に自主的に取り入れられる課題を設定して、学生の創意工夫が生きる作品の制作演習を行う。	1. 子ども達が楽しく取り組む事が出来る具体的な造形活動を理解している（知識・理解）。 2. 身近にある日常的素材等からの造形活動を発案出来ている（思考・判断・表現）。 3. 学生自らが企画・展開していくことが出来るようになっている（関心・意欲・態度）。 4. 保育・教育現場を想定しながらの実践的な制作活動を学習体験することが出来ている（技能）。	1. 子ども達が楽しく取り組む事が出来る具体的な造形活動が理解できている（知識・理解）。 2. 身近にある日常的素材等からの造形活動が出来ている（思考・判断・表現）。 3. 学生自らが制作の中で工夫し展開していくことができていく（関心・意欲・態度）。 4. 保育・教育現場を想定しながらの実践的な制作活動が出来ている（技能）。
保育の表現技術	家政学部 学科 専門教育科目 児童学科	3	3	保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な表現活動に関する知識や技術を習得する。さらに、表現活動に係る教材等の活用・作成について学び、保育の環境構成及び具体的な展開のための技術を習得する。	1. 自らの心を身体を柔らかく動かし、表現する楽しさを味わう。（関心・意欲・態度） 2. 子どもと行う表現活動の具体的な方法・技術を習得する。（技能） 3. 子どもの表現を受け止めることができ、適切な行動ができる感性を持つ。（関心・意欲・態度） 4. 子どもの表現を引き出す環境作りとスキルを身につける。（技能） 5. 個々が行う様々な表現方法、技術への理解を深める。（技能）	1. 自らの心を身体を柔らかく動かし、表現することができる。（関心・意欲・態度） 2. 表現活動の具体的な方法・技術を習得し、計画実践することができる。（技能） 3. 子どもの表現を受け止め理解し、子ども一人ひとりに応じたかかわりができる。（関心・意欲・態度） 4. 子ども一人ひとりに応じた援助と、表現を引き出す環境設定をすることができる。（技能） 5. 個々が行う様々な表現方法、技術への理解を深める。（技能）
児童文学論	家政学部 学科 専門教育科目 児童学科	3	3	児童文学は、子どもが理解できるように創作され、子どもが味わい楽しむことのできる文学であり、今日では、子どもから成人まで幅広い読者層を持っている。その表現様式も、絵本から、民話、ファンタジー、リアリズム、ノンフィクションと多様である。本科目では、児童文学におけるさまざまなジャンルの作品について、その文学的意味や歴史的変遷、作品の背景にある子ども観や社会観を、講義および演習を通して考察する。また、家庭や教育現場における児童文学の意義について考察する。	1. 日本や海外のさまざまなジャンルの児童文学作品を読み、描かれている子ども像や、作品に構築されている世界観や社会問題などを説明することができる。（思考・判断・表現） 2. 児童文学作品を読むことによって、ジャンルの多様性や文学的意味を理解し、説明することができる。（知識・理解） 3. 児童文学作品を読み解くことにより、自らの子ども観や社会観を問い直すことができる。（関心・意欲・態度）	1. 児童文学作品を読み、描かれている子ども像や、作品に構築されている世界観や社会問題などを説明することができる。（思考・判断・表現） 2. 児童文学作品を読むことによって、ジャンルの多様性や文学的意味の概略を理解し、説明することができる。（知識・理解） 3. 児童文学作品を読み解くことにより、自らの子ども観や社会観を問い直すことができる。（関心・意欲・態度）
教育方法論	家政学部 学科 専門教育科目 児童学科	2	2	現在の学校や幼稚園・保育所をめぐる環境は難しさを増している。保護者やメディアなどからの視線も厳しくなる中で、社会からの信頼を得るためには、教員・保育者が優れた知見にもとづく地道な実践を、日々積み重ねなければならない。そのためにまず必要なことは、教育・保育の方法に関する基礎を学生時代にしっかりと身につけることである。本授業は、その基礎を身につけるための入口となる科目である。具体的には、学習指導や保育実践に必要な教育方法の基礎理論、教育・保育分野の最新動向、小学校および幼児教育・保育の実践方法と計画、実践の基盤となる子ども理解などを、様々な事例を交えながら学び、実践的指導力の基礎を培うことを目標とする。	1. 教育方法の理論および技術に関する事項を総体的に理解できる。（知識・理解） 2. 教員および保育者として望ましい知見や態度および技能を十分に培う。（技能） 3. 新しい時代の子どもの育むよりよい教育・保育実践を自律的に追求することが出来る。（思考・判断・表現） 4. 情報機器を活用した指導法およびその課題を十分に理解し積極的に実践できる。（技能）	1. 教育方法の理論および技術に関する基礎事項を理解できる。（知識・理解） 2. 教員および保育者として望ましい知見や態度および技能を培う。（技能） 3. 新しい時代の子どもの育む教育・保育実践を思考し表現することが出来る。（思考・判断・表現） 4. 情報機器を活用した指導法およびその課題を理解し実践できる。（技能）
子どもの保健 I	家政学部 学科 専門教育科目 児童学科	2	2	子どもの健康が保たれることは、子どもの成長発達に不可欠である。現代の子どもの現状をみると事故、感染症、虐待など多くの問題が子どもの健康を脅かしている。本科目ではそれらの問題の原因を理解し問題解決の対策を考察する。	1. 日本の出生と子どもの死亡に関する統計から現代社会における子どもに関する現状を知り課題を考察できる。（知識・理解・判断） 2. 子どもの発育の知識を理解し時代に伴う変化を説明できる。（知識・理解） 3. 子どもの身体発育評価を理解し発育評価の結果を考察できる。（知識・理解・判断） 4. 子どもの生理機能の発達を理解し大人との違いを説明できる。（知識・理解） 5. 運動機能の発達を理解し現代社会における問題点、対策を考察できる。（知識・理解・判断・態度） 6. 子どもの精神機能の発達を理解し発達に影響するものを考察することができる。（知識・理解・判断） 7. 子どもの虐待の現状を理解し虐待防止の取り組みを考察できる。（知識・理解・態度）	1. 日本の出生と子どもの死亡に関する統計から現代社会における子どもに関する現状を知り説明できる。（知識・理解） 2. 子どもの発育の知識を理解し説明できる。（知識・理解） 3. 子どもの身体発育評価を理解し発育評価できる。（知識・理解） 4. 子どもの生理機能の発達を理解し説明できる。（知識・理解） 5. 運動機能の発達を理解し現代社会における問題点を説明できる。（知識・理解） 6. 子どもの精神機能の発達を理解し発達に影響するものを説明できる。（知識・理解） 7. 子どもの虐待の現状を理解し虐待防止の取り組みを説明できる。（知識・理解）

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
子どもの保健 I	家政学部 学科 専門教育科目 児童学科	2	2	子どもの健康が保たれることは、子どもの成長発達に不可欠である。現代の子どもの現状をみると事故、感染症、虐待など多くの問題が子どもの健康を脅かしている。本科目ではそれらの問題の原因を理解し問題解決の対策を考察する。	1. 子どもの健康状態の把握の方法を理解し説明できる。（知識・理解） 2. 子どもの体調不良時の主な症状を理解しその対応について考察できる。（知識・理解・判断） 3. 子どもに罹りやすい感染症の種類とその特徴を理解し説明できる。（知識・理解） 4. 予防接種について理解し予防接種の重要性を具体的に述べるができる。（知識・理解・判断） 5. アレルギー疾患を理解し、集団生活におけるアレルギー疾患児の対応を考察することができる。（知識・理解・判断） 6. 集団生活での環境衛生を理解し集団生活に取り組むことができる。（知識・理解・態度） 7. 子どもの不慮の事故と発達との関連を理解し、予防対策を考察することができる。（知識・理解・判断）	1. 子どもの健康状態の把握の方法を理解し説明できる。（知識・理解） 2. 子どもの体調不良時の主な症状を理解できる。（知識・理解） 3. 子どもに罹りやすい感染症の種類とその特徴を理解し説明できる。（知識・理解） 4. 予防接種について理解することができる。（知識・理解） 5. アレルギー疾患を理解し説明できる。（知識・理解） 6. 集団生活での環境衛生を理解し説明できる。（知識・理解） 7. 子どもの不慮の事故と発達との関連を理解し説明できる。（知識・理解）
子どもの食と栄養	家政学部 学科 専門教育科目 児童学科	2	2			
子どもの保健 I I（演習）	家政学部 学科 専門教育科目 児童学科	3	3	子どもの成長発達と健康は時代の流れとともに変化してきており、その背景にある家族関係・社会環境を考慮していくことが重要である。本科目では具体的事例の演習を通して子どもの健康を維持増進できる活動を保育の現場で実践できる技術・技能を身につける。	1. 年間の保育活動の計画を健康管理・健康教育・環境整備から立て、評価することができる。（知識・理解・考察） 2. 子どもの体調不良等に対する適切な判断・対応ができ、保育者間での情報を共有することができる。（理解・技術・態度） 3. 感染症の予防と適切な対応を理解し予防策を計画的に集団生活に取り組むことができる。（理解・技術・態度） 4. 集団生活での環境管理・安全管理を理解し、子どもの事故防止、災害への備えの対策を立て対応することができる。（理解・技術・態度）	1. 年間の保健活動の計画を健康管理・健康教育・環境整備から立てることができる。（知識・理解） 2. 子どもの体調不良等に対する適切な判断・対応ができる。（理解・技術） 3. 感染症の予防と適切な対応を理解し予防策を集団生活に取り組むことができる。（知識・理解・技術） 4. 集団生活での環境管理・安全管理を理解し、子どもの事故防止、災害への備えの対策を立てることができる。（知識・理解・技術）
体育基礎	家政学部 学科 専門教育科目 児童学科	1	1	幼児期・児童期の発育・発達の基本的知識をふまえて、運動発達プロセス、運動を促す環境の意味を理解し、運動あそびの実践に関する知識を身につけ、幼児・児童の運動指導における基礎的な技能や指導法について、実技や実践を通して学ぶ。	1. 「からだ」の五感を養い、子どもの「からだ」の変化や成長を感じ取るための、指導者に求められる資質「他者視点」や「共感性」を身につけることができる。（技能） 2. 子どもの発育・発達に伴う運動機能の変化と、運動あそびについて体育学的に理解できる。（知識・理解） 3. 様々なあそびや運動の基礎的な技能を身につけることができる。（技能） 4. 子どもの主体性を生かした運動活動を援助するための、指導技術や指導方法を習得できるようになる。（思考・判断・表現） 5. 子どもの成長や活動の目的に即した運動材料を工夫し、安全に配慮した適切な運動指導の計画案の作成とその実践ができるようになる。（思考・判断・表現）（関心・意欲・態度）	1. 「からだ」の五感を養い、子どもの「からだ」の変化や成長を感じ取るための、指導者に求められる資質「他者視点」や「共感性」の必要性が理解できる。（技能） 2. 子どもの発育・発達に伴う運動機能の変化と、運動あそびについて理解できる。（知識・理解） 3. 様々なあそびや運動の基礎的な技能を身につけるように努力できる。（技能） 4. 子どもの主体性を生かした運動活動を援助するための、指導技術や指導方法を習得できるように努力できる。（思考・判断・表現） 5. 子どもの成長に即した運動材料を工夫し、適切な運動指導の計画案の作成とその実践ができるようになる。（思考・判断・表現）（関心・意欲・態度）
体育応用	家政学部 学科 専門教育科目 児童学科	2	2	保育者は子どもの成長・発達・生活状況に応じて様々な保育を行うことができなければならない。この授業では幼児の実態について理解を深め、教材を発達に応じた保育に活用・応用・発展でき、柔軟な対応ができる力を身につける。	1. 身近な教材を幼児や園の実態をふまえて、指導内容にふさわしいものとして工夫し、活用した指導計画を立てることができるようになる。（知識・理解）（技能） 2. 模擬実践を通して基礎的な指導内容を応用・発展させることができるようになる。（思考・判断・表現）（関心・意欲・態度）	1. 身近な教材を幼児や園の実態をふまえて工夫し、活用した指導計画を立てることができるようになる。（知識・理解）（技能） 2. 模擬実践を通して基礎的な指導内容を実践することができるようになる。（思考・判断・表現）（関心・意欲・態度）
児童家庭福祉 I	家政学部 学科 専門教育科目 児童学科	2	2	児童家庭福祉の幅広い分野について、現状と課題、取組、その背景について学び、保育及び児童家庭福祉の専門職としての相談援助活動に理解を深める。また、児童家庭福祉の課題に対する対応を自ら考えられるようになることを目指す。	1. 児童家庭福祉に関する具体的な課題の考察を通じて、保育及び児童家庭福祉の専門職に必要な知識を習得する（知識・理解）。 2. 児童福祉の課題を冷静に分析し、課題を筋道立てて解決する力を身につける（理解・意欲）。	1. 児童家庭福祉に関する具体的な課題の考察をすることができる（知識・理解）。 2. 児童福祉の課題を分析し、課題を解決する力を身につける（理解・意欲）。
社会的養護	家政学部 学科 専門教育科目 児童学科	2	2	子どもの最善の利益としての社会的養護のしくみを理解し、子どもを取り巻く環境としての家庭、地域の問題について学ぶ。今日の児童福祉施設の現状と課題を概観し、これからの社会的養護のあり方、社会的養護のもとで育つ子どもの支援の在り方について学ぶことを目的とする。	1. 社会的養護における理念、子どもの最善の利益について理解し、自身の言葉で説明できるようになる。（知識・理解） 2. 社会的養護における重要な概念について理解を深め、現状の課題・問題点を説明し、自身の言葉で対応策、解決策を説明することができる。（理解・関心・態度） 3. 社会的養護のもとで育つ子どもに対する知識、支援技法について理解し、説明することができる。（知識・理解・態度）	1. 社会的養護における理念、子どもの最善の利益について理解する。（知識・理解） 2. 社会的養護における重要な概念について理解を深め、現状の課題・問題点を説明することができる。（理解・関心・態度） 3. 社会的養護のもとで育つ子どもに対する知識、支援技法について理解する。（知識・理解・態度）
社会的養護内容	家政学部 学科 専門教育科目 児童学科	3	3	社会的養護のもとで育つ子ども達の抱えている問題について理解し、保育者として求められる姿勢、支援技法について学び、支援技術を実践することができることを目指す。また、子どもを育てる専門職としての倫理観を身につけ、自己省察できるようにすることを旨とする。	1. 社会的養護における保育者に求められる姿勢、子どもの最善の利益を前提とした支援について理解し、自身の言葉で説明できるようになる。（知識・理解） 2. 社会的養護のもとで育つ子ども達の実状について学び、対応策や支援方法について理解し、適切に実践することができる。（理解・関心・態度） 3. 社会的養護のもとで育つ子どもに対する専門職として、自己覚知を行い、自らの実践について自己省察することができる。（理解・態度・関心）	1. 社会的養護における保育者に求められる姿勢、子どもの最善の利益を前提とした支援について理解する。（知識・理解） 2. 社会的養護のもとで育つ子ども達の実状について学び、対応策や支援方法について理解することができる。（理解・関心・態度） 3. 社会的養護のもとで育つ子どもに対する専門職として、自己覚知を行うことができる。（理解・態度・関心）

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
相談援助	家政学部 学科 専門教育科目 児童学科	3	3	保育領域における相談援助の方法を、実習を交えながら学ぶ。とくに、いわゆる多問題家族、児童虐待への理解を深め、その援助方法を習得する。特にトラウマ、アタッチメント、家族システム、他職種連携について学びを深め、子ども支援の方法、援助のためのアセスメントとプランづくりについて理解することを目指す。	1. 児童虐待の基礎的知識と援助技術を学び、初期対応ができるようになる（知識・態度）。 2. 困難な問題を抱える親子との関係づくりができるようになる（知識・理解・態度）。 3. トラウマ、アタッチメントについて理解を深め、子ども支援の方法を実践することができる（理解・態度）。	1. 児童虐待の基礎的知識と援助技術を理解する（知識・態度）。 2. 困難な問題を抱える親子との関係づくりについて理解する（知識・理解・態度）。 3. トラウマ、アタッチメントについて理解する（理解・態度）。
保育・教職実践演習（初等）	家政学部 学科 専門教育科目 児童学科	4	4	教員として求められる「使命感や責任感」「社会性や対人関係能力」「乳幼児・児童の理解」「幼児教育・保育の実践力」を学ぶことを目的とする。講義のほか模擬実践や事例研究、ロールプレイを通して幼児教育、初等科教育を担う者としての専門性を高め、実践力を養うことを目指す。授業内容には小学校、幼稚園、保育所それぞれの実地に即したテーマを選び、教員養成教育の集大成となることを期している。	1. 小学校での授業を想定した模擬授業を計画し、的確な展開ができる（技能）。 2. 教員の倫理とはどのようなことかを、教育現場の実態に即して考察し、説明できる（思考・判断・表現）。 3. 子どもの安全が脅かされる事態を的確に想定し、危険防止のために教員ができることを述べられる（知識・理解）。 4. 指導計画および実践の記録について、その意義と役割を知り、実践とのつながりを理解して実際に書くことができる（技能）。 5. 教育・保育現場と地域もしくは家庭との連携の必要性を知り、どのような連携がなされているか、どのような連携が今後求められるかを考察できる（思考・判断・表現）。さらに、おたより等の作成で主体的な取り組みがなされ（関心・意欲・態度）、完成度の高い内容や書き方を身につける（技能）。 6. 模擬授業またはロールプレイに積極的かつ主体的に参加し（技能）、その意義を考察できる（関心・意欲・態度）。	1. 小学校での授業を想定した模擬授業を計画し、意欲的に模擬授業を行う（関心・意欲・態度）。 2. 教員倫理について知り、自らの生活改善の必要性を認識する（知識・理解）。 3. 子どもの安全が脅かされる場面を想定し、それを回避するための防止策を挙げることができる（思考・判断・表現）。 4. 指導計画および実践の記録について、書式にしたがった記載ができる（技能）。 5. 教育・保育現場と地域もしくは家庭の連携について、その必要性を知り（知識・理解）、おたより等の作成を行う（技能）。 6. 模擬授業またはロールプレイに参加する（関心・意欲・態度）。
課題ゼミナール	家政学部 学科 専門教育科目 児童学科	3	3	児童学の各領域の中で、関心のある特定分野を専門的に詳しく研究するとともに、少人数のゼミナールにおいて、各自の興味・関心に基づいたテーマを設定し、論文購読や実践への参加観察、調査、制作などの方法を用いて、レポートあるいは作品をまとめることができる。この授業の学びによって、分析能力、問題解決能力、プレゼンテーション能力などを身につけることができる。	1. 学生が、関心ある児童学の特定の分野において、基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を、自分を取り巻く事象と関連付けて理解できる。（知識・理解） 2. 学生が、多様な情報を、収集・分析して適切に判断し、自分の課題に沿って効果的に活用できる。（技能） 3. 学生が、文献購読などを通して、情報や知識を複眼的、理論的に分析し、表現できる。（思考・判断・表現） 4. 心理学的手法を用いて、分析し、理解し、効果的にプレゼンテーションすることができる。（思考・判断・表現）	1. 学生が、関心ある児童学の特定の分野において、基本的な知識を体系的に理解できる。（知識・理解） 2. 学生が、多様な情報を収集・分析して適切に判断することができる。（技能） 3. 学生が、文献購読などを通して、情報や知識を、複眼的、理論的に分析することができる。（思考・判断・表現） 4. 心理学的手法を用いて、分析し、理解することができる（思考・判断・表現）
卒業研究	家政学部 学科 専門教育科目 児童学科	4	4	3年次までの学修・研究の成果を踏まえ、児童学の諸分野における特定の課題を選択し、研究計画を立案し、教員の指導のもとに研究を行う。その成果を論文としてまとめ、発表して、課題解決能力やプレゼンテーション能力を養うとともに、児童の育成やその支援、子どもにかかわる諸サービスを提供する者としてふさわしい認識と理解を確かなものにする。	1. 各自が取り組む研究テーマを主体的に設定し、研究計画を立案する過程が理解できる。（知識・理解） 2. 研究テーマを探究するために、主体的に、先行文献の購読、資料収集、分析考察等を行うことができる。（技能） 3. 分析考察等の結果を最終的に卒業研究の論文として表現することができる。（思考・判断・表現） 4. 保育実践の現場で研究を行う場合は、研究倫理規程に十分配慮することができる。（関心・意欲・態度）	1. 取り組む研究テーマを設定することができる。（知識・理解） 2. 研究テーマを探究するために、先行文献の購読、資料収集、分析考察等を行うことができる。（技能） 3. 分析考察等の結果を教員が指定した論文の形式でまとめることができる。（思考・判断・表現） 4. 研究倫理規程が理解できる。（関心・意欲・態度）
教育制度論	家政学部 学科 専門教育科目 児童学科	2	2	本授業は、日本における教育制度の概要と成り立ちを把握し、制度構造全体の見取り図を描くことを目的とする。教師という職業に就く上で、教育内容・方法、あるいは学級・学校運営といった日々の職務内容を知り、実践するだけでは不十分である。教員は国の教育制度に位置づけられ、その制度枠組みの中で職務が行われる。したがって、教員の仕事や教育という営みが、どのような制度的根拠をもとに実施されているのかを知っておく必要がある。また、公教育の制度は人々が学び育つ権利を保障するという点でセーフティネットの機能を持つ。したがって教育制度は福祉制度と折り重なり補うあう関係であり、そのような視点を本授業では多く取り入れたい。	1. 教育制度の構造についてその多面的な仕組みを把握し、その本質的な意義や課題を理解する。（知識・理解） 2. 地域社会や福祉制度など社会的観点から俯瞰的に教育制度の仕組みを十分に理解する。（知識・理解） 3. 現行の教育制度を自明視せず、今後のあるべき制度について自律的に考察する力を養う。（思考・判断・表現）	1. 教育制度の基本構造についてその仕組みを把握し、その意義や課題を理解する。（知識・理解） 2. 地域社会や福祉制度など社会的観点から教育制度の仕組みを理解する。（知識・理解） 3. 現行の教育制度を理解した上で、今後のあるべき制度について考察する力を養う。（思考・判断・表現）
保育・教育課程論	家政学部 学科 専門教育科目 児童学科	2	2	教育課程及び全体的な計画の編成・長期短期の指導計画の作成について、その意義と役割、作成方法を理解し、子どもの生活や育ちにふさわしい指導計画を立案できる力を身につける。また、実情に合わせてカリキュラムマネジメントを行なうことの意義を理解する。	1. 幼稚園教育要領、保育所保育指針等の内容を踏まえて、保育における教育課程・全体的な計画の意義と役割、構造、編成の方法について正しく理解し説明できる。（知識・理解） 2. 子どもや園、地域の実態を踏まえて、長期・短期の指導計画を作成することの重要性を理解して、基本原理に即した保育計画を立案することができる。（思考・判断・表現） 3. 保育計画を立案するために必要な教材研究に積極的に取り組み、グループ内でイニシアチブをとって討議を進め、得られた知見を適切にレポートにまとめることができる。（態度）（思考・判断・表現） 4. 発達をふまえた教育内容がわかり、実践についての評価の基礎的な考え方を理解して、カリキュラムマネジメントすることの意義を理解し説明することができる。（知識・理解）	1. 幼稚園教育要領、保育所保育指針等の内容を踏まえて、保育における教育課程・全体的な計画の意義と役割、構造、編成の方法について説明できる。（知識・理解） 2. 子どもや園、地域の実態を踏まえて、長期・短期の指導計画を作成することの重要性を理解して、自分なりの保育計画を立案することができる。（思考・判断・表現） 3. 保育計画を立案するために必要な教材研究に積極的に取り組み、グループ内討議から得られた知見をレポートにまとめることができる。（態度）（思考・判断・表現） 4. 発達をふまえた教育内容がわかり、実践についての評価の考え方を理解して、カリキュラムマネジメントすることの意義を理解することができる。（知識・理解）

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
保育実習Ⅰ（事前事後指導）	家政学部 学科 専門教育科目 児童学科	2	2	事前指導では、オリエンテーションに始まる実習について、必要な事務的および実務的準備を行い、言葉使いや服装、態度など具体的な心構えを形成する。また自分の実習課題を明確に自覚し、子ども達と直接かかわる際の基本的な態度、応答のあり方、記録の取り方などを理解する。事後指導では、巡回指導を担当した教員との面談を実施し、実習日誌の記載と担当保育士による指導内容を振り返る。実習で何を経験したのかを意識化すると共に、発見、疑問、さらなる課題を認識して次の実習につなげる。	事前指導 1. 期限を守って書類を正しく作成し提出する。 2. 実習開始までに必要な服装、礼儀正しい言葉使いや態度を身につけようとし、そのために必要な自己課題を適切に同定できる（思考・判断・表現）。 3. 保育日誌の書き方を正しく理解して適切な表現で書き方の練習を行う（技能）。 4. 指導計画の目的を理解した上で実際の表記を工夫して行う（技能）。 事後指導 1. 実習園との書類の受け渡しを円滑に進めることができる（技能）。 2. 巡回指導担当教員の面談で日誌の内容および実習園側の指導内容を反省的に理解し、自己課題の達成度を評価する（思考・判断・表現）。	事前指導 1. 期限を守って書類を作成し提出する（技能）。 2. 日誌の記載すべき内容と記載方法を知り（知識・理解）、エピソード記述を実際に行う（技能）。 3. 指導計画の考え方を知り（知識・理解）、書式にしたがって書く練習を行う（技能）。 事後指導 1. 自己課題に照らして実習全体を振り返り、自己評価を行う（思考・判断・表現）。 2. ディスカッションに参加し、他者の経験を知って改めて反省および課題の同定を行う（関心・意欲・態度）。
保育実習Ⅰ（保育所）	家政学部 学科 専門教育科目 児童学科	2	2	保育所での実習を体験することで、保育所の機能、保育士の基本的な役割などを体験的に理解できるようになる。具体的には、乳幼児の発達やあそび、園生活の一日の流れや保育計画の内容、さらに保育士の連携の取り方など職務内容に踏み込んだ理解と最低限の実践的技能を身につける。	1. 乳幼児期の発達について、授業で学んだことを現実の子どもの身体運動、人間関係、食事、睡眠リズムなど多角的な観察とつなげて説明ができる（知識・理解）。 2. 発達の理解を基盤として、乳幼児のあそびに対する保育士の応答、関与を観察し、その意図を考察できる（思考・判断・表現）。 3. 経験したことを日誌に毎日書き、担任の指導を受けて振り返りを行う（関心・意欲・態度）。 4. 保育士の日々の業務を体験しながら知り（知識・理解）、保育士の意図を踏まえて環境構成の仕方と教材準備を行う（技能）。	1. 乳幼児期の発達の概要を知っており、保育の場で観察した子どもの姿と結び付けて説明できる（知識・理解）。 2. 乳幼児のあそびに対する保育士の応答、関与を観察し、つながりを考察する（思考・判断・表現）。 3. 日誌を毎日所定の方法で提出し、担任の指導を受けて改善する（関心・意欲・態度）。 4. 保育士としての業務を体験し、環境構成や教材準備に参加する（技能）。
保育実習Ⅰ（施設）	家政学部 学科 専門教育科目 児童学科	3	3	施設の実習では、施設と家庭、地域、社会との関係、利用児・者を取り巻く社会資源や他機関との連携、利用児・者への援助方法、施設職員の姿勢や態度などを理解し、施設における保育士の職務と役割を理解することが主な実習内容となる。利用児・者への最善の利益の尊重をはじめとし、保育者に求められる倫理観、行動規範について学ぶ。	1. 実習先の福祉施設の社会的役割と支援内容について理解し、職員の指導のもとに支援を実践することができる（知識・理解・態度）。 2. 実習先の福祉施設における利用児・者への支援技法について理解し、支援を実践することができる（理解・態度）。 3. 実習先指導者からスーパービジョンを受け、自身の実践をふり返り、日誌にまとめることができる（態度・意欲）。 4. 実習先施設における保育者同士の連携、保育者以外の他職種の理解と連携の実際について学び、チームで利用児・者にアプローチする重要性を理解する（知識・理解・態度）。 5. 施設における職員の倫理観や利用児・者への援助感を理解し、自身の保育観と結びつけて考えることができる（理解・態度・意欲）。	1. 実習先の福祉施設の社会的役割と支援内容について理解することができる（知識・理解・態度）。 2. 実習先の福祉施設における利用児・者への支援技法について理解することができる（理解・態度）。 3. 実習先指導者からスーパービジョンを受け、日誌にまとめることができる（態度・意欲）。 4. 実習先施設における保育者同士の連携、保育者以外の他職種の理解と連携の実際について学び、理解する（知識・理解・態度）。 5. 施設における職員の倫理観や利用児・者への援助感を理解する（理解・態度・意欲）。
保育実習Ⅱ（事前事後指導）	家政学部 学科 専門教育科目 児童学科	4	4	事前指導では、前回の反省をもとに実習のテーマを明確にし、子どもと直接かかわる際の方法、態度、記録の取り方、指導計画の作成方法などを理解し実践するための準備を行う。さらに、2度目の実習であることから保育所の様々な機能についても事前学習を行う。保育の指導計画作成の留意点を理解し、実際に作成してみる。事後指導では、巡回担当教員の面談をとおして実習の総括と課題の明確化をはかる。さらに、実習園へのお礼状も完成度を高める。	事前指導 1. 期限を守って完成度の高い書類を作成し提出する（技能）。 2. 日誌の記載すべき内容と記載方法をより深く知り（知識・理解）、エピソード記述を実際に行う（技能）。 3. 指導計画の考え方を知り（知識・理解）、書式にしたがって書くことができる（技能）。 事後指導 1. 自己課題に照らして実習全体を振り返り、自己評価を行う。 2. ディスカッションに主体的に参加し、他者の経験との比較において改めて反省および課題の同定を行う（思考・判断・表現）。	事前指導 1. 期限を守って書類を作成し提出する（技能）。 2. 日誌の記載すべき内容と記載方法を知り（知識・理解）、エピソード記述を実際に行う（技能）。 3. 指導計画の考え方を知り（知識・理解）、書式にしたがって書く練習を行う（技能）。 事後指導 1. 自己課題に照らして実習全体を振り返り、自己評価を行う。 2. ディスカッションに参加し、他者の経験を知って改めて反省および課題の同定を行う（思考・判断・表現）。
保育実習Ⅱ（保育所）	家政学部 学科 専門教育科目 児童学科	4	4	保育所において、概ね12日間の実習を行う。将来の保育士としての自覚をより確かなものにし、保育士として必要な保育実践力を身につける。内容的には前回の実習内容に加え、家庭および地域と保育所の運動にもふれて、家庭支援のニーズと実際をも学ぶ。乳幼児の発達の個人差に対応した応答を実践し、保育士としての判断力を養うとともに、保育士にふさわしい実践的な能力を身につける。また指導計画を立案し、計画に基づいた実践を行い、必要な省察を行う。環境構成は保育士の意図に沿って年齢による発達の違いを考慮して行う。	1. 乳幼児の発達の個人差を知り（知識・理解）、それぞれの必要に応じたかかわりを実践する（実技）。 2. 各年齢に適した指導計画を立案し、実践し、省察ができる（思考・判断・表現）。 3. 保護者と積極的にかかわり（実技）、家庭支援のニーズを考察する（知識・理解）。 4. 日々の目標が視野を広げる方向に展開するよう留意して設定できる（実技）。 5. 目標、実践、省察の内容が連動するよう意識的に経験を構成する（知識・理解）。	1. 乳幼児の発達の個人差を知り（知識・理解）、それぞれの必要を考えながらかかわりを実践する（実技）。 2. 各年齢の発達を意識して指導計画を立案し、実践し、保育士の指導を受ける（思考・判断・表現）。 3. 保護者とのかかわりに努め、保護者の心情を理解しようとする（知識・理解）。 4. 日々の目標が視野を広げる方向に展開するよう留意して設定できる（実技）。 5. 目標、実践、省察の内容が連動するよう意識的に経験を構成する（知識・理解）。
保育実習Ⅱ（事前事後指導）	家政学部 学科 専門教育科目 児童学科	4	4	事前指導では、保育実習Ⅰ（施設）での学びを踏まえ、施設職員に求められる専門性についてふり返り、自身の課題を明確化し、実習に臨む姿勢を整える。専門職として利用児・者に関わる態度や姿勢だけでなく、必要な知識や支援技術について学ぶ。事後指導では、事後面談において保育者としての自身の課題、強みについて振り返り、グループワークでは、ピアスーパービジョンの場として、自身の実践を振り返り、保育者としての専門性について学びを深める。	事前指導 1. 利用児・者と施設の特徴・役割を理解し、保育実習Ⅰでの学びを振り返ることができる。（態度・意欲）。 2. 専門職として利用児・者に関わる態度や姿勢を理解し、必要な知識や支援技術についても理解する（知識・理解・態度）。 事後指導 3. 保育者としての自身の成長、課題に目を向け、他の学生にもピアスーパービジョンをすることができる（理解・態度・意欲）。	事前指導 1. 利用児・者と施設の特徴・役割を理解する。（態度・意欲）。 2. 専門職として利用児・者に関わる態度や姿勢を理解する（知識・理解・態度）。 事後指導 3. 保育者としての自身の成長、課題に目を向けることができる（理解・態度・意欲）。

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
保育実習Ⅲ（施設）	家政学部 学科 専門教育科目 児童学科	4	4	保育実習Ⅲでは、保育所以外の児童福祉施設等でおおむね11日以上の実習を行う。保育実習Ⅰ（施設）での学びを前提として、施設職員に求められる専門性と役割を理解し、利用児・者の主体性と自己決定を尊重する姿勢や支援技術を学ぶ。また、利用児・者だけでなく、その家族とも信頼関係を築き、関係機関と連携してアプローチすることの重要性、地域における施設の役割を理解し、施設単独で事業を行っているのではなく、ネットワークが構築され、そのネットワークが利用児・者支援につながっていることを理解し、利用児・者への個別のアプローチだけでなく、コミュニティアプローチについても学ぶ。	1. 利用児・者の主体性と自己決定を支援するアプローチについて学び、社会福祉実践としての意味を理解した実践をすることができる（理解・態度・意欲）。 2. 実習先施設の特徴を理解し、地域における役割や利用児者の家族との対応を学び、支援技術や概念を前提とした支援を実践することができる（知識・理解・態度）。 3. 他機関との連携方法について理解し、実際の取り組みについて学び、社会福祉におけるアプローチについて説明することができる（知識・理解）。	1. 利用児・者の主体性と自己決定を支援するアプローチについて学び、実践することができる（理解・態度・意欲）。 2. 実習先施設の特徴を理解し、地域における役割や利用児者の家族との対応を学び、実践することができる（知識・理解・態度）。 3. 他機関との連携方法について理解し、実際の取り組みについて学び、説明することができる（知識・理解）。
幼稚園教育実習Ⅱ	家政学部 学科 専門教育科目 児童学科	3	3	幼稚園教諭として求められる実践力を高めることを目指す。園の教育課程・指導計画の内容を理解し、自らが部分実習・責任実習の指導計画を立案し、主体的に保育を行う機会を得ながら学ぶ。さらに、家庭や地域との連携、地域における園の役割についても学ぶ。	1. 環境を構成する力、幼児を理解する力、ふさわしい援助のあり方など、幼稚園教諭として必要な実践力を身につける。（技能） 2. 指導担当教諭の指導助言を適切に受け止め、反省点から自分なりに改善点を見出し、次の実践に活かすことができる。（知識・理解）。 3. 十分に検討した指導計画を立案し、主体的に実践することで、教育の営みを総合的に思考できる（思考・判断・表現）。	1. 環境を構成する力、幼児を理解する力、援助のあり方など、幼稚園教諭としての実践力を身につける。（技能） 2. 指導担当教諭の指導助言を受け止め、反省点を次の実践に活かすことができる。（知識・理解） 3. 自分なりに指導計画を立案し実践することで、教育の営みを思考しようとする。（思考・判断・表現）
小学校教育実習	家政学部 学科 専門教育科目 児童学科	4	4	小学校における2週間の教育実習を通し、児童理解を深め、体験的総合的に小学校教諭の職務を知る。また、学習指導案の作成、実際の授業体験により、教科等の適切な指導方法を体得し、実践的な指導力を培う。さらに、児童の個性や生活環境をふまえた学級経営の実際を学ぶ。地域との連携にも注目し、保護者や地域の人々との連携のあり方を知る。	1. 小学校における教職について理解し、実習記録として具体的に記述することができる。（知識・理解） 2. 観察や授業実践を通して児童理解を深め、実習記録として具体的に記述することができる（知識・理解） 3. 学習指導、学級経営について、児童の発達段階や実態をふまえた指導を検討し、よりよい指導の方策を考察することができる。（思考・判断・表現） 4. 教材研究を多角的に行い、学習指導案を作成することができる。（技能） 5. 授業展開に必要な指導技術を用いて、児童の実態に即した授業実践を行うことができる。（技能） 6. 児童や教職員と積極的にコミュニケーションを図り、教職への認識を深めることができる。（関心・意欲・態度）。	1. 小学校における教職について概略を理解し、実習記録として記述することができる。（知識・理解） 2. 観察や授業実践を通して児童を理解し、実習記録として記述することができる（知識・理解） 3. 学習指導、学級経営について、児童の発達段階や実態をふまえた指導を検討することができる。（思考・判断・表現） 4. 教材研究を行い、学習指導案を作成することができる。（技能） 5. 基本的な指導技術を用いて授業実践を行うことができる。（技能） 6. 児童や教職員とコミュニケーションを図ることができる。（関心・意欲・態度）。
教育実習（事前事後指導）	家政学部 学科 専門教育科目 児童学科	2	2	幼稚園教育実習Ⅰ・Ⅱ・小学校教育実習を行うにあたって、必要な準備を進める。教育実習期間は社会人として勤務する経験となるので、ふさわしいマナーやルール、服装等の準備、実習の目標の立て方、実習日誌の書き方、指導計画の作成、教材研究など、教育実習に必要な知識や技能を身につける。また、教育実習の事前面談、事後面談、事後指導を行なうことから、実習への心構えをつくるとともに、実習の学びを振り返り、免許取得に向けて必要な自己課題に取り組むようにする。	1. 教育実習に必要な書面の作成方法を知り、適切に書面作成をすることができる。（知識・技能） 2. 社会人としてふさわしいルールやマナーを身につけ、実習校・園とのやり取りを適切に進めることができる。（知識・技能） 3. 実習校・園について積極的に調べたり質問したりして、教育方針を理解して実習に行くことができる。（知識・技能） 4. これまでの学びの履歴を総合して、実習目標、自己課題をもつことができる。（思考・判断・表現） 5. 教材研究に積極的に取り組み、指導計画の立案や模擬授業・保育に取り組むなど、教育実習に向けての準備に意欲的に取り組む。（思考・判断・表現）（態度） 6. 積極的に実習に取り組む、教師としての資質を向上させ、実践力の基礎を身につけることができる。（技能） 7. 事後指導においては、実習を踏まえての自己の課題を明確化し、実習での体験をより深化させ、教師を目指すものとしての振り返りを行うことができる（関心・意欲・態度）。	1. 教育実習に必要な書面の作成方法を知り、書面作成をすることができる。（知識・技能） 2. 社会人としてふさわしいルールやマナーを身につけ、実習校・園とのやり取りを進めることができる。（知識・技能） 3. 実習校・園について調べたり質問したりして、教育方針を理解して実習に行くことができる。（知識・技能） 4. これまでの学びをふまえて、実習目標、自己課題をもつことができる。（思考・判断・表現） 5. 教材研究に取り組み、指導計画の立案や模擬授業・保育に取り組むなど、教育実習に向けて準備をすることができる。（思考・判断・表現）（態度） 6. 実習に取り組む、教師としての適正を判断し、実践力の基礎を身につけることができる。（技能） 7. 事後指導においては、実習を踏まえての自己の課題を明確化し、実習での体験をより深化させ、教師を目指すものとしての振り返りを行うことができる（関心・意欲・態度）。
幼稚園教育実習Ⅰ	家政学部 学科 専門教育科目 児童学科	2	2	家政学部児童学科の学生が幼稚園教諭としての基礎を培うため、幼稚園の機能、幼児の発達や生活、園の一日の流れや教育課程・指導計画、幼稚園教諭の職務内容・基本的な役割などを体験的に学ぶ。観察実習を中心として、適宜、部分実習を行う。	1. 保育現場に積極的に身をおきながら、幼稚園の役割や機能について具体的に理解できるようになる。（知識・理解）。 2. 実際の保育場面において適切な観察や幼児とのかかわりを通して、幼児理解を深めることができる。（知識・理解） 3. 事前指導や既習の教科の内容を関連付けながら、共感的受容的に幼児とのかかわることができるようになる。（技能） 4. 実習を振り返り、教師の意図や幼児理解を適切に日誌にまとめたり、自己評価等について具体的に思考・判断したりできるようになる。（思考・判断・表現） 5. 幼稚園教諭の業務内容に積極的に参加するとともに、職業倫理について具体的に学ぶことができるようになる。（関心・意欲・態度）	1. 保育現場に身をおき、幼稚園の役割や機能について部分的にでも理解できるようになる。（知識・理解）。 2. 実際の保育場面において観察や幼児とのかかわりを通して、幼児を理解できるようになる。（知識・理解） 3. 事前指導や既習の教科の内容を踏まえて、自分なりに幼児とのかかわることができるようになる。（技能） 4. 実習を振り返り、教師の意図や幼児の姿を日誌にまとめようとしたり、自己評価について思考・判断したりできるようになる。（思考・判断・表現） 5. 幼稚園教諭の業務内容に積極的に参加するとともに、職業倫理について具体的に学ぶことができるようになる。（関心・意欲・態度）

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
国語科教育	家政学部 学科専門教育科目 児童学科	2	2	小学生の言語能力の内容と発達をふまえ、小学校国語科学習指導要領の目標と内容について系統的に理解するとともに、それらを学習指導としてどのように具現化するか、指導事例に基づいて考察する。また、教科書教材等をもとに「話す・聞く、書く、読む」活動を実際に行い、小学校教諭として必要となる国語の力を高めるとともに、児童の側に立った国語科学習指導のあり方、今日求められている国語学力等について検討する。	1. 学習指導要領の目標、内容、構造について、教科書教材や指導事例と結んで理解し、系統をふまえて説明することができる。（知識・理解） 2. 小学校教諭として必要となる国語学力を向上させるため、「話す、聞く、書く、読む」活動に主体的に取り組み、成果を発表することができる。（関心・意欲・態度） 3. 国語科授業における多様な言語活動を実際に行うことによって児童の学びを体験し、今日求められている国語学力について考察を深めることができる。（思考・判断・表現）	1. 学習指導要領の目標、内容、構造について、概要を理解し、説明することができる。（知識・理解） 2. 小学校教諭として必要となる国語学力を向上させるため、「話す、聞く、書く、読む」活動を行い、成果を発表することができる。（関心・意欲・態度） 3. 国語科授業における多様な言語活動を実際に行うことによって児童の学びを体験し、今日求められている国語学力について考察することができる。（思考・判断・表現）
社会科教育	家政学部 学科専門教育科目 児童学科	2	2	小学校における社会科では、子どもたちが主体的に学び、確かな学力を身に付けられるように指導していくことが大切である。このためには社会科の指導内容や指導上の留意点等について深く理解する必要がある。本講義では、小学校学習指導要領に示された、「地域社会の社会的現象」、「我が国の国土と産業」、「我が国の歴史、政治及び国際理解」という指導内容を理解する。また、社会科の教科としての特質や社会科教育の果たすべき役割について理解する。	1. 小学校社会科の目標及び特質、各学年の指導内容を理解できる。（知識・理解） 2. 小学校社会科の現状と指導上の課題について、学習指導要領の改定を踏まえて理解できる。（知識・理解） 3. 社会科教育の教科特性、及び内容構成について具体的な例を挙げたり、適切な資料を活用したりして説明することができる。（思考・判断・表現） 4. 社会科教育に関心を持ち、特質や指導上の課題について自分なりの考えをもち、積極的に話し合ったり、発言したりできる。（関心・意欲・態度）	1. 小学校社会科の各学年の指導内容を理解できる。（知識・理解） 2. 小学校社会科の現状と指導上の課題について理解できる。（知識・理解） 3. 社会科教育の教科特性、及び内容構成について具体的な例を挙げて説明することができる。（思考・判断・表現） 4. 社会科教育に関心を持ち、特質や指導上の課題について自分なりの考えをもち、話し合ったり、発言したりできる。（関心・意欲・態度）
算数科教育	家政学部 学科専門教育科目 児童学科	2	2	小学校における算数科教育では、子どもたちが主体的に学び、確かな学力を身に付けられるように指導していくことが大切である。このためには算数科の指導内容や指導上の留意点等について深く理解する必要がある。本講義では、小学校学習指導要領に示された、A「数と計算」、B「図形」、C「測定（変化と関係）」、D「データの活用」という領域構成を踏まえ、系統的に算数科の指導内容を理解する。また、授業実践につながる具体的事例から、算数科の教科としての特質や意義、目的について理解する。	1. 小学校算数科の目標及び特質、各学年の指導内容を理解できる。（知識・理解） 2. 小学校算数科の現状と指導上の課題について、学習指導要領の改定を踏まえて理解できる。（知識・理解） 3. 算数科教育の教科特性、及び内容構成について具体的な例を挙げたり、適切な資料を活用したりして説明することができる。（思考・判断・表現） 4. 算数科教育に関心を持ち、特質や指導上の課題について自分なりの考えをもち、積極的に話し合ったり、発言したりできる。（関心・意欲・態度）	1. 小学校算数科の各学年の指導内容を理解できる。（知識・理解） 2. 小学校算数科の現状と指導上の課題について理解できる。（知識・理解） 3. 算数科教育の教科特性、及び内容構成について具体的な例を挙げて説明することができる。（思考・判断・表現） 4. 算数科教育に関心を持ち、特質や指導上の課題について自分なりの考えをもち、話し合ったり、発言したりできる。（関心・意欲・態度）
理科教育	家政学部 学科専門教育科目 児童学科	2	2	小学校における理科教育では、子どもたちが主体的に学び、確かな学力を身に付けられるように指導していくことが大切である。このためには理科の指導内容や指導上の留意点等について深く理解する必要がある。本講義では、小学校学習指導要領に示された、A「物質・エネルギー」、B「生命・地球」という内容構成を踏まえ、系統的に理科の指導内容を理解する。また、先進的な理科教育研究に携わっている外部講師の講話を聴き、これからの理科教育の在り方について理解する。さらに、国立科学博物館でのフィールドワークを通して、社会教育施設等との連携の在り方について理解する。	1. 小学校理科の目標及び特質、各学年の指導内容を理解できる。（知識・理解） 2. 小学校理科の現状と指導上の課題について、学習指導要領の改定を踏まえて理解できる。（知識・理解） 3. 小学校理科における効果的な科学館等の社会教育施設の活用方法が理解できる。（知識・理解） 4. 理科教育の教科特性、及び内容構成について具体的な例を挙げたり、適切な資料を活用したりして説明することができる。（思考・判断・表現） 5. 理科教育に関心を持ち、特質や指導上の課題について自分なりの考えをもち、積極的に話し合ったり、発言したりできる。（関心・意欲・態度）	1. 小学校理科の各学年の指導内容を理解できる。（知識・理解） 2. 小学校理科の現状と指導上の課題について理解できる。（知識・理解） 3. 小学校理科における科学館等の社会教育施設の活用方法が理解できる。（知識・理解） 4. 理科教育の教科特性、及び内容構成について具体的な例を挙げて説明することができる。（思考・判断・表現） 5. 理科教育に関心を持ち、特質や指導上の課題について自分なりの考えをもち、話し合ったり、発言したりできる。（関心・意欲・態度）
家庭科教育	家政学部 学科専門教育科目 児童学科	2	2	小学校家庭科で取り扱う家庭生活、食生活、衣生活、住生活、消費生活という学習内容の学びを通して、学校教育における家庭科教育の意義や目的を理解する。さらに、少子高齢化や家庭の機能が十分に果たされていないといった状況に対応し、児童や家庭生活が直面する現代的な課題と家庭科教育とのかわりについて理解し、児童が自立して生きる基礎を培うための実践的態度を身につける。	1. 学校教育における家庭科教育の意義や目的、その歴史的変遷について総合的に理解することができるようになる（知識・理解）。 2. 小学校家庭科の内容を構成する家庭生活、食生活、衣生活、住生活、消費生活の基礎的な理論と教育方法を総合的に思考することができるようになる（思考・判断・表現）。 3. 現代社会における家庭科教育の現状と課題について総合的に理解し、課題解決のための実践的態度を身につけることができるようになる（関心・意欲・態度）。	1. 学校教育における家庭科教育の意義や目的、その歴史的変遷について基礎的事項を理解することができるようになる（知識・理解）。 2. 小学校家庭科の内容を構成する家庭生活、食生活、衣生活、住生活、消費生活の基礎的な理論と教育方法の基礎的事項について思考することができるようになる（思考・判断・表現）。 3. 現代社会における家庭科教育の現状と課題について基礎的事項を理解し、課題解決のための実践的態度を身につけることができるようになる（関心・意欲・態度）。
初等教科教育法（国語）	家政学部 学科専門教育科目 児童学科	3	3	小学校学習指導要領における国語科の目標及び内容、全体構造についての理解をふまえ、授業設計の実践的スキルと態度を身につける。授業記録（録画）を実際に視聴したり、一連の授業実践の流れにそって模擬授業を実施したりすることを通して、児童の実態把握、教材研究、教材・教具の活用、学習指導案の作成、学習指導と評価等、児童の言語活動を活性化する国語科学習指導のあり方について考察・検討する。	1. 小学校国語科学習指導要領に示された国語科の目標や内容、全体構造を理解する。（知識・理解） 2. 小学校国語科の内容を構成する、知識や技能（言葉の特徴や使い方、話や文章に含まれる情報の扱い方、我が国の言語文化）、思考力、判断力、表現力等（話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと）の指導のあり方、指導上の留意点について理解する。（知識・理解） 3. 小学校国語科の学習評価の考え方や具体的な評価方法について理解する。（知識・理解） 4. 国語教育学、国語学、国文学、古典文学等との関わりをふまえ、国語科教科書教材を分析し、説明することができる。（思考・判断・表現） 5. 児童の発達段階や実態をふまえて、教材研究、指導計画の立案、学習指導案作成ができる。（技能） 6. グループ内でインシヤチブをとって模擬授業を実施することができる。（技能） 7. 実施した模擬授業について省察し、学習指導の改善の方策について検討することができる。（関心・意欲・態度）	1. 小学校国語科学習指導要領に示された国語科の目標や内容の概略を理解する。（知識・理解） 2. 小学校国語科の内容を構成する、知識や技能（言葉の特徴や使い方、話や文章に含まれる情報の扱い方、我が国の言語文化）、思考力、判断力、表現力等（話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと）の指導について概略を理解する。（知識・理解） 3. 小学校国語科の学習評価の考え方や評価方法について理解する。（知識・理解） 4. 国語科教科書教材を分析し、説明することができる。（思考・判断・表現） 5. 教材研究、指導計画の立案、学習指導案作成ができる。（技能） 6. グループで模擬授業を実施することができる。（技能） 7. 実施した模擬授業について省察することができる。（関心・意欲・態度）

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
初等教科教育法（社会）	家政学部 学科 専門教育科目 児童学科	2	2	小学校における社会科教育では、子どもたちが主体的に学び、確かな学力を身に付けられるように指導していくことが大切である。このためには社会科教育で学んだの指導内容や指導上の留意点等をもとに、具体的な指導方法や指導技術を身に付けることが必要である。本講義では、社会科教育の目標や指導内容を踏まえ、教科書の活用の仕方、教材の作成と活用方法、資料活用の方法、学習指導上の留意点と対応方法について理解する。また、学習指導案のもつ意味と実際の作成方法、授業評価のあり方について理解する。さらに具体的な授業場面を設定し、模擬授業を行うことで、実践的な指導力を身に付け、教師として教壇に立つイメージをもつ。	1. 教育課程における社会科教育の意義、子ども主体の授業実践の方法、支援及び留意点について理解し、社会科における授業展開の方法について理解できる。（知識・理解） 2. 指導内容の目標を踏まえ、作成した学習指導案をもとに本時のねらいを明確にした模擬授業を積極的に進めることができる。（技能） 3. 指導内容の目標を踏まえ、本時のめあてや学習活動、教材選定、評価項目について、主体的に考えたり、論点を明確にして話し合ったりして、学習指導案にまとめることができる（思考・判断・表現） 4. 本時のねらいを達成するための様々な工夫が取り入れられた詳細な学習指導案を作成したり、主体的に模擬授業に取り組んだりできる。（関心・意欲・態度）	1. 教育課程における社会科の意義、授業実践の方法、留意点について理解し、社会科における授業展開の方法について理解できる。（知識・理解） 2. 指導内容の目標を踏まえ、作成した学習指導案をもとに模擬授業を行うことができる。（技能） 3. 指導内容の目標を踏まえ、本時のめあてや学習活動、教材選定、評価項目について、考えたり、話し合ったりして学習指導案にまとめることができる（思考・判断・表現） 4. 学習指導案を作成したり、模擬授業に取り組んだりできる。（関心・意欲・態度）
初等教科教育法（算数）	家政学部 学科 専門教育科目 児童学科	3	3	小学校における算数科では、子どもたちが主体的に学び、確かな学力を身に付けられるように指導していくことが大切である。このためには算数科教育で学んだの指導内容や指導上の留意点等をもとに、具体的な指導方法や指導技術を身に付けることが必要である。本講義では、社会科教育の目標や指導内容を踏まえ、教科書の活用の仕方、教材の作成と活用方法、効果的な算数的活動のあり方、学習指導上の留意点と対応方法について理解する。また、学習指導案のもつ意味と実際の作成方法、授業評価のあり方について理解する。さらに具体的な授業場面を設定し、模擬授業を行うことで、実践的な指導力を身に付け、教師として教壇に立つイメージをもつ。	1. 教育課程における算数科教育の意義、子ども主体の授業実践の方法、支援及び留意点について理解し、算数科における課題解決的な授業展開の方法について理解できる。（知識・理解） 2. 指導内容の目標を踏まえ、作成した学習指導案をもとに本時のねらいを明確にした模擬授業を積極的に進めることができる。（技能） 3. 指導内容の目標を踏まえ、本時のめあてや学習活動、教材選定、評価項目について、主体的に考えたり、論点を明確にして話し合ったりして学習指導案にまとめることができる（思考・判断・表現） 4. 本時のねらいを達成するための様々な工夫が取り入れられた詳細な学習指導案を作成したり、主体的に模擬授業に取り組んだりできる。（関心・意欲・態度）	1. 教育課程における算数科教育の意義、授業実践の方法、留意点について理解し、算数科における課題解決的な授業展開の方法について理解できる。（知識・理解） 2. 指導内容の目標を踏まえ、作成した学習指導案をもとに模擬授業を行うことができる。（技能） 3. 指導内容の目標を踏まえ、本時のめあてや学習活動、教材選定、評価項目について、考えたり、話し合ったりして学習指導案にまとめることができる（思考・判断・表現） 4. 学習指導案を作成したり、模擬授業に取り組んだりできる。（関心・意欲・態度）
初等教科教育法（理科）	家政学部 学科 専門教育科目 児童学科	3	3	小学校における理科教育では、子どもたちが主体的に学び、確かな学力を身に付けられるように指導していくことが大切である。このためには理科教育で学んだの指導内容や指導上の留意点等をもとに、具体的な指導方法や指導技術を身に付けることが必要である。本講義では、理科教育の目標や指導内容を踏まえ、教科書の活用の仕方、教材の作成と活用方法、安全で効果的な観察・実験の方法、学習指導上の留意点と対応方法について理解する。また、学習指導案のもつ意味と実際の作成方法、授業評価のあり方について理解する。さらに具体的な授業場面を設定し、模擬授業を行うことで、実践的な指導力を身に付け、教師として教壇に立つイメージをもつ。	1. 教育課程における理科教育の意義、子ども主体の授業実践の方法、支援及び留意点について理解し、理科における問題解決的な授業展開の方法について理解できる。（知識・理解） 2. 指導内容の目標を踏まえ、作成した学習指導案をもとに本時のねらいを明確にした模擬授業を積極的に進めることができる。（技能） 3. 指導内容の目標を踏まえ、本時のめあてや学習活動、教材選定、評価項目について、主体的に考えたり、論点を明確にして話し合ったりして学習指導案にまとめることができる（思考・判断・表現） 4. 本時のねらいを達成するための様々な工夫が取り入れられた詳細な学習指導案を作成したり、主体的に模擬授業に取り組んだりできる。（関心・意欲・態度）	1. 教育課程における理科教育の意義、授業実践の方法、留意点について理解し、理科における問題解決的な授業展開の方法について理解できる。（知識・理解） 2. 指導内容の目標を踏まえ、作成した学習指導案をもとに模擬授業を行うことができる。（技能） 3. 指導内容の目標を踏まえ、本時のめあてや学習活動、教材選定、評価項目について、考えたり、話し合ったりして学習指導案にまとめることができる（思考・判断・表現） 4. 学習指導案を作成したり、模擬授業に取り組んだりできる。（関心・意欲・態度）
初等教科教育法（生活）	家政学部 学科 専門教育科目 児童学科	3	3	小学校における生活科教育は、スタートアップカリキュラムの中心となる教科であり、幼保小の連携を踏まえ、子どもが主体的に取り組める学習を設定していくことが大切である。このためには生活科教育で学んだの「公園」をフィールドにした単元構想の方法や具体的な指導方法の在り方をもとに、幅広い対象を取り入れた単元構想や具体的な指導方法、指導技術を身に付けることが必要である。本講義では、生活科の目標や指導内容を踏まえ、教科書の活用の仕方、教材の作成と活用方法、地域社会との連携のあり方、学習指導上の留意点と対応方法について理解する。また、学習指導案のもつ意味と実際の作成方法、授業評価のあり方について理解する。さらに具体的な単元を構想することで、地域の特性を活かすことの大切さを理解し、実践的な指導力を身に付け、教師として教壇に立つ。	1. 教育課程における生活科教育の意義、幼保小の連携を実現するスタートアップカリキュラムの意義、具体的に充実した活動の設定、評価方法について理解し、生活科における単元構想の方法について理解できる。（知識・理解） 2. 指導内容の目標を踏まえ、詳細で具体的な単元構想案を作成し、発表することができる。（技能） 3. 指導内容の目標を踏まえ、単元の目標や具体的な学習活動、教材選定、評価項目について、主体的に考えたり、論点を明確にして話し合ったりして単元構想案にまとめることができる（思考・判断・表現） 4. 意欲的に単元構想案を作成したり、積極的に質疑・応答に取り組んだりできる。（関心・意欲・態度）	1. 教育課程における生活科教育の意義、スタートアップカリキュラムの意義、具体的な活動設定、評価方法について理解し、生活科における単元構想の方法について理解できる。（知識・理解） 2. 指導内容の目標を踏まえ、単元構想案を作成し、発表することができる。（技能） 3. 指導内容の目標を踏まえ、単元の目標や学習活動、教材選定、評価項目について、考えたり、話し合ったりして単元構想案にまとめることができる。（思考・判断・表現） 4. 単元構想案を作成したり、質疑・応答に取り組んだりできる。（関心・意欲・態度）
初等教科教育法（音楽）	家政学部 学科 専門教育科目 児童学科	3	3	小学校教育における音楽科についての基本的知識を得ると同時に、授業実践に必要な基礎的知識・技能を身に付ける。また、学習指導要領における音楽科の目標や内容の変遷とその背景を知り、さらに音楽科の現代的な課題を理解する。音楽をどのように感じ、鑑賞し、表現するかについて、小学校音楽科の教材や指導法に即した方法で、身体を使った実践を取り入れながら理解を深める。	1. 小学校音楽科について史的背景を含めその内容について説明できるようになる（知識・理解）。 2. 歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞などの活動を指導するための知識、技術を習得し、指導案の作成及び授業の実施ができる（技能）。 3. 音楽科の授業についてアカデミックな視点から考察できるようになる（思考・判断・表現）。 4. 実際に授業を展開する意欲が持てるようになる（関心・意欲・態度）。	1. 小学校音楽科についての基本的な知識について理解できるようになる（知識・理解）。 2. 歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞などの活動を指導するための基礎的知識、技術を習得し、指導案の作成及び授業の実施ができる（技能）。 3. 音楽科の授業について学習指導要領を通して考察できるようになる（思考・判断・表現）。 4. 実際に授業を展開する意欲が持てるようになる（関心・意欲・態度）。
初等教科教育法（図画工作）	家政学部 学科 専門教育科目 児童学科	3	3	小学校教育における図画工作科についての基本的知識を得ると同時に、授業実践に必要な基礎的知識・技能を身に付ける為の制作演習を行う。また、学習指導要領における図画工作科の目標や内容を知り、さらに美術教育に於ける現代的な課題も理解していく。小学校図画工作科の教材や指導法に即した方法で、楽しく豊かな造形実践を身近な素材の中から幅広く行い、また鑑賞することの楽しさからも知識や感性を養っていく	1. 小学校図画工作科についての基本的な知識や技術を身につけている（知識・理解）。 2. 創造する喜びや、鑑賞する楽しさなどの活動を実践的に指導するために思考する事が出来ている（思考・判断・表現）。 3. 造形美術の基礎的知識や制作技術を習得することが出来ている（技能）。 4. 図画工作授業を積極的に実践展開する意欲が持てるようになっている（関心・意欲・態度）。	1. 小学校図画工作科についての基本的な知識が身につけている（知識・理解）。 2. 創造する喜びや、鑑賞する楽しさなどの活動を実践的に指導するための思考ができていく（思考・判断・表現）。 3. 造形美術の基礎的知識や制作の技術を学習することができていく（技能）。 4. 図画工作授業を実践展開する意欲が持てるようになっている（関心・意欲・態度）。
初等教科教育法（家庭）	家政学部 学科 専門教育科目 児童学科	3	3	小学校教員養成課程における教科教育法のひとつとして家庭科教育について考究するものである。上記課程における教職の意義や使命を理解した上で、小学校家庭科を指導する際に必要な基礎的な内容を把握する。さらに、教材研究を行い指導案の立案、模擬授業等を行う。これらを通して小学校教育現場での実践的態度を養う。	1. 子どもや社会の現況に対する理解と初等教育における教職の意義・使命を抱くことができるようになる（関心・意欲・態度）。 2. 初等教育における家庭科の理念、目標と内容を史的展開を含め理解することができるようになる（知識・理解）。 3. 初等教育における家庭科の実践的態度を表現できるようになる（思考・判断・表現）。 4. 学習方法の理解、指導計画の立案・模擬授業ができる（技能）。	1. 子どもや社会の現況と初等教育における教職の意義などの基本的な事柄について理解できるようになる（関心・意欲・態度）。 2. 初等教育における家庭科の理念、目標と内容を理解することができるようになる（知識・理解）。 3. 初等教育における家庭科の実践的態度を具体的に表現できるようになる（思考・判断・表現）。 4. 学習方法の理解、指導計画の立案・模擬授業ができる（技能）。

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
初等教科教育法（体育）	家政学部 学科 専門教育科目 児童学科	3	3	小学校教育における教科「体育」において、学習指導要領をもとにその概要と理論を学び、実技と模擬授業によって単元計画や指導案の作成、指導法などの実践力を身につける。	1. 小学校における体育の教育的意義について理解でき、考察できる。（知識・理解） 2. 小学校における体育の「体づくり運動、器械運動、陸上運動、水泳、ボール運動、表現運動及び保健」の各領域について理解でき、領域別の特性に合った指導法を理解できるようになる。（知識・理解）（思考・判断・表現） 3. 小学校における体育の各領域についての技術と指導法を習得できる。（技能）（思考・判断・表現） 4. 学年や領域にあった単元計画や授業案を作成でき、模擬授業の実践ができるようになる。（関心・意欲・態度）	1. 小学校における体育の教育的意義について理解できる。（知識・理解） 2. 小学校における体育の「体づくり運動、器械運動、陸上運動、水泳、ボール運動、表現運動及び保健」の各領域について理解でき、体育の指導法を理解できるようになる。（知識・理解）（思考・判断・表現） 3. 小学校における体育の各領域についての技術と指導法を習得できるように努力できる。（技能）（思考・判断・表現） 4. 学年や領域にあった単元計画や授業案を作成でき、模擬授業の実践ができるように努力できる。（関心・意欲・態度）
道徳の指導法	家政学部 学科 専門教育科目 児童学科	3	3	“道徳”とは何か？“道徳”を“教育”するとはどういう行為でありどのような意味を持つのか？これらの問いに即答できる人がどれだけいるだろうか。 道徳は過去の規範の継承と同時に、未来へ向けた新たな規範の構築という二面性を持つ。価値観の多様化や技術革新が進む現代社会では、とくに後者の側面が重要となる。さらに、現在の道徳教育で求められている「考える道徳」を実現させるためには、子どもだけでなく教員も道徳的な事柄について深く「考える」必要がある。そこで本授業では、道徳教育の実践的指導法だけでなく、教員自らが道徳に関して自律的に考察・判断し、それを実践に反映させる力を養うことを目標とする。	1. 道徳教育に関する理論・方法・歴史などの知識を幅広く習得する。（知識・理解） 2. 新しい時代における道徳教育を自ら考え構築しうる論理的思考力を養う。（思考・判断・表現） 3. 「考える道徳」を本質的な理解に基づき実現することができる実践的指導力を十分に養う。（技能） 4. 道徳教育を担う教員としての使命や倫理観を十分に身につけ、意欲的に実践に取り組むことができる。（関心・意欲・態度）	1. 道徳教育に関する理論・方法・歴史などの基礎的な知識を習得する。（知識・理解） 2. 新しい時代における道徳教育に関する論理的思考力を養う。（思考・判断・表現） 3. 「考える道徳」を実現することができる実践的指導力を養う。（技能） 4. 道徳教育を担う教員としての使命や倫理観を身につけ、実践に取り組むことができる。（関心・意欲・態度）
特別活動の指導法	家政学部 学科 専門教育科目 児童学科	3	3	小学校における特別活動は、様々な構成の集団から学校生活を捉え、主体的に課題の発見や解決を行うことで、よりよい集団形成や学校生活を充実をめざすものである。この活動の中で子どもたちは、よりよい人間関係を形成するとともに、社会参画の大切さや自己実現のよさを学んでいく。本講義では、特別活動の内容である、学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事について、目標や指導内容について理解する。また、学級活動に視点を当て、議題選定の方法や子ども主体の話し合いの進め方、教材の作成と活用方法、学習指導上の留意点と対応方法について理解する。また、学習指導案のもつ意味と実際の作成方法、授業評価のあり方について理解する。さらに具体的な議題を設定し、模擬授業を行うことで、実践的な指導力を身に付け、教師として教壇に立つイメージをもつ。	1. 教育課程における特別活動の意義、子ども主体の実践方法、支援及び留意点について理解し、特別活動の具体的な進め方について理解できる。（知識・理解） 2. 学級活動の目標を踏まえ、作成した学習指導案をもとに本時のねらいを明確にした模擬授業を積極的に行うことができる。（技能） 3. 学級活動の目標を踏まえ、本時のめあてや計画委員の配置、話し合い活動、事前・事後の活動、教材選定、評価項目について、主体的に考えたり、論点を明確にして話し合ったりして学習指導案にまとめることができる（思考・判断・表現） 4. 本時のねらいを達成するための様々な工夫が取り入れられた詳細な学習指導案を作成したり、主体的に模擬授業に取り組んだりできる。（関心・意欲・態度）	1. 教育課程における特別活動の意義、実践の方法、指導上の留意点について理解し、特別活動の進め方について理解できる。（知識・理解） 2. 学級活動の目標を踏まえ、作成した学習指導案をもとに模擬授業を行うことができる。（技能） 3. 学級活動の目標を踏まえ、本時のめあてや計画委員の配置、話し合い活動、事前・事後の活動、教材選定、評価項目について、考えたり、話し合ったりして学習指導案にまとめることができる（思考・判断・表現） 4. 学習指導案を作成したり、模擬授業に取り組んだりできる。（関心・意欲・態度）
生徒・進路指導の理論と方法	家政学部 学科 専門教育科目 児童学科	2	2	生徒指導は、学習指導とともに学校教育の基本となる機能である。近年、児童の置かれている生活環境、家庭環境、価値観が多様化し、生徒指導は複雑化かつ困難の度を増してきている。本授業においては、生徒指導の理論を理解するとともに、学級集団において児童を指導・支援していくための諸方法について考察する。特に、児童理解の方法、学級集団活動、児童の問題行動、学校の指導体制といった実践的な課題を中心に取り上げ、適切な生徒指導のあり方について学ぶ。また、進路指導、キャリア教育は、児童の望ましい勤労観・職業観の育成にかかわる重要な援助・指導であることから、小学校におけるキャリア教育の目的、内容、方法の基礎的理解を深める。	1. 生徒指導の意義・原理・生徒指導の進め方を理解し、系統的に説明することができる。（知識・理解） 2. 進路指導、キャリア教育の目的、方法を理解し、説明することができる。（知識・理解） 3. 小学校教育現場で行われている学級づくりの活動について、その目的や方法をふまえ、受講生間でイニシアチブをとり実施することができる。（技能） 4. 児童の問題行動等の具体的な事例について、留意点を明確にして対応のあり方を検討し、述べる。（思考・判断・表現） 5. 生徒指導の基本となる傾聴、共感的理解を常に意識しながらグループワークを運営することができる。（関心・意欲・態度）	1. 生徒指導の意義・原理・生徒指導の進め方の概略を理解し、説明することができる。（知識・理解） 2. 進路指導、キャリア教育の目的、方法の概略を理解し、説明することができる。（知識・理解） 3. 小学校教育現場で行われている学級づくりの活動について、受講生間で実施することができる。（技能） 4. 児童の問題行動等の具体的な事例について、対応のあり方を検討し、述べる。（思考・判断・表現） 5. 生徒指導の基本となる傾聴、共感的理解を意識しながらグループワークに参加することができる。（関心・意欲・態度）
外国語表現（英語）	家政学部 学科 専門教育科目 児童学科	3	3	本科目では、小学校教育における外国語学習の充実を図るため、これからの国際化社会を見据えて児童が外国語を学習することの意義や諸外国における外国語教育の現状についての認識を深める。また、主に英語を用いて外国語教育のための教材作成法や指導法などを具体的に学び、小学校教育現場で必要とされる基礎的な授業構成力を身につける。	1. 児童にとっての外国語教育の理念や意義を理解し、説明することができる。（知識・理解） 2. 外国語教育におけるカリキュラム、教材についての基礎的な概念を身につけ、活用することができる。（思考・判断・表現） 3. 外国語教育活動の立案、実施を主体的に行い、よりよい学習活動にするために省察することができる。（技能） 4. ALTとティームティーチングを行うために、コミュニケーションスキルの向上に意欲的に取り組むことができる。（関心・意欲・態度）。	1. 児童にとっての外国語教育の理念や意義を理解し、概略を説明することができる。（知識・理解） 2. 外国語教育におけるカリキュラム、教材についての基礎的な概念の概要を把握し、用いることができる。（思考・判断・表現） 3. 外国語教育活動の立案、実施を行うことができる。（技能） 4. ALTとティームティーチングを行うために、コミュニケーションスキルの向上に取り組むことができる。（関心・意欲・態度）。
保育・子育て支援実践演習I	家政学部 学科 専門教育科目 児童学科	3	3	幼稚園や保育所では、子どもの保育とともに子育て支援が重要な役割となっている。しかし、従来の幼稚園実習や保育実習の際に学生が実際の子育て支援の場を経験する機会にはあまりない。そのため、保育・子育て支援実践演習Iでは大学内の子育て支援施設において、実際に乳幼児期の親子と関わることを通して、親子関係や子ども同士の仲間関係の発達、親同士の交流の実態について学ぶことを目的としている。	1. 保育者として、子どもの発達や個人差に応じた環境構成を考えようとする意欲を常に持ち続けることができる（関心・意欲・態度）。 2. 子どもの自発性を大切にしながら、子どもの発達を促す関わりを継続的に実践することができる（技能） 3. 安定した親子関係が形成されるような子育て支援のあり方について総合的に理解することができる（知識・理解）。 4. 子育て支援の指導計画を自ら立案することができる（思考・判断・表現）。 5. 子どもの遊びや親子関係の様子を観察し記録をもとに考察することができる（思考・判断・表現）。	1. 保育者として、子どもの発達や個人差に応じた環境構成を考えようとする意欲を部分的に持つことができる（関心・意欲・態度）。 2. 子どもの自発性を大切にしながら、子どもの発達を促す関わりを部分的に実践することができる（技能） 3. 安定した親子関係が形成されるような子育て支援のあり方の基礎的事項を理解することができる（知識・理解）。 4. 子育て支援の指導計画の一部を立案することができる（思考・判断・表現）。 5. 子どもの遊びや親子関係の様子を観察し記録することができる（思考・判断・表現）。

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
音楽基礎	家政学部 学科 専門教育科目 児童学科	1	1	子どもの表現を育むために必要となる、音楽の知識や技術を身につけることが音楽基礎・音楽表現の目標である。音楽基礎では、小学校教諭として子どもと音楽を共有する際に必要となる、楽典的な知識と演奏技術を中心に学ぶ。この授業ではレッスンとクラス授業を並行して行う。ピアノ・歌唱の実技は少人数のグループで、学生一人ひとりのレベルに合わせたレッスンを受ける。クラス授業では、学生自身が実際に動いたり、音を出したりする活動を中心に行う。	1.五線譜が読めるようになる（技能）。 2.小学校共通教材の弾き歌いができるようになる（技能）。 3.簡易な楽曲のピアノ演奏ができるようになる（バイエル80番程度以上）（技能）。 4.長音階、主要三和音、コードネームについて理解でき説明できるようになる（知識・理解）。	1.五線譜が読めるようになる（技能）。 2.簡易な楽曲の弾き歌いができるようになる（技能）。 3.簡易な楽曲のピアノ演奏ができるようになる（バイエル60番程度以上）（技能）。 4.長音階、主要三和音、コードネームについて理解できるようになる（知識・理解）。
音楽表現	家政学部 学科 専門教育科目 児童学科	2	2	子どもの表現を育むために必要となる、音楽の知識や技術を身につけることが音楽基礎・音楽表現の目標である。音楽表現では、音楽基礎で培ってきた知識や技術を基に、オリジナリティーのある音楽表現ができるようになることを目指す。音楽基礎と同様、ピアノ・歌唱の実技レッスンとクラス授業を並行して行う。クラス授業では、多様な素材を基にオリジナル作品を創り、それをパフォーマンスする活動を中心に行う。これらの活動を通して、アンサンブル、創作に必要な能力を高め、音楽表現の幅を広げていく。	1.音階・主要三和音、コードネームなどの楽典的事項が理解できるようになる（知識・理解）（技能）。 2.簡易な楽曲の弾き歌いができるようになる（技能）。 3.簡易な楽曲のピアノ演奏ができるようになる（バイエル100番程度）（技能）。 4.子どもと音楽を楽しむために、楽曲の簡単なアレンジができるようになる（技能）（思考・判断・表現）。 5.音楽に関わる子どもの発達について理解できるようになる（知識・理解）。	1.音階・主要三和音などの楽典的事項が理解できるようになる（知識・理解）。 2.簡易な楽曲の弾き歌いができるようになる（技能）。 3.簡易な楽曲のピアノ演奏ができるようになる（バイエル90番程度）（技能）。 4.子どもと音楽を楽しむために、楽曲の簡単なアレンジができるようになる（技能）（思考・判断・表現）。 5.音楽に関わる子どもの発達について理解できるようになる（知識・理解）。
保育・子育て支援実践演習Ⅱ	家政学部 学科 専門教育科目 児童学科	4	4	「保育・子育て支援実践演習Ⅰ」で学んだことを生かし、子育て支援活動の計画立案・実行・検討を通して、保護者支援力を育成することを目的とする。そのためには、子どもの年齢発達や個人差に応じた年間計画を立案し、実行した後に、客観的な省察を行うことが不可欠である。さらに、他の学生と協働する活動を体験することによってチームワークの大切さを学び、グループディスカッションの場では自分の考えをプレゼンテーションする力を獲得したり、他者の考え方を聞くことで柔軟性や複眼的な視点を獲得することを目指すものである。	1.子どもの発達に応じた子育て支援の年間計画を理解できる（知識・理解）。 2.年間計画の立案することができる（技能）。 3.他者と協働しながら子育て支援における保育者の役割を総合的に学ぶことができる（関心・意欲・態度）。 4.子どもの活動や親子の関わりの様子を観察し記録をもとに考察を深めることができる（思考・判断・表現）。 5.自ら活動内容をまとめ、プレゼンテーションをすることができる（思考・判断・表現）。	1.子どもの発達に応じた子育て支援の年間計画を基礎的事項を理解できる（知識・理解）。 2.年間計画の一部を立案することができる（技能）。 3.他者と協働しながら子育て支援における保育者の役割の基礎を学ぶことができる（関心・意欲・態度）。 4.子どもの活動や親子の関わりの様子を観察し記録をもとに考察できる（思考・判断・表現）。 5.活動内容の一部をまとめ、プレゼンテーションをすることができる（思考・判断・表現）。